令和７年度文部科学省委託事業

専修学校の国際化推進事業

「保育士・介護福祉士グローバル人材育成オーストラリア留学促進事業」

成果報告書

令和８年 ２月

学校法人大庭学園

目次

Ⅰ　事業概要.....1

1 事業の趣旨・目的等について.....1

2 オーストラリアにおいて事業を推進する意義.....1

3 実施する取組の具体的内容.....2

4 令和７年度事業計画.....3

Ⅱ　事業実施体制.....4

1 保育士・介護福祉士グローバル人材育成オーストラリア留学促進事業実施機関.....4

2 実施体制イメージ図.....5

Ⅲ　令和７年度事業成果.....6

1 オーストラリアにおける保育分野ニーズ調査（継続）.....8

2 提携校拡大.....19

3 オーストラリアにおける介護分野ニーズ調査.....21

3 留学前英語学習カリキュラム試作開発.....83

4 留学促進事業委員会.....270

Ⅳ　令和８年度以降展開について.....276

Ⅰ 事業概要

1 事業の趣旨・目的等について

沖縄県には米軍基地があり、多くの外国籍の子どもや高齢者が暮らしています。さらに、英語を母国語とするアジア圏の在留外国人も増加しており、保育や介護の専門家が外国文化や言語を理解し、円滑なコミュニケーションを図ることが重要な課題となっています。

そこで、本学園は、令和 7 年度より、沖縄県にとどまらず全国的な視点で、保育士および介護福祉士の国際的視野と専門性を高めるための取り組みを推進します。オーストラリアは多文化社会として認知され、保育や介護の分野でも高水準の教育とサービスを提供しています。資格制度も充実しており、資格取得後の就職も優遇されています。日本との時差が 1 時間と少ないため、オンライン学習も可能です。具体的な取り組みとして、オーストラリアの専門学校との提携を拡大し、留学前に英語力を高めるオンライン学習を含む LMS を導入します。現地の教育機関と共同でカリキュラムを開発し、在学中に英語力を向上させるモデルプランを作成します。また、準備から帰国後の就職まで一貫した支援体制を整えます。期待される効果は、国際的視野と専門性の向上、異文化理解の深化、実践的な英語スキルの習得、日豪両国での資格取得です。留学を通じて、外国籍の子どもや高齢者と円滑なコミュニケーションを図る人材を育成します。

2 オーストラリアにおいて事業を推進する意義

1. 拡大・深化する日豪関係

豪州は世界第 12 位(2022 年、財務省及び世銀調べ)の経済大国であり、2015 年の日豪 EPA 発効後は貿易・投資、観光、教育などの人的交流が拡大しています。豪州では人口増加による保育ニーズと長寿化による介護ニーズが高まる中、両分野を支える人材育成の体制が整っています。一方、少子高齢化に直面する日本では、両分野における人材確保や英語を解する人材のニーズが高まることが予想されます。したがって、英語圏で専門教育を受けた人材の活躍の場は広がり、日豪間の相互補完関係が保育・介護福祉の分野でも期待されます。

2. 豪州における専門人材育成の特徴

豪州では多民族・多文化社会に適応した高度な職業訓練制度が整っており、留学生向けの専門コースや英語コースが充実しています。特に TAFE(Technical and Further Education)や私立の専門学校が多く、日本からの留学生も増加しています。即戦力として働ける人材育成を目的としており、産業界と連携した実習制度も充実しています。

3.日本教育における保育士・介護福祉士養成校の留学プログラムが少ない

日本の保育士・介護福祉士養成校は、国家資格取得を目指す 2 年間の専門カリキュラムで他の科目を学ぶ余裕がありません。そのため、グローバルな人材育成を実施している学校は少なく、国際対応力が不足しています。外国籍の園児や利用者が増加しており、本学園のこども園でもコミュニケーションの課題が顕在化しています。言語の壁によって保育士や介護福祉士が十分なサポートを提供できない場面が増え、サービスの質低下リスクとなっています。そこで本事業では、英語力を高め、グローバルな保育士・介護福祉士の人材育成を強化するカリキュラムを構築します。これにより、保育・介護の質を向上させ、国際的な視野を持つ人材を育成します。

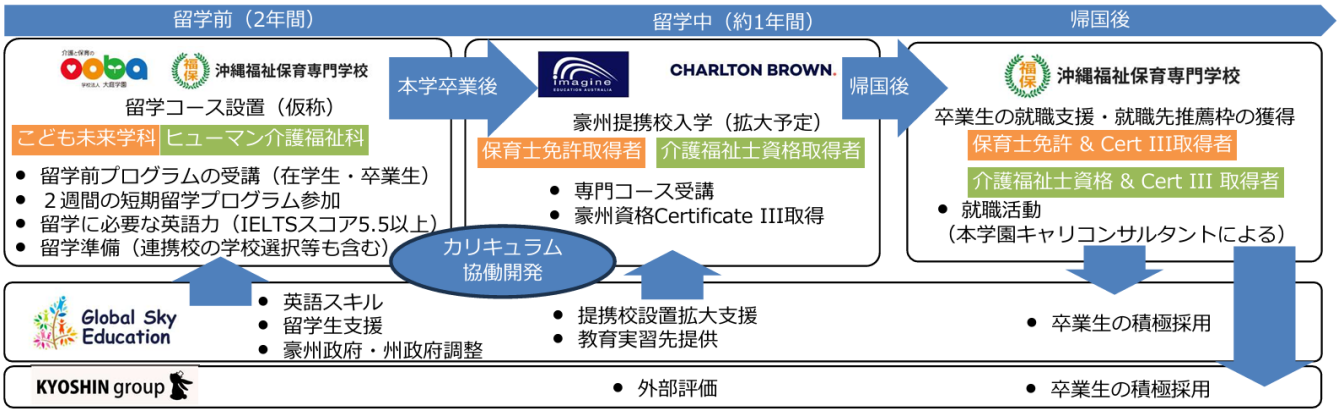
3 実施する取組の具体的内容

日本の保育・介護福祉分野において、英語と異文化を理解する人材を育成するため、日本人および外国人留学生を対象に、日本と英語圏の資格を取得し、バイリンガル・マルチリンガル保育士・介護福祉士として活躍できる道筋を構築します。業界全体の課題として学生確保があるものの、豪州留学を通じて日本人はバイリンガル、留学生はマルチリンガルの保育士・介護福祉士としての可能性を示します。本学園在学中に英語力を高め、留学費用と時間を節約（IELTS スコア 5.5 以上の習得）、留学前・中・後の手厚いサポート体制、特に留学後の就職不安を解消するキャリア支援体制が解決策となります。

具体的には、英語力不足に対しては豪州留学に必要な英語力を習得するプログラムを提供し、留学先は提携校設置により進学先を決定します。実習先については、本学園とグローバルスカイ株式会社が実習受入先を確保し、留学中の不安には本学園・提携校・グローバルスカイ株式会社・実習受入先で手厚い支援体制を整備。就職先の不安については、本学園の就職担当部署が留学後の就職を支援します。

沖縄県を含む日本の保育士および介護福祉士の課題として、国際的な視野や専門性の不足には豪州の高水準の教育とサービスを活用し、異文化理解の不足には豪州の多文化社会での留学生活を通じて理解を深めます。実践的な英語スキルの不足にはオンライン学習およびオンデマンド学習プログラムを導入し、留学前から実践的な英語スキルを習得します。また、外国籍の子どもや高齢者とのコミュニケーションの困難には留学によって逆の立場を体験し、現地での生活・学習支援体制を整えます。これにより、国際的な視野を持ち、実践的な英語力と異文化理解を備えた保育士・介護福祉士を育成し、業界全体の人材不足の課題に対応します。

カリキュラム（案）
【留学前】本学園在学中の 2 年間にわたり受講・留学準備を実施。日豪協働で開発する教材は、教室・オンラインのハイブリッド型であり、適宜、豪州からグローバルスカイ株式会社及び提携校の教員がライム講座を行うことも想定。
【留学中】豪州教育機関への CertificateⅢ（保育士又は介護福祉士）資格取得に向けた留学。必要に応じた補講の実施（オンラインで日本から実施可能）、グローバルスカイ株式会社直営センターとその提携校が提供する豪州における実習。
【留学後】当学園、京進、グローバルスカイ株式会社が留学帰国生に対して、留学経験を活かせる就職、キャリア支援・就職斡旋を行う。具体的には、沖縄県内の各施設、京進の各施設、グローバルスカイ株式会社直営センター及び顧客の全国インターナショナルスクールへの就職。



内　容

（1）事業実施体制の構築
➤プロジェクトチームの編成
学校法人大庭学園を中心に、沖縄県及び豪州の教育機関、留学支援企業等でチームを編成。豪州の教育機関との連絡・調整をグローバルスカイ株式会社（教育コンサルティング企業。傘下に豪州にて保育事業会社グローバルスカイ・エデュケーションを有する）、を中心に、主要教育機関と連絡を取り、協力体制を構築。

（2）事例調査やニーズ調査
➤豪州の保育・介護分野の調査
現地の教育機関を訪問し、現状とニーズを調査。
➤学生や現地教育機関のニーズ把握
アンケートやヒアリングを実施し、具体的なニーズを明確化。
➤保育・介護事業者のグローバル人材のニーズ把握
アンケートやヒアリングを実施し、ニーズと就職支援策を明確化。

（3）留学前プログラムの開発
➤留学に興味がある在学生及び本学卒業生に募集を行う。
留学に向けた英語力スキル向上のカリキュラムを週に数回の英語授業、現地オンライン英会話、オンデマンド学習教材などを提供。
➤カリキュラム開発
オーストラリアの教育機関と共同でカリキュラムを作成し、各学科の専門家と協力し、実践的なカリキュラムを開発。
➤シラバスやコマシラバスの作成
詳細な授業計画を作成し、学生に提供。

（4）教材開発と実証授業の実施
➤オンライン学習及びLMS学習システムの教材開発
動画講義、課題、評価システムを整備。
➤実証授業を通じて効果の検証
パイロットプログラムを実施し、フィードバックを収集。

4　令和７年度事業計画

(1) 提携校設置拡大に向けた豪州の保育・介護分野ニーズ調査

1. 保育分野ニーズ調査(継続)　令和６年度に実施した調査結果を踏まえ、現地の教育や雇用の最新動向を把握するための追加調査を継続的に実施します。

2. 介護分野ニーズ調査(新規)　今年度、新たに介護分野における現地の教育機関、施設、労働市場、雇用状況、資格制度等の調査を実施し、介護分野の現状とニーズを把握します。介護分野ニーズの調査報告書を作成し、プログラムの開発や提携校設置に活用します。

(2) 豪州教育機関への視察(ヒアリング等)

1. 教育カリキュラムの調査　豪州の教育機関で提供されている保育・介護福祉のカリキュラム内容を確認します。特に、英語力の向上や異文化理解に重点を置いたプログラムの詳細をヒアリングし、日本の学生に適用可能な要素を抽出します。

2. 実習プログラムの確認　豪州の実習プログラムの運営方法や実施内容を視察し、日本の学生がどのように現地で実践的な経験を積むかを確認します。

3. 教育連携校のさらなる拡大　現地教育機関との提携拡大に向けて具体的な協議を行い、提携内容や協力方法、共同プロジェクトの可能性を議論します。双方に有益なパートナーシップの基盤を作ります。また、国内の大学・専門学校と連携して、国際教育プログラムを共同で構築していきます。

(3) 留学前プログラムの実施・開発

1. 実証講座の実施　令和 6 年に作成した 1 年次のカリキュラムに基づき、年間 56 回の留学前英語学習プログラムの実証講座を実施します。また、9 月頃に約 10 日間の短期留学を実施します。

2. 現地の講師によるオンライン講座の導入　通常の英語学習カリキュラムに加え、オーストラリアの保育系専門学校と連携し、現地の講師によるオンライン講座を試験導入します。

3. 留学前英語学習プログラムの新規開発　2年次の英語学習プログラムを開発し、IELTS 5.5 の取得を目指すカリキュラム、シラバス、コマシラバス、指導マニュアルを作成します。また、学習成果を評価する指標を設定します。

4. 留学者増加に向け高校生へのアプローチ　高校生向けのガイダンスにおいて留学相談コーナーに参加し本事業の説明する機会を増やす

Ⅱ　事業実施体制

本事業は、学校法人大庭学園が中心となって組織した実施委員会の管理・管轄の下、以下のような構成機関からの参画者により実施委員会を組織し、事業を推進してまいります。

1 保育士・介護福祉士グローバル人材育成オーストラリア留学促進事業実施機関

(1)教育機関

	名称	役割等	都道府県名
1	学校法人大庭学園	事業統括	沖縄県
2	沖縄福祉保育専門学校	カリキュラム開発・留学前プログラム等	沖縄県
3	ソーシャルワーク専門学校	カリキュラム開発	沖縄県
4	名古屋文化学園保育専門学校	カリキュラム開発	愛知県
5	桜花学園大学	カリキュラム開発	愛知県
6	Imagine Education(豪州教育機関)	カリキュラム開発・ 留学先等	豪州
7	Charlton Brown／NIET Group (豪州教育機関)	カリキュラム開発・ 留学先等	豪州
8	TAFE Queensland(豪州教育機関)	カリキュラム開発・ 留学先等	豪州

(2)企業・団体

	名称	役割等	都道府県名
1	グローバルスカイ株式会社	カリキュラム開発、提携校設置拡大 留学生支援、卒業生の採用等	東京都 豪州
2	株式会社京進	外部評価、卒業生の採用等	京都府
3	ライジングスター	外部評価、留学支援アドバイス	東京都
4	株式会社かいはつマネジメント・コンサルティング	外部評価	東京都

5	コニカミノルタ株式会社	外部評価	東京都
6	リプレシェアホールディングス株式会社	外部評価	熊本県

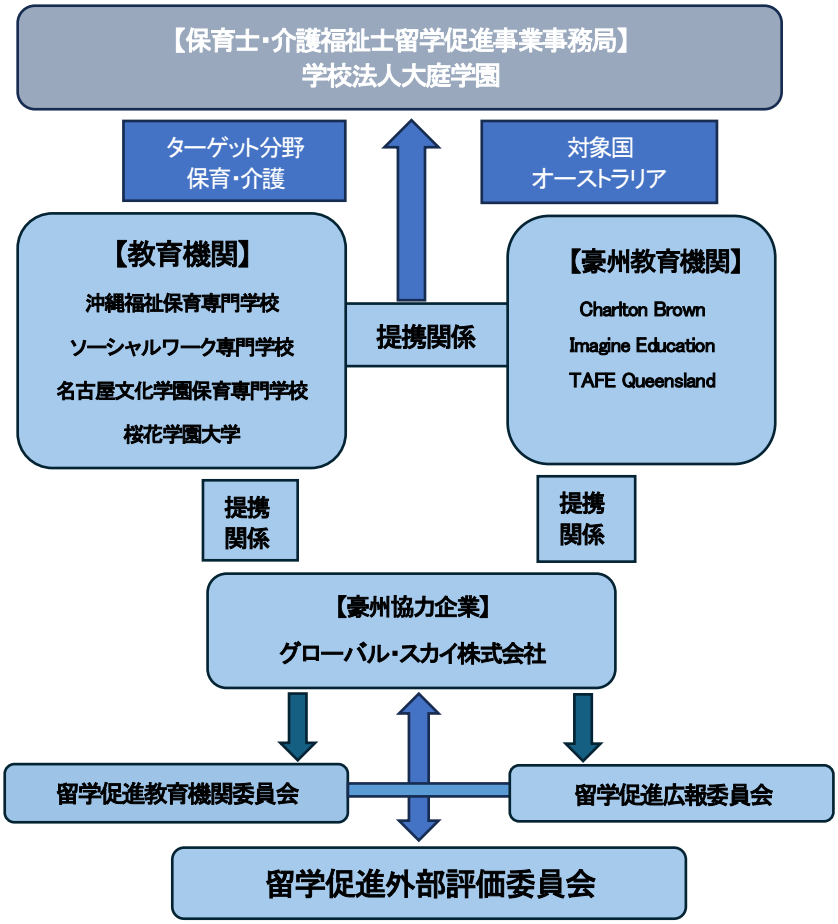
(3)行政機関・その他

	名称	役割等	都道府県名
1	Study Australia／オーストラリア大使館	提携校設置拡大	豪州
2	Study Queensland／クィーンズランド州政府	提携校設置拡大	豪州

(4)各機関の役割・協力事項について

○教育機関
事業統括(学校法人大庭学園)
ニーズ調査
カリキュラム開発・留学前プログラム開発
留学先確保
○企業・団体
カリキュラム開発提携校設置拡大
留学生支援・卒業生の採用等
○行政機関・その他
提携校設置拡大

2 実施体制イメージ図



Ⅲ　令和７年度事業成果

（1） 提携校設置拡大に向けた豪州の保育・介護分野ニーズ調査

１．保育分野ニーズ調査（継続）

令和６年度に実施した調査結果を踏まえ、グローバル保育士のニーズに関する現地調査、ならびに保育・幼児教育カリキュラムの日豪比較等の追加調査を実施しました。

２．介護分野ニーズ調査（新規）

今年度、新たに介護分野における資格制度、留学生向け支援体制と実習制度、実習プログラムとキャリア形成等に関する調査を実施し、介護分野の現状ならびに人材ニーズの把握を行った。併せて、調査結果を取りまとめた介護分野ニーズ調査報告書を作成し、今後の人材育成プログラムの開発および提携校設置の検討に資する資料として活用しました。

(2) 豪州教育機関への視察（ヒアリング等）

1. 教育プログラムの調査　　豪州の教育機関において提供されている保育・介護福祉分野の教育カリキュラムについて調査を実施し、カリキュラム内容を確認しました。

2. 実習プログラムの確認　　実習プログラムの運営方法および実施内容について現地視察を行い、

実習の進め方や受け入れ体制について確認した。また本学園付属保育士が保育実習プログラムを体験しました。他、ゴールドコーストで保育実習受入可能施設４箇所視察を行いました。



Imagine Education 保育英語体験授業





保育実習先：オージーキッズマーメイド園

（3）留学前プログラムの実施・開発

1．英会話基礎講座の実施　　令和 6 年に作成した 1 年次カリキュラムの基盤づくりとして、英語基礎講座を実施しました。

2. 留学前英語学習プログラムの新規開発　　2 年次の英語学習プログラムを開発し、IELTS 5.5 の取得を目指すカリキュラム、シラバス、コマシラバスを作成しました。

3. 留学者増加に向けた高校生へのアプローチ　　高校生向けガイダンスにて留学プログラム内容について説明する機会を増やし、留学プログラムの認知度向上と留学への関心を有する生徒との接点を形成しました。

オーストラリアにおける保育分野ニーズ調査（継続）

目次

第 1 章 前年度調査結果の概要
1.1 事業の目的と意義
1.2 実施体制と取組内容
1.3 2024 年度（令和 6 年度）の成果概要
1.4 今後の展開と追加調査方針

第 2 章 オーストラリアの保育・幼児教育に関する政策・制度の概要
2.1 政府の基本的な考え方
2.2 オーストラリア全州共通の品質向上に向けた枠組み
2.3 幼児教育カリキュラム
2.4 配置基準と保育士等の幼児教育者の資格要件
2.5 チャイルドケア補助金
2.6 国際的評価と特徴
2.7 日本との比較と示唆

第 3 章 提携校拡大
3.1 提携校との取組
3.2 課題と解決策
3.3 協力校候補

第 1 章　前年度調査結果の概要

1.1 事業の目的と意義

本事業は、**保育士・介護福祉士のグローバル人材育成**を目的として、オーストラリアへの留学を通じた国際教育プログラムを検討しました。背景として、**外国籍の子どもや高齢者が増加しており、英語力や異文化理解を備えた専門人材の育成が課題**となっています。豪州は多文化社会として高度な保育・介護教育制度を有しており、同国との連携により、国際的視野と実践的スキルを兼ね備えた人材の育成が期待されます。本事業では、豪州専門学校との教育連携、オンライン英語学習の導入、留学前・中・後の一貫支援体制を整備し、**国際資格の取得とキャリア形成を両立させるモデル構築**を目指すものです。

1.2 実施体制と取組内容

実施主体の**学校法人大庭学園**が、オーストラリアの職業専門学校（Imagine Education、Charlton Brown 等）との教育連携を模索しました。協力機関として、豪州で保育・幼児教育事業を展開し長年日本人保育士の採用・育成に積極的に取り組むグローバルスカイ株式会社（現地法人 Global Sky Education Group）が現地調査及びカリキュラム開発、提携校拡大を担当し、オーストラリア大使館・クィーンズランド州政府（Study Australia / Study Queensland）の後援も取り付けて、本調査を推進しております。2024 年度（令和 6 年度）は、特に**保育分野の現地調査に注力**し、介護分野は翌年度以降に取り組むこととしました。加えて、**留学前英語カリキュラムの試作開発**を実施しました。

1.3 2024 年度（令和 6 年度）の成果概要

当年度の主要成果は以下の 3 点に整理されます。

1. **豪州専門学校との教育連携締結**
   Imagine Education（本部：ゴールドコースト）および Charlton Brown（本部：ブリスベン）との提携契約を締結し、共同カリキュラム開発、資格取得支援、実習手配の強化などを実現しました。国際教育プログラムの体系化と、現地就職支援を含むキャリア形成支援の枠組みを考案しました。

2. **オーストラリアにおける保育分野ニーズ調査**
   豪州の保育制度および資格制度を分析し、日本との比較を通じて、**グローバル保育士の育成課題と可能性**を明確化しました。特に、実践重視の教育体系、少人数制の配置基準、多文化教育の特性などが日本の制度との主要な相違点として報告されました。

3. **留学前英語学習カリキュラム試作**
   豪州での保育士資格取得を目的とした留学に必要な IELTS スコア 5.5 相当以上を目指し、さらに留学費用や滞在期間を抑えつつ豪州資格取得に取り組める学習モデルの開発に先立ち、基礎的な英語力を 1 年間で習得するためのカリキュラム及び教材開発を行いました。なお、英語力だけに留まらず、異文化理解の深化も意識した教材としました。

1.4 今後の展開と追加調査方針

2024 年度（令和 6 年度）の本報告書は、沖縄発の**グローバル保育・介護人材育成モデル**の可能性を示した点で意義が大きいと考えます。日豪の教育機関連携により、資格相互補完と多文化教育の普及を進める基盤が整備されましたが、今後の展開に向けて以下の指摘がなされました。

1. **保育分野におけるグローバル保育士のニーズに関する現地調査のさらなる深掘り**
   留学生受入機関・保育施設・業界団体への追加ヒアリングを通じ、豪州の保育士需給構造と外国人保育士受入体制をより詳細に分析する必要があるとされました。

2. **オーストラリアの保育・幼児教育カリキュラムの特徴と日本との比較研究**
   全豪共通の保育・幼児教育規準である NQF（National Qualty Framework）や早期教育枠組みである EYLF（Early Years Learning Framework）を中心とする教育理念・教材・評価方法を体系的に整理し、日本の保育カリキュラムへの応用可能性を検証する追加研究が求められました。

第 2 章 オーストラリアの保育・幼児教育に関する政策・制度の概要

2.1 政府の基本的な考え方

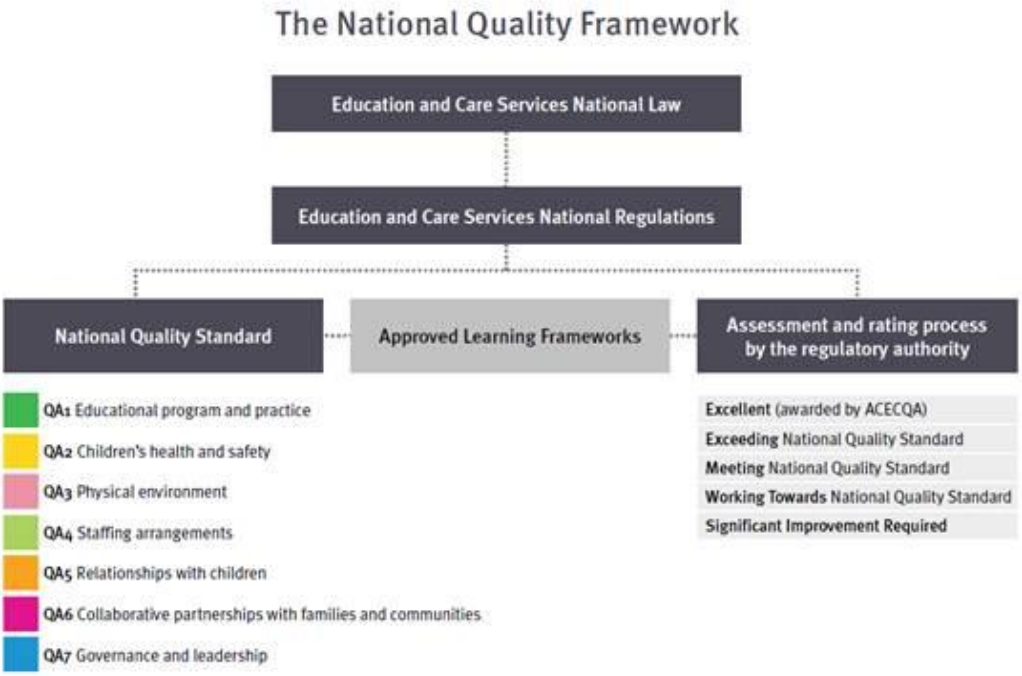
オーストラリア政府は、幼児期の学びと発達を国家的優先事項と位置づけ、保育と教育を ECEC セクター（Early Childhood Education and Care）として一体化して包括的に規制・監督しています。一般に、施設型の保育サービスは、チャイルドケア・センターやアーリーラーニング・センターと呼ばれる幼稚園・保育園が一体化した施設、有資格者が家庭環境（自宅の一画）で保育サービスを提供するファミリー・デイケアと呼ばれる小規模なサービスから成り立ちます。 特に、「全ての子どもが安全で健やかに成長し、学びに備えることができる社会」の実現を目指しており、質の高い保育サービスの提供と家庭との協働を重視しています。また、ECEC セクターを、経済成長を支える社会インフラとして位置付けています。

2.2 オーストラリア全州共通の品質向上に向けた枠組み

2.2.1 National Quality Framework の概要

2012 年に導入された **NQF（National Quality Framework）は、すべての保育施設に対して一貫したルールと基準を設けることで、保育の質の確保と向上を図る全豪統一の制度**であり、以下 4 つの要素から構成されています。連邦政府、州政府、各教育省、品質管理・監督を担う公的機関 Australian Children's Education and Care Quality Authority (ACECQA：a-see-kwa と発音)が連携して制度運用を行っています。

1）全豪的な法制度　（Education and Care Services National Law）
2）全豪共通の品質基準　（National Quality Standard：NQS）
3）認可・監査・評価制度　（Assessment and Rating process：A&R）
4）Early Years Learning Framework　（EYLF）　などのカリキュラムフレームワーク（Approved Learning Framework）



(出典：ACECQA Guide to the National Quality Framework より)

2.2.2 保育品質基準

NQS（National Quality Standard）は、保育の質を評価するための基準で、7 つの品質領域（Quality Areas）に分類されています。全施設はこれに基づいて評価され、「Exceeding」「Meeting」「Working Towards」などの格付けを受けます。

1) 教育プログラムと実践 (Educational program and practice)
2) 子どもの健康と安全 (Children's health and safety)
3) 環境（物理的環境の整備）(Physical environment)
4) スタッフの配置と資格 (Staffing arrangements)
5) 子どもとスタッフの関係 (Relationships with children)
6) 家庭やコミュニティとの連携 (Collaborative partnerships with families and communiites)
7) ガバナンスとリーダーシップ（Governance and leadership）

2.2.3 品質維持・改善計画

QIP（Quality Improvement Plan）は、全ての ECEC サービスが策定・維持すべき文書であり、教育・保育の質の継続的な改善を目的としています。

主な内容：

1) 現状分析：NQS の 7 つの品質領域について、品質領域ごとに ECEC サービス提供者自ら強みと改善点を自己評価する。

2) 改善目標と計画：課題に対する改善目標、実行ステップ、責任体制（責任者名）、実施スケジュール（期限）を記した計画書を作成する。
3) 更新頻度：最低でも年に 1 回以上の見直しが必要。いつでも提出できるよう整備しておくことが求められます。

2.2.4 評価及び格付プロセス

各施設の教育・保育の質は、各州の規制当局（例えば、クィーンズランド州は教育省）によって第三者的に評価され、最終的に ACECQA が格付けを公表するプロセスは、A&R（Assessment and Rating）と呼ばれます。

1) プロセスの流れ：
   a) 通知：A&R 前に通知書が届く（通常は数週間前に届くが、抜き打ちの場合もある。）。
   b) QIP の提出：通知と同時に最新の QIP を提出する。
   c) 現地視察（Assessment Visit）：審査官が施設（チャイルドケア／アーリーラーニング・センター／ファミリー・デイ・ケア）を訪問し、観察・記録・インタビューを通じて NQS の適合状況を評価する。（通常は 3 日間、大規模な施設や審査内容によって 5 日間以上かかる。）
   d) レポート作成と格付け（レーティング）の通知：

      7 つの品質領域に対して、それぞれ「Exceeding」「Meeting」「Working Towards」の評価がつけられる。その上で、総合評価が「Exceeding」「Meeting」「Working Towards」「Significant Improvement Required」のいずれかに決定される。評価に不服がある場合は、再審査請求が可能である。

2) 格付け（レーティング）の段階と基準：
   a) Excellent：Exceeding の中でも卓越した品質である。
   b) Exceeding：4 つ以上の品質領域で基準を大きく上回る質の保育を提供している。
   c) Meeting：全ての領域で NQS の基準を十分に満たしている。
   d) Working Towards：改善が必要とされる領域が一つでもある。
   e) Significant Improvement Required：全般に重大な改善が必要である。

      （参考）全豪で約 18,000 か所ある施設型（有資格者による家庭環境における保育サービスであるファミリー・デイケア含む）のうち、Excellent はわずか 28 施設。Exceeding は、3,478 施設。（2025 年 3 月末時点）

2.3 幼児教育カリキュラム

EYLF（Early Years Learning Framework）はオーストラリア政府が 2009 年に策定した、出生から 5 歳までの子どもの学びと発達を支える教育カリキュラムであり、全ての保育・幼児教育施設（ファミリー・デイケア含む）で用いられています（2009 年に策定され、2023 年にも大幅に改定）。

1）3 つの理念（（Principle）

a）Belonging（帰属意識）：子どもが家族、文化、地域社会とのつながりを感じ、自らのアイデンティティを築く。

b）Being（存在意義）：子どもが現在の瞬間を生き、遊び、探究し、感情や関係性を育む。

c）Becoming（成長過程）：子どもが自分自身を発見し、スキルや知識、価値観を習得して社会の一員として育つプロセス。

2）5 つの学習成果（Learning Outcomes）

子どもの自発的な遊び（Play-based Learning）を通じて以下の 5 つの学習成果が育まれることを前提にしています。

a）健全なアイデンティティを持つ子ども（Strong sense of identity）

⇒自信、安心感、自己肯定感のある子どもを育てる。

b）コミュニティへの関わりを持つ子ども（Connected with and contribute to their world）

⇒社会性や共同性を育み、他者との関係を尊重できるようにする。

c）健やかな子ども（Strong sense of wellbeing）

⇒身体面・感情面での健康を促進、安全で幸福感のある環境づくり。

d）自信を持って学び、探究する子ども（Confident and involved learners）

⇒思考力・想像力・創造力・問題解決能力を育てる。

e）効果的なコミュニケーター（Effective communicators）

⇒言語、非言語、ICT（情報通信技術）を通して自らを表現する能力を養う。

3) 教育・保育実践との関係性

a) EYLF は、幼児教育者（Early Childhood Educators and Teachers：保育士及び幼稚園教諭を指し、共に有資格者）が子どもの成長を「観察・評価・計画」する際のガイドラインであり、日々の保育活動や教材選定、家庭との連携にも深く関わっています。EYLF に基づいた実践を行うことは、NQS に準拠するために不可欠です。

b) 幼児教育者は、子ども一人ひとりの文化的・民族的背景・家庭環境、発達段階、興味関心に応じたアプローチを求められます。学びの個別最適化に対応します。

c) 計画的な保育を行うために、教育・ケアの記録（Learning Stories や Portfolios）の活用が推奨されています。

2.4 配置基準と保育士等の幼児教育者の資格要件

オーストラリアでは配置基準と資格要件が厳格に運用されており、ECEC サービス提供者は基準を満たせない場合（幼児教育者の病欠や人手不足等）は受け入れを休止する必要があります。

1) 配置基準（Ratio）： 施設型のサービスでは子どもの年齢に応じた幼児教育者の配置基準が定められています。例えば、クィーンズランド州では、保育施設（学童保育含む）における子どもの年齢に応じて、以下の幼児教育者対子どもの比率が求められます。（州によって、対応年齢や人数に若干の差があります。）

a) 0～24 か月（Baby, Nursery）：1 人の幼児教育者に対して子ども 4 人

b) 25～35 か月(Toddler)：1 人の幼児教育者に対して子ども 5 人

c) 36 か月以上（就学前まで）(Kindy)：1 人の幼児教育者に対して子ども 11 人

d) 就学年齢以上：1 人の幼児教育者に対して子ども 15 人

これらの比率は、施設単位で計算され、各年齢層の子どもたちに対して適切な監督が確保されるようにする必要があります。

2) 資格要件（Qualification Requirements）： 保育施設で働く全教職員のうち一定割合以上が、国が定める専門教育機関で取得する職業資格 Certificate III、Diploma of Early Childhood Education and Care を保持している必要があります。また、施設によっては Early Childhood Teacher (ECT)の配置も義務づけられています。保育施設で働く教職員は、以下の資格要件を満たす必要があります：

a) Certificate III：すべての幼児教育者は、公立もしくは私立の職業専門学校（RTO：Registered Training Organisation）に通学して、政府認定の Certificate III レベルの資格を取得しているか、取得に向けて通学している必要があります。

b) Diploma：幼児教育者の少なくとも 50%は、政府認定の Diploma（準学士）レベル以上の資格（Certificate III を取得した上で、Diploma に加えて Bachelor、Master、Doctor）を取得しているか、取得に向けて通学している必要があります。

c）Early Childhood Teacher（ECT）：Kindergarten プログラムを提供する施設は、ECT の資格を持つ教員の配置が求められます。

d）その他の要件

i） 全ての教職員は、応急手当、アナフィラキシー対応、緊急時の喘息管理に関する認定されたトレーニングを受けている必要があります。

ii） 年齢要件：保育者は、17 歳以上である必要があります。

iii） 直接的な関与（On the floor）：幼児教育者は、子どもたちと直接的に関わっている場合にのみ、幼児教育者対子ども比率（Ratio）の計算に含めることができます。

iv） ブルーカード（Blue Card）：全ての教職員は、子どもたちと関わるための適性（無犯罪等）を確認するために、ブルーカードを取得している必要があります。

2.5 チャイルドケア補助金

子育て家庭を対象に、保育サービスの費用負担軽減を目的とする補助金制度（CCS：Child Care Subsidy）があります。

1）対象者: 13 歳以下の子どもを持つ家庭（一定の就労・学業・ボランティア等の要件あり）で、認可された保育サービスを利用していること。

2）補助金額: 世帯の年間所得に応じて異なり、最大 90%が補助されます。8.3 万ドル以下の家庭は 90%補助、53 万ドル以上で 0%となり、中間層は所得が 5,000 ドル増える毎に補助率が 1%漸減されます。

2.6 国際的評価と特徴

オーストラリアの ECEC（Early Childhood Education and Care）制度は、以下の点で国際的にも先進的と評価されています。

1）国家主導の包括的で統一された品質保証制度（NQF、NQS、QIP、A&R、Qualification）

2）保護者やコミュニティとの連携、文化的多様性の尊重

3）実践と評価を結びつける QIP による継続的改善

4）全豪共通の幼児教育カリキュラムである EYLF の導入

5）保育・幼児教育現場における国際人材の受け入れ

これらの特徴は、移民国家としての特性を生かし、多文化共生型保育の模範モデルとされ、OECD などからも高い評価を受けています。

2.7　日本との比較と示唆

2.7.1 品質保証と自己改善の仕組み

オーストラリアでは、国家統一基準（NQF）と品質評価制度（NQS、QIP）を通じて、すべての保育施設が定期的に自己点検・第三者評価を受け、継続的な改善を求められています。 これに対し日本では、評価体制が自治体や法人ごとに分断され、教育・保育の質を全国的に比較・改善する仕組みが未整備である点は今後の品質保証体制の構築に参考となります。したがって、**教員養成課程でも「自己評価・改善計画（QIP 型）」を組み込む教育マネジメント力の育成**が課題であると考えます。

2.7.2 遊び・探究型学習

オーストラリアの EYLF は「Belonging, Being, Becoming」の理念に基づき、子どもの主体性と探究心を尊重する **Play-based Learning** が中心です。一方、日本の養成課程では保育内容の理解や指導技術の習得が中心で、探究的な実践研究や記録（Learning Stories）の活用は限定的であるようです。今後は、日本の保育・幼児教育の良い点を尊重しつつ、**子どもの学びを観察・記録し、振り返る教育者を育てる実践的カリキュラム**の導入も求められると考えます。

2.7.3 資格体系とキャリア段階の明確化

オーストラリアでは、Certificate III、Diploma、ECT（学士）の資格と職務範囲・給与水準が段階的かつ明確に定義され、実務経験と学習を組み合わせた体系的キャリアパスが確立しています。日本では、保育士資格と幼稚園教諭免許が別体系であり、大学・短大・専門学校間での取得単位の互換性や資格体系の連続性が弱いように見受けられますので、**学修歴や職歴に応じて専門性を段階的に高められる資格制度への再構築**は考えられます。

2.7.4 現場連携と多文化対応

オーストラリアでは、実習を通じた「学びの可視化（評価・フィードバック）」が重視され、文化的背景や言語の異なる家庭との協働が教育者の必須能力とされています。日本の養成課程では、保育現場との連携や異文化・多言語対応の実践がまだ限定的であるため、**国際的視野と多文化理解を伴う実践教育（Intercultural Competence）の導入**が必要であると考えられます。

総じて、オーストラリアの ECEC 制度は「全国統一の品質保証」「探究型カリキュラム」「段階的資格制度」「多文化教育」という 4 点で体系的であり、これらは日本の養成課程においても単に留学して豪州をはじめとする海外資格を取得する進路設計だけでなく、グローバル化を踏まえた踏み込んだ資格体系の見直しも必要と考えます。

＜参考資料＞

1. ACECQA のウェブページ：https://www.acecqa.gov.au/
2. Guide to the National Quality Framework：https://www.acecqa.gov.au/nqf/about/guide
3. QIP 評価項目や定義等の概要：https://www.acecqa.gov.au/sites/default/files/2018-07/RevisedNQSHandoutA4.pdf

   https://www.acecqa.gov.au/media/23156

4. EYLF の概要：https://www.acecqa.gov.au/sites/default/files/2023-04/EYLF-learning-framework-A3-poster.pdf

   https://www.acecqa.gov.au/sites/default/files/2023-03/EYLF-planning-cycle-A3.pdf

   https://www.acecqa.gov.au/sites/default/files/2023-01/EYLF-2022-V2.0.pdf

5. クィーンズランド州の各種基準：https://www.qld.gov.au/education/earlychildhood

第 3 章 提携校拡大

本事業においては、2024 年度（令和 6 年度）にオーストラリア・クィーンズランド州の Imagine Education（本部：ゴールドコースト）および Charlton Brown（本部：ブリスベン）との正式提携を締結し、日本からの留学生受入に向けた準備を進めています。2025 年度（令和 7 年度）における両校との取組と課題について整理します。

3.1 提携校との取組

3.1.1 Imagine Education

大庭学園の教職員が、2025 年 8 月 4 日～8 日の 5 日間にわたり、名古屋文化学園が毎年実施しているオーストラリア保育実習に参加しました。この実習プログラムは、Imagine Education における短期語学研修と名古屋文化学園が所有する Aussie Kids at Mermaid 園での実習から成るものです。実習参加によって、語学面、運営面、費用面での課題が明らかとなりました。また、2025 年 9 月には、Imagine Education の留学受入責任者が来校し、留学説明会を実施して、豪州での資格取得やその魅力について学生の理解も深めることができました。

3.1.2 Charlton Brown

大庭学園の教職員が、2025 年 8 月 4 日に同校を訪問し、カリキュラム共同開発、奨学金設立、短期研修の実施方法などを協議しました。中でも、日本からの留学生については、Certificate Ⅲや Diploma の取得だけでなく、保育や幼児教育の専門的な知識を有するナニーの養成・派遣に可能性がある旨を確認できました。

3.2 課題と解決策

1) 留学生数の確保：提携校との協議の中では、一定の留学生を確保することが期待されており、日本からの保育分野での母数を増やす必要性を再認識し、専門職留学の必要性やキャリアパスを広く知ってもらう活動が必要です。

2) 語学面：**短期実習においても、実習現場の安全確保や教育的側面、さらには実習効果を高める意味でも、一定の語学力が求められることを再認識**しましたので、実習前の語学研修制度や実践的な英会話力を有する学生の参加を促すといった取組が必要です。
3) 運営面：日本から現地への空路・陸路含めたロジ、現地での交通手段の確保、複数の施設で実習を行う場合の教職員の巡回方法などを綿密に設計する必要があります。
4) 費用面：実習参加費用は交通費・現地滞在費などで総額 50 万円近くに上るため、奨学金制度の活用や一定人数以上での団体参加によるスケールメリットを考える必要があります。
5) 許認可面：2025 年 12 月より、業務・ボランティア問わずに保育や幼児教育に携わる人物が受けるべき身元確認制度（Working with children check（WWCC））の強化され、クィーンズランド州においてもその証明書であるブルーカードの取得が必要となる見込みです。

3.3 提携・協力校候補の特定

提携校拡大には、一定の留学生を確保した上で進めていく必要がありますが、中長期的に学生の受入を前向きに考えていただく教育機関としては、以下のような専門学校が挙げられます。両校のトップからは、時機をみて、短期研修や正規留学の受入について内諾をいただいております。

・Kool Kids Training College（本部：ゴールドコースト）：Kool Kids ブランドで多数のチャイルドケアセンターを運営してきた実績を有しており、保育施設運営で培ったノウハウも学べる実践的な専門学校です。
・Lead Institute（本部：ブリスベン）（現時点では豪州国内生対象のみ）：Lead ブランドで多数のチャイルドケアセンターを運営し、世界的に評価の高い幼児教育手法のレッジョ・エミリアを実践するグループとしても評価が高く、その人材養成校として設立されています。目下、海外からの留学生受入れに向けた準備を進めており、将来的なパートナーとして考えられます。

オーストラリアにおける介護分野ニーズ調査（新規）

目次

第 1 章 調査の背景と目的
1.1 調査の背景
1.2 日本とオーストラリアにおける介護人材需要の現状
1.3 本調査の目的と意義
1.4 本報告書の構成

第 2 章 本調査の範囲と方法論
2.1 調査範囲
2.2 調査方法
2.3 調査の成果と意義
2.4 本報告書の位置づけ

第 3 章 日本とオーストラリアの介護士資格制度
3.1 介護福祉制度と事業形態に関する日豪比較
3.2 介護理念の比較
3.3 日本の介護福祉士資格制度の概要
3.4 オーストラリアの介護士資格制度の概要
3.5 両国資格制度の比較
3.6 教育カリキュラム面での比較

第 4 章 グローバル介護士の育成と展望
4.1 国際的に高まる介護人材需要
4.2 国際的な人材移動の潮流
4.3 日本における在留外国人の高齢化と課題
4.4 両国における外国人材受入の枠組み
4.5 両国における介護資格者の処遇比較
4.6 資格相互認定の課題と可能性

第 5 章 日本からの介護資格留学と支援体制
5.1 日本からオーストラリアへの介護分野留学の潮流
5.2 日本からの留学プロセス
5.3 必要なビザと取得方法
5.4 介護資格留学の学習・実習内容
5.5 実習（Vocational Placement）の仕組みと課題
5.6 短期実習・就労体験プログラムの事例調査

第 6 章 資格取得後のキャリアパスと就職機会
6.1 日本における資格取得後のキャリアパス
6.2 オーストラリアにおける資格取得後のキャリアパス
6.3 就労ビザ取得と定住の可能性
6.4 グローバル介護士人材と留学生（日本人）の事例
6.5 両国間のキャリア形成相乗効果

第 7 章 留学生の学費・生活費の課題と対応策
7.1 留学に必要な費用の概要
7.2 課題の背景と影響
7.3 就労可能な学生ビザ制度の活用
7.4 奨学金・生活支援制度の事例
7.5 今後の対応策

第 8 章 提携校設置の意義と課題
8.1 提携校設置の背景と目的
8.2 日豪間における介護教育機関・専門学校の提携事例
8.3 日本からの留学生に必要な準備
8.4 教育機関同士の連携と重要性
8.5 提携校設置における課題と展望
8.6 提携校設置後の展望と評価

第 9 章 結論と今後の展望
9.1 本調査の結論
9.2 今後の展望
9.3 政策提言と次のステップ

謝辞

第 1 章 調査の背景と目的

はじめに

日本およびオーストラリアにおける介護分野の人材需要は、近年急速に増大しており、両国共通の重要課題となっています。とりわけ日本は、世界でも類を見ない高齢化の進展に伴い、介護サービスの需要が飛躍的に高まっている一方、介護人材の確保が極めて困難な状況に直面しています。厚生労働省の「第 9 期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について」によると、**2026 年度（令和 8 年度）には約 240 万人、2040 年には約 272 万人の介護職員が必要だと公表され、2022 年度（令和 4 年度）の介護職員数が約 215 万人であったこと前提に、厚生労働省の推計では、2026 年度には全国で約 25 万人の介護職員が不足、2040 年度には約 57 万人の不足とされ、介護人材の安定的確保と育成は国家的優先課題**と位置づけられています。

豪州においても、高齢化の進展と多文化社会という背景から、介護分野における多様な人材の需要は年々高まっています。政府は在宅介護や高齢者施設の拡充を進めていますが、介護士資格を持つ人材の確保と定着は依然として大きな課題であり、海外からの人材流入に依存する傾向も見られます。

このような状況の下、日本と豪州における介護士資格制度や教育理念、留学生支援体制を比較検討し、両国の人材育成と国際的な人材育成の可能性を探ることは、両国にとって極めて有益であると考えられます。本調査は、介護分野における人材需給の現状を把握し、**社会経済構造の国際化・多文化共生時代の到来を踏まえて、グローバル介護士育成の必要性とその方策を提示することを目的**としています。なお、本調査におけるグローバル介護士とは、外国人高齢者をその母国語を使って介護できる介護士（例えば、英語を母国語とする日本に居住する高齢者を介護できる日本人介護士）を指すものとします。

1.1 調査の背景

1. **日本における高齢化と人材不足の深刻化**

- 2025 年には団塊世代が後期高齢者となり、介護需要は一層増大する見込みである。総人口の約 30%が 65 歳以上であり、2040 年には 35%に達する。
- 介護人材の有効求人倍率は常時 3 倍を超え、全国的に慢性的な介護人材不足、都市部の方がより深刻な人手不足との見解もある。
- 低処遇・高負担による離職率の高さが構造的課題である。

2. **オーストラリアにおける介護需要の増大**

- 総人口の約 17%が 65 歳以上であり、2040 年には 20%超が予測されている。
- 多文化社会において、多様なバックグラウンドを持つ高齢者へのケアが不可欠である。

- 介護人材の不足率は 20%超（2022 年時点）に達し、人材需給の逼迫が顕著である。

3. **国際的な介護人材需要と人材流動**

- 世界的な高齢化の進展により、介護分野はグローバルに需要が高い成長産業分野である。
- オーストラリアや EU 諸国では既に介護士資格の相互承認・職業移動を支える制度整備が進行しており、日本と豪州の制度・教育資源を相互補完的に活用することで、国際的な介護人材育成のモデルを構築できる可能性がある。
- 日本が培った高度なケア技術・教育カリキュラムは、今後高齢化が進むアジア諸国やオセアニアへの輸出の可能性があるという仮説が立てられる。
- **国際結婚率が日本国内で最も高い沖縄県においては、日本人の配偶者を持つ駐留米軍関係者も多く、老後を県内で過ごす事例も増えており、英語によるコミュニケーションを望む高齢者が増加する傾向が見受けられる。**

1.2 日本とオーストラリアの介護人材需要の現状

- 日本：**65 歳以上の高齢者数は、2025 年に 3,653 万人となり総人口の約 3 割に達し、要介護認定者数はその 19.1%を占めて増加の一途を辿っており、介護保険制度を支える介護人材の不足が深刻化することに加えて、高度なケア技術を備える介護士の需要が高まっている。**特に地方では採用難が顕著で、外国人材受け入れ（EPA、技能実習、特定技能）を通じた補完が進んでいますが、制度上の制約や定着率の低さが課題となっています。介護保険制度は原則 3 年を 1 期とするサイクルで財政収支を見通し、事業の運営を行っており（進行期の第 9 期は 2024 年度～2026 年度、令和 6 年度～8 年度）、足元では厚生労働省が「2040 年に向けたサービス提供体制等のあり方」検討会を設置して、2027 年度（令和 9 年度）からの第 10 期介護保険事業計画に反映させていくことを念頭に人材確保・定着を含む諸制度改正を検討しています。なお、日本においては、2027 年（令和 9 年）からは従来の技能実習制度に代わり、新たに「育成就労制度」が施行される予定とされます。これにより、従来の「途上国人材育成」から「日本に資する人材確保」へと制度趣旨が転換し、在留制限のない特定技能 2 号への移行も可能となる見込みです。介護分野は引き続き対象職種として位置づけられており、外国人介護士の受入れ基盤は今後さらに強化される見込みです

- オーストラリア：**豪州でも高齢化が急速に進行しており、2024 年時点で 65 歳以上の人口は総人口 2,650 万人のうち約 17%に達しています。高齢者ケア分野は政府の重点施策とされ、在宅介護（Home Care Packages Program）と施設介護（Residential Aged Care）の双方で**

人材不足が深刻とされます。連邦政府の「Aged Care Workforce Census 2022」によると、介護分野では約 37 万人が従事していますが、2033 年には約 80 万人が必要とされ、今後 10 年間で少なくとも 25 万人以上の新規介護人材が必要となってきます。特に在宅介護の需要が急増しており、政府は 2025 年 11 月施行の新制度「Support at Home」を通じて在宅ケア人材の拡充を図ろうとしています。他方で、離職率の高さや地方部での人材不足が深刻化しており、若年層・外国人労働者の確保が今後の持続的課題とされます。介護は今後も豪州の最大級の雇用成長セクターとして位置づけられ、資格制度（Certificate III・IV）と連動した教育・研修の整備が進められています。政府は「Aged Care Workforce Strategy」として、2030 年代までに安定した労働力供給体制を確立する方針を掲げました。なお、英語力や資格要件が高いため、海外人材の受け入れにおいても依然として大きな障壁が存在することは否めません。

1.3 本調査の目的と意義

本調査では介護人材の中でも中核をなす介護士資格制度やその育成を重点課題と捉え、以下の目的を有しています。

1. **資格制度・人材育成手法の比較分析**
   日本とオーストラリアの介護人材に関する資格制度を体系的に整理し、その相違点・共通点を明確化します。

2. **グローバル介護士育成の可能性提示**
   留学生支援体制、実習制度、ビザ制度等を踏まえ、国際的に通用する介護士育成の方向性を提示します。

3. **政策的含意の抽出**
   文部科学省・厚生労働省を含む関係機関に対し、教育機関間連携や外国人材受け入れ制度の改善に参考となるような政策的示唆の提示を試みます。

1.4 本報告書の構成

本報告書は以下の構成により展開します。

1. 調査の背景と目的
2. 本調査の範囲と方法論

3. 日本とオーストラリアの介護士資格制度
4. グローバル介護福祉士の育成と展望
5. 留学生向け支援体制と実習
6. 資格取得後のキャリアパスと就職機会
7. 留学生の学費・生活費の課題と対応策
8. 提携校設置の意義と課題
9. 結論と今後の展望

本報告書は、介護人材不足や多文化対応の課題に直面する日本の介護現場に対し、まずは**英語圏出身で日本に定住化した高齢者を対象とした介護人材のニーズを把握するとともにその育成方法に関する具体策を提示**します。さらに、オーストラリアの専門教育システムを活用したグローバル介護士育成の可能性を探る指針を提供します。教育現場や政策立案者だけでなく、介護福祉士の養成機関、介護事業者、そして広く地域社会や保護者にも有益な内容となることを目指しています。

参考文献

1. 総務省「統計トピックス No.142 統計からみた我が国の高齢者」 https://www.stat.go.jp/data/topics/pdf/topics142.pdf
2. 厚生労働省「第 9 期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について」 https://www.mhlw.go.jp/content/12004000/001274765.pdf）
3. 厚生労働省「第 10 期介護保険事業（支援）計画の作成準備について」 https://www.mhlw.go.jp/content/12301000/001526855.pdf
4. Australian Government, Department of Health and Aged Care, Aged Care Workforce Census 2022
5. Australian Government, Aged Care Reforms: Support at Home Program Overview 2024
6. Australian Bureau of Statistics (ABS), Population Projections, Australia, 2022–2041
7. KPMG, Aged Care Market Analysis 2025

第 2 章 本調査の範囲と方法論

2.1 調査範囲

本調査は、日本とオーストラリアにおける介護士資格制度および介護理念の比較を行った上で、両国連携によるグローバル介護士育成の可能性を探ることを目的として実施しました。具体的には、以下の 3 つの主要テーマに焦点を当てています。

1. **介護士資格制度の比較**

- 日本：国家資格としての介護福祉士を中心とし、介護職員初任者研修や実務者研修を含む複層的な資格体系となります。筆記試験・実技試験による理論重視の傾向にあり、制度的にも日本国内での活動を前提としていますが、**オーストラリアの資格制度との比較においては、日本の介護福祉士の広い所掌範囲と資格取得に必要な高度な学習内容が明らか**となりました。
- オーストラリア：職業教育訓練制度（Vocational Education and Training, VET）に基づく職業資格としての位置づけが強く、入門レベルの *Certificate III in Individual Support* から準学士（日本の短大卒業水準）の *Diploma of Community Services* まで体系的に設計されています。資格取得には長時間の実習を必要とし、実践重視の教育プログラムが特徴です。

2. **留学生向け支援体制と実習制度**

- オーストラリアで日本人留学生が介護分野での資格取得する際に直面する課題（語学力、文化適応、学費・生活費等）を特定し、それらを解決するための支援体制を検討しました。なお、在日外国人の介護を想定して、日本人が豪州等の海外での介護研修に一定のニーズがありますが、豪州人による日本語での介護研修のニーズは極めて低いため、ここでは豪州における日本人留学生に関して検討するものとしました。
- 語学準備コースや文化適応プログラム、ビザ制度や就労支援制度を含め、留学生が安心して学習・実習できる環境の整備状況を確認しました。

3. **実習プログラムとキャリア形成**

- 豪州の教育プログラムの特徴である実習プログラムの役割と、その内容はどのように介護士のキャリア形成に寄与するか分析しました。
- 両国で資格を取得した後のキャリアパスと就職機会、外国人材受け入れに関する制度上の障壁や可能性についても検証しました。

2.2 調査方法

本調査は、複数の手法を組み合わせ、データ収集と分析を行いました。

1. **統計データ分析**
    a. 両国の政府機関が提供する統計データを基に、両国の介護政策・事業環境や介護士の需給、資格取得の傾向を分析しました。
    b. 日本：厚生労働省「介護労働実態調査」、介護保険制度関連統計。
    c. オーストラリア：Australian Bureau of Statistics（ABS）、Department of Health and Aged Care、Aged Care Workforce Census。
    d. 指標：人口動態、有効求人倍率、介護士の平均年収、施設数、離職率、資格取得者数など。

2. **文献・公開資料レビュー**
    a. 両国の公開情報、豪州の産業界別動向調査報告書である IBIS World Report のうち Indivudual Support レポート、国際的会計ファームの KPMG が公表している業界レポートなど、豪州の介護政策に関連する公式資料のほか、オーストラリア政府内務省が定めるビザ制度に関する情報をレビューしました。また、日本の介護福祉士の資格に関する文献も参照し、両国の制度を包括的に比較しました。
    b. 国際比較の観点から、OECD レポートや ILO（国際労働機関）資料を参照しました。
    c. 両国の資格制度関連文献、教育カリキュラム、介護理念に関する学術論文も調査対象としました。

3. **提携校ヒアリング**
    a. 2025 年 8〜10 月にかけて、既に提携関係のある介護人材を養成する教育機関 Charlton Brown 及び Imagine Education にヒアリングを行いました。
    b. 目的：介護人材の養成、資格取得課程、日本人留学生の課題意識等を把握すること。
    c. 主な質問項目としては、
        i. 資格取得過程の特徴
        ii. 留学生支援体制の現状と改善点
        iii. 資格取得後のキャリアパスと就労機会

2.3 調査の成果と意義

本調査を通じ、以下の成果が得られました。

1. **両国の資格制度の特徴と相違点の明確化**

   本調査により、両国の介護市場環境と資格制度の構造的な違いを明らかにしました。具体的には、介護に対する根本的な理念の違いを明らかにするとともに、資格制度面では、日本が筆記試験を中心とする理論重視の評価体系であるのに対し、オーストラリアは実習を通じた実践重視の教育体系を採用しています。さらに、日本の介護福祉士の職掌範囲の広さやスキルの高さが明らかとなっています。

2. **日本人留学生が直面する課題の把握**

   本調査を通じて、保育士資格と同様に介護分野での日本人留学生が直面する課題（語学力の不足、文化的適応、学費・生活費の負担など）を具体的に特定しました。一方で、語学支援プログラムや奨学金制度、学生ビザの就労許可が学びを支える要素であることを確認しました。

3. **国際的キャリア形成に資する教育モデルの可能性**

   実習を通じたスキル習得と資格制度の国際的互換性が、グローバル介護士育成の基盤となることを確認しました。特に、**日本人学生にとって、日本の介護福祉士の資格要件や担当業務の範囲は豪州に比べて広く深い状況から、豪州で就職を目指す以外は、語学ハードルの高い現地資格を取得するよりも、多文化共生時代に適した経験値を得る意味で短期実習に重点を置くこととしました。**

2.4 本調査の位置付け

本章で示した調査範囲と方法論は、以降の分析と提言の基盤を構成するものです。

- 第 1,2 章は、本報告書の趣旨・方法論をまとめたものとなります。
- 第 3 章では、日本とオーストラリアの介護政策、介護理念、これらを支える介護士資格制度の比較を深掘りし、両国間の制度的な相違点を明確化します。

- 第 4 章では、世界的な介護人材需要の高まりと、日本と豪州の人材ニーズを確認し、日本で英語を解して異文化理解力の高いグローバル介護士のニーズと人材育成の必要性が萌芽しつつある市場環境を考察します。
- 第 5,6,7 章では、豪州の介護士資格の取得を目指す留学生が留学準備から実際の留学までのプロセス、さらに、資格取得後のキャリアパスと就職機会を日本からの事業者・留学生の視点で調査します。
- 第 8 章では、調査結果をもとに、グローバル介護士の育成と展望を明らかにして、日豪間の提携校設置や奨学金制度の拡充について具体的な提案を行います。
- 第 9 章では、本調査のまとめを行います。

第 3 章 日本とオーストラリアの介護士資格制度

調査内容と結果の要約

本章では、日本とオーストラリアにおける介護政策および資格制度の比較を通じて、両国の制度的特徴と教育理念の相違点を明らかにしました。まず、介護の基本理念において、日本は「尊厳の保持」と「自立支援」を軸に、医療的ケアやチームマネジメントを含む総合的支援を重視しており、体系的な専門教育を通じて高度な判断力を養う仕組みが整っています。一方、オーストラリアは「利用者の選択と文化的多様性への尊重」を基盤とし、現場実践を中心とした職業教育訓練（VET：Vocational Education and Training）体系により、即戦力となる人材育成を目的としています。

また、**資格制度面では、日本の介護福祉士が国家資格として法的職掌範囲が広く、履修時間・学習内容ともに豪州の Certificate III in Individual Support を上回っていることが確認されました。**豪州においても日本と同様に無資格で従事可能な職種が存在しますが、今後は質の確保の観点から、最低資格（Certificate III 相当）の義務化が進む見通しです。

一方で、**両国に共通する課題として、言語要件が留学生や外国人労働者にとって最大の障壁となっており、特に日本人が豪州に留学して資格取得を目指す場合は「言語支援」と「文化的適応」の重要性が指摘できます。**

3.1 介護福祉制度と事業形態に関する日豪比較

本節では、資格制度の比較に先立ち、日豪の介護福祉制度の枠組みと主要な事業モデル（施設型・訪問型・その他）を整理します。両国はともに高齢化対応を国家的課題と位置づけるが、制度設計と事業展開の手法には顕著な差異がみられます。

---

(1) 制度比較の全体像

日本の介護保険制度は、2000 年に創設され、市区町村が保険者として要介護認定、ケアプラン作成、事業者への給付を行う公的保険方式です。利用者負担は原則 1〜3 割で、所得に応じて決定されます。一方、**オーストラリアの「My Aged Care」（ワンストップの行政窓口）は、政府補助を受ける高齢者ケアの入口として、オンラインで申請からアセスメント（適正評価）、サービス選択、費用管理までを一元的に行う仕組み**となっています。2025 年には在宅支援制度「Support at Home」へ統合予定で、利用者が自らサービスを選択できる点が特徴です。両国に共通する課題は、地方部での人材不足、制度の複雑さ、非英語話者や認知症高齢者への情報アクセスの難しさであり、ICT を活用した透明性と支援体制の強化が今後の焦点と言われています。

観点	日本	豪州
制度の軸	公的介護保険制度（2000 年開始）。市町村が保険者、利用認定・給付管理を担う。	連邦政府主導。**My Aged Care（ワンストップ行政窓口）**を入口とした全国共通のアセスメントを実施。2025 年 11 月に**新 Aged Care Act** 施行予定。
財源	公費（税）＋保険料＋利用者負担	公費（連邦補助金）＋利用者負担（資産・所得連動）
利用者負担	原則 1 割（所得に応じ 2〜3 割）。食住費等は全額自己負担。	在宅は年金基礎額の 15.7〜17.5%相当、施設は最大 85%を基本日額費として負担。加えて Means-tested Care Fee や宿泊費（RAD/DAP）を負担。
ケアマネジメント	ケアマネジャー（介護支援専門員）がケアプランを作成。	My Aged Care がケアプラン作成と介護サービス提供者の紹介を一元管理。
品質管理	人員配置基準、介護報酬加算、介護保険法に基づく監督。	**Aged Care Quality Standards**（2025 年強化予定）。監査・評価・利用者の権利保護を重視。

(2) 事業モデルの比較

日本の介護事業は、入所型施設（特別養護老人ホーム等）が中心であり、介護保険制度上の利用者の約 6 割が施設サービスを利用しています。一方、豪州では、広い住居環境と地域コミュニティを基盤とした在宅介護（Home Care Packages, CHSP）が主流であり、利用者の約 7 割が自宅で支援を受けています。住宅が平屋中心でバリアフリー化が進むこと、家族の独立志向が強いことが背景にあるものと推測されます。

日本では都市部の住宅事情や独居世帯の増加が施設利用の多さにつながっており、訪問介護・通所介護は全体の約 4 割にとどまります。一方、豪州では入所型（Residential Aged Care）は全体の約 3 割に過ぎず、必要時のみ短期入所（Respite Care）を併用する形が一般的となっています。両国とも高齢化の進展により自立支援・地域密着型ケアへの移行が進んでおり、住宅政策と介護サービスの統合的設計が今後の課題となると考えられます。

● 施設型（**Residential /** 入所系）

- 日本：特別養護老人ホーム（特養）、介護老人保健施設（老健）、介護医療院、有料老人ホーム等。入所要件や役割分担が明確である。
- 豪州：日本の様に介護の必要度合いに応じた細分化された施設があるのではなく、自立した高齢者が支援を受けながら過ごす住宅（Residential Aged Care）が中心となる。利用者は年金の 85%を基準に負担し、さらに所得・資産に応じた追加費用が設定される。なお、子育てが終わり大きな住宅が不要となった世代が、Downsizing と言って、高齢者予備軍とも言われる 55 歳以上から入居が可能な Retirement Village（共有施設が充実した平屋住宅を中心とするコミュニティ型の住居施設）が広く普及している。

● 訪問型（**Home / Community**）

- 日本：訪問介護、訪問入浴、通所介護（デイ）、短期入所等。ケアマネが複数サービスを組み合わせる。
- 豪州：Home Care Packages（HCP，レベル 1～4）と CHSP。2025 年以降は **Support at Home** に一本化される予定。

● その他（短期回復・レスパイト）

- 日本：小規模多機能型、認知症グループホーム、ショートステイ等。地域包括ケアの一環。
- 豪州：Short-Term Restorative Care や Respite。短期でも明確な利用料設定（在宅 17.5%、施設 85%の負担）がある。

【日豪の介護関連サービス類型比較】

	日本	豪州
自宅で利用するサービス	訪問介護（ホームヘルプ:身体援助中心）	Care in Your Home
	訪問介護（ホームヘルプ:生活援助中心）	
	夜間対応型訪問介護	
	訪問入浴介護	
	訪問看護	
	訪問リハビリテーション	
	居宅療養管理指導	
施設に通い利用するサービス	通所介護（デイサービス）（定員 19 人以上）	Short-term Care
	地域密着型　通所介護（定員 18 人未満）	
	療養通所介護	
	認知症対応型通所介護	
	通所リハビリテーション（デイケア）	
	短期入所生活介護	
	短期入所療養介護	
24 時間対応	定期巡回・随時対応型　訪問介護看護	Care in Your Home
	小規模多機能型居宅介護	
	看護小規模多機能型居宅介護	

居宅サービス	認知症対応型共同生活介護	Residential care in aged care home
	特定施設入居者生活介護	
	地域密着型特定施設入居者生活介護	
施設系サービス	介護老人福祉施設（特養）	Residential care in aged care (nursing) home
	地域密着型　介護老人福祉施設入所者生活介護	
	介護老人保健施設	該当なし
	介護医療院	該当なし

(3) 介護制度の財政基盤と持続可能性

- 日本と豪州はいずれも公的財源と利用者負担を組み合わせた介護制度を採用している点で共通しています。日本では介護保険制度を通じて、国・地方自治体が全体の約 50%を負担し、残りを保険料と利用者負担（原則 1〜3 割）で賄う社会保険方式となっています。これに対して豪州は、一般税収を基礎とする税方式であり、連邦政府が「My Aged Care」を通じて給付を管理しています。利用者は所得と資産に応じて共助負担（Means-tested Fee）を支払い、高所得者には追加費用（Accommodation Payment）が課される点が日本と異なります。
- 共通点として、いずれも高齢化に伴う財政負担の増大が課題となっており、費用の透明化と自己負担の適正化が進められています。一方で、日本は制度の安定性と公平性を重視し、豪州は利用者選択の自由と市場原理による効率化を志向しており、公的保障と個人選択のバランスにおいて対照的な特徴を示しているといえます。

3.2 介護理念の比較

（1）日本の介護理念

日本の介護理念は、介護保険制度の下で形成され、「自立支援」を基本的価値としています。

- 要介護者が可能な限り自分の生活機能を維持し、自立した生活を営むことを支援する。

- 家族介護との連携が重視され、施設介護と在宅介護を併用する仕組みを整備する。
- 地域包括ケアシステムに基づき、医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供することが理念の中心である。

さらに、日本の介護現場では身体介護（入浴・食事・排泄）と生活支援（買物・調理・掃除）が明確に区分されており、専門職としての介護福祉士が幅広い業務を担う点に特徴があります。

（2）オーストラリアの介護理念

オーストラリアの介護理念は、「パーソンセンタードケア（個人中心のケア）」に基づいています。

- 利用者の意思や生活史、文化的背景を尊重し、本人にとって最適な生活を送れるように支援する。
- 移民社会の特性から、多文化・多言語への対応が不可欠であり、宗教的配慮や食文化の違いに柔軟に対応する仕組みを整える。
- 在宅介護（Home Care Packages）を重視し、できる限り高齢者が自宅で生活を継続できるようにすることが政策上の柱である。

施設介護においても、**ケアプランの個別化**が徹底され、職員は「利用者の人生の質」を重視したケアを提供しているのが特徴的です。

（3）日豪の理念比較

項目	日本	豪州
基本理念	自立支援、介護保険制度に基づく包括的支援	パーソンセンタードケア、利用者の生活史と文化を尊重
家族との関係	家族介護を前提にした制度設計（施設＋在宅）	家族への依存度は低め、本人中心のケアを重視
多文化対応	外国人利用者対応は限定的	多文化・多言語対応が制度設計に組み込まれている
ケアの範囲	身体介護＋生活支援＋社会的参加支援	主に生活の質向上、心理的・社会的サポートを重視

考察：

- 日本の強みは「包括的かつ体系的な支援」と「介護福祉士の職掌範囲の広さ」。
- 豪州の強みは「利用者主体の柔軟なケア」と「多文化環境への適応力」。
- 両国の理念は互いに補完可能であり、日本は豪州の「多文化対応」、豪州は日本の「制度的自立支援モデル」から学ぶ余地が大きい。

（4）ケアの倫理と人権の視点

- 日本：介護保険制度に基づき「国民皆保険的枠組み」で公平性を担保しているが、利用者本人の意思決定支援が十分に制度化されていない。
- 豪州：利用者の権利を法的に明確化し、**Aged Care Quality Standards** に基づき「尊厳と選択権」を制度的に保障している。
- 国際的潮流：介護の質は「技術」だけでなく「倫理・人権」に基づくものであることが強調されつつあり、日豪双方に改善の余地がある。
- 一方で、日本の外国人介護人材受入れ制度においては、技能実習生の不当就労や人権侵害の問題が過去に指摘されてきた。理念として「尊厳と人権の尊重」を掲げながらも、制度運用においてはその実現に課題がある点を留意すべきである。

3.3 日本の介護士資格制度の概要

日本の介護分野における資格制度は、厚生労働省の監督下で国家資格と各種研修修了資格から構成されています。中核となるのは介護福祉士（国家資格）であり、職掌範囲の広さと教育課程の重厚さが特徴とされます。ただし、日本の介護現場では、必ずしも介護福祉士資格が就業要件とはなっていません。厚生労働省の資料によれば、通所・居住・施設系サービスの多くでは「無資格者」や「初任者研修修了者」も従事可能であり、制度設計と現場実態には乖離が存在するといえます。

1. **介護福祉士（国家資格）**

- 日本で唯一の介護分野の国家資格であり、名称独占資格（資格を持っている人だけが、その名称を名乗ることができる資格）である。
- 職掌範囲は身体介護から生活援助、リハビリ補助、認知症ケア、家族支援まで幅広く、介護現場全般を統括できる。
- 取得経路：
    - 養成施設ルート（大学・短大・専門学校で 2 年以上の課程を修了）

- 実務経験ルート（介護現場で 3 年以上＋実務者研修修了）
- EPA（経済連携協定）に基づく外国人候補者ルート

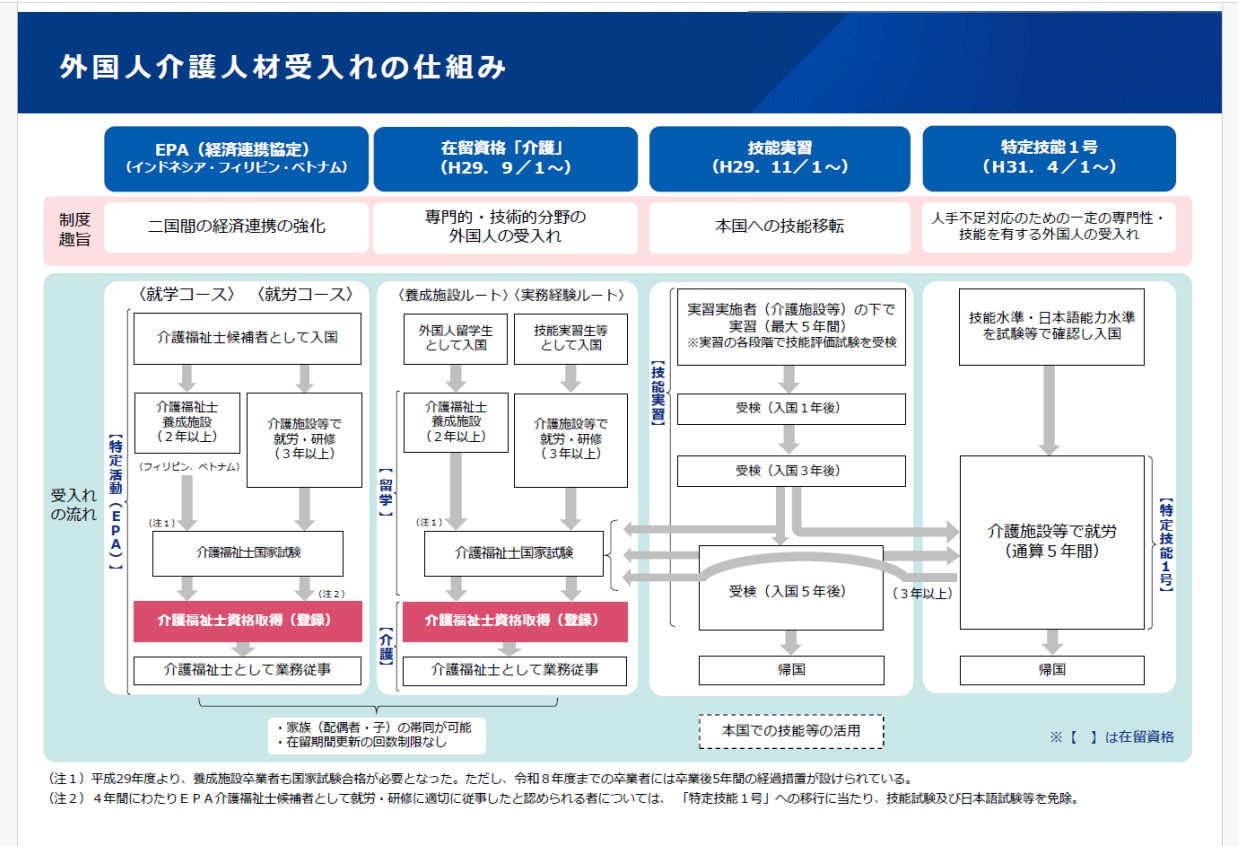
- **学習内容は医学・心理学・社会福祉学から介護技術・福祉機器活用・栄養学・リハビリまで多岐にわたり、学習総時間数は豪州の介護士資格の Certificate III や IV よりも長い。**
- 国家試験が必須であり、合格率は約 70%前後。試験制度によって専門性と質が担保されている。
- ただし、2017 年度（平成 29 年度）以降、試験合格が必要となった養成施設卒業者のうち、2026 年度（令和 8 年度）の卒業生までは不合格や未受験であっても卒業後 5 年間は有資格者として働ける経過措置を設けており、介護人材の確保や介護福祉士を目指す留学生の多さからさらなる延長が議論されている。さらに、現状は、5 年間にわたり継続的に介護業務に従事していれば、その後も受験せず介護福祉士として働ける。

2. 介護職員初任者研修・実務者研修

- 初任者研修は、介護職のスタートラインとして、基本的な知識・技術を習得するための入門資格である。資格保持者は、身体介護の業務に従事可能となる。
- 実務者研修は、質の高いサービスを提供するため、専門的な介護の知識・技術の習得を目的に 450 時間の課程が設定されており、介護福祉士国家試験受験に必須の研修である。

3. 外国人材受入制度との関連

- 在留資格「介護」、技能実習、EPA（フィリピン・ベトナム・インドネシア）、特定技能 1 号など、多層的なスキームで外国人材を受け入れている。
- 特定技能 1 号は、通算 5 年までの在留期間で、家族帯同は基本的に認められておらず、一定の技能試験と日本語試験（N4 相当以上の証明）の合格が必要である。
- 制度は拡充されつつあるが、日本語能力の確保が最大の課題であり、アジア各国からの留学生にとっても大きな参入障壁となっている。



3.4 オーストラリアの介護士資格制度の概要

オーストラリアの介護士資格制度は、職業教育訓練（VET）を基盤とし、全国で統一された基準に基づいています。しかしながら、日本と同様に、介護分野で働くすべての労働者に対して一律に資格取得を義務付ける法的規定は現時点では存在していません。代表的な資格は以下の通りとなります。

1. **Certificate III in Individual Support (Ageing, Disability, Home and Community)**

- 基礎的な介護スキルを身につける資格。
- 実習時間は 120 時間以上で、現場実習が重視される。
- 卒業後は高齢者施設、障害者支援、在宅ケアに従事可能である。

2. **Certificate IV in Ageing Support**

- Certificate Ⅲより高度なケアとチームリーダーシップを学ぶ資格である。
- 実習時間は 120 時間以上。施設の現場リーダー職を想定している。

3. **Diploma of Community Services / Bachelor 課程**

- 地域包括ケアや政策策定に関わる上級資格。
- 実習時間は 400 時間以上。マネジメントやケースワーカーを担う。

特徴：

- 職業訓練校への入学にあたり英語能力（IELTS 5.0〜6.0 以上）が必須である。
- 教育課程は実務即戦力養成に重点を置き、Certificate→Diploma→Bachelor の学位と資格に応じて職掌範囲が広がる（給与水準も上昇する）ため、段階的なキャリア形成を想定している。

3.5 両国資格制度の比較

日本とオーストラリアの両国とも、介護分野で働くすべての労働者に対して一律に資格取得を義務付けてはおらず、その観点では、原則有資格者が主体の保育分野と異なります。オーストラリアにおいて、「エントリーレベル（Entry-level）」のケアワーカーは、資格を持たずに現場で研修を受けながら就労を開始することが可能であり、職場内訓練（on-the-job training）を通じて基本的スキルを習得する仕組みが整えられています。

ただし、こうした柔軟性は主として生活支援や軽度介助など非専門的業務に限定され、利用者の健康管理や医療的ケアを伴う職務に従事する場合は、国家資格である「Certificate III in Individual Support（Aged Care）」、または「Certificate IV」以上の修了、さらには医療的な業務を伴う場合は Nurse の資格取得が前提となっています（日本では、一定の「医療的ケア」が介護福祉士に認められている）。また、外国人材を対象とする Aged Care Industry Labour Agreement では、資格がない場合、少なくとも 12 か月の実務経験を要件とするなど、一定の職能基準が求められています。

さらに、2021 年の「高齢者介護王立委員会（Royal Commission into Aged Care Quality and Safety）」の勧告以降、介護士の質向上と登録制導入をめぐる議論が活発化しており、今後は最低資格（Certificate III 相当）と継続教育要件をすべての介護職に義務化する方向で検討が進んでいます。2025 年 11 月に施行予定の「Aged Care Act 2024」では、ケア提供者と職員双方に対して倫理・登録・品質管理の基準を法的に明確化する予定であり、オーストラリアの介護人材制度は、今後より制度化・専門職化が進むと見込まれます。

項目	日本	オーストラリア
主な資格	介護福祉士（国家資格）	Certificate III, IV, Diploma（通学が必要な職業資格）
職掌範囲	医療的ケアを含む包括的支援、相談援助、リハビリ補助	高齢者・障害者の基礎的ケア中心
学習内容	医学・心理・社会福祉・介護技術・リハビリ等、総合的・学際的	実務中心、職務に即したスキル養成
実習要件	養成課程で約 450 時間の実習＋国家試験必須	Cert. III：120 時間、 Cert. IV：120 時間、 Diploma：200 時間
評価方法	国家試験（筆記・実技）	履修・実習評価
言語要件	日本語必須、特に専門用語が難解（外国人には高い障壁）	英語必須（IELTS 5.0 以上）（非英語圏には高めの障壁）

ポイント：

- 日本の介護福祉士は職掌範囲が広く、学習内容の量・質ともに豪州より重厚である。
- 豪州は段階的な実習中心資格体系で、実務即戦力を重視する。
- 資格の位置づけとして、日本では法的資格として社会保障制度と直結しており、豪州では職業資格として労働市場のスキル指標（いわば能力認定）とされている。
- 外国人にとっては両国ともに言語要件が高い壁となっており、日本では「日本語力」、豪州では「英語力」が外国人材受入の最大の障壁である。

【日豪における介護関連資格の比較】

分類	日本（厚生労働省管轄）	オーストラリア（国家職業資格枠組み：AQF）	主な職責・特徴
上位資格（管理・専門職）	**介護支援専門員（ケアマネジャー）**介護福祉士取得後 5 年以上の実務経験で受験可能	**Diploma of Community Services / Diploma of Leadership & Management**	ケアプラン策定、サービス調整、チームマネジメント。日本では行政との連携業務を担う。豪州では組織運営・監督職レベル。
国家資格・中核職	**介護福祉士（国家資格）**	**Certificate IV in Ageing Support**	日本：介護過程の展開、医療的ケア、指導・教育を担う中核専門職。 豪州：高度な直接支援・記録・監督を行う上級現場職。
基礎資格（現場実務職）	実務者研修（450 時間）介護職員初任者研修（130 時間）	**Certificate III in Individual Support (Ageing, Disability, Home & Community)**	日本：介護入門者向けの基礎教育。資格取得で訪問介護・施設勤務が可能。 豪州：入職時に最も一般的な資格で、ホームケア・施設ケア両方に対応。
医療・看護連携職	看護師（国家資格）准看護師（都道府県免許）	**Registered Nurse（看護師） / Enrolled Nurse（准看護師）**	医療的ケア・服薬管理を担当。介護施設でも医療職と協働。 豪州では登録制度（AHPRA）による監督下で従事。
障がい・地域支援関連	社会福祉士、精神保健福祉士	**Certificate IV in Disability SupportCertificate IV in Mental Health**	障がい者・精神疾患支援を専門とする分野。日本では相談支援・行政対応が中心、豪州では直接ケアを含む。

ボランティア・補助職	無資格ボランティア、家族介護支援員	**Aged Care Volunteer / Assistant Worker**（無資格でも可）	豪州では短期トレーニングで介護補助やコミュニティ活動に従事可能。日本では制度化は限定的。
教育・指導者養成	介護教員養成講習会修了者	**TAE40122 Certificate IV in Training and Assessment**	教員資格。教育機関や研修施設で介護教育を担当。豪州は TAFE 教員資格として位置付けられる。
教育期間・学習時間	初任者研修：約 130 時間介護福祉士：2 年以上・1,850 時間	Certificate III：約 6〜12 か月（約 1,200 時間）Certificate IV：約 9〜18 か月（約 1,400 時間）	日本は体系的・理論重視、豪州は実務・即戦力重視の職業教育型。
資格更新・研修制度	資格更新なし（任意研修）	継続教育（CPD: Continuing Professional Development）推奨・義務化の方向	豪州では資格維持のための定期研修が進む傾向。
言語要件	日本語（外国人は日本語能力試験 N2 程度推奨）	IELTS 5.0〜6.0 相当（留学生・移民）	豪州では英語力が資格認定・就労の前提条件。

3.6 教育カリキュラム面での比較

両国の介護人材育成カリキュラムは、共に「人間の尊厳と自立支援」を基軸としつつも、**日本は理論と制度理解を重視する専門教育モデル、オーストラリアは実務能力と文化適応力を重視する実践モデル**で構成されています。ここでは、日本の介護福祉士（国家資格）と豪州の Certificate Ⅲ、Ⅳのカリキュラムの比較を行います。

（1）主な共通点

日本の介護福祉士養成課程（専門学校 2 年制）と、豪州の *Certificate Ⅲ in Individual Support (CHC33021)* のカリキュラムには、共通する教育理念が多く見られます。両国とも、

- 「人間の尊厳と自立支援」や「利用者中心のケア」を教育の根幹に据えている。

- コミュニケーション能力、多文化理解、法的・倫理的行動、安全衛生、感染予防などの実務共通科目を含む。
- 認知症支援や障がい者ケア、高齢者の発達理解といった実践的領域を重視しており、**利用者の生活全体を支える包括的ケア**の理念が共通している。

(2) 主な相違点

一方で、制度設計や教育アプローチには明確な違いが見受けられました。

1. **学習期間と内容の範囲・深度**
   日本は 2 年間（実習は 1,850 時間）にわたり、心理学・社会福祉・医療的ケア・チームマネジメントなど理論と演習を体系的に学ぶ一方、豪州の Certificate III は 6〜12 か月程度の職業訓練型であり、**現場実習を中心としたスキル習得重視型**となっています。なお、オーストラリアにおいては、日本では介護福祉士が担える医療的ケアはナース（看護師資格者）が担うものとされます。

2. **資格レベルと目的の違い**
   日本の介護福祉士は国家資格であり、介護計画策定や指導監督を担う専門職を育成する一方、豪州の資格は職務遂行レベルを示す職能資格（VET: Vocational Education and Training）という位置づけであり、上位資格（Certificate IV, Diploma）へ進むことで専門性を高める仕組みとなっています。

3. **地域・文化対応の重点**
   豪州では「CHCDIV001 Work with diverse people」に象徴されるように、**多文化・多言語環境への適応**が必修であるのに対して、日本では「社会の理解」「人間関係・コミュニケーション」を中心に、文化的多様性への体系的教育はまだ限定的と思われます。

今後の国際連携においては、日本の体系的教育とオーストラリアの実践的即戦力育成を相互補完することで、グローバル介護士養成の相乗効果が期待されます。なお、本調査におけるグローバル介護士とは、外国人高齢者をその母国語を使って介護できる介護士（例えば、英語を母国語とする日本に居住する高齢者を介護できる日本人介護士。豪州に居住する日本人高齢者を介護できる豪州資格を有する日本人介護士等。）を指すものとします。

介護福祉士国家試験・介護福祉科カリキュラムとAged Care (豪州) 比較

パート	試験科目群	介護福祉科カリキュラム		Individual Support
		1年次	2年次	CHC33021
A	①人間の尊厳と自立、介護の基本 ②社会の理解 ③人間関係とコミュニケーション、コミュニケーション技術 ④生活支援技術	▪人間の尊厳と自立 ▪人間関係とコミュニケーション ▪生活と福祉 ▪社会の理解 ▪社会人基礎教育 ▪障害のあるこどもの介護	▪チームマネジメントの基礎知識 ▪沖縄の言語と文化 ▪介護旅行概論	**CHCCCS031** Provide individualised support **CHCCCS038** Facilitate the empowerment of people receiving support **CHCCOM005** Communicate and work in health or community services **CHCDIV001** Work with diverse people ***CHCDIS012*** Support community participation and social inclusion
B	⑤こころとからだのしくみ ⑥発達と老化の理解 ⑦認知症の理解 ⑧障害の理解 ⑨医療的ケア	▪発達と老化の理解I ▪認知症の理解I ▪障害の理解I ▪こころのしくみ ▪からだのしくみ ▪こころとからだのしくみI ▪医療的ケアI	▪発達と老化の理解II ▪こころとからだのしくみII ▪認知症の理解II ▪障害の理解II ▪医療的ケアII・III	**HLTINF006** Apply basic principles and practices of infection prevention and control **CHCCCS040** Support independence and wellbeing **CHCCCS041** Recognise healthy body systems **CHCLEG001** Work legally and ethically **HLTWHS002** Follow safe work practices for direct client care ***CHCAGE011*** Provide support to people living with dementia ***CHCDIS020*** Work effectively in disability support
C	⑩介護過程	▪介護の基本I・II ▪コミュニケーション技術 ▪生活支援技術I・II・III ▪介護過程I ▪介護総合演習I・II ▪介護実習I	▪介護の基本III ▪介護過程II ▪コミュニケーション技術 ▪介護総合演習III・IV ▪生活支援IV・V・VI ▪介護実習II	***CHCPAL003*** Deliver care services using a palliative care approach ***CHCAGE013*** Work effectively in aged care
	⑪総合問題			***CHCDIS011*** Contribute to ongoing skills development using a strengths-based approach

参照・出典

1. 厚生労働省「介護保険制度の概要」
   https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kaigo_kaikaku/
2. 厚生労働省 石川労働局「介護サービスと必要資格」資料（2023 年）
   https://jsite.mhlw.go.jp/ishikawa-roudoukyoku/content/contents/001790771.pdf
3. 厚生労働省 「介護人材の確保について」
   https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000188424.html
4. 厚生労働省 「介護福祉士国家試験の概要」
   https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000188411.html
5. 厚生労働省 「介護職員初任者研修・実務者研修に関する制度概要」
   https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000188409.html
6. 厚生労働省 「介護分野における外国人材の受入れについて」
   https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000147537.html
7. 厚生労働省 「地域包括ケアシステムの推進について」
   https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/chiiki-houkatsu/
8. 出入国在留管理庁 「特定技能制度（介護分野）」
   https://www.moj.go.jp/isa/content/930005678.pdf
9. 経済連携協定（EPA）に基づく外国人介護福祉士候補者受入れ制度（厚生労働省資料）
10. 日本（横浜市）：以下 2 つは施設・サービス比較 https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/fukushi-kaigo/koreisha-kaigo/kaigo-hoken/heart-page.files/0290_20250523.pdf
11. Australian Government, My Aged Care Overview （2024）
    https://www.health.gov.au/sites/default/files/2025-08/your-guide-to-the-aged-care-act-2024-aligning-to-changes_1.pdf
12. Australian Government,Department of Health and Aged Care「About Aged Care」
    https://www.health.gov.au/topics/aged-care/about-aged-care
13. Australian Government, Department of Health and Aged Care「Home Care Packages Program」
    https://www.health.gov.au/our-work/home-care-packages-program
14. Australian Government, Aged Care Quality and Safety Commission「Aged Care Quality Standards」
    https://www.agedcarequality.gov.au/providers/standards
15. Australian Government, Department of Health and Aged Care, *Aged Care Workforce Census* (2022).
    https://www.health.gov.au/resources/collections/aged-care-workforce-census
16. Australian Skills Quality Authority (ASQA), *Vocational Education and Training (VET) qualification standards*.
    https://www.asqa.gov.au
17. Australian Qualifications Framework (AQF) – *Certificate III in Individual Support, Certificate IV in Ageing Support, Diploma of Community Services*.
    https://www.aqf.edu.au

18. Australian Bureau of Statistics (ABS), *Population Projections and Demographic Trends*. https://www.abs.gov.au
19. OECD, *Health Workforce Migration Report* (2020). https://www.oecd.org/health/health-workforce-migration.htm
20. OECD, *Health at a Glance 2023: Ageing and Long-term Care* https://www.oecd.org/health/health-at-a-glance/
21. KPMG「Aged Care Market Analysis 2025」(2025 年)

第 4 章 グローバル介護士の育成と展望

調査内容と結果の要約

本章では、国際的に高まる介護人材需要と人材移動の潮流を踏まえ、日本とオーストラリアを中心としたグローバル介護士の育成可能性について調査・分析を行いました。なお、本調査におけるグローバル介護士とは、外国人高齢者をその母国語を使って介護できる介護士を指すものとします。

まず、**世界的な高齢化の進行により、介護人材の不足は先進国のみならず新興国にも共通する課題となっており、国境を越えた人材循環が進展**しています。特にアジア諸国では、フィリピン、インドネシア、ベトナムなどの人材の送り出し国から日本や豪州などの受入国への移動が活発化しており、**介護分野は今や「国際労働市場の一部」**となりつつあります。

日本では、介護福祉士資格を中心とした高度専門職育成の枠組みが整備されつつありますが、依然として日本語能力や制度理解が留学生・外国人労働者にとって大きな障壁となっています。一方、豪州では、職業教育訓練制度（VET）を通じて段階的に資格を取得できる柔軟な仕組みがあり、英語教育支援や現場実習を通じて実践的スキルを重視しています。

両国の資格体系は制度上の互換性がまだ確立されていないものの、学習成果の評価（RPL: Recognition of Prior Learning）や単位互換、共同カリキュラムの開発に向けた協議が進めば、将来的な相互承認の可能性が見込まれます。特に、**日豪間の教育機関連携によって、多文化共生に適応できる「グローバル介護士」を育成することは、両国共通の社会的要請である**と考えられます。

総じて、本調査は、国際的な介護人材育成において日本と豪州が果たす役割の大きさを示し、今後は資格制度の橋渡しと文化的適応支援を軸にした新たな教育連携モデルの構築が求められることを確認しました。

4.1 国際的に高まる介護人材需要

世界的な高齢化の進展により、介護人材の確保は各国共通で喫緊の課題となっています。国連の「世界人口予測（UN World Population Prospects 2024）」によれば、65 歳以上の人口は 2030 年に 14 億人、2050 年には 20 億人を超える見込みとなっており、とりわけアジア・太平洋地域では高齢化のスピードが著しいとされます。世界保健機関（WHO）は、2030 年までに少なくとも 1,500 万人以上の介護・看護関連職が新たに必要になると推計しています。介護は今や労働集約型の社会基盤産業として、グローバルに人材獲得競争が進む見通しです。

日本では、**2025 年に約 32 万人、2040 年には 69 万人の介護人材が不足**すると見込まれており（厚生労働省推計、2023 年）、地域間・職種間の偏在が顕著となってきています。介護福祉士の国家資格制度を持つ点で高い専門性を有する一方、離職率の高さや若年層の参入減少が課題であり、外国人材の受入拡大が進められてきました。2027 年度（令和 9 年度）から導入予定の「育成就労制度」も、こうした構造的課題への対応策として位置づけられています。

オーストラリアにおいても同様に、2024 年時点で介護職従事者は約 37 万人でしたが、2033 年には 80 万人も必要とされ、**10 年間で 25 万人以上の新規介護士の確保**が不可欠とされています（Australian Government, *Aged Care Workforce Census 2022*）。とりわけ在宅支援制度「Support at Home」に軸足が移行することに伴い、訪問介護・地域支援分野での人材需要が急増しています。

このように、両国とも安定的な人材確保が喫緊の課題となっており、人材も所得水準の高い国と地域に流れる傾向は否めないと考えます。このような中、日本における 3 年に 1 度の介護報酬改定を 2026 年度（令和 8 年度）は臨時で行うことにより物価高騰対策、介護人材の流出防止に資するとも言われています。

4.2 国際的な人材移動の潮流

近年、介護分野における人材移動は、アジア太平洋地域を中心に急速に拡大しています。とりわけ、フィリピン、インドネシア、ベトナム、ネパールなどの国々は、政府間協定（G-to-G）や技能実習・特定技能制度を通じて、介護・看護分野の人材を日本、オーストラリア、シンガポールなどへ送り出しています。これらの国々では、海外就労が家計支援と社会的キャリア形成の両面で重要な選択肢となっており、介護分野は最も成長の見込まれる職種の一つと位置づけられています。

一方で、受入国である日本や豪州は、高齢化の進展とともに、外国人介護人材を恒常的な労働力として受け入れる体制づくりを進めています。日本は特定技能制度や 2027 年度（令和 9 年度）施行予定の育成就労制度を通じ、滞在・定着を前提とした育成型受入へと移行しつつあります。豪州も 2023 年に導入した Aged Care Industry Labour Agreement により、外国人介護人材に永住権への道を開く仕組みを整備しました。

このように、**アジアの介護人材移動は、短期労働から長期滞在・定住型の人材循環へと質的転換を遂げつつあります**。今後は、送り出し国・受入国の双方で教育・資格制度の整合性を高め、文化的・言語的支援を含む持続可能な人材循環モデルを構築することが求められます。

4.3 日本における在留外国人の高齢化と課題

日本では、在留外国人の高齢化が新たな社会的課題として顕在化しています。法務省の統計によれば、2024 年時点で **65 歳以上の在留外国人は約 23 万人**に達し、この 10 年間で約 1.8 倍に増加しました 。とくに中国、韓国、フィリピン、ベトナムなどからの長期在留者の高齢化が進んでおり、今後は医療・介護サービスの利用層としての存在感が高まると見込まれています。一般的に、日本人配偶者と結婚した外国人の場合、経済力などの審査を経て配偶者ビザで永住権を得て日本に永住する事が可能ですが、**母語返りによるコミュニケーションの難化も考えられ、介護現場での母国語コミュニケーションのニーズが高まる見込み**です。

しかし現行の介護制度は、日本語能力や在留資格、所得水準などを前提に設計されており、外国人高齢者が十分な支援を受けられないケースが少なくありません。介護保険への加入資格は原則として住民登録が条件となりますが、永住者や定住者であっても、制度理解の不足や言語の壁により申請に至らない例が報告されています。また、文化的背景の違いから、介護サービス利用に心理的抵抗を持つ外国人高齢者も少なくなく、**「制度以前に支援情報にアクセスできない」構造的課題**が指摘されています。

一部自治体では、外国人高齢者向けの多言語相談窓口や通訳付き介護支援が始まりつつあるものの、全国的な支援体制は未整備の段階にあります。今後は、外国人居住者が増加する地域を中心に、介護保険制度の周知、多文化対応型ケアマネジメントの育成、地域包括支援センターの多言語化が求められます。長期在留する外国人に加えて近年増加している介護人材としての外国人もおり、外国人を「支援の対象」としてだけでなく、**介護を支える担い手としても位置づける政策的視点**が、日本社会の持続可能性にとって重要な鍵とされます。特に、**沖縄県での外国高齢者介護のサービス提供者に対する支援に関する考察として、異文化介護には言語能力だけで無く感性、人柄、過去のケア経験が重要**と指摘されており、海外での資格取得のみならず異文化環境での介護体験も重要です。中でも今回調査対象とした豪州は段階的な介護資格制度を有し、英語環境で治安も良く、豪州での介護体験は英語を母国語とする外国人が多く暮らす沖縄での介護の質的向上に極めて有益であると言えます。同様に、豪州の在留邦人数は 10 万人を超えており、その高齢者を支える体制についても今後顕在化してくる可能性が高いといえます。

4.4 両国における外国人材受入の枠組み

（1）日本の現行制度

日本では、深刻な介護人材不足に対応するため、複数の在留資格ルートを通じて外国人介護士の受入を進めています。主な制度は、**①経済連携協定（EPA）による介護福祉士候補者制度、②技能実習制度（介護職種）**、**③特定技能 1 号（介護分野）**、④2027 年度（令和 9 年度）施行予定の**育成就労制度**の 4 類型です。

EPA 制度は国家資格取得を前提とした専門人材育成型、技能実習は一定期間の技能移転を目的とする労働滞在型、特定技能は即戦力としての中長期就労型に位置づけられます。育成就労制度は、従来の「実習から帰国」モデルを改め、**特定技能 2 号への移行を可能とする定着・育成型制度**として設計されており、在留期間の延長や家族帯同も認められる見込みです。

今後は、外国人が日本の介護現場で継続的にキャリア形成できる仕組みを整えるとともに、言語教育と生活支援の一体化が課題となります。また、受入国としての倫理的責任を明確にし、**「育成と共生」を両立する制度運用**が求められるようです。

（2）オーストラリアの現行制度

オーストラリアでは、介護職の慢性的不足に対応するため、2023 年に導入された **Aged Care Industry Labour Agreement（ACILA）が主要な受入制度として機能しています。本協定により、政府認定の介護事業者は、海外人材を Temporary Skill Shortage（サブクラス 482 ビザ）のもとで雇用し、一定条件を満たせば永住ビザ（サブクラス 186 ビザ）への移行**が可能となりました。応募者は通常、*Certificate III in Individual Support*（または同等資格）を有し、英語能力（IELTS 5.0 相当）を証明する必要があります。

また、連邦政府は「Aged Care Workforce Strategy」に基づき、教育機関と連携した人材育成・定着支援を進めており、**外国人を即戦力ではなく、地域コミュニティと共に成長する人材**として位置づけています。

ACILA は以下の介護関連職を対象としています。

- **Aged or Disabled Carer（高齢者・障がい者ケア職）**
- **Nursing Support Worker（看護補助職）**
- **Personal Care Assistant（個人ケア補助職）**

これらの職種は、いずれも介護現場における直接ケア（personal care, daily living assistance）に従事する職種であり、医療行為を伴う看護職（Registered Nurse）とは区別されているため、日本から留学する場合に看護資格を目指すことも考えられます。

（3）今後の展望

両国の制度は方向性こそ異なるものの、共通して「短期労働から長期定着・育成型への転換」を志向しています。日本は制度の多層化による複雑さを整理し、豪州は資格・登録制度の明確化を進めることが課題です。今後、日豪間で教育・研修・資格の相互承認を視野に入れた**国際的な介護士育成連携**を構築することが、持続可能な人材循環モデルの実現につながる可能性を秘めています。特に、日本国内でも在留外国人高齢者が増加しつつある現状を踏まえると、他言語を解し国際感覚を持つグローバル介護士は不可欠な存在となります。

【参考】Aged Care Industry Labour Agreement（ACILA）の概要

Aged Care Industry Labour Agreement（ACILA） は、豪州政府が 2023 年に導入した、**外国人介護人材を恒常的に受け入れるための特別労働協定制度**です。従来の個別企業単位でのビザ・スポンサーシップ（Standard Business Sponsorship）よりも柔軟な枠組みとして設計され、連邦政府が認定した介護事業者（Approved Aged Care Provider）が、技能労働者ビザ（*Temporary Skill Shortage visa, subclass 482*）および永住権（*Employer Nomination Scheme visa, subclass 186*）のもとで海外人材を雇用できる仕組みとなっています。

1. 主な要件

雇用される外国人介護士には、以下のいずれかを満たすことが求められます。

- **Certificate III in Individual Support（Aged Care または Disability）** を保持していること、または
- 同等レベルの海外資格を有すること、もしくは
- 資格がない場合は、**少なくとも 12 か月（または 2,000 時間）以上の関連実務経験**を有すること。

加えて、IELTS 5.0（または同等スコア）程度の英語力を証明する必要があります。

2. 雇用条件と待遇

- 労働条件は豪州の **Fair Work Commission** が定める最低賃金および *Aged Care Award* に準拠。
- 週 38 時間を上限とするフルタイム契約が基本。

- 雇用主は労働者の職業訓練・教育支援を行う義務を負う。
- 継続勤務を通じて、**永住ビザ（サブクラス 186）への移行**が可能。

3. 制度の目的と背景

ACILA は、深刻化する介護人材不足に対応するため、外国人労働者の採用を円滑化する目的で設けられました。豪州政府は今後 10 年間で 25 万人以上の介護職増員を目標としており、ACILA はその中核的な施策と位置づけられています。また、技能実習型ではなく、**定住・育成型の人材確保政策（Skilled Migration Pathway）** として制度転換が進められている点が特徴です。

4.5 両国における介護資格者の処遇比較

（1）賃金水準の比較

日本では、介護福祉士の平均年収は約 370〜420 万円（時給換算で 1,200〜1,400 円程度）**であり、他産業平均を下回る水準にあります**（厚生労働省「賃金構造基本統計調査」2024 年）。**一方、オーストラリアでは、介護職（Aged Care Worker, Personal Care Assistant）の平均賃金は**時給 28〜35 豪ドル（年収換算で約 650 万〜800 万円）と、相対的に高く、医療・教育分野と同水準の職種として位置づけられています（Australian Government Fair Work Ombudsman, 2024）。職位別には、Aged Care Employee Level 1〜3 の段階制があり、リーダーやコーディネーター職への昇格により賃金が大幅に上昇します。また、夜勤・休日勤務にはペナルティレート（割増賃金）が加算され、実質的な時給はさらに上昇します。

この差は単なる為替要因にとどまらず、豪州では介護職が**専門職（Skilled Occupation）として法的に定義され、労働協約（Award System）により日本よりも高い最低賃金（2025 年 7 月現在、24.95 豪ドル、日本円で約 2,500 円）が保障**されていることが背景にあります。

（2）福利厚生・労働環境

日本では、介護職の多くが中小規模の民間事業者に所属しており、社会保険や退職金制度の整備状況にばらつきがあります。夜勤や休日出勤など不規則勤務が多く、離職率は**約 14〜16%と高水準**にあります。これに対し、**豪州では労働時間の柔軟性と休暇制度の充実**が特徴です。週 30〜38 時間のフルタイム勤務に加え、パートタイム雇用者にも有給休暇・病気休暇・年金拠出（Superannuation）制度が適用されます。また、労働組合（Australian Services Union 等）による交渉で、年次賃上げや職能手当が法的に担保されています。

（3）キャリアパス・昇進制度

日本の介護福祉士は、施設内での昇進（主任・管理者・ケアマネジャー）に加え、研修講師・教育機関勤務などへの転身もありますが、依然として**昇進による給与上昇幅は限定的（10〜15%程度）**です。一方、**豪州では資格レベル**（Certificate III → IV → Diploma）と**職責**（Personal Care Worker → Coordinator → Team Leader）**を連動させた賃金テーブルが明確**で、上位資格取得により平均で20〜30%の昇給が見込めます。また、公共セクター（州政府運営施設）では**修学支援制度や研修費補助**も充実しており、学び直しを通じたキャリア形成が促進されています。

【表】日本とオーストラリアの介護資格者処遇比較

比較項目	日本（介護福祉士中心）	オーストラリア（**Certificate III/IV, Diploma**）
平均時給	約 1,300 円（年収 370〜420 万円）	28〜35AUD（年収約 650〜800 万円）
最低賃金保障	地域・法人により差あり	Fair Work Award により全国統一基準
社会保障制度	健康保険・厚生年金・雇用保険（中小事業者は未整備例あり）	Superannuation（年金積立）、健康・有給・育児休暇の権利保障
勤務形態	常勤・夜勤中心、シフト制（拘束時間長い）	フルタイム・パートタイム併用（時間選択の柔軟性）
離職率	約 14〜16%	約 8〜10%
キャリアアップ制度	国家資格更新なし／昇進は管理職中心	資格レベル制（Cert. III→IV→Diploma）による昇給構造あり
教育・研修支援	一部自治体・法人が助成（限定的）	政府補助（VET Student Loan, Skilling Australia Fund など）
社会的地位	「福祉職」として低認知傾向	「Essential Skilled Worker」として高評価

（4）考察

両国の介護職は高齢社会を支える不可欠な存在ですが、**社会的評価と待遇の格差は依然として大きい**状況です。豪州では「ケア労働を国家インフラの一部」として位置づけ、職業教育と賃金制度を制度的に結びつけているのに対し、日本では**政策的支援が賃金補助中心にとどまり、専門職としての評価制度が未成熟**です。今後は、介護人材を持続的に確保するため、日豪双方で「教育・報酬・社会的評価」の三位一体の改革が求められますが、報酬や教育システム面では、日本から豪州に資格取得を目的に留学する一定のインセンティブはあるように推察します。

4.6 資格相互認定の課題と可能性

日本の介護福祉士は国家資格として高い専門性を有し、介護計画の立案、他職種との連携、後進指導などを含む**包括的ケアマネジメント職**として位置づけられています。一方、オーストラリアの介護資格制度は、職務レベルごとに細分化された職能資格体系（VET 制度）に基づいており、主に利用者の生活支援や身体介助を担う**現場実務中心の職務**が中心です。したがって、職責の範囲は日本の介護福祉士の方が広く、医療的ケアの知識やチーム運営能力が重視される点に特徴があります。

現時点で、日豪間における明確な**資格相互認定制度（Mutual Recognition Agreement）は存在していません**。そのため、日本の介護福祉士が豪州で資格者として働くには、現地の職業教育課程である *Certificate III in Individual Support* または *Certificate IV in Ageing Support* を修了するか、RPL（Recognition of Prior Learning）制度を利用して既修得能力を証明する必要があります。RPL では、日本での学習内容や実務経験が評価され、一部単位の免除を受けられる可能性がありますが、一定の英語力（IELTS 5.0 相当以上）と、就労ビザ（Aged Care Industry Labour Agreement によるサブクラス 482 ビザなど）の取得が求められます。

また、豪州の介護職は職務ごとに責任範囲が明確に区分され、Registered Nurse（看護師）や Enrolled Nurse（准看護師）が医療行為を担い、Personal Care Worker は日常支援に特化しています。したがって、日本の介護福祉士が同等の職務範囲で従事するためには、英語による専門的コミュニケーション力と、現地制度・文化に基づく業務分掌と介護ニーズに対する理解が不可欠です。

他方で、豪州政府は 2023 年導入の *Aged Care Industry Labour Agreement* を通じて、海外資格保持者を正式な介護人材として受け入れる道を拡大しています。今後、教育機関間の連携による**単位互換や共通カリキュラムの整備**が進めば、日本の介護福祉士が国際的な職業資格として評価される可能性も高まります。

このような日豪間の連携は、単なる資格の移行を超えて、**多文化共生時代に対応したグローバル介護士の育成**につながります。日本の「尊厳・自立支援」に基づくケア理念と、オーストラリアの「利用者主体・文化多様性尊重」の実践を融合させることで、両国が協働して次世代の介護モデルを創出することが期待されます。課題をまとめると、

1. **言語要件の高さ**

    - 日本では介護福祉士国家試験が日本語中心であり、外国人材にとって参入障壁が高い。
    - 豪州では IELTS 等の英語要件が非英語圏留学生にとって大きな課題である。

2. **資格相互認定の未整備**

    - 日豪間での相互認定制度がなく、両国で資格を活かすには追加の学習や試験が必要である。

3. **就労ビザ・定住制度の制約**

    - 両国とも制度上の制約がキャリア形成を妨げる要因となっている。

これらの課題はあるものの、次のような可能性も秘めており、日豪間の介護・教育分野での協業の深化が期待される。

- 短期実習を通じた異文化理解 → 長期留学・資格取得へのステップアップ。
- 日豪教育機関間の**共同カリキュラム開発・単位互換制度**の導入。
- 介護施設における短期実習を活用した**国際的キャリア形成モデル**の確立。
- 日本国内の教育機関における「国際介護コース」の設置による外国人留学生受入れ強化。

これらを通じて、**「理論的基盤（日本）」＋「実践的スキル（豪州）」** を兼ね備えた国際的に通用する介護士の育成が可能となるでしょう。

参照・出典

1. United Nations, *World Population Prospects 2024*
2. World Health Organization, *Global Health and Aging Report* (2023)
3. 厚生労働省 「介護保険制度の概要」
   https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kaigo_kaikaku/
4. 厚生労働省 「介護人材確保対策」
   https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000188424.html
5. 厚生労働省「介護人材の需給推計」（2023）
6. 厚生労働省「外国人介護人材の受入れに関する現状と課題」（2024）
7. 厚生労働省「外国人住民に対する福祉・介護サービス利用促進に関する報告」（2023 年）
8. 出入国在留管理庁「育成就労制度の概要」（2024）
9. 法務省「在留外国人統計」（2024 年版）
10. 厚生労働省 「地域包括ケアシステムの推進について」
    https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/chiiki-houkatsu/
11. 朝日新聞デジタル「高齢外国人 23 万人、介護の壁　制度理解・言語に課題」（2025 年 1 月）
12. 在沖高齢外国人の異文化間介護を取り巻く現状と課題ー外国人（被介護者）へのインタビュー調査を通じて（松本美智代、大城凌子、Jounal of International Health Vol.35 No.2 2020）
13. 厚生労働省「賃金構造基本統計調査（介護職員）2024 年」
14. 独立行政法人労働政策研究・研修機構「介護人材の処遇改善に関する報告」2023 年
15. International Labour Organization (ILO), Skilled Labour Mobility in Asia (2023)
16. OECD, *Health at a Glance 2023: Ageing and Long-term Care*
17. Australian Government, *Aged Care Workforce Census 2022*, *Aged Care Market Analysis 2025*
18. Australian Aged Care Quality & Safety Commission, Workforce Reform Briefing (2024)
19. Australian Government, *Aged Care Industry Labour Agreement – Program Overview* (2023)
20. Australian Government Fair Work Ombudsman, Aged Care Industry Labour Agreement & Pay Guide (2024)
21. Department of Health and Aged Care, *Aged Care Workforce Strategy* (2024)
22. Community Work Australia, Aged Care Industry Labour Agreement Summary (2024)
23. Fair Work Ombudsman, Aged Care Award 2020
24. Australian Bureau of Statistics (ABS), Average Weekly Earnings Report (2024)
25. Department of Health and Aged Care, Aged Care Workforce Strategy (2024)

第 5 章 日本からの介護資格留学と支援体制

調査内容と結果の要約

本章では、日本からオーストラリアへの介護分野留学に関する現状と支援体制について調査を行いました。調査の結果、**日本から豪州の介護資格を取得して国際的なキャリアを形成できる道筋がある一方、制度・言語・実習の各段階で支援体制の強化が求められるようです。**特に Certificate III in Individual Support や Certificate IV in Ageing Support など、オーストラリアで広く認知される資格は、就労ビザ申請や現地雇用への道を開くものとして注目されています。留学生の多くは、専門学校（Charlton Brown、Imagine Education など）を通じて講義と実習を並行して履修し、120～200 時間の現場実習を経験しています。最も大きな課題は英語力であり、**IELTS 5.0 以上の水準を求める入学条件が、留学生にとって大きなハードルとなる可能性**があります。また、実習では文化的背景の異なる利用者とのコミュニケーションや、現場での責任感の違いに適応するためのメンタルサポートも重要であることが確認されました。今後は、日本とオーストラリアの教育機関同士の連携を通じて、留学前後を一貫して支援する仕組みづくりが求められます。

5.1 日本からオーストラリアへの介護分野留学の潮流

（1）入門資格と学習時間の目安

- 介護系の専門留学は、 Certificate III in Individual Support (Ageing)（9–12 か月、実習 120 時間が一般的）、次に Certificate IV in Ageing Support（約 6–12 か月、実習 120 時間）という段階制です。学費は学校・期間で差があり、概ね Cert III：A$1,700～12,500／Cert IV：A$6,000～16,000 のレンジで提示されています。
- 実習時間（120 時間）や入学が許可される英語力の目安として IELTS スコア 5.0–5.5 が求めれており、職階としても介護補助からチームリーダー層へのキャリアパスを訴求しています。授業と並行して有給・無給の現場実習・就労支援（実習と就労支援を合わせてプレースメント：Placement と表現）をうたう学校もあります。

（2）人材育成需要と就労との接続

- 豪州では在宅重視の介護制度改革（Support at Home への移行）と人材不足により、介護資格者の需要が拡大しています。国の月次統計でも、専門学校の入学者数の推移は依然として「Management & Commerce」分野に次ぎ「Food/Hospitality/Personal Services（介護を含むコミュニティ関連のサービス系）」が主要分野と示されています。国籍別の動向について、日本は全体に占める比率は大きくないものの、専門学校進学は一定の底堅さがあります。

- なお、外国人の介護就労ルートとして Aged Care Industry Labour Agreement（ACILA）での雇用（主にビザサブクラス 482→永住権の 186 移行）の道筋が整備されたことから、留学後の就労可能性も高まり制度面で接続しやすくなっています。

(3) 政策・ビザ環境の変化

- コロナ禍以降に就労目的で学生ビザを悪用する事案が多数みられたため、その是正策として、2024 年以降、政府は留学生に求める英語基準の引き上げ、学生ビザの所持資金基準の増額（A$29,710）等により、学生ビザ制度の健全化を進めてきました。そのため、新規の学生ビザの発給は一時的に大幅減の局面も見られ、さらに受入学生数に上限を定める制度を導入したことで多くの専門学校が経営難に陥る事態も生じましたが、足元では不正抑止と教育・訓練の質的担保に軸足を置く運用方針が示されています。日本人志願者にとっては、語学・資金の要件充足がより重要になっている状況に変わりありません。
- このような環境下、日本語の留学サイト運営者やエージェントは、介護 Cert III/IV の科目例・実習・費用目安を具体的に提示し、語学学校＋専門学校のパッケージ提案や、都市別の就労しやすさ（施設数、求人）も案内しています。料金は学校により幅が大きく、キャンペーン価格（短期割引）を出す私立専門学校もあります。
- 体験談記事（TAFE での Aged Care コース）でも、日本人学習者が英語の壁を前提にした教員のサポートや、認知症ケア・機器操作・感染対策等の実践重視カリキュラムを評価する声がみられます。

(4) 英語・資格取得・就労の導線

- 日本発の介護資格留学は、Cert III/IV の課程と 120 時間の実習を核に、「英語→資格→就労（ACILA 含む）」の導線が整備されつつあるといえます。ただし、最近は英語基準・資金要件の引上げで参入ハードルが上昇しており、日本側では出発前の語学強化・費用計画、豪州側では現場実習先と実習内容の質や就労先（Placement）が、その後の就労ビザ取得（サブクラス 482/186）や地域定着を左右すると見られます。
- 留学政策は量より質へシフト中であり、学校選び（専門学校の質・実習先・就職支援）の重要性が一段と高まっている様子は提携両校の担当者からのヒアリングにおいても指摘を受けています。

5.2 日本からの留学プロセス

オーストラリアでは、介護士資格を取得して就労するために諸外国からの留学生が増加しています。豪州政府管理下にある職業専門学校（Registered Training Organisation, RTO）は、Certificate III や IV、Diploma を取得するための実践的な教育プログラムを提供しており、多くの留学生が選択する進路の一つです。日本から豪州に正規留学する場合のプロセスは以下の通りとなります。

1. **事前準備**：英語力（IELTS 5.0〜5.5 相当、保育に比べればやや低め）や資金計画、進学先の専門学校、滞在先、現地生活に関する情報収集。
2. **教育機関への出願**：入学申込み（IELTS スコアをはじめとする英語力証明、学歴証明書、必要に応じて推薦状）、一部の学校で求められるエッセーやインタビュー、入学許可（CoE: Confirmation of Enrolment）を取得。
3. **ビザ申請**：学生ビザ（サブクラス 500）を申請。A$29,710（2025 年 6 月末時点）以上の残高証明書の提出と健康保険（Overseas Student Health Cover）加入が必須。なお、年齢制限はあるものの、ワーキングホリデービザで渡航した後に学生ビザに切り替えることも可能。
4. **渡航・入学**：入学後は座学と並行して現場実習が必須。
5. **資格取得・就職活動**：Certificate III,Ⅳ、Diploma を修了後、介護現場での就労機会を模索。

このプロセスは保育分野とほぼ同じであり、豪州の職業教育制度が外国人に対して比較的開かれている一方、日本人留学生にとっては英語力や経済的負担が大きな課題となっています。

5.3 必要なビザと取得方法

オーストラリアで介護士資格を取得するために留学する際は、適切な学生ビザ（サブクラス 500）が必要です。特に、介護等の専門課程に進学する場合、ビザ申請及び許可の前提である英語力証明（例えば、IELTS スコア 5.0 以上）が鍵となります。なお、短期（一般に 1 週間〜最大 3 か月以内）の語学研修や、資格取得を目的としない研修や体験目的の短期実習に参加する場合は、観光ビザやワーキングホリデービザで充足されます。なお、豪州のビザ制度は頻繁に改廃があるため、最新の情報を確認する必要があります。（本項目での要件は、2025 年 6 月末時点）

1. **学生ビザ（サブクラス 500）**

- 就学＋週 24 時間までの就労が可能。
- Certificate III in Individual Support や Diploma 課程の履修に利用。

2. **ワーキングホリデービザ（サブクラス 417/462）**

- 最長 1 年（条件により延長可）、フルタイム就労も可能。
- 短期の学習や体験型実習との組み合わせで活用される。

3. **観光ビザ（サブクラス 601）**

- 日本国籍の場合、最長 3 か月の滞在が可能で、滞在期間中の短期実習や語学研修の受講、ボランティア活動が認められる。
- 就労は一切認められない。

5.4 介護資格留学の学習・実習内容

以下は、両専門学校 Imagine Education と Charlton Brown の公開情報（2025 年時点）をもとに整理した、オーストラリアで介護分野（Certificate III / IV / Diploma）を取得する留学生向けの学習期間・内容・実習要件・スケジュール・カリキュラムの特徴をまとめたものです。

1. Certificate III in Individual Support（基礎資格）

- **修学期間**：約 27〜35 週間程度
- **実習要件**：いずれも 120 時間の実習（*Vocational Placement*）を有資格スーパーバイザーの監督下で行う。
- **学習内容**：
  - 高齢者介護・障がい支援・感染症予防・安全管理・パーソンセンタードケア（利用者中心ケア）
  - コミュニケーション、認知症対応、バイタル測定、ケア記録作成などの実技訓練
  - 基礎医療知識（薬管理・救急対応）と倫理・チームワーク・文化的感受性

- **教育方法**：教室講義・シミュレーション演習・ケーススタディ・オンライン学習（5 時間/週）
- **カリキュラム特徴**：実践重視で、現場実習前に「模擬ケア施設」でのスキルチェックを実施。
- **想定キャリア**：*Personal Care Worker, Aged Care Assistant, Home Support Worker*

2. Certificate IV in Ageing Support（中級資格）

- **修学期間**：約 40 週間程度
- **実習要件**：120 時間以上の現場実習（老健施設・コミュニティセンター等）
- **学習内容**：
  - 高齢者ケアのアセスメント・計画立案・個別ケア実施
  - スーパービジョン・後輩指導・ケアマネジメント・リーダーシップ
  - 医療的ケア（服薬管理、褥瘡予防、緊急時対応）
  - コミュニティ連携、文化的多様性、メンタルヘルス支援

- **教育方法**：理論講義＋グループディスカッション＋ワークプレイスメント。
  Charlton Brown では実習前に「業界準備セミナー」を義務付け、ケースレビュー中心の授業を実施。
- **カリキュラム特徴**：現場での「チームリーダー」育成に重点を置き、利用者の生活の質向上を目的とした多面的ケアを学ぶ。
- **想定キャリア**：*Senior Aged Care Worker, Team Leader, Care Coordinator*

---

3. Diploma of Community Services（上級資格）

- **修学期間**：約 52 週間（1 年間）
- **実習要件**：200 時間の現場実習（Placement と呼ばれる）（Community Care, Disability, Aged Care, Family Services 等の施設やサービスでの実習）
- **学習内容**：
  - 地域包括支援、福祉政策、ケースマネジメント、メンタルヘルス支援、虐待対応、NFP 運営
  - プロジェクト企画・コミュニティ開発・行政報告・支援計画作成
  - 多文化社会における福祉実践と倫理、サービスリーダーシップ

- **教育方法**：講義形式の授業に加え、課題研究と現場プロジェクトを組み合わせた学際型教育。 教師陣は実務経験者中心で、学生は現場報告書を提出することで振り返り、より理解を深める「リフレクティブ・プラクティス」形式で学ぶ。
- **カリキュラム特徴**：福祉分野全体の「統括的職務」を担う人材育成を目的とし、介護現場からのステップアップコースとして位置づけられる。
- **想定キャリア**：*Community Services Manager, Welfare Support Officer, Case Manager*

---

4. 一般的な留学生の週間スケジュール（例：**Imagine Education**）

曜日	内容	時間	備考
月曜	理論講義（個人ケア・安全管理）	8:30–16:30	出席記録必須
火曜	実技演習（バイタル測定・介助法）	8:30–16:30	模擬ケア施設
水曜	オンライン課題／グループ討議	5 時間前後	Distance Learning
木曜	Research Day（自主課題・復習）	任意	教員レビューあり
金曜	ケーススタディ・発表	8:30–16:30	実践力評価
実習期間中	現場配置（介護施設）	6:00–14:30 など	週 5 日×3 週間が一般的

5.5 実習（Vocational Placement）の仕組みと課題

（1） 実習の意義と目的

オーストラリアの介護資格（*Certificate III in Individual Support*、*Certificate IV in Ageing Support*、*Diploma of Community Services*）には、いずれも実践教育（Work-based Learning）の一環として、一定時間の Vocational Placement（職場実習）が義務付けられています。この実習は、専門学校と提携する介護施設や在宅ケア事業所が受け入れ先となり、**学内で学んだ知識を実際の高齢者ケア現場で応用し、文化・言語を越えた実践力を養う**ことを目的としています。

Imagine Education や Charlton Brown では、提携先として **Aged Care Facility（高齢者介護施設）**、**Disability Support Service（障がい者支援施設）**、Community Care（地域在宅支援）など、多様な事業所と連携しており、学生の興味や将来の進路に応じて配置されます。

(2) 実習施設の種類と特徴

- **Residential Aged Care**：24 時間介護が必要な高齢者施設。食事・入浴・排泄介助、服薬補助、レクリエーション支援など。
- **Home & Community Care**：利用者宅を訪問し、生活支援や買い物補助を行う。文化的背景に配慮したケアが求められる。
- **Disability Services**：身体・知的障がいをもつ成人への日常支援や自立訓練。NDIS（National Disability Insurance Scheme）との連携が特徴。
- **Retirement Village / Day Centre**：自立高齢者への社会参加支援、運動・交流プログラムなどを企画・実施。

(3) 外国人留学生特有の課題

多くの外国人留学生にとって最大の課題は、**英語での対人コミュニケーションと文化的背景の理解**です。スーパーバイザーの証言によれば、「技術的スキルよりも“会話・共感力”の壁が大きい」とされ、特に利用者の発音や方言（豪州特有の口語表現）に苦戦する例が多く見られます。また、宗教・食習慣・人権意識など、多様な文化的価値観への配慮も不可欠です。そのため、学校側では実習前に「Cultural Safety Training（文化安全研修）」や「Workplace English 準備講座」を設け、異文化対応力の強化を図っています。

さらに、**身体介助・メンタルケアの距離感**に戸惑う学生も少なくありません。一部の留学生は「初めて終末期ケアに直面し、精神的に負担を感じた」と述べていますが、これに対してスーパーバイザーは「現場での感情を共有することも成長の一部」とコメントしており、実習は単なる技術習得ではなく**ケア職としての倫理的成熟を促す場**でもあります。

(4) 実習中の給与・雇用形態

実習（Vocational Placement）は**教育課程の一部であり、原則として無給**です。ただし、実習先の判断や学生の能力に応じて、カジュアル雇用（有給の臨時職員）として働く機会を得るケースもあります。特に Certificate III,Ⅳ修了後や実習中に職場からオファーを受け、そのままパートタイム勤務（オーストラリアでは、フルタイム、パートタイム勤務が正社員相当になり、カジュアル雇用は日本でいうところのアルバイトに相当します）に移行する留学生も増えています。Charlton Brown の卒業生アンケートでは、約 3 割の学生が「実習先から雇用オファーを受けた」と回答しており、**実習が就職への重要なステップ**になっていることがわかります。

（5）スーパーバイザーの声

実習受入先施設のスーパーバイザーの証言によると、日本人留学生の多くは「学ぶ意欲が高く、責任感がある」が、「過度に慎重で自信を持てない傾向」があるとのことです。
ある施設のリーダーは次のように述べています。

> “Many Japanese students are very polite and careful, which is excellent in care work. However, they need to speak up more and show initiative — that’s what our care teams value most.”

このように、スーパーバイザーは**語学力に加えて積極性とチームワーク**を重視しており、留学生が現場に順応することで評価が大きく上がる傾向にあります。

（6）日本人留学生への示唆

オーストラリアの介護実習制度は、教育と労働が密接に結びついた「職業教育モデル」の要であり、留学生にとっては**資格取得と就労定着の架け橋**となっています。ただし、言語・文化・心理面での壁を乗り越える支援が不可欠であり、今後は**多文化環境における学習支援・メンタルケアの充実**が求められるでしょう。

5.6 短期実習・就労体験プログラムの事例調査

本調査では、オーストラリアにおける介護分野の実習制度の運用状況と、短期的な職業体験プログラムの事例についても調査を行いました。介護資格課程（Certificate III / IV など）における実習は、専門学校と提携する介護施設が受け入れ先となり、原則として無給で実施されています。実習は学内学習と現場実践を統合する教育要素として位置づけられており、120〜200 時間の職場配置を通じて、利用者との関わり方や多文化環境でのケア技術を体得することを目的としています。実習先は、高齢者施設、障がい者支援施設、在宅ケア事業所など多様であり、教育機関と産業界の連携体制が整備されています。

一方で、保育分野では、名古屋文化学園や Global Sky Education Group が提供する「Hello Kids Trainee」プログラムのように、日系教育事業者が日本人学生向けに短期の海外実習を提供する事例が見られます。しかし、介護分野では同様の取組はまだ限定的のようです。現地では、Charter Australia による「Aged Care Stream」など、多国籍学生を対象とした短期集中型実習プログラムが提供されており、講義・英語教育・120 時間の施設実習を組み合わせた実践型カリキュラムが整備されています。今後は、日本の介護・福祉系教育機関や事業者が豪州の教育機関と連携し、日本人学生を対象とする短期介護体験プログラムを設計することで、語学教育と国際理解教育を統合した新たな人材育成の枠組みが形成されることが期待されます。

今後の短期実習・就労体験プログラム開発を行う場合に参考となる事例を示します。

（1）Charter Australia の Study & Work Program（Aged Care Stream）

- Charter Australia は「短期集中型プログラム（17 週間）」として、**高齢者介護ストリーム**を設けています。講義＋医療/介護英語＋施設実習（120 時間）を組み込み、卒業後には **最長 36 週間の有給インターンシップ** の機会を設けています。
- 特にこのプログラムは、ワーキングホリデービザを活用する学生を対象に設計されており、短期間で現地施設での実務経験を得られる仕組みを兼ね備えています。

- これは、日本人向けというよりは多国籍の学生を対象とする制度ですが、短期体験・実習機会を提供するモデルのひとつとして参照可能です。

（2）短期看護研修プログラム（JP-AUS.COM）

- 介護分野そのものではないものの、看護・医療分野での短期研修例が存在します。JP-AUS.COM が「日本の看護師・介護福祉士を対象とした短期研修プログラム（6 泊 7 日）」を企画しており、日本人学生や専門職経験者がオーストラリアの医療・介護施設を訪問・見学する形式を採っています。
- 内容は、医療英語・ケア実践演習・施設訪問などで、「介護福祉士も対象とする」旨が明示されている点が興味深いです。

参照・出典

1. Imagine Education Australia： Certificate III / IV in Ageing Support コース概要（2024–2025）
2. Charlton Brown： Aged Care & Community Services Courses（2024–2025）
3. Department of Health and Aged Care, Aged Care Workforce Strategy (2024)
4. Imagine Education Australia, Certificate III/IV in Ageing Support – Course Outline (2024)
5. Charlton Brown, Work Placement Policy & Industry Partnerships (2024)
6. Department of Health and Aged Care, Aged Care Workforce Strategy (2024)
7. National Skills Commission, Care and Support Workforce Report (2024)
8. 留学生・スーパーバイザーインタビュー（Overseas Students Australia, 2024 年 6 月特集）
9. Charter Australia「ヘルスケア英語を学びながらスキルを身につけるエイジドケア・ストリーム」https://charter.edu.au/ja/courses/swp-aged-care-stream
10. Japan Australia Communications「短期看護研修プログラム」https://ameblo.jp/japan-australia-com/image-12869598737-15492800580.html
11. Global Sky Education「Hello Kids Trainee Program」事例

第 6 章 資格取得後のキャリアパスと就職機会

調査内容と結果の要約

本章では、日本およびオーストラリアにおける介護資格取得後のキャリアパスと就職機会について調査しました。実際に豪州で資格取得を目指して留学する日本人留学生と資格取得後に現地で就職した人材へのヒアリングを実施した結果、**資格取得はキャリア形成や定住の選択肢を広げる有効な手段である**ことが確認されました。日本では資格を活かした福祉現場での安定雇用が多く、オーストラリアでは英語力と経験を生かして昇進や永住につなげる事例が見られました。総じて、両国の制度を相互補完的に活用することで、国際的に活躍できる介護人材の育成が進むことが期待されます。

6.1 日本における資格取得後のキャリアパス

日本において介護福祉士等の資格を取得した場合、主なキャリアパスは以下の通りです。

- **介護職員（現場職）**：特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、在宅サービス事業所での実務。
- **専門職への発展**：認知症ケア専門士、福祉住環境コーディネーター、ケアマネジャー（介護支援専門員）など。
- **管理職・教育職**：施設長、研修講師、福祉系専門学校の教育スタッフ。
- **海外・母国での介護人材として活躍**：豪州やカナダなどの賃金水準が高い国で資格を取得して就労するケースも見られる。また、外国人が日本で介護福祉士資格を取得する理由については、厚生労働省調査によれば、「日本で介護職として働き続けたい（70%）」「日本に長く住みたい（55%）」が上位を占める。単なる一時的就労ではなく、長期的定住意欲が強い点は、日本にとって安定的な人材確保につながる可能性がある。

6.2 オーストラリアにおける資格取得後のキャリアパス

オーストラリアでは、資格の段階ごとに明確なキャリアステップが設計されています。特筆すべきは、**実習（Vocational Placement）が就職機会と直結している点**にあります。多くの専門学校（RTO）は高齢者施設や在宅サービスと提携し、学生の実習先を提供しており、この実習を通じて現場で評価を得た学生が、そのまま雇用される事例が少なくない就労環境があります。

- **Personal Care Worker（介護補助員）：Certificate III in Individual Support** を修了し、高齢者施設や在宅介護での基礎的ケア業務に就労する。
- **Team Leader や Supervisor（チームリーダー等）：Certificate IV in Ageing Support** を修了し、現場の統括・新人指導に従事する。

- **Care Coordinator や施設マネージャー（管理職）：Diploma of Community Services** を修了して、地域包括ケアやサービス運営に関与することが多い。
- **高度人材：大学にて Bachelor 課程**を修了し、施設管理者よりも高い職位（例えば、エリアマネージャーや運営会社幹部、行政官として）で政策策定や教育分野に携わる。

6.3 就労ビザ取得と定住の可能性

（1）日本：

- 外国人が介護分野で就労する場合、「在留資格：介護」や「特定技能 1 号」が利用可能。
- 一方で、日本人が豪州資格を取得して帰国した場合、豪州での実践経験は施設や教育機関で高く評価されるが、資格の相互認定は未整備であり、日本国内での活用には制度的制約が残る。

（2）オーストラリア：

- 学生ビザ修了後は就労ビザ（サブクラス 482 等）への切替が必要。
- スポンサー雇用主を見つける必要があり、実習での実績が鍵を握る。
- 永住権申請においても介護分野は重点職種に含まれており、長期的な定住につながる可能性がある。

6.4 グローバル介護士人材と留学生（日本人）の事例

- **事例 1：豪州で就職**
  ワーキングホリデーで来豪後、定住を目指して Diploma を修了し、実習先の高齢者施設に就職。言語と文化の壁を乗り越え、チームリーダーとして活躍している。

- **事例 2：日本で社会人経験を経た上で留学中**
  日本の大学で英語を専攻した後、一般企業で事務職を 2 年経験（介護経験なし）。現在 Certificate IV in Ageing Support を学んでいる。実習がしっかりしている豪州の教育制度、特に英語力と専門スキルを同時に伸ばせる環境に魅力を感じており、介護士になることを含めてキャリアプランは未定だが、英語を活かせる仕事を希望している。

- **事例 3：日本で介護に従事した上で留学中**
  日本の短期大学で福祉系学科を卒業後、特別養護老人ホームで 3 年間勤務。多文化環境での介護を学びたい、利用者の自立支援を重視する豪州の介護を実地で学ぶことが日本でも役に立つと考えて留学。今後のキャリアプランとしては、豪州で実務経験を積んだ後に、

日本に戻って英語を活かしながら国際的な介護の連携に関わることを希望している。苦労していることとして、実習先での英語によるコミュニケーションが最も難しく、利用者の訛りや早口が聞き取りにくいことを挙げる。また、豪州では利用者の選択を尊重し、ケアプランも本人主体で進める点が印象的であり、日本よりもスタッフに裁量があって個別支援の幅が広いと感じている。

次年度以降、豪州で資格取得後に帰国し在留米国人の多い介護施設で活躍している人材や豪州の施設で管理職として働いている人材を見つけてヒアリングを実施し、実際の取得取得時の苦労や就労環境等についてより詳細な調査を行うことを検討しております。

6.5 両国間のキャリア形成相乗効果

日本とオーストラリアの介護教育・就業環境には、それぞれ異なる強みが存在し、両国間の学びと就労の循環は、介護人材のグローバルキャリア形成に大きな相乗効果をもたらす可能性があります。

まず、日本では介護福祉士を中心とする体系的な教育制度が整備されており、倫理・心理・医療・介護技術・家族支援など、多分野にわたる理論的学習が求められます。そのため、日本の資格保持者は、知識の幅と深さ、専門的なケアスキルにおいて高い評価を得ています。特に「チームケア」や「利用者中心の支援」といった考え方は、現場の総合的マネジメント力を育むものです。

一方、豪州は介護分野での実践的教育と職能評価が進んでおり、Certificate III / IV や Diploma 資格の修得を通じて、英語環境下で即戦力として働く力が身につきます。平均賃金水準も日本より高く、キャリアを通じて技能・語学・異文化対応力を同時に伸ばせる点は留学生にとって大きな魅力です。さらに、一定の就労経験を経て永住権や上位資格取得への道が開かれることも、長期的なキャリア形成を支える制度的優位性といえます。

今後の日本社会では、外国人の介護サービス利用者の増加や多文化共生の進展に伴い、単に英語力を持つ人材ではなく、多言語に対応し、異文化理解に長けた介護士の育成が求められます。こうした観点から、日本で培う理論的基礎と倫理観、オーストラリアでの実践的スキルと国際的経験を組み合わせることは、介護の質と人材の国際競争力を高める上で極めて有効です。

総じて、日本人留学生が日豪双方の教育訓練制度を活用し、国際的に通用する「グローバル介護士」として成長することは、今後の超高齢社会における新たな人材循環モデルを創出するものとして期待されます。

参照・出典

1. Australian Skills Quality Authority (ASQA) – Vocational Education and Training Standards
2. Australian Government, Department of Home Affairs – Temporary Skill Shortage visa (Subclass 482)
3. 厚生労働省「外国人介護人材の受入れについて」
4. 厚生労働省「令和 4 年 賃金構造基本統計調査」
5. 厚生労働省「介護職員処遇改善加算制度」関連資料（2023 年）
6. 教えて！グッピー「介護職の給与・賞与データ」（co-medical.com, 2024 年）
7. グッピー医療介護求人「介護職の給与・年収」(guppy.jp, 2024 年)
8. マイナビ介護職「介護職とケアマネジャーの賃金比較」(kaigoshoku.mynavi.jp, 2023 年)
9. IRT Group “Aged Care Salary in Australia” (irt.org.au, 2024)
10. Selmar Institute of Education “Aged Care Worker Earnings” (selmar.edu.au, 2024)
11. Australian Government, Fair Work Commission “Aged Care Award 2020” (2024)
12. Jora Australia “Aged Care Worker Salary Data” (au.jora.com, 2024)

第 7 章 留学生の学費・生活費の課題と対応策

調査内容と結果の要約

本章では、留学生が直面する学費・生活費の課題を明らかにし、対応策を検討しました。介護分野での留学は、**資格取得や国際的キャリア形成の大きな可能性を持つ一方、経済的負担は極めて大きい**といえます。留学生が安心して学習・実習に専念できる環境を整えるためには、奨学金や生活支援の拡充、就労制度の柔軟な運用、生活コスト削減の仕組みが不可欠です。また、学費・生活費の課題は単なる経済問題にとどまらず、留学の継続可能性や実習の質、ひいてはグローバル介護士育成全体に直結する課題となります。したがって、本章で示した対応策は、次章で論じる教育機関間の提携と制度的連携と不可分のものであり、持続可能な人材育成体制を構築する上での重要な政策的基盤となると考えます。

7.1 留学に必要な費用の概要

介護分野でオーストラリアに留学する場合、学費・生活費・付随費用を総合的に考慮する必要があります。

- **学費の相場**：Certificate III で年間約 12,000〜15,000 豪ドル、Diploma では 15,000〜20,000 豪ドル程度。大学課程（Bachelor）ではさらに高額となる。
- **生活費の相場**：家賃、食費、交通費を含めて年間 20,000〜25,000 豪ドルが一般的。特に都市部（シドニー、ブリスベン等）では物価上昇により負担が増大している。
- **その他費用**：海外留学生健康保険（OSHC）、教材費、ビザ申請料など。

合計で年間 35,000〜45,000 豪ドル程度が必要となり、経済的負担は極めて大きい模様です。

直近の公開情報から、住居タイプ別（学生寮、シェアハウス、ホームステイ）について、留学先として代表的な 4 都市（シドニー／メルボルン／ブリスベン／ゴールドコースト）の週当たり最安値の掲示例を拾って整理しました。金額は本調査当時（2025 年 10 月）の最低掲載額（1 人当たり・週額）です。実際の空室・契約条件（光熱費や食事の有無）で変動しますので、最新の情報をご確認ください。

都市	学生寮	シェアハウス 最安例	ホームステイ 最安例
シドニー	A$ 405 / 週	A$ 270 / 週（相部屋）	A$ 250 / 週
メルボルン	A$ 383 / 週	A$ 230 / 週	A$ 260 / 週
ブリスベン	A$ 239 / 週	A$ 150 / 週	A$ 250 / 週
ゴールドコースト	A$ 265 / 週	A$ 200 / 週（相部屋例）	A$ 315 / 週

7.2 課題の背景と影響

（1）留学費用の高騰

学費および生活費の増加により、留学生が以下の課題に直面しています。

- 経済的負担の増大：留学費用を自己負担する学生にとって、長期的な負担が計り知れません。
- 教育機会の制約：特に中低所得層の留学生が、高騰する費用のために進学を断念するケースが増加しているようです。

（2）生活費の高騰

30 年以上にわたって右肩上がりの経済成長と人口増加を遂げてきた豪州においては、足元の賃料や物価が一段と上昇しており、留学生の生活を圧迫しています。

- 住居の確保の難しさ：主要都市での住宅不足により、留学生が安全で手頃な住居を見つけるのが難しくなっています。
- 物価高騰の影響：食料品や日用品の値上げが、生活費全体に影響を及ぼしています。
- 就労と学業の両立：生活費補填のために就労時間を最大限活用せざるを得ない学生が現れたり、就労と学業の両立が困難となり、学習効果や実習成果が低下するリスクがあるようです。

7.3 就労可能な学生ビザ制度の活用

オーストラリアの学生ビザ（サブクラス 500）では、学業とパートタイム就労の両立が可能です。一般に学生ビザでの就労には制限があり（例：米国は学内のみ認められる）、仮に就労できても週に 20 時間まで（英国、カナダ、ニュージーランド等）となっています。

- オーストラリアでは、学期中は週 24 時間、休暇中はフルタイム就労を認めています。
- 介護施設や在宅介護分野は慢性的な人材不足であるため、留学生のアルバイト就労が比較的容易に確保できます。
- 実習（Vocational Placement）に加え、就労を通じて現場経験を積むことができ、経済的支援と実務習熟を同時に実現できる点は強みです。

ただし、過度の就労は学習・実習に支障をきたす恐れがあり、教育機関による就労指導が不可欠です。

7.4 奨学金・生活支援制度の事例

この節では、オーストラリアの教育機関や行政が提供する支援制度に加えて、専門学校生も対象となる海外での短期実習・語学研修・正規留学に活用できる主な奨学金・支援制度を取りまとめます。

（1）主な支援概要

- **教育機関による奨学金制度**：一部の RTO や大学では留学生向けの授業料減免制度を提供しています。例えば、Imagine Education は学業成績優秀者向けに、年間最大 AUD5,000 ドルの奨学金を提供しています。
- **自治体・州政府の支援**：ブリスベン市やビクトリア州では、留学生向けに生活支援金や公共交通費割引を実施しています。
- **日本側からの支援**：文部科学省や自治体、各種財団の留学奨学金制度があり、介護分野も対象と考えられるものが多数あります。
- **ピアサポート制度**：先輩留学生が新規留学生の生活・学習を支援する仕組みは効果的であり、介護分野にも適用されます。

（2）日本から留学する場合の奨学金制度例

以下は、海外での短期実習・語学研修、及び介護・保育分野を含む海外留学に活用できる主な奨学金制度について整理したものです。制度は、（ア）日本政府・公的機関によるもの、（イ）官民協働制度、（ウ）地方自治体による支援、（エ）民間財団による奨学金の 4 類型に大別されます。

（ア）日本政府・公的機関の制度

- **日本学生支援機構（JASSO）海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）**
  日本の大学・専門学校が海外協定校との学生交流プログラムを実施する際に利用可能な奨学金制度です。専門課程学生も対象で、派遣期間 8 日～1 年のプログラムに対し、都市別に月額 8～12 万円が支給されます。加えて、家計基準該当者には最大 16 万円の渡航支援金が支給されます。
- また、JASSO 採択を受けた専門学校等では、独自の給付制度を併用する事例も見られます。名古屋文化学園保育専門学校では「オーストラリア語学研修・保育実習プログラム」参加者に 9 万円、桜花学園大学では年間最大 84 万円の給付を行っています。

（イ）官民協働制度

- **トビタテ！留学 JAPAN** は政府と民間企業が共同で実施する代表的制度であり、語学・専門実習・国際交流活動など多様なプログラムを支援しています。支給額は活動内容に応じ最大で数十万円規模で、学費・渡航費・生活費など幅広い用途に充当可能です。スカラシップパートナーズが運営する個別奨学金では、「Fly High! 女子コース」（給付額 30 万円）、「Drive Your Impact（26 卒向け）」などが提供されています。

（ウ）地方自治体による支援

- 東京都の「東京グローバル・パスポート」では、短期コース（夏留学）に最大 90 万円、中長期コースに最大 315 万円が支給されます。
- また、埼玉県国際交流協会による「埼玉発世界行き奨学金」では、一般コース 20 万円、冠奨学金コースは最大 50 万円（女性対象の長期コースは 120 万円）など、多様な企業連携枠が整備されます。

（エ）民間財団による支援

- 福祉・教育分野に特化した支援として、篠原欣子記念財団では月額 4 万 5 千円（一般奨学金）または月額 1 万 5 千円（期間限定奨学金）を支給しています。

- また、仙台市産業振興事業団（20 万円以内）、ぐんま赤尾奨財団（30 万円）、岡山県産業振興財団（授業料上限 30 万円・現地活動費最大 16 万円・渡航費 20 万円）など、地域密着型の海外学修支援制度も確認されました。

これらの制度は、海外留学・実習を志す専門学校生や大学生にとって、経済的な負担を軽減する有効な仕組みといえます。今後、介護や保育など社会的ニーズが高い分野の留学支援枠を拡充し、日豪間の人材交流促進を後押しすることが期待されるところです。また、金融機関による教育ローンも留学費用の支払いに充当できる場合もあります。

【貸与型奨学金と教育ローンの比較】

項目	給付型奨学金	貸与型奨学金	教育ローン
定義	返済不要の奨学金。学力や家計状況などに応じて支給	学生本人が借りる進学資金で、将来返済が必要な奨学金	保護者などが借りる進学資金のためのローン
返済の必要性	不要	必要	必要
借主	学生本人	学生本人	保護者 （学生本人が借りる場合、安定収入が必要）
金利	なし	無利子または低金利	有利子
返済開始時期	該当なし	卒業後	借入後すぐに返済開始 （据置期間の設定も可能）
返済期間	該当なし	10～20 年など	5～15 年など
メリット	・返済不要なので負担がない ・優秀な学生に有利	・学生の名義で借りられる ・無利子の制度もある ・返済猶予がある ・減免制度がある（機関による） ・給付型より採用のハードルが低い	・まとまった金額が借りられる ・使途が幅広い ・いつでも申し込める ・学力基準がない ・奨学金に比べ審査が早い ・入学前でも利用できる

デメリット	・採用数が少ない ・競争倍率が高い ・申込時期が決まっている ・海外留学対象は少ない ・専門学校留学対象は少ない ・成果報告やインターシップ等の提供機関への責務	・学生に返済責任がある ・卒業後の負担が大きい ・申込時期が決まっており、即借入が難しい ・学力基準がある ・入学後の支給で、初期費用に充てられない ・海外留学対象は少ない ・専門学校留学対象がない	・親に返済責任がある ・金利が高めな場合が多い
審査の内容	家計基準＋学力など 留学の場合、グローバルな場で活躍する意欲や志	家計基準＋学力など 所得上限がある	保護者の年収や信用情報
使途の自由度	学費・生活費など。	学費・生活費など。 留学で利用できる場合、学位取得を目指す正規課程への進学が主な目的	学費、入学金、教材費など。留学費用にも利用できる
代表的な提供機関	JASSO（給付型）、大学独自 民間財団	日本学生支援機構（JASSO）、地方自治体など	日本政策金融公庫、銀行、信用金庫など

7.5 今後の対応策

1. **経済的支援の拡充**

    - 日本の奨学金制度に介護分野を重点分野として位置づける。
    - オーストラリア側での州政府奨学金との連携を推進する。

2. **生活費削減支援**

    - 学生寮やホームステイの活用を促進し、住宅費負担を軽減する。
    - 留学生向けに交通費・医療費の補助を整備する。

3. **就労と学業の両立支援**

    - 教育機関によるキャリアカウンセリングを義務化する。
    - 実習（Vocational Placement）とアルバイト就労を組み合わせ、学習と収入の両立を図るモデルを確立する。

第 8 章 提携校設置の意義と課題

調査内容と結果の要約

本章では、介護福祉分野における日本とオーストラリアの教育機関連携の必要性について調査しました。保育分野では既に提携校を設置し、短期留学や実習受入などの枠組みが確立していますが、介護分野では制度的な交流がまだ限定的であることが明らかになりました。調査の結果、介護人材の国際化と多文化共生社会への対応には、日豪間での教育機関同士の協定締結が不可欠であり、資格取得や現場実習を通じた人材育成ネットワークの構築が有効であると考えられます。保育分野での成果をモデルに、介護分野でも同様の枠組みを導入し、両国の教育・雇用を結ぶ持続的な連携体制を整備することが求められます。

8.1 提携校設置の背景と目的

前年度に調査実施した保育分野では、日豪間の教育機関連携を通じた短期実習や共同カリキュラムの開発が進展しており、留学生の派遣・受入れに一定の成果を上げています。介護分野においても同様に、提携校の設置は以下の目的を持ちます。

- 留学生にとって安心して学習・実習できる教育基盤の確保
- 両国の資格制度や教育体系の違いを埋める橋渡し
- 実習（Vocational Placement）や就労に直結するキャリア形成支援

介護分野では、特に人材不足が深刻であることから、提携校を拠点とした**長期的かつ計画的な人材育成モデル**の構築が不可欠と考えます。

8.2 日豪間における介護教育機関・専門学校の提携事例

現時点で日豪間の正式な介護教育提携は限定的ですが、いくつかの先行的な取組が見られました。

- **福祉介護系の協定**：日本の国際医療福祉大学（本部：福岡県）が、ブリスベンやゴールドコーストの TAFE と協力して、看護分野の短期実習プログラムを提供しています。
- **保育分野の連携の応用**：保育分野で提携した大庭学園としては、介護分野でも現地施設と連携を模索しています。

以下は、（1）介護・福祉に近接する領域での日豪協定・受入実績、（2）豪州側 RTO が国際学生（日本人を含む）向けに短期実習・職業体験受入を明示している事例を列記します。

（1）日豪の協定・受入【介護・福祉近接領域】

- 日本社会事業大学 ↔ ニューサウスウェールズ大学（UNSW）：協定校として社会福祉分野の実習・視察を相互実施（地域包括支援センターや福祉施設等を訪問）。介護高齢者領域を含む社会福祉フィールドでの受入を確認。
- 医療創生大学（国際看護） ↔ グリフィス大学：看護系の国際実習・シミュレーション学習・医療機関見学を実施。直接の介護資格実習ではないが、高齢者ケアに関連する病院・クリニックの見学を含む。

（2）豪州 RTO による国際学生向け実習受入（日本人を含む）

- Charter Australia「Study & Work Program – Aged Care Stream」：17 週間集中＋必修ワークプレースメント（120 時間相当）。医療・介護英語と現場配置、就職サポートを一体運用。短期～中期の実践型受入モデルとして参照可能。

さらに、オーストラリアは介護人材の受入れに積極的であり、**フィリピン・インド・中国などとの教育連携**が既に存在し、卒業生が Certificate III を取得後に現地就労できる仕組みを構築しています。たとえばフィリピンの介護学校との提携により、卒業生が Certificate III を経て豪州介護現場に就労する仕組みが運用されています。これらは日豪間連携を検討する際の参考となるものですが、学生が履修科目を英語で修了していることが鍵となります。日本が日豪間の提携を模索するにあたっては、こうした既存の国際連携モデルを参照し、後発参入としての戦略性を明確にする必要があります。

8.3 日本からの留学生に必要な準備

日本人学生がオーストラリアで介護資格を取得するには、以下の準備が必須です。

1. **語学力**：IELTS スコア 5.0 以上の英語力（保育分野は 5.5 以上とされるため、ややハードルは下がる）。一方で、介護現場では高齢者の口語・方言にも対応する必要があり、単なる教科書的英語を超えた力が求められる。
2. **文化理解**：本人主体のケア、多文化共生の考え方を学ぶこと。日本的な「家族中心ケア」との違いを理解する必要がある。
3. **生活適応**：学費・生活費の高さを踏まえた資金計画。経済的支援制度や奨学金制度の活用が望まれる。

8.4 教育機関同士の連携と重要性

教育機関同士の連携を検討するにあたっては、以下の点が極めて重要と考えられます。

- **単位互換制度の整備**：日本で履修した単位を豪州の課程で認定する制度の可能性を模索する。
- **事前学習体制の整備**：一部の座学科目を日本で英語で履修し、豪州では実習中心とすることで、時間とコストを削減できるかを検討する。
- **共同カリキュラム開発**：日本の理論教育とオーストラリアの実践教育を融合させたコース設計が必要である。
- **相互実習プログラム**：日本の学生が豪州で実習を行い、逆に豪州の学生が日本の介護施設で研修する双方向交流を実施する。

8.5 提携校設置における課題と展望

（1）制度・運営的課題

- 日本とオーストラリアの介護士資格制度は異なり、日本の介護福祉士資格がオーストラリアの資格取得に直結しないため、単位互換制度の整備を行うにあたっては、オーストラリアの職業専門学校（RTO）とカリキュラムを調整して両国で通用するコアカリキュラムを設計する必要があります。
- 豪州での介護士資格を教授するには、現地の教育資格を持つ教員が必要となるため、オンラインで補完できる可能性を模索する必要があります。（現在、豪州教育省はオンラインでの受講を単位認定していない。）
- さらに、踏み込んで、資格相互認定の仕組み（例：日本の専門学校での 2 年間の学習を豪州の資格と一部互換）を確立するためには、カリキュラムの調整だけでなく、英語での受講体制を整える必要があります。

(2) 言語と文化の壁

- 日本人留学生の英語力不足により教育・実習内容を十分に理解できない可能性があります。
- ビザ取得、現地生活全般、異文化適応における支援体制の整備が求められます。駐在員を配置して、短期留学・実習の受入を実施するような手厚い支援体制の整備が必要である可能性があります。

(3) 提携校設置の展望と提言

- 提携校を設置することで、日本と豪州間の人材育成基盤を強化し、グローバル人材育成の拠点としての役割を果たします。
- 日本からの留学生支援の強化策としては、留学に必要な英語力向上と専門課程の事前学習を支援するオンラインプログラムの提供が考えられます。また、留学中のサポート体制としては、留学生向けのカウンセリングや生活支援を整備する必要があります。

8.6 提携校設置後の展望と評価

保育分野と同様に提携校設置が実現した場合、以下の効果が期待されます。

- 日本人留学生にとっては、留学・実習・就労へのシームレスな道筋が確立できます。
- 豪州にとっては、日本人らしさとも言えるきめ細やかな配慮やケアを提供できるような質の高い介護人材の供給につながる可能性があります。特に高齢の在留邦人から期待する声があります。
- 日本国内にとっては、国際的経験を持つ人材の還流により、多文化対応力を備えた介護サービスの向上が期待できます。

評価にあたっては、就職率・資格取得率・帰国後のキャリア形成を指標とし、継続的なモニタリングと改善が必要と考えます。

第 9 章 結論と今後の展望

9.1 本調査の結論

本調査では、日本とオーストラリアにおける介護人材育成と資格制度の比較、留学生支援体制、実習環境、提携校設置の動向を包括的に検証しました。調査の結果、両国とも介護人材の需要は今後さらに増加する見通しであり、特に多文化社会の進展に伴って、**言語対応力と異文化理解力を備えたグローバル介護士の育成**が必要であることが明らかになりました。**日本の介護福祉士資格は専門性が高く、生活支援から医療的ケア、福祉マネジメントまで広範な職掌を担う**一方、**豪州の資格制度はより実践的で即戦力育成を重視**しています。留学生にとって、豪州で資格を取得し高所得水準の下で就業することは大きな魅力である反面、**英語力の壁や文化的ギャップ、経済的負担などの課題も確認**されました。こうした課題に対しては、**語学準備教育、提携校における単位互換認定・事前学習、奨学金制度の整備、生活支援ネットワークの拡充**が有効であると考えられます。

9.2 今後の展望

今後は、正規留学を支える**事前学習プログラムの確立**と**奨学金制度の充実**が不可欠です。また、資格留学だけでなく、短期間で介護現場を体験できる**実践型プログラム**の導入も有意義です。これは、多文化共生社会における介護現場の理解を深めるとともに、将来の国際的人材交流の基盤形成に寄与します。
さらに、日本の高度なケア技術や倫理観を学ぶ目的で、豪州側からの**短期留学・視察**の可能性も指摘できます。もっとも、日本語による教育や現場対応には課題が残るため、英語対応型カリキュラムや共同研究の推進が求められます。
保育分野で既に実績のある教育機関間の提携モデルを介護分野にも拡張し、**提携校ネットワーク**を通じた相互実習や単位認定を進めることが、持続的な人材育成の鍵となります。

9.3 政策提言と次のステップ

介護人材の国際的育成を促進するため、次の施策が考えられます。

1. **資格制度の相互承認・互換性の推進**：日豪両国で資格水準と学習成果を照合し、段階的な単位認定を導入すること。

2. **多言語対応と教育支援の充実**：英語・日本語双方で教材や専門語辞典をはじめとする学習環境を整備し、留学生の学習を支援すること。

3. **奨学金・経済支援の拡大**：介護・福祉留学に特化した奨学金制度を創設し、経済的理由による進学断念を防ぐこと。

4. **教育機関の連携強化**：日豪の専門学校・大学が連携し、実習・研究・オンライン教育を一体的に展開する体制を構築すること。

これらを実現することで、両国の介護人材交流がより制度的・持続的な形で進展し、アジア太平洋地域全体の介護人材育成モデルとして発展することが期待されます。

謝辞

本調査の実施にあたり、多大なるご協力を賜りました日本およびオーストラリアの教育機関関係者、介護事業者、留学生の皆様に心より感謝申し上げます。特に現地でのヒアリングや実習施設の見学に際して、貴重な情報提供とご助言をくださった皆様に深く御礼申し上げます。本報告書が、日豪両国の介護教育・人材育成・国際交流のさらなる発展に寄与する一助となれば幸いです。

大庭学園　留学前プログラム　シラバス 2 年目

授業科目名	留学前プログラム		科目	～科目	
必修・選択	～		単位数	～	
科目設備学部	～学部	開講学年	1 年次	学期	前期と後期
担当教員	～	連絡先	研究室	～	
授業の概要、科目のねらい・到達目標					
本講座「留学前プログラム」のねらいは、英語の習得や留学の事前準備を目的としたプログラムとなっております。 2 年次のねらいは、IELTS 対策を取り、語彙力・文法力・読解力・リスニング力・ライティング力・スピーキング力を総合的に強化し、スコア 5.5 以上取得できるように準備することとなっております。前半では基礎知識と技能の習得、後半では試験形式に即した演習と模擬試験を通じて実践力を高めます。					
授業方法・形体	講義と演習	講師	単独	氏名	～
授業は講義とグループワークや発表などを中心とします。受講生は、初めに文法知識、単語、読解やスピーキングの基礎知識を学び、試験の対策準備を行います。準備を進めることで、後半の IELTS 対策の理解を深めやすくなり、より効果的な学習が行えます。学習の進捗度合いに応じて、事前の課題学習や事後の課題を含めて展開してください。					

学習のポイント：

今回は IELTS で得点を上げることに特化したカリキュラム構成となっております。前半では、試験に必要とされる文法知識、読解技術、リスニング技術、スピーキングのノウハウを中心に学習するものとなります。これらを習得することにより、後半の IELTS 対策がより円滑に準備できるように構成しております。後半で躓く場合、前半の文法知識や、学習したそのほかの内容を復習する事をオススメいたします。それでも復習しても躓いてしまう場合、語彙力を増やし、英語に触れる時間を増やしてください。方法は様々ありますが、一番良い方法は、自分のモチベーションが継続できる方法で学習することです。そのやり方がスマホのアプリでも、カリキュラム 1 年次で学んだ音楽でも、講師や仕事での会話でも、ゲーム感覚で触れられるものでもよいでしょう。一番大事なことは、継続して学習できるものを探し、学習を続け、英語を使い続けることです。

カリキュラム（前期）

全 56 回（前期 28 回）　　週 1 回 1 時間

	レッスン概要	サブシラバス
1	コース概要・初回レベルチェック	授業目的と進行方法を説明し、簡易模試で現状を把握する。結果を共有し、今後の学習方針を確認する。安心して学べる環境を整える。
2	語彙（IELTS 英単語「ポリネシアの発見」）＋英文読解特講 Section1 新しい5文型	IELTS 語彙「ポリネシアの発見」を学び、5文型の基本を理解する。語彙練習と構文演習を通じて定着を図る。例文を自作し音読することで理解を深める。
3	語彙（IELTS 英単語「プラスチックの歴史」）＋英文読解特講 Section2 構文の基礎	IELTS 語彙「プラスチックの歴史」を学び、構文の基礎を理解する。文の骨格を分析し、構造を把握する。新出語彙は品詞と例文をセットで覚える。
4	語彙（IELTS 英単語「豪華客船タイタニック」）＋英文読解特講　Section2 構文の基礎（テーマ 11～15）	IELTS 語彙「豪華客船タイタニック」を学び、接続詞や that 節の構文を理解する。語彙は例文と一緒に覚える。演習後は答えの根拠を声に出して説明する。
5	語彙（IELTS 英単語「アイダホのビーバー」）＋英文読解特講 Section3 強調構文と倒置（テーマ 16～19）	IELTS 語彙「アイダホのビーバー」を学び、強調構文と倒置の基本を理解する。通常語順との比較練習を行う。リスニング例文で確認し、書き換えを行う。
6	語彙（IELTS 英単語「どうしてダンスが好き？」）＋英文読解特講 Section3 強調構文と倒置（テーマ 19～25）	IELTS 語彙「どうしてダンスが好き？」を学び、強調構文と倒置の応用を理解する。音声例文で確認し、通常語順との書き換えを行う。自分の意見文に応用する。
7	語彙（IELTS 英単語「AI による芸術」）＋英文読解特講 Section4 特殊な第1文型	IELTS 語彙「AI による芸術」を学び、特殊な第1文型を理解する。例文を自作して確認する。演習後は答えの根拠を声に出して説明する。
8	語彙（IELTS 英単語「才能あふれる子供たちへの学校広告」）＋英文読解特講 Section5 語彙から真の読解へ	IELTS 語彙「才能あふれる子供たちへの学校広告」を学び、語彙を活用した読解力を強化する。因果関係や同格表現を意識して読解する。演習後は根拠を声に出して説明する。
9	語彙（IELTS 英単語「ハイパーループ」）＋英文読解特講 Section6 まぎらわしい文法の判別	IELTS 語彙「ハイパーループ」を学び、まぎらわしい文法の判別を練習する。不定詞と-ing 形を形から確認する。例文で定着させ、根拠を声に出して説明する。
10	語彙（IELTS 英単語「マリア・モンテッソーリの生涯」）＋英文読解特講 Section7 文法から真の読解へ（テーマ 37～40）	IELTS 語彙「マリア・モンテッソーリの生涯」を学び、文法を活用した読解力を強化する。段落ごとの要点を要約する。語彙は例文と一緒に覚える。
11	語彙（IELTS 英単語「どうして人はウソをつくの？」）＋英文読解特講	IELTS 語彙「どうして人はウソをつくの？」を学び、分詞構文や関係詞を活用した読解力を強化する。役割を意識して理解を深める。根拠を声に出して説明する。

	Section7 文法から真の読解へ（テーマ 41～44）	
12	語彙（IELTS 英単語「マウンテンゴリラ」）＋英文読解特講 Section8 和訳の技術	IELTS 語彙「マウンテンゴリラ」を学び、和訳技術を習得する。直訳と意訳 のバランスを意識する。文脈で語彙を覚え、根拠を声に出して説明する。
13	語彙（IELTS 英単語「オリーブの栽培」）＋IELTS リーディング Chapter1 基本知識	IELTS 語彙「オリーブの栽培」を学び、リーディングの基本姿勢を理解する。段落ごとの要点を要約する。演習後は自己チェックを行う。
14	語彙（IELTS 英単語「ロボカップ」）＋IELTS リーディング Chapter2 多項選択問題	IELTS 語彙「ロボカップ」を学び、多項選択問題の解法を理解する。選択肢の根拠を確認する。理由を声に出して説明する。
15	語彙（IELTS 英単語「ニコラ・テスラと電流戦争」）＋IELTS リーディング	IELTS 語彙「ニコラ・テスラと電流戦争」を学び、見出しマッチング問題の解法を理解する。段落要旨を特定する。要約力を養う。
	Chapter2 見出しマッチング問題	
16	語彙（IELTS 英単語「ある思考実験」）＋IELTS リーディング Chapter2 情報マッチング問題	IELTS 語彙「ある思考実験」を学び、情報マッチング問題の解法を理解する。情報の位置を特定する。設問と本文の対応を確認する。
17	語彙（IELTS 英単語「火星で暮らす」）＋IELTS リーディング Chapter2 特徴マッチング問題	IELTS 語彙「火星で暮らす」を学び、特徴マッチング問題の解法を理解する。特徴を正確に対応させる。根拠を声に出して説明する。
18	語彙（IELTS 英単語「小惑星の衝突」）＋IELTS リーディング Chapter2 文末マッチング問題	IELTS 語彙「小惑星の衝突」を学び、文末マッチング問題の解法を理解する。文末情報を特定する。文脈を意識して読解する。
19	語彙（IELTS 英単語「暗号通貨」）＋IELTS リーディング Chapter2 情報特定問題	IELTS 語彙「暗号通貨」を学び、情報特定問題の解法を理解する。設問キーワードをマーキングする。検索プロセスを振り返る。
20	語彙（IELTS 英単語「ポンジスキーム」）＋IELTS リーディング筆者の見解／主張特定問題	IELTS 語彙「ポンジスキーム」を学び、筆者の見解や主張を特定する。事実と意見を区別して読解する。主張を一文で要約する。
21	語彙（IELTS 英単語「普遍文法」）＋IELTS リーディング　サマリー・表・フローチャート完成問題	IELTS 語彙「普遍文法」を学び、サマリーや表完成問題の解法を理解する。段落ごとの要点を一文でまとめる練習を行う。語彙は母語との比較で覚え、理解を深める。
22	語彙（IELTS 英単語「バナナ」）＋IELTS リーディング 文完成問題	IELTS 語彙「バナナ」を学び、文完成問題の解法を理解する。文法的にあり得る選択肢を絞り込む練習を行う。農業や食文化の背景と結びつけて語彙を定着させる。

23	語彙（IELTS 英単語「フロー」）＋ IELTS リーディング 制限内語数問題	IELTS 語彙「フロー」を学び、制限語数問題の解法を理解する。設問に使える語をリスト化して選ぶ練習を行う。心理学や経済学の文脈で語彙を活用し、答えは必ず語数を確認する。
24	語彙（IELTS 英単語「イエローストーンのオオカミ」）＋IELTS リーディング 模擬テスト	IELTS 語彙「イエローストーン」を学び、要約問題の解法を理解する。段落ごとの要点を簡潔にまとめる練習を行う。語彙は自然科学の文脈で覚え、演習後に根拠を説明する。
25	語彙（IELTS 英単語「おとぎ話の起源」）＋IELTS リスニング Chapter1 基本知識	IELTS 語彙「DNA」を学び、表完成問題の解法を理解する。設問の空欄周辺の文脈を重点的に確認する。語彙は科学的背景と結びつけて覚える。
26	語彙（IELTS 英単語「日本ザルと温泉」）＋IELTS リスニング タスクタイプ別演習（Type1～3）	IELTS 語彙「犯罪・法律」を学び、Yes/No/Not Given 問題を練習する。設問の意図を正確に把握する力を養う。語彙は法的文脈で覚え、演習後に根拠を説明する。
27	語彙（IELTS 英単語「法隆寺」）＋ IELTS リスニング タスクタイプ別演習（Type4～6）	IELTS 語彙「法隆寺」を学び、Listening 演習を模擬形式で行う。文化的背景を踏まえた聞き取りを通じて、時間配分と理解力を確認する。演習後は結果を分析し、弱点を整理する。
28	語彙（IELTS 英単語「行動経済学」） ＋IELTS リスニング 模擬テスト	IELTS 語彙「行動経済学」を学び、リスニングの模擬テストを実施する。試験形式で時間配分と集中力を確認し、聞き取り精度を測定する。テスト後は聞き取れなかった箇所を確認し、弱点を整理して改善につなげる。

カリキュラム（後期）

全 56 回(後期 29回)　　週 1 回 1 時間

	レッスン概要	想定している内容
29	リスニングとリーディングの簡易模試	IELTS の試験構成と評価基準を確認する。各技能の特徴を理解し、対策方針を共有する。
30	語彙(IELTS 英単語「エジプト王国の滅亡」)＋IELTS ライティング Introduction	IELTS 語彙「エジプト大国の滅亡」を学び、Writing Task1 の Introduction の書き方を練習する。グラフや表の情報を導入部分で簡潔にまとめる力を養う。演習後は構成と表現を確認し、改善点を整理する。
31	語彙(IELTS 英単語「ナノボット」)＋IELTS ライティング Task1 折れ線グラフ	IELTS 語彙「ナノボット」を学び、Writing Task1 の折れ線グラフの Introduction 作成を練習する。グラフの主要な変化を導入部分で簡潔にまとめる力を養う。演習後は構成と表現を確認し、改善点を整理する。
32	語彙(IELTS 英単語「情報格差」)＋IELTS ライティング Task1 円グラフ	IELTS 語彙「情報格差」を学び、Writing Task1 の円グラフ演習を行う。 割合や構成を導入部分で簡潔にまとめる力を養う。演習後は表現の正確性を確認し、改善点を整理する。
33	語彙(IELTS 英単語「スウェーデンと音楽」)＋IELTS ライティング　Task1 棒グラフ	IELTS 語彙「スウェーデンと音楽」を学び、Writing Task1 の棒グラフ演習を行う。比較対象を明確にし、主要な差異を導入部分でまとめる。演習後は構成と語彙の適切さを確認する。
34	語彙(IELTS 英単語「日本建築の耐震性」)＋IELTS ライティング Task1 表	IELTS 語彙「日本建築の耐震性」を学び、Writing Task1 の表演習を行う。数値を整理し、導入部分で全体傾向を簡潔に記述する。演習後は表現の正確性を確認し、改善点を把握する。
35	語彙(IELTS 英単語「新しい友人と脳の働き」)＋IELTS ライティング Task1 地図	IELTS 語彙「新しい友人と脳の働き」を学び、Writing Task1 の地図演習を行う。変化や配置を導入部分で簡潔にまとめる力を養う。演習後は構成と表現を確認し、改善点を整理する。
36	語彙(IELTS 英単語「先祖調査ビジネス」)＋IELTS ライティング Task1 ダイアグラム	IELTS 語彙「先祖調査ビジネス」を学び、Writing Task1 のダイアグラム演習を行う。プロセスの流れを導入部分で簡潔に説明する力を養う。 演習後は構成と語彙の適切さを確認する。
37	語彙(IELTS 英単語「アルツハイマー病と修道女」)＋IELTS ライティング Task1 2つのグラフ組み合わせ	IELTS 語彙「アルツハイマー病と修道女」を学び、Writing Task1 の2つのグラフ組み合わせ演習を行う。複数データを比較し、導入部分で主要な傾向をまとめる。演習後は表現の正確性を確認する。
38	語彙(IELTS 英単語「動物の進化」)＋IELTS ライティング Task1 案内図とグラフ組み合わせ	IELTS 語彙「動物の進化」を学び、Writing Task1 の案内図とグラフ組み合わせ演習を行う。異なる形式の情報を導入部分で整理する力を養う。演習後は構成と語彙の適切さを確認する。

39	語彙(IELTS 英単語「イギリス女王の発言」)＋IELTS ライティング Task2 動物テーマ	IELTS 語彙「イギリス女王の発言」を学び、Writing Task2 の動物テーマで意見文を作成する。論理展開を確認し、反論・譲歩表現を活用する。演習後は完成度を高める作文練習を行う。
40	語彙(IELTS 英単語「バラの香り」)＋IELTS ライティング Task2 ロボットテーマ	IELTS 語彙「バラの香り」を学び、Writing Task2 のロボットテーマで意見文を作成する。導入・展開・結論の構成を確認する。演習後は語彙と表現を改善する。
41	語彙(IELTS 英単語「ビール製造の歴史」)＋IELTS ライティング Task2 テクノロジー	IELTS 語彙「ビール製造の歴史」を学び、Writing Task2 のテクノロジーテーマで意見文を作成する。論理的な展開を意識し、事例を活用する。演習後は構成と表現を確認する。
42	語彙(IELTS 英単語「ガイ・フォークス」)＋IELTS ライティング Task2 健康	IELTS 語彙「ガイ・フォークス」を学び、Writing Task2 の健康テーマで意見文を作成する。事実と意見を区別し、論理展開を強化する。演習後は完成度を高める。
43	語彙(IELTS 英単語「巨大空港」)＋IELTS ライティング Task2 環境	IELTS 語彙「巨大空港」を学び、Writing Task2 の環境テーマで意見文を作成する。利点と欠点を整理し、バランスの取れた議論を展開する。 演習後は改善点を確認する。
44	語彙(IELTS 英単語「英仏海峡トンネル」)＋IELTS スピーキング Introduction	IELTS 語彙「英仏海峡トンネル」を学び、Speaking Introduction を練習する。自己紹介や基本情報を流暢に述べる力を養う。
45	語彙(IELTS 英単語「イギリス人の外国語習得」)＋IELTS スピーキング Warming Up(1～10)	IELTS 語彙「イギリス人の外国語習得」を学び、Speaking Warming Up(1～10)を練習する。日常的な質問に答える流暢さを確認する。演習後は改善点を整理する。
46	語彙(IELTS 英単語「グレートバリアリーフ」)＋IELTS スピーキング Warming Up(11～20)	IELTS 語彙「グレートバリアリーフ」を学び、Speaking Warming Up(11 ～20)を練習する。自然や環境に関する質問に答える力を養う。
47	語彙(IELTS 英単語「睡眠の大切さ」)＋IELTS スピーキング 1. Study(学習)[リハーサル面接動画対応]	IELTS 語彙「睡眠の大切さ」を学び、Speaking Exercises(テーマ:学習)を練習する。学習に関する意見を流暢に述べる力を養う。演習後は表現を改善する。
48	語彙(IELTS 英単語「シェイクスピア」)＋IELTS スピーキング 2.Work(仕事)	IELTS 語彙「シェイクスピア」を学び、Speaking Exercises(テーマ:仕事)を練習する。仕事に関する質問に答える力を養う。
49	語彙(IELTS 英単語「リチャード三世」)＋IELTS スピーキング 3. Family(家族)	IELTS 語彙「リチャード三世」を学び、Speaking Exercises(テーマ:家族)を練習する。家族に関する意見を流暢に述べる力を養う。演習後は改善点を確認する。
50	語彙(IELTS 英単語「組織市民行動」)＋IELTS スピーキング 4. Hometown(故郷)	IELTS 語彙「組織市民行動」を学び、Speaking Exercises(テーマ:故郷)を練習する。故郷に関する質問に答える力を養う。演習後は表現を改善する。

51	語彙(IELTS 英単語「ウィキペディア」)＋IELTS スピーキング 5. Accommodation(住まい)	IELTS 語彙「ウィキペディア」を学び、Speaking Exercises(テーマ:住まい)を練習する。住まいに関する意見を流暢に述べる力を養う。
52	IELTS リーディング総合演習	IELTS リーディング総合演習を行い、全タイプの設問に対応する力を 確認する。時間配分と正答率を測定する。演習後は弱点を整理し改善につなげる。
53	IELTS リスニング総合演習	IELTS リスニング総合演習を行い、全パートの形式に慣れる。集中力と聞き取り精度を確認する。演習後は結果を分析し改善点を把握する。
54	IELTS ライティング総合演習	IELTS ライティング総合演習を行い、Task1 と Task2 を模擬形式で練習する。時間配分と構成力を確認する。演習後は講師の添削を受け改善につなげる。
55	IELTS スピーキング総合演習	IELTS スピーキング総合演習を行い、Part1～3 の形式に慣れる。流暢さと正確性を確認する。自己分析を行い改善点を整理する。
56	総括	総括として、全技能の成果を振り返る。学習の到達度を確認し、今後の課題を共有する。最終的な改善点を明確にし、次のステップにつなげる。

IELTS 5.5 に必要なレベル：

IELTS5.5 に必要とされる正答率やスコアの取り方を紹介致します。公式では、リーディングとライティングのバンドスコアに対する具体的な採点方法を紹介されていないため、おおよその内容となります。採点基準や内容について紹介がありますので、翻訳されたものを別紙①、②を参照ください。

・リスニング

リスニングは 40 問出題されます。40 問中、18 問～22 問を正解数が必要です。

・リーディング

リーディングも 40 問出題されます。40 問中、19 問～22 問の正解数が必要です。

・ライティング

ライティングタスク 1 とタスク 2 でスコア 6 と 5 の間のレベルが必要になります。4 つの評価基準が設けられております。

1.「語彙力」の評価では、ある程度一般的ではない語句も適切な文脈で使用できる必要があります。

2.「文法知識と正確さ」では、簡単な構文だけでなく、関係詞などを取り入れた複雑な構文を使えると、5.5 のレベルが超えやすくなります。

3.「課題の達成度」、文章の4.「一貫性とまとまり」も評価となります。

・スピーキング

ライティングと同様に、スピーキングの評価基準における、6 と 5 の間が必要になります。こちらも 4 つの評価基準が設けられております。
1.「流暢さと一貫性」では、話し続けるスピードが時折落ちるとスコア 5.0 になります。一方、一貫性を時折失ったとしても進んで詳細に話せるとスコア 6.0 に達します。
2.「語彙力」3.「文法知識と正確さ」はライティングと同様になります。4.「発音」では、リエゾンやリンキング等の特徴が発話できると点数が取れやすくなります。

IELTS 5.5 に必要な最低条件：

1. 学習時間 500 時間以上
2. 単語 3000 語以上学習
3. 文法の復習
4. 日々自己学習作ること（1～2時間程）

＊アルバイト先での英語利用、留学生と英語での交流などで置き換えるのも OK
＊正しい学習方法であれば、動画、音楽、他のメディアでの代用も OK
＊1 日長く学習するよりも、日々コツコツ、少しずつ学習することが重要

1 年通しての学習時間を単純計算で:
1 日 1 時間　365 日　　365 時間授
業 1 時間　　週 1 回 56 コマ 56 時間
　　合計　　421 時間

自己学習課題：

・各自実施
・Duolingo 等のアプリを併用
・洋楽を使ってリスニング、ディクテーション、発話の練習
・映画・ドラマを使ってリスニング、ディクテーション、発話の練習

IELTS のスコアアップに大切なこと：

・単語:2000～3000 語 (英検準一級レベル)
・文法:時制　前置詞　関係詞　仮定法・・・
・IELTS 対策ーテストテクニック
・学習時間がおよそ 500～600 時間が必要だとされています。
（英語を使用した時間が多いほど効果的です）

ポイント:
・IELTS5.5 は中学、高校レベルの英語が最低限分かっており、2~3 ヶ月の対策を行えば達成可能とも言われております。

2年次コマシラバス		
［科目名］ 留学前プログラム		第 1 回（全 56 回）
［学科　または　コース名］ ～学科	［学年］ 2年次	［担当教員］ ～
［今日のテーマ］ コース概要・初回レベルチェック		
［今日の目標］ コース全体の流れを理解し、模擬試験を通じて弱点を把握する。		
［今日の学習内容］ オリエンテーション（15 分）模擬試験ミニ版（40 分）まとめ（5 分）	［今日の重要用語・キーワード］ Listening Reading Speaking Writing	
［“今日の学習内容”の記載箇所］ 模試問題集 該当範囲		
［授業に参加する学生へのアドバイス］ 模試後は必ず間違いを書き出して、誤答の原因を分析しましょう。時間配分や集中力の課題も記録して改善点を明確にしてください。友達と解答根拠を共有すると、自分では気づけない視点を得られます。		

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第2回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「ポリネシアの発見」）
・英文読解特講　Section1　新しい5文型</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

語彙を習得し、5文型の基本理解を深める</td></tr>
<tr><td colspan="2">［今日の学習内容］

語彙練習（20 分）構文演習（40 分）</td><td>［今日の重要用語・キーワード］

SV
SVC
SVO
SVOO
SVOC</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS 英単語　PART1「ポリネシアの発見」（p.14）
・英語読解特講　Section1　テーマ 01～05（p.27～56）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

文型ごとに例文を自作し、音読して定着させましょう。リーディングでは段落ごとの要点を一文で要約する練習をしてください。文法と読解を結びつけることで理解が深まります。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 3 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「プラスチックの歴史」）
・英文読解特講　Section2　構文の基礎</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

語彙を習得し、構文の基礎を理解する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">［今日の学習内容］

語彙練習（20 分）構文演習（40 分）</td><td>［今日の重要用語・キーワード］

関係詞分詞
前置詞+名詞
To 不定詞形容詞</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS 英単語　PART1「プラスチックの歴史」（p.18）
・英文読解特講　Section2　テーマ 06～10（p.57～83）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

新出語彙は例文と品詞をセットで覚えると効果的です。構文演習では文の骨格を色分けして分析すると理解が進みます。週末に自己テストを行い、定着度を確認しましょう。</td></tr>
</table>

2年次コマシラバス		
［科目名］ 留学前プログラム		第 4 回（全 56 回）
［学科　または　コース名］ ～学科	［学年］ 2年次	［担当教員］ ～
［今日のテーマ］ ・語彙（IELTS 英単語「豪華客船タイタニック」） ・英文読解特講　Section2　構文の基礎（テーマ 11～15）		
［今日の目標］ 語彙を習得し、接続詞や that 節の構文理解を深める。		
［今日の学習内容］ 語彙練習（20 分）構文演習（40 分）	［今日の重要用語・キーワード］ 従属接続詞 once because if の複合構造 whether/if/that が名詞節　that 節が S になるパターン名詞節と副詞節の違い	
［“今日の学習内容”の記載箇所］ ・IELTS 英単語　PART1「豪華客船タイタニック」（p.22） ・英文読解特講　Section2　テーマ 11～15（p.85～118）		
［授業に参加する学生へのアドバイス］ 接続詞や that 節の役割を意識して読解しましょう。語彙は必ず例文と一緒に覚えてください。演習後は答えの根拠を声に出して説明すると理解が深まります。		

2年次コマシラバス		
[科目名] 留学前プログラム		第 5 回(全 56 回)
[学科 または コース名] ～学科	[学年] 2年次	[担当教員] ～
[今日のテーマ] ・語彙(IELTS 英単語「アイダホのビーバー」) ・英文読解特講 Section3 強調構文と倒置(テーマ 16～19)		
[今日の目標] 語彙を習得し、強調構文と倒置の基本を理解する。		
[今日の学習内容] 語彙練習(20 分)構文演習(40 分)	[今日の重要用語・キーワード] It is not A but B that ~ It is not ~ that … It is only ~ that … It was not until ~ that …	
["今日の学習内容"の記載箇所] ・IELTS 英単語 PART1「アイダホのビーバー」(p.26) ・英文読解特講 Section3 テーマ 16～19(p.122～145)		
[授業に参加する学生へのアドバイス] 強調構文は自分の意見文に応用して練習すると効果的です。倒置はリスニングにも出やすいので音声例文で確認しましょう。演習後は必ず自分で「通常語順→倒置語順」に書き換えてみてください。		

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 6 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「どうしてダンスが好き？」）
・英文読解特講　Section3　強調構文と倒置（テーマ 19～25）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

語彙を習得し、強調構文と倒置の応用を理解する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">［今日の学習内容］

語彙練習（20 分）構文演習（40 分）</td><td>［今日の重要用語・キーワード］

任意倒置強制倒置
「not until ～」「only then」など副詞倒置の訳し方</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS 英単語　PART1「どうしてダンスが好き？」（p.30）
・英文読解特講　Section3　テーマ 19～25（p.146～179）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

強調構文は自分の意見文に応用して練習しましょう。倒置はリスニングにも出やすいので音声例文で確認してください。演習後は必ず「通常語順→倒置語順」に書き換えてみましょう。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 7 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「AI による芸術」）
・英文読解特講　Section4　特殊な第1文型</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

語彙を習得し、特殊な第1文型の理解を深める</td></tr>
<tr><td>［今日の学習内容］

語彙練習（20 分）構文演習（40 分）</td><td colspan="2">［今日の重要用語・キーワード］

the fact remains that ~
There is 構文
There used to be ~
There being ~</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS 英単語　PART1「AI による芸術」（p.34）
・英文読解特講　Section4　テーマ 26～28（p.182～198）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

特殊な第1文型は例文を自作して確認しましょう。語彙は必ず例文と一緒に覚えてください。演習後は答えの根拠を声に出して説明すると理解が深まります。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 8 回(全 56 回)</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙(IELTS 英単語「才能あふれる子供たちへの学校広告」)
・英文読解特講　Section5　語彙から真の読解へ</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

語彙を習得し、語彙を活用した読解力を強化する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">［今日の学習内容］

語彙練習(20 分)構文演習(40 分)</td><td>［今日の重要用語・キーワード］

因果表現を「原因→結果」で理解
contribute to ~
crucial essential
significant matter
count</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS 英単語　PART1「才能あふれる子供たちへの学校広告」(p.38)
・英文読解特講　Section5　テーマ 29～31 (p.202～220)</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

語彙は必ず文脈で覚えましょう。読解では因果関係や同格表現を意識してください。演習後は答えの根拠を声に出して説明すると理解が深まります。</td></tr>
</table>

2年次コマシラバス		
［科目名］ 留学前プログラム		第 9 回（全 56 回）
［学科　または　コース名］ ～学科	［学年］ 2年次	［担当教員］ ～
［今日のテーマ］ ・語彙（IELTS 英単語「ハイパーループ」） ・英文読解特講　Section6　まぎらわしい文法の判別		
［今日の目標］ 語彙を習得し、まぎらわしい文法の判別方法を理解する。		
［今日の学習内容］ 語彙練習（20 分）構文演習（40 分）	［今日の重要用語・キーワード］ To 不定詞 文頭の-ing as の判 別様態の as 文法を「訳」ではなく「形」から判別する習慣	
［“今日の学習内容”の記載箇所］ ・IELTS 英単語　PART1「ハイパーループ」（p.42） ・英文読解特講　Section6　テーマ 32～36（p.222～254）		
［授業に参加する学生へのアドバイス］ 不定詞や-ing 形の判別を必ず形から確認しましょう。語彙は例文と一緒に覚えてください。演習後は答えの根拠を声に出して説明すると理解が深まります。		

2年次コマシラバス		
［科目名］ 留学前プログラム		第 10 回（全 56 回）
［学科　または　コース名］ ～学科	［学年］ 2年次	［担当教員］ ～
［今日のテーマ］ ・語彙（IELTS 英単語「マリア・モンテッソーリの生涯」） ・英文読解特講　Section7　文法から真の読解へ（テーマ 37～40）		
［今日の目標］ 語彙を習得し、文法を活用した読解力を強化する		
［今日の学習内容］ 語彙練習（20 分）構文演習（40 分）	［今日の重要用語・キーワード］ no more ~ than …　受動態 be followed by ~ if 節の代用表現	
［“今日の学習内容”の記載箇所］ ・IELTS 英単語　PART1「マリア・モンテッソーリの生涯」（p.46） ・英文読解特講　Section7　テーマ 37～40（p.256～279）		
［授業に参加する学生へのアドバイス］ 文法を活用して読解する練習をしましょう。語彙は必ず例文と一緒に覚えてください。演習後は答えの根拠を声に出して説明すると理解が深まります。		

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 11 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「どうして人はウソをつくの？」）
・英文読解特講　Section7　文法から真の読解へ（テーマ 41～44）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

語彙を習得し、分詞構文や関係詞を活用した読解力を強化する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">［今日の学習内容］

語彙練習（20 分）構文演習（40 分）</td><td>［今日の重要用語・キーワード］

「余分な-ing」で副詞的に処理
SV, leading to …
関係代名詞は「不完全な文」を探す関係代
名詞省略時は「名詞　SV」代入法
不定詞の副詞的用法</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS 英単語　PART1「どうして人はウソをつくの？」（p.50）
・英文読解特講　Section7　テーマ 41～44（p.281～308）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

分詞構文や関係詞の役割を意識して読解しましょう。語彙は必ず例文と一緒に覚えてください。
演習後は答えの根拠を声に出して説明すると理解が深まります。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 12 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「マウンテンゴリラ」）
・英文読解特講　Section8　和訳の技術</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

語彙を習得し、和訳技術を活用して正確な理解を深める。</td></tr>
<tr><td>［今日の学習内容］

語彙練習（20 分）
演習（40 分）</td><td colspan="2">［今日の重要用語・キーワード］

名詞構文は「動詞っぽく」訳す
depend on ~ more
than ~
無生物主語の第 3 文型は受動態で訳す　in
-ing　は「率先して～する」
疑問詞変換で「程度→どれくらい」「場所→　どこに」</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS 英単語　PART1「マウンテンゴリラ」（p.54）
・英文読解特講　Section8　テーマ 45～50（p.310～350）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

和訳では直訳と意訳のバランスを意識しましょう。語彙は必ず文脈で覚えてください。演習後は答えの根拠を声に出して説明すると理解が深まります。</td></tr>
</table>

2年次コマシラバス		
［科目名］ 留学前プログラム		第 13 回（全 56 回）
［学科　または　コース名］ ～学科	［学年］ 2年次	［担当教員］ ～
［今日のテーマ］ ・語彙（IELTS 英単語「オリーブの栽培」） ・IELTS リーディング　Chapter1　基本知識		
［今日の目標］ 語彙を習得し、リーディングテストの基本姿勢を理解する。		
［今日の学習内容］ 語彙練習（20 分） 演習（40 分）	［今日の重要用語・キーワード］ 音読スラッシュリーディ ングスキャニング精読 スキミング 時間配分の目安：18 分・21 分・21 分	
［“今日の学習内容”の記載箇所］ ・IELTS 英単語　PART1「オリーブの栽培」（p.58） ・IELTS リーディング　Chapter1（p.16～56）		
［授業に参加する学生へのアドバイス］ 語彙は必ず例文と一緒に覚えましょう。リーディングでは段落ごとの要点を要約してください。 演習後は必ず自己チェックを行いましょう。		

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 14 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「ロボカップ」）
・IELTS リーディング　Chapter2　多項選択問題</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

語彙を習得し、多項選択問題の解法を理解する</td></tr>
<tr><td colspan="2">［今日の学習内容］

語彙練習（20 分）
演習（40 分）</td><td>［今日の重要用語・キーワード］

①設問からキーワードを設定
②パッセージで根拠を探す
③選択肢を吟味言い換え表現
正解に合致する選択肢を選ぶ感覚</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS 英単語　PART1「ロボカップ」（p.62）
・IELTS リーディング　Chapter2 Type1（p.58～70）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

選択肢の根拠を必ず確認しましょう。語彙は例文と一緒に覚えてください。演習後は答えの理由を声に出して説明すると理解が深まります。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 15 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「ニコラ・テスラと電流戦争」）
・IELTS リーディング　Chapter2　見出しマッチング問題</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

語彙を習得し、見出しマッチング問題の解法を理解する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">［今日の学習内容］

語彙練習（20 分）
演習（40 分）</td><td>［今日の重要用語・キーワード］

各段落の主旨を把握
Topic sentence
①見出しリストを確認
②段落全体を読んで主旨を把握
③見出しリストから適切なものを選択</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS 英単語　PART1「ニコラ・テスラと電流戦争」（p.66）
・IELTS リーディング　Chapter2 Type2（p.71～93）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

段落要旨を特定する練習をしましょう。語彙は必ず例文と一緒に覚えてください。演習後は答えの根拠を声に出して説明すると理解が深まります。</td></tr>
</table>

2年次コマシラバス		
［科目名］ 留学前プログラム		第 16 回（全 56 回）
［学科　または　コース名］ ～学科	［学年］ 2年次	［担当教員］ ～
［今日のテーマ］ ・語彙（IELTS 英単語「ある思考実験」） ・IELTS リーディング　Chapter2　情報マッチング問題		
［今日の目標］ 語彙を習得し、情報マッチング問題の解法を理解する。		
［今日の学習内容］ 語彙練習（20 分） 演習（40 分）	［今日の重要用語・キーワード］ ①情報リストからキーワードを拾う ②段落を読み進めて該当箇所を探す ③段落番号を選択 段落全体を読むこと	
［“今日の学習内容”の記載箇所］ ・IELTS 英単語　PART1「ある思考実験」（p.70） ・IELTS リーディング　Chapter2 Type3（p.94～113）		
［授業に参加する学生へのアドバイス］ 情報の位置を特定する練習をしましょう。語彙は必ず例文と一緒に覚えてください。演習後は答えの根拠を声に出して説明すると理解が深まります。		

2年次コマシラバス		
[科目名] 留学前プログラム		第 17 回(全 56 回)
[学科 または コース名] ～学科	[学年] 2年次	[担当教員] ～
[今日のテーマ] ・語彙(IELTS 英単語「火星で暮らす」) ・IELTS リーディング Chapter2 特徴マッチング問題		
[今日の目標] 語彙を習得し、特徴マッチング問題の解法を理解する。		
[今日の学習内容] 語彙練習(20 分) 演習(40 分)	[今日の重要用語・キーワード] 人物や名称と特徴を対応 ①名前リストを確認 ②パッセージで該当箇所を探す ③記述リストと照合 段落ごとに複数の人物や特徴が登場する	
["今日の学習内容"の記載箇所] ・IELTS 英単語 PART1「火星で暮らす」(p.74) ・IELTS リーディング Chapter2 Type4 (p.114～124)		
[授業に参加する学生へのアドバイス] 特徴を正確に対応させる練習をしましょう。語彙は必ず例文と一緒に覚えてください。演習後は答えの根拠を声に出して説明すると理解が深まります。		

2年次コマシラバス		
［科目名］ 留学前プログラム		第 18 回（全 56 回）
［学科　または　コース名］ ～学科	［学年］ 2年次	［担当教員］ ～
［今日のテーマ］ ・語彙（IELTS 英単語「小惑星の衝突」） ・IELTS リーディング　Chapter2　文末マッチング問題		
［今日の目標］ 語彙を習得し、文末マッチング問題の解法を理解する		
［今日の学習内容］ 語彙練習（20 分） 演習（40 分）	［今日の重要用語・キーワード］ 文の前半と後半を結び合わせる ①前半リストからキーワードを拾う ②パッセージで該当箇所を探す ③後半リストと照合	
［“今日の学習内容”の記載箇所］ ・IELTS 英単語　PART1「小惑星の衝突」（p.78） ・IELTS リーディング　Chapter2 Type5（p.125～134）		
［授業に参加する学生へのアドバイス］ 文末の情報を正確に特定する練習をしましょう。語彙は必ず例文と一緒に覚えてください。演習後は答えの根拠を声に出して説明すると理解が深まります。		

2年次コマシラバス		
［科目名］ 留学前プログラム		第 19 回（全 56 回）
［学科　または　コース名］ ～学科	［学年］ 2年次	［担当教員］ ～
［今日のテーマ］ ・語彙（IELTS 英単語「暗号通貨」） ・IELTS リーディング　Chapter2　情報特定問題		
［今日の目標］ 語彙を習得し、情報特定問題の解法を理解する。		
［今日の学習内容］ 語彙練習（20 分） 演習（40 分）	［今日の重要用語・キーワード］ TRUE / FALSE / NOT GIVEN　の三択 ①記述リストからキーワードを拾う ②パッセージで該当箇所を探す ③合致・矛盾・情報なしを判断 「FALSE」と「NOT GIVEN」の違いを理解	
［“今日の学習内容”の記載箇所］ ・IELTS 英単語　PART1「暗号通貨」（p.82） ・IELTS リーディング　Chapter2 Type6（p.135～154）		
［授業に参加する学生へのアドバイス］ 情報特定問題では「設問のキーワードを下線でマーキング」してから本文を探す習慣をつけましょう。 演習後は「どの段落から答えを見つけたか」を必ず記録し、検索プロセスを振り返ることが重要です。		

2年次コマシラバス		
［科目名］ 留学前プログラム		第 20 回（全 56 回）
［学科　または　コース名］ ～学科	［学年］ 2年次	［担当教員］ ～
［今日のテーマ］ ・語彙（IELTS 英単語「ポンジスキーム」） ・IELTS リーディング　筆者の見解／主張特定問題		
［今日の目標］ 語彙を習得し、筆者の見解や主張を特定する力を養う		
［今日の学習内容］ 語彙練習（20 分） 演習（40 分）	［今日の重要用語・キーワード］ YES / NO / NOT GIVEN　の三択 ①記述リストからキーワードを拾う ②パッセージで該当箇所を探す ③筆者の見解と照合 「NO」と「NOT GIVEN」の違いを理解	
［“今日の学習内容”の記載箇所］ ・IELTS 英単語　PART1「ポンジスキーム」（p.86） ・IELTS リーディング　Chapter2 Type7（p.155～172）		
［授業に参加する学生へのアドバイス］ 筆者の見解特定では「事実と意見を色分け」して読解すると判断が容易になります。解答後は 「筆者の主張を一文で要約」する練習を行い、論理展開を自分の言葉で再構築してください。		

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 21 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

語彙（IELTS 英単語「普遍文法」）
IELTS リーディング　サマリー・表・フローチャート完成問題</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

語彙を習得し、要約や表完成問題の解法を理解する。</td></tr>
<tr><td>［今日の学習内容］

語彙練習（20 分）
演習（40 分）</td><td colspan="2">［今日の重要用語・キーワード］

空所にパッセージから語句を選んで記入
「2 語以内」「1 語のみ」などの制限
①タイトルや空所前後のキーワード確認
②パッセージで該当箇所を探す
③文脈と文法的に適合する語句を選択空所の品詞（名詞・動詞・形容詞など）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

IELTS 英単語　PART1「普遍文法」（p.90）
IELTS リーディング　Chapter2 Type8（p.173～190）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

サマリー問題では段落ごとの要点を一文で書き出す習慣をつけましょう。表完成問題は設問の空欄周辺の文脈を重点的に確認してください。普遍文法の語彙は自分の母語との比較で覚えると理解が深まります。</td></tr>
</table>

2年次コマシラバス		
[科目名] 留学前プログラム		第 22 回(全 56 回)
[学科 または コース名] ～学科	[学年] 2年次	[担当教員] ～
[今日のテーマ] ・語彙(IELTS 英単語「バナナ」) ・IELTS リーディング 文完成問題		
[今日の目標] 語彙を習得し、文完成問題の解法を理解する。		
[今日の学習内容] 語彙練習(20 分) 演習(40 分)	[今日の重要用語・キーワード] 空所にパッセージから語句を選んで記入 「1 語のみ」「2 語以内」などの制限 ①文全体を読み意味を理解 ②空所の品詞を予測 ③パッセージで該当箇所を探す ④文脈に合う語句を選択	
["今日の学習内容"の記載箇所] ・IELTS 英単語 PART1「バナナ」(p.94) ・IELTS リーディング Chapter2 Type9(p.191～205)		
[授業に参加する学生へのアドバイス] 文完成問題では文法的にあり得る選択肢を先に絞り込みましょう。語彙は農業や食文化の背景と結びつけて覚えると定着します。解答後は完成した文を音読して自然な流れか確認してください。		

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 23 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「フロー」）
・IELTS リーディング　制限内語数問題</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

語彙を習得し、制限語数問題の解法を理解する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">［今日の学習内容］

語彙練習（20 分）
演習（40 分）</td><td>［今日の重要用語・キーワード］

質問に対してパッセージから語句を選び、指定語数以内で答える
①質問文を読みキーワードを確認
②パッセージで該当箇所を探す
③文脈に合う語句を選択
質問は 5W1H（what, why, who, where, when, how）形式</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS 英単語　PART1「フロー」（p.98）
・IELTS リーディング　Chapter2 Type10（p.206～220）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

制限語数問題では設問に使える語をリスト化してから選びましょう。語彙は心理学や経済学の文脈で使ってみると理解が深まります。答えを記入した後は語数を必ず数える習慣をつけてください。</td></tr>
</table>

2年次コマシラバス		
［科目名］ 留学前プログラム		第 24 回（全 56 回）
［学科　または　コース名］ ～学科	［学年］ 2年次	［担当教員］ ～
［今日のテーマ］ ・語彙（IELTS 英単語「イエローストーンのオオカミ」） ・IELTS リーディング　模擬テスト		
［今日の目標］ 語彙を習得し、模擬テストを通じて総合力を確認する。		
［今日の学習内容］ 語彙（20 分） 模擬テスト（40 分）	［今日の重要用語・キーワード］ flow fervent concentration engrossed mastery instantaneous feedback	
［“今日の学習内容”の記載箇所］ ・IELTS 英単語　PART1「イエローストーンのオオカミ」（p.102） ・IELTS リーディング　Chapter3 Final Test（p.222～235）		
［授業に参加する学生へのアドバイス］ 模擬テストでは時間配分を必ず記録し、改善点を見つけましょう。語彙は環境保護や生態系の文脈で使うと理解が深まります。テスト後は設問ごとの根拠を振り返り、解答プロセスを整理してください。		

2年次コマシラバス		
［科目名］ 留学前プログラム		第 25 回（全 56 回）
［学科　または　コース名］ ～学科	［学年］ 2年次	［担当教員］ ～
［今日のテーマ］ ・語彙（IELTS 英単語「おとぎ話の起源」） ・IELTS リスニング　Chapter1 IELTS リスニングテストとは		
［今日の目標］ 語彙を習得し、リスニングテストの基本姿勢を理解する。		
［今日の学習内容］ 語彙練習（20 分） 演習（40 分）	［今日の重要用語・キーワード］ 全 40 問、約 40 分（音声 30 分＋転記 10 分） Part 1～4：日常会話から学術的講義設問の 先読み時間ありアクセントの多様性	
［“今日の学習内容”の記載箇所］ ・IELTS 英単語　PART1「おとぎ話の起源」（p.106） ・IELTS リスニング　Chapter1（p.16～48）		
［授業に参加する学生へのアドバイス］ リスニングでは設問の疑問詞に注目して聞き取りを進めましょう。語彙は文化や歴史的背景と結びつけて覚えると定着します。演習後は聞き取れなかった部分をディクテーションして補強してください。		

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 26 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「日本ザルと温泉」）
・IELTS リスニング　タスクタイプ別演習（Type1～3）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

語彙を習得し、リスニングの多項選択・マッチング・ラベリング問題に慣れる</td></tr>
<tr><td colspan="2">［今日の学習内容］

語彙（20 分）演習（40 分）</td><td>［今日の重要用語・キーワード］

Type 1　多項選択問題
Type 2　マッチング問題　Type 3　ラベリング問題
①設問先読み
②音声聞き取り
③解答確認
④転記</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

IELTS 英単語　PART1「日本ザルと温泉」（p.110）
IELTS リスニング　Chapter2 Type1～3（p.50～115）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

リスニングでは設問の形式ごとに聞き方を変える工夫が必要です。語彙は自然や動物の文脈で使うと理解が深まります。演習後は自分の聞き取りの根拠を必ず振り返りましょう。</td></tr>
</table>

2年次コマシラバス		
[科目名] 留学前プログラム		第 27 回(全 56 回)
[学科 または コース名] ～学科	[学年] 2年次	[担当教員] ～
[今日のテーマ] ・語彙(IELTS 英単語「法隆寺」) ・IELTS リスニング タスクタイプ別演習(Type4～6)		
[今日の目標] 語彙を習得し、リスニングのメモ完成・要約完成・文完成問題に対応する力を養う。		
[今日の学習内容] 語彙(20 分)演習(40 分)	[今日の重要用語・キーワード] Type 4 メモ完成問題 Type 5 表・フローチャート・要約完成問題 Type 6 文完成・ショートアンサー問題 ①設問先読み ②音声聞き取り ③解答確認 ④転記	
["今日の学習内容"の記載箇所] ・IELTS 英単語 PART1「法隆寺」(p.114) ・IELTS リスニング Chapter2 Type4～6(p.116～185)		
[授業に参加する学生へのアドバイス] メモ完成問題では要点を短く書き取る練習をしましょう。語彙は歴史や文化の背景と結びつけて覚えると定着します。演習後は答えの根拠を自分の言葉で説明できるようにしましょう。		

2年次コマシラバス		
［科目名］ 留学前プログラム		第 28 回（全 56 回）
［学科　または　コース名］ ～学科	［学年］ 2年次	［担当教員］ ～
［今日のテーマ］ ・語彙（IELTS 英単語「行動経済学」） ・IELTS リスニング　模擬テスト		
［今日の目標］ 語彙を習得し、模擬テストを通じてリスニング総合力を確認する。		
［今日の学習内容］ 語彙（20 分） 模擬テスト（40 分）	［今日の重要用語・キーワード］ modify comprehend compare costly logically absolute hybrid boost	
［“今日の学習内容”の記載箇所］ ・IELTS 英単語　PART1「行動経済学」（p.118） ・IELTS リスニング　Chapter3 Test1（p.188～227）		
［授業に参加する学生へのアドバイス］ 模擬テストでは集中力を維持する工夫を意識しましょう。語彙は経済や心理学の事例に結びつけて覚えると理解が深まります。テスト後は聞き取れなかった部分を必ず確認してください。		

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 29 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・リスニングとリーディングの簡易模試</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

2 技能の模試を通じて理解力と集中力を確認し、弱点を把握する</td></tr>
<tr><td>［今日の学習内容］

リスニング模試（40 分）
リーディング模試（20 分）</td><td colspan="2">［今日の重要用語・キーワード］

時間配分
設問形式への慣れ</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS ブリティッシュ・カウンシル公認　本番形式問題3回分</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

模試では必ず時間配分を意識して取り組みましょう。リスニングは設問の疑問詞や数値に注目し、リーディングは段落ごとの要点を素早く把握する練習をしてください。終了後は「聞けたこと」
「読めたこと」を分けて振り返ると改善点が明確になります。</td></tr>
</table>

2年次コマシラバス		
[科目名] 留学前プログラム		第 30 回(全 56 回)
[学科 または コース名] ～学科	[学年] 2年次	[担当教員] ～
[今日のテーマ] ・語彙(IELTS 英単語「エジプト王国の滅亡」) ・IELTS ライティング Introduction		
[今日の目標] IELTS ライティング全体の構成や評価基準を理解し、特に導入部分の役割を把握する		
[今日の学習内容] 語彙(20 分)演習(40 分)	[今日の重要用語・キーワード] Task 1:グラフや表を客観的に描写 Task 2:テーマに対する意見を論理的に展開 採点基準:課題達成度、一貫性とまとまり、語彙力、文法知識と正確さパラフレーズ技術	
["今日の学習内容"の記載箇所] ・IELTS 英単語 PART1「エジプト王国の滅亡」(p.122) ・IELTS ライティング Chapter1 Introduction(p.13～27)		
[授業に参加する学生へのアドバイス] ライティングは「構成・論理・文法・語彙」の 4 つの評価基準を意識することが重要です。導入部分では背景説明と問題提起を簡潔にまとめ、読み手にテーマを明確に伝えましょう。演習後は自分の Introduction を声に出して読み、論理の流れと自然さを確認してください。		

2年次コマシラバス		
［科目名］ 留学前プログラム		第 31 回（全 56 回）
［学科　または　コース名］ ～学科	［学年］ 2年次	［担当教員］ ～
［今日のテーマ］ ・語彙（IELTS 英単語「ナノボット」） ・IELTS ライティング　Task1　折れ線グラフの問題		
［今日の目標］ 折れ線グラフを通じて「全体傾向を要約する力」を養い、Task1 の基本構造を理解する。		
［今日の学習内容］ 語彙（20 分）演習（40 分）	［今日の重要用語・キーワード］ Task 1 心得：感想や評価を避け、グラフから読み取れる情報のみを描写 150 語以上 指示文のパラフレーズ＋全体の描写大きな変化をまとめる細かい変化をまとめる	
［“今日の学習内容”の記載箇所］ ・IELTS 英単語　PART1「ナノボット」（p.126） ・IELTS ライティング　Chapter3 Task1　折れ線グラフの問題（p.62～71）		
［授業に参加する学生へのアドバイス］ 概要文では全体の増減や変動を先に示し、詳細では大きな転換点を優先して説明しましょう。 変化を表す語彙を副詞と組み合わせて使うと精度が上がります。		

2年次コマシラバス		
［科目名］ 留学前プログラム		第 32 回（全 56 回）
［学科　または　コース名］ ～学科	［学年］ 2年次	［担当教員］ ～
［今日のテーマ］ ・語彙（IELTS 英単語「情報格差」） ・IELTS ライティング　Task1　円グラフの問題		
［今日の目標］ 円グラフを通じて「割合や構成比」を明確に伝える方法を理解し、情報を簡潔にまとめる力を養う		
［今日の学習内容］ 語彙（20 分）演習（40 分）	［今日の重要用語・キーワード］ differ greatly in contrast equally popular nearly half by far the most popular	
［“今日の学習内容”の記載箇所］ ・IELTS 英単語　PART1「情報格差」（p.130） ・IELTS ライティング　Chapter3 Task1　円グラフの問題（p.72～81）		
［授業に参加する学生へのアドバイス］ 円グラフは大きな割合から説明を始めると構造が伝わりやすいです。主要シェアを強調し、小規模項目はまとめて扱うと簡潔になります。割合語彙と近似表現を組み合わせて精度と自然さを保ちましょう。		

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 33 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「スウェーデンと音楽」）
・IELTS ライティング　Task1　棒グラフの問題</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

棒グラフを通じて「比較の視点」を理解し、複数カテゴリの違いを論理的に説明できるようにする</td></tr>
<tr><td colspan="2">［今日の学習内容］

語彙（20 分）演習（40 分）</td><td>［今日の重要用語・キーワード］

inordinate compulsory
component
pool of talent empirical
evidence early adopters
improve upon</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS 英単語　PART1「スウェーデンと音楽」（p.134）
・IELTS ライティング　Chapter3 Task1　棒グラフの問題（p.82～91）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

棒グラフは上位群と下位群を分けて示すと比較が明確になります。差の大きさを副詞で調整し、代表値を使って具体化しましょう。段落ごとに焦点を一つに絞ると論理がぶれません。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 34 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「日本建築の耐震性」）
・IELTS ライティング　Task1　表の問題</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

表を通じて「数値データの整理と比較」を理解し、主要な傾向や異常値を効果的に説明できるようにする</td></tr>
<tr><td>［今日の学習内容］

語彙（20 分）演習（40 分）</td><td colspan="2">［今日の重要用語・キーワード］

take the lead on the
other hand slight
difference as shown in
the table
in summary</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

IELTS 英単語　PART1「日本建築の耐震性」（p.138）
IELTS ライティング　Chapter3 Task1　表の問題（p.92～99）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

表は指標ごとに視点を固定して説明すると整理しやすいです。差異は「おおまかな傾向→具体値」の順で開示すると理解が深まります。異常値は一度だけ触れ、全体像を優先しましょう。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 35 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「新しい友人と脳の働き」）
・IELTS ライティング　Task1　地図の問題</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

地図問題を通じて「空間的変化や配置の説明方法」を理解し、読み手にわかりやすく伝える力を養う</td></tr>
<tr><td>［今日の学習内容］

語彙（20 分）演習（40 分）</td><td colspan="2">［今日の重要用語・キーワード］

replace, transform
used to be no
longer exist coastal
area residential
housing
newly created road</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS 英単語　PART1「新しい友人と脳の働き」（p.142）
・IELTS ライティング　Chapter3 Task1　地図の問題（p.100～109）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

地図問題は「before→after」の変化を段落ごとに整理しましょう。位置関係を示す語彙を活用すると説明が明確になります。 後に全体の変化を一文で要約すると効果的です。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 36 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「先祖調査ビジネス」）
・IELTS ライティング　Task1　ダイアグラムの問題</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

ダイアグラムを通じて「工程や仕組みの説明方法」を理解する</td></tr>
<tr><td colspan="2">［今日の学習内容］

語彙（20 分）演習（40 分）</td><td>［今日の重要用語・キーワード］

first
next then
finally
be processed be
transformed
undergo changes
result in
lead to</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS 英単語　PART1「先祖調査ビジネス」（p.146）
・IELTS ライティング完全対策　Chapter3 Task1　ダイアグラム問題（p.110～117）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

ダイアグラムは流れを段階ごとに整理して説明しましょう。接続詞を使って工程の順序を明示すると理解が深まります。 後に全体の仕組みを一文で要約すると効果的です。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 37 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「アルツハイマー病と修道女」）
・IELTS ライティング　Task1　2つのグラフ組み合わせた問題</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

複数グラフを通じて「情報を統合して説明する方法」を理解する</td></tr>
<tr><td colspan="2">［今日の学習内容］

語彙（20 分）演習（40 分）</td><td>［今日の重要用語・キーワード］

correlation likelihood
account for rise in
proportion to follow
closely behind
suffer from mental issues</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS 英単語　PART1「アルツハイマー病と修道女」（p.150）
・IELTS ライティング完全対策　Chapter3 Task1　2つのグラフ組み合わせた問題（p.118～127）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

それぞれのグラフの役割を先に示すと整理しやすいです。視点切り替えの接続詞を活用して流れを明確にしましょう。 後に全体傾向を一文でまとめると統合的理解が得られます。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 38 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「動物の進化」）
・IELTS ライティング　Task1　案内図とグラフ組み合わせた問題</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

案内図とグラフを通じて「空間情報と数値情報の統合」を理解する</td></tr>
<tr><td colspan="2">［今日の学習内容］

語彙（20 分）演習（40 分）</td><td>［今日の重要用語・キーワード］

undergo refurbishment
remain the same be
replaced by　adjacent
to satisfaction level
appealing for
carry out renovations</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS 英単語　PART1「動物の進化」（p.154）
・IELTS ライティング完全対策　Chapter3 Task1　案内図とグラフ組み合わせた問題（p.128～137）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

案内図は位置関係を、グラフは数値傾向を示す役割を意識しましょう。段落ごとに焦点を一つに絞ると読みやすくなります。 後に両者の関係を一文で要約してください。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 39 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「イギリス女王の発言」）
・IELTS ライティング　Task2　動物がテーマの問題</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

動物をテーマにした Task2 で「立場を明確にし論理展開する方法」を理解する</td></tr>
<tr><td>［今日の学習内容］

語彙（20 分）演習（40 分）</td><td colspan="2">［今日の重要用語・キーワード］

Task 2 心得：導入と結論以外で主観的主張を避ける
250 語以上
導入：一般文＋主題文本論
1：賛成派の意見本論 2：反対派の意見結論</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS 英単語　PART1「イギリス女王の発言」（p.158）
・IELTS ライティング完全対策　Chapter4 Task2　動物がテーマの問題（p.140～149）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

主張を明確にし、賛成・反対の視点を整理しましょう。根拠を一文で示すと説得力が増します。
　後に結論で立場を再確認してください。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 40 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「バラの香り」）
・IELTS ライティング　Task2　ロボットがテーマの問題</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

ロボットをテーマにした Task2 で「社会的影響を論理的に展開する方法」を理解する</td></tr>
<tr><td>［今日の学習内容］

語彙（20 分）演習（40 分）</td><td colspan="2">［今日の重要用語・キーワード］

pose a major threat boost the
economy massive breakdown
steal confidential information
take precautions
evolve and benefit humanity</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS 英単語　PART1「バラの香り」（p.162）
・IELTS ライティング完全対策　Chapter4 Task2 ロボットがテーマの問題（p.150～159）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

ロボットの利点と課題をバランスよく提示しましょう。段落ごとに一つの視点に絞ると論理が整理されます。 後に結論で全体の立場を簡潔にまとめてください。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 41 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「ビール製造の歴史」）
・IELTS ライティング　Task2　テクノロジーがテーマの問題</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

テクノロジーをテーマにした Task2 で「利点と課題を論理的に展開する方法」を理解する</td></tr>
<tr><td>［今日の学習内容］

語彙（20 分）演習（40 分）</td><td colspan="2">［今日の重要用語・キーワード］

gain popularity
advantages and disadvantages
cut off relationships discern
identity
stick to the traditional style face-to-face interaction
build long and strong relationships</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS 英単語　PART1「ビール製造の歴史」（p.166）
・IELTS ライティング完全対策　Chapter4 Task2　テクノロジーがテーマの問題（p.160～169）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

テクノロジーの影響を肯定面と否定面に分けて整理しましょう。段落ごとに一つの視点に絞ると論理が明確になります。 後に結論で全体の立場を簡潔にまとめてください。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 42 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「ガイ・フォークス」）
・IELTS ライティング　Task2　健康がテーマの問題</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

健康をテーマにした Task2 で「社会的視点から論理展開する方法」を理解する</td></tr>
<tr><td>［今日の学習内容］

語彙（20 分）演習（40 分）</td><td colspan="2">［今日の重要用語・キーワード］

be held responsible for
provide financial support
innate health problems
vulnerable to sickness
remote area infectious
disease protect the well-
being at an affordable
price
medical expenses</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS 英単語　PART1「ガイ・フォークス」（p.170）
・IELTS ライティング完全対策　Chapter4 Task2　健康がテーマの問題（p.170～181）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

健康問題は個人と社会の両面から論じると説得力が増します。根拠を一文で示す習慣をつけましょう。 後に結論で立場を再確認してください。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 43 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「巨大空港」）
・IELTS ライティング　Task2　環境がテーマの問題</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

環境をテーマにした Task2 で「持続可能性の観点から論理展開する方法」を理解する</td></tr>
<tr><td>［今日の学習内容］

語彙（20 分）演習（40 分）</td><td colspan="2">［今日の重要用語・キーワード］

pros and cons sustain
industries release toxic
gases run out
inexhaustible renewable
energy environmentally
friendly
for following generations</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS 英単語　PART1「巨大空港」（p.174）
・IELTS ライティング完全対策　Chapter4 Task2　環境がテーマの問題（p.182～191）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

環境問題は原因と影響を整理してから解決策を提示しましょう。段落ごとに一つの視点に絞ると論理が整理されます。 後に結論で全体の立場を簡潔にまとめてください。</td></tr>
</table>

2年次コマシラバス		
［科目名］ 留学前プログラム		第 44 回（全 56 回）
［学科　または　コース名］ ～学科	［学年］ 2年次	［担当教員］ ～
［今日のテーマ］ ・語彙（IELTS 英単語「英仏海峡トンネル」） ・IELTS スピーキング　Introduction		
［今日の目標］ IELTS スピーキングの試験構成を理解し、自己紹介や基本的な質問に自然に答えられるようにする		
［今日の学習内容］ 語彙（20 分）演習（40 分）	［今日の重要用語・キーワード］ Part 1：身近な話題 Part 2：トピックカードに基づく 1～2 分間のスピーチ Part 3：Part 2 に関連した抽象的・発展的な質問への回答流暢さと一貫性語彙力 文法の正確さと多様性発音	
［“今日の学習内容”の記載箇所］ IELTS 英単語　PART1「英仏海峡トンネル」（p.178） IELTS スピーキング完全対策　Introduction（p.8～22）		
［授業に参加する学生へのアドバイス］ 自己紹介では名前・出身・趣味などを簡潔に述べましょう。短く自然な文を心がけると流暢さが出ます。 後に一文で自分の特徴をまとめると印象が良くなります。		

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 45 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「イギリス人の外国語習得」）
・IELTS スピーキング　Warming Up（1～10）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

Warming Up を通じて、短く即答できる力を養う</td></tr>
<tr><td>［今日の学習内容］

語彙（20 分）演習（40 分）</td><td colspan="2">［今日の重要用語・キーワード］

SV
SVC SVO
SVOO SVOC
現在形過去形
完了形未来形
助動詞練習</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS 英単語　PART1「イギリス人の外国語習得」（p.182）
・IELTS スピーキング完全対策　Warming Up（1～10）（p.24～43）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

短い質問にはシンプルに答え、必要なら一文追加して広げましょう。接続詞を使うと自然な流れが生まれます。 後に自分の答えを一文で要約すると整理しやすいです。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 46 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「グレートバリアリーフ」）
・IELTS スピーキング　Warming Up（11～20）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

Warming Up を通じて、日常的な質問に即答できる力をさらに強化する</td></tr>
<tr><td colspan="2">［今日の学習内容］

語彙（20 分）演習（40 分）</td><td>［今日の重要用語・キーワード］

Should / Must / Have to
Infinitives
Gerunds
Countable / Uncountable Nouns
Adjectives / Adverbs
Conjunctions
Passive
Comparison
Relative Clause
Subjunctive Mood</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］
・IELTS 英単語　PART1「グレートバリアリーフ」（p.186）
・IELTS スピーキング完全対策　Warming Up（11～20）（p.44～63）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］
質問にはまずシンプルに答え、その後に理由や具体例を加えると自然です。短い答えを広げる練習をすると流暢さが増します。 後に自分の意見を一文でまとめる習慣をつけましょう。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 47 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・語彙（IELTS 英単語「睡眠の大切さ」）
・IELTS スピーキング　1. Study（学習）［リハーサル面接動画対応］</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

学習に関する質問に対して、理由や具体例を挙げながら答える力を養う</td></tr>
<tr><td colspan="2">［今日の学習内容］

語彙（20 分）演習（40 分）</td><td>［今日の重要用語・キーワード］

major in / specialise in / read など「専攻する」表現を習得
get distracted, get stressed など「get+過去分詞」の口語表現を活用
recall, memorise, learn by heart, slip my mind など「記憶」に関する表現
tons of ~
move on</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS 英単語　PART1「睡眠の大切さ」（p.190）
・IELTS スピーキング完全対策　1. Study（学習）［リハーサル面接動画対応］（p.68～83）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］
学習テーマでは自分の経験を具体例として答えると説得力が増します。理由を一文で示す習慣をつけましょう。 後に結論で意見を簡潔にまとめてください。</td></tr>
</table>

2年次コマシラバス		
［科目名］ 留学前プログラム		第 48 回（全 56 回）
［学科　または　コース名］ ～学科	［学年］ 2年次	［担当教員］ ～
［今日のテーマ］ ・語彙（IELTS 英単語「シェイクスピア」） ・IELTS スピーキング　2.Work（仕事）		
［今日の目標］ 仕事に関する質問に対して、意見と根拠をバランスよく述べる力を養う		
［今日の学習内容］ 語彙（20 分）演習（40 分）	［今日の重要用語・キーワード］ 短い回答＋理由付け 1 分間でメモを取り、2 分間スピーチ have general knowledge gain knowledge and insight have intimate knowledge of A pass knowledge to the next generation	
［“今日の学習内容”の記載箇所］ ・IELTS 英単語　PART1「シェイクスピア」（p.194） ・IELTS スピーキング完全対策　2.Work（仕事）（p.84～97）		
［授業に参加する学生へのアドバイス］ 仕事テーマでは利点と課題を整理して答えると論理が明確になります。段落ごとに一つの視点に絞りましょう。 後に結論で全体の立場を簡潔にまとめてください。		

2年次コマシラバス		
[科目名] 留学前プログラム		第 49 回(全 56 回)
[学科 または コース名] ～学科	[学年] 2年次	[担当教員] ～
[今日のテーマ] ・語彙(IELTS 英単語「リチャード三世」) ・IELTS スピーキング 3. Family(家族)		
[今日の目標] 家族に関する質問に対して、個人的経験を交えて答える力を養う		
[今日の学習内容] 語彙(20 分)演習(40 分)	[今日の重要用語・キーワード] 特定の家族について「関係性＋頻度＋活動＋理由」を組み合わせて説明する感情的な表現(尊敬、感謝、楽しさ)を加える利点と欠点 抽象的な議論に具体例を加えて深みを出す	
["今日の学習内容"の記載箇所] ・IELTS 英単語 PART1「リチャード三世」(p.198) ・IELTS スピーキング完全対策 3. Family(家族)(p.98～111)		
[授業に参加する学生へのアドバイス] 家族テーマでは自分の体験を具体的に述べると自然さが出ます。理由を一文で示すと説得力が増します。 後に全体の意見を簡潔にまとめてください。		

2年次コマシラバス		
［科目名］ 留学前プログラム		第 50 回（全 56 回）
［学科　または　コース名］ ～学科	［学年］ 2年次	［担当教員］ ～
［今日のテーマ］ ・語彙（IELTS 英単語「組織市民行動」） ・IELTS スピーキング　4. Hometown（故郷）		
［今日の目標］ 故郷に関する質問に対して、特徴や魅力を具体的に説明する力を養う		
［今日の学習内容］ 語彙（20 分）演習（40 分）	［今日の重要用語・キーワード］ hometown rural area community neighbourhood industry landscape tourist attractions traditional temples　rural landscape maximise the potential of ~ futuristic appearance	
［“今日の学習内容”の記載箇所］ ・IELTS 英単語　PART1「組織市民行動」（p.202） ・IELTS スピーキング完全対策　4. Hometown（故郷）（p.112～125）		
［授業に参加する学生へのアドバイス］ 故郷の特徴を一つ選び、理由と具体例を添えて説明しましょう。接続詞を使うと流れが自然になります。 後に全体の印象を一文でまとめてください。		

2年次コマシラバス		
[科目名] 留学前プログラム		第 51 回(全 56 回)
[学科 または コース名] ～学科	[学年] 2年次	[担当教員] ～
[今日のテーマ] ・語彙(IELTS 英単語「ウィキペディア」) ・IELTS スピーキング 5. Accommodation(住まい)		
[今日の目標] 住まいに関する質問に対して、特徴や利点を具体的に説明する力を養う		
[今日の学習内容] 語彙(20 分)演習(40 分)	[今日の重要用語・キーワード] house flat apartment condominium bungalow shared flat numerous panoramic view self- sustainable solar panels emissions	
["今日の学習内容"の記載箇所] ・IELTS 英単語 PART1「ウィキペディア」(p.206) ・IELTS スピーキング完全対策 5. Accommodation(住まい)(p.126～137)		
[授業に参加する学生へのアドバイス] 住まいの特徴を一つ選び、理由と具体例を添えて説明しましょう。接続詞を使うと流れが自然になります。 後に全体の印象を一文でまとめてください。		

<table>
<tr><td colspan="3">2年次コマシラバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">［科目名］

留学前プログラム</td><td>第 52 回（全 56 回）</td></tr>
<tr><td>［学科　または　コース名］

～学科</td><td>［学年］

2年次</td><td>［担当教員］

～</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日のテーマ］

・IELTS リーディング総合演習</td></tr>
<tr><td colspan="3">［今日の目標］

IELTS リーディングの設問タイプを総合的に復習し、解答根拠を明示できるようにする</td></tr>
<tr><td>［今日の学習内容］

模擬リーディング演習（60 分）</td><td colspan="2">［今日の重要用語・キーワード］

3 セクション、約 40 問、60 分時間
配分スキミング（概要把握）
スキャニング（情報検索）</td></tr>
<tr><td colspan="3">［“今日の学習内容”の記載箇所］

・IELTS ブリティッシュ・カウンシル公認　本番形式問題3回分</td></tr>
<tr><td colspan="3">［授業に参加する学生へのアドバイス］

設問ごとに根拠を必ず確認しましょう。本文の該当箇所を一文で示す習慣をつけてください。
後に全体の解答戦略をまとめると効果的です。</td></tr>
</table>

2年次コマシラバス		
[科目名] 留学前プログラム		第 53 回(全 56 回)
[学科 または コース名] ～学科	[学年] 2年次	[担当教員] ～
[今日のテーマ] ・IELTS リスニング総合演習		
[今日の目標] IELTS リスニングの設問タイプを総合的に復習し、聞き取り根拠を明示できるようにする		
[今日の学習内容] イントロダクション(5 分)模擬テスト実施 (30 分)解答転記(10 分) 振り返り(15 分)	[今日の重要用語・キーワード] 聞き取り戦略(予測、キーワード把握)スペル・文法の正確さ ノートテイキングの工夫(略語・記号)	
["今日の学習内容"の記載箇所] ・IELTS ブリティッシュ・カウンシル公認 本番形式問題3回分		
[授業に参加する学生へのアドバイス] 音声の根拠を必ずメモに残しましょう。設問ごとに聞き取ったキーワードを一文で確認してください。 後に全体の聞き方を整理すると効果的です。		

2年次コマシラバス		
［科目名］ 留学前プログラム		第 54 回（全 56 回）
［学科　または　コース名］ ～学科	［学年］ 2年次	［担当教員］ ～
［今日のテーマ］ ・IELTS ライティング総合演習		
［今日の目標］ Task1 と Task2 を総合的に復習し、論理展開と語彙の多様性を確認する		
［今日の学習内容］ 模擬ライティング演習（60 分）	［今日の重要用語・キーワード］ 段落構成を明確に ask Achievement（課題達成度）と Coherence（論理性）を確認 Task 1（20 分）：図表・データの要約 Task 2（20 分）：意見論述エッセイ語数不足は減点対象 接続詞や段落構成を意識	
［“今日の学習内容”の記載箇所］ ・IELTS ブリティッシュ・カウンシル公認　本番形式問題3回分		
［授業に参加する学生へのアドバイス］ 構成を先に決めてから書き始めましょう。接続詞を使って論理の流れを明示してください。 後に結論で立場を簡潔に示すと効果的です。		

2年次コマシラバス		
［科目名］ 留学前プログラム		第 55 回（全 56 回）
［学科　または　コース名］ ～学科	［学年］ 2年次	［担当教員］ ～
［今日のテーマ］ ・IELTS スピーキング総合演習		
［今日の目標］ Part1～Part3 を総合的に復習し、流暢さと一貫性を確認する		
［今日の学習内容］ イントロダクション（5 分）模擬テスト実施（35 分） フィードバック（20 分）	［今日の重要用語・キーワード］ Fluency（流暢さ）と Coherence（論理性）を確認 Part 1（10 分）：日常的な質問に答える練習 Part 2（10 分）：カードに基づくスピーチ練習 Part 3（15 分）：抽象的テーマでのディスカッション 長く話すことよりも「明確に答える」 接続詞や例示を使って会話を広げる	
［“今日の学習内容”の記載箇所］ ・IELTS ブリティッシュ・カウンシル公認　本番形式問題3回分		
［授業に参加する学生へのアドバイス］ 質問にはまずシンプルに答え、その後理由や例を加えましょう。流暢さを意識して短い答えを広げる練習をしてください。 後に自分の意見を一文でまとめると整理しやすいです。		

2年次コマシラバス		
[科目名] 留学前プログラム		第 56 回(全 56 回)
[学科 または コース名] ～学科	[学年] 2年次	[担当教員] ～
[今日のテーマ] ・総括		
[今日の目標] IELTS の全技能を総合的に確認し、弱点を明確にする		
[今日の学習内容] イントロダクション(5 分)リスニング復習(10 分)リーディング復習(10 分)ライティング復習(15 分)スピーキング復習(15 分)まとめ(5 分)	[今日の重要用語・キーワード] 復習重視各技能の採点基準に沿って見直し改善点を次回学習に結びつける	
["今日の学習内容"の記載箇所] ・IELTS ブリティッシュ・カウンシル公認 本番形式問題3回分 ・過去教材全般		
[授業に参加する学生へのアドバイス] 模試後は得点だけでなく解答過程を振り返りましょう。各技能で改善すべき点を一文で整理すると次の行動が明確になります。 後に学習計画を具体的に立て直すことで成果につながります。		

はじめに

令和 7 年度文部科学省委託事業・専修学校の国際化推進事業「沖縄県における保育士・介護福祉士グローバル人材育成オーストラリア留学促進事業」において、オーストラリアの職業専門学校への留学に必要な英語試験 IELTS スコア 5.5 以上を目指す必要があります。本教材は、「留学前プログラム（2 年目）」の学習内容を体系的に整理し、受講者が留学に必要な英語能力を段階的に身につけられるよう講師が講義にあたって注意すべき点を解説したものです。本プログラムでは、英語の基礎力を確実に固めながら、実際の留学生活や海外大学で求められるアカデミック英語力へと発展させることを目的としています。特に、リーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの 4 技能を総合的に伸ばすことを重視し、授業内外での学習量を確保しながら、実践的な課題に取り組む構成となっています。

シラバス全体の流れとしては、基礎文法・語彙の再確認と技能別の基礎固めを行い、最後に試験形式への慣れ、実践的なアウトプット、アカデミックタスクへの挑戦へと進みます。特に 2 年目では、1 年目で培った基礎力を土台に、より高度な英文読解、長文リスニング、エッセイライティング、ディスカッションなど、留学先で求められる実践的な課題に取り組む時間が増えます。

また、本プログラムの方針として「試験形式に慣れること」「十分な演習量を確保すること」を重視しています。英語力は短期間で劇的に伸びるものではなく、日々の積み重ねが成果に直結します。そのため、本教材では多様な課題や演習問題を扱い、受講者が自分の弱点を把握しながら、段階的にスコアアップを目指せる構成としています。

本教材が、受講者一人ひとりの学習を支え、留学先で自信を持って英語を使える力を育む一助となることを願っています。

教材の使い方

本教材は、授業内で扱うメイン教材を中心に構成されていますが、受講者の理解度や課題に応じて準教材を併用しながら学習を進めます。ここでは、教材および準教材の役割と使用方法について説明します。

1. メイン教材の使い方と学習方針

本教材は、留学に必要な英語力（IELTS スコア 5.5 以上）を総合的に伸ばすために、文法・語彙・リーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの各技能をバランスよく扱っています。授業では、まず新しい知識やスキルを導入し、その後、演習問題やタスクを通して理解を深める流れで進めます。

使用教材：

・IELTS ブリティッシュ・カウンシル公認　本番形式問題３回分
（出版：旺文社、発売日：2015 年 09 月 24 日）

・文脈で覚える IELTS 英単語
（出版：Ｇａｋｋｅｎ、発売日：2024 年 02 月 29 日）

・大学入試 世界一わかりやすい 英文読解の特別講座
（出版：KADOKAWA、発売日：2024 年 10 月 21 日）

・実践 IELTS 技能別問題集 リーディング
（出版：旺文社、発売日：2020 年 12 月 15 日）

・実践 IELTS 技能別問題集 リスニング
（出版：旺文社、発売日：2020 年 12 月 15 日）

・IELTS ライティング完全対策
（出版：アルク、発売日：2024 年 02 月 27 日）

・IELTS スピーキング完全対策
（出版：アルク、発売日：2024 年 02 月 27 日）

以下の点を重視します。

・試験形式に慣れること
　IELTS や各種英語試験の形式に慣れることで、実力を正確に発揮できるようになります。授業では試験形式の問題を多く扱い、時間配分や解答戦略も身につけます。

・演習量を確保すること
　英語力向上には反復練習が不可欠です。授業内外で十分な演習量を確保し、弱点を補強しながら実力を積み上げます。

2. 準教材の紹介と使用方法

本プログラムでは、受講者の理解度や課題に応じて、以下の準教材を併用します。準教材は、メイン教材で扱う内容を補強し、個々の弱点を効率よく改善するためのものです。

（ア）「わかるをつくる 中学英語 新装版」

（出版：Gakken、発売日：2024 年 02 月 29 日）

本教材の文法理解が難しい場合や、受講者の文法レベルを確認したい場合に使用します。特に、テキスト内にある「学習ポイント自己診断テスト」は、受講者が自分の文法知識を客観的に把握するのに非常に有効です。

使用方法としては以下の通りです。
・文法理解が追いつかない受講者に対して、該当する単元を抜粋して授業や宿題として使用
・自己診断テストを用いて文法レベルを確認し、弱点分野を特定
・不足している文法項目を重点的に復習し、メイン教材の理解を促進

この準教材は、基礎文法の抜け漏れを補い、学習の土台を強化する役割を担います。

（イ）「くもんの中学英語リスニング（中 1–3）」

（出版：くもん出版、発売日：2021 年 02 月 03 日）

リスニング力が不足している受講者に対して、能力の底上げを目的として使用します。特に、英語の音に慣れていない場合や、授業内のリスニング課題が難しいと感じる場合に効果的です。

使用方法は以下の通りです。
・宿題として定期的に取り組み、リスニング量を増やす
・基礎的な音声に繰り返し触れることで、英語の音・リズム・イントネーションに慣れる
・メイン教材のリスニング課題に取り組むための基礎力を養う

継続的に取り組むことで、リスニングの基礎体力がつき、授業で扱う高度な音声にも対応しやすくなります。

3. 準教材以外の教材の活用方針

準教材以外にも、授業では多様な教材を扱います。これらは、より実践的な英語力を身につけるために使用され、以下の方針に基づいて活用します。

・最新の知識や話題を取り入れる教材を使用し、実際の留学環境に近い学習を行う
・試験形式の問題を多く扱い、実践的なスキルを身につける
・演習量を確保し、反復練習を通して確実に力を伸ばす

これらの教材を網羅的に活用し、深く学習を進めることで、受講者は留学に必要な英語力を総合的に高めることができます。

Lesson 1: コース概要・初回レベルチェック（講師用）

使用教材:
IELTS ブリティッシュ・カウンシル公認　本番形式問題3回分
上記教材の過去問一つを使用

レッスン目的
・ 受講者の IELTS 基礎力を診断する。
・ 各技能の現状レベルを把握する。
・ 今後の学習計画に必要なフィードバック材料を収集する。

指導の流れ

イントロダクション（5 分）
・ 試験の流れを説明する。

リスニング（10 分）
・ 過去問 Part 1 を使用。
・ 音声を一度通しで再生し、設問に答えさせる。
・ 採点基準:正答率、集中度、メモ取りの様子。

リーディング（20 分）
・ 過去問のパッセージ 1 つを使用。
・ 設問回答後、理解度を確認。
・ 採点基準:正答率、文章理解の深さ、時間配分。

ライティング Task 1（20 分）
・ グラフや表を提示し、150 語程度で要約させる。
・ 採点基準:
・ Task Achievement（課題達成度）
・ Coherence & Cohesion（論理性・構成力）
・ Lexical Resource（語彙力）
・ Grammatical Range & Accuracy（文法力）

スピーキング（5分）
・ 自己紹介のみ。
・ 質問例:
・ What is your name?
・ Where are you from?
・ What are your hobbies?
・ Why are you studying English?
・ 採点基準:発音、流暢さ、語彙の幅。

フィードバック（残り時間）
・ 各技能の強みと改善点を簡潔に伝える。
・ 次回以降の学習方針を示す。

Lesson 1: コース概要・初回レベルチェック（生徒用）

試験案内

試験の目的
本試験は、皆さんの現在の英語力を確認し、今後の学習計画を立てるためのレベルチェックです。IELTSの過去問を使用し、リスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの4技能を簡易的に測定します。

試験の流れ：

リスニング（約 10 分）
・ Part 1（1 セクション、1 パッセージ）を使用します。
・ 日常的な会話や説明を聞き取り、設問に答えてください。

リーディング（約 20 分）
・ 1 パッセージのみを使用します。
・ 短い学術的文章を読み、設問に答えてください。

ライティング（約 20 分）
・ Task 1 のみを行います。
・ グラフや表を読み取り、150 語程度で要約・説明してください。

スピーキング（約 5 分）
・ 自己紹介を行います。
・ 名前、出身地、趣味、学習目的などを答えてください。

注意事項
・ 試験時間は合計で約 55 分です。
・ 辞書や参考書の使用は禁止です。
・ リスニングは録音音声を使用します。
・ 筆記用具を持参してください。

Lesson 2:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、「ポリネシアの発見」を題材に語彙を学び、世界史的知識を理解させること、そして「文型理解」を通じて辞書に頼らず意味を推測する力を習得させることです。「ポリネシアの発見」では探検の背景を簡単に紹介し、世界史的知識と結びつけて考えさせます。「新しい5文型の考え方」では、文型ごとの意味推測を演習形式で繰り返し習慣化させることが重要です。語彙解説を活用し、文脈から意味を推測する練習を促すことも効果的です。

語彙(IELTS 英単語「ポリネシアの発見」)

教材概要

「ポリネシアの発見」では、ポリネシア諸島の入植の起源をめぐる人類学的な疑問を背景に、探検家トール・ヘイエルダールのコンティキ号航海を紹介しています。語彙学習は、「colonise(入植する)」「dog(気をもませる)」「pioneer(先駆者)」「ancient(先史時代の)」「seafarer(船乗り)」「discover(発見する)」などが取り上げられています。さらに「lay ~ to rest(〜を解決する)」「dub(名づける)」といった表現も、コンティキ号の航海の描写を通じて自然に学べるようになっています。

主なポイント

- colonise, dog, pioneer, ancient, seafarer, discover などの重要語彙
- lay STH to rest(解決する)、dub(名づける)などの表現
- コンティキ号航海(101 日間・4300 海里)を題材にした語彙学習

英文読解特講 Section1 新しい5文型

教材概要

「新しい 5 文型の考え方」では、高校英語で最初に学ぶ文型を「動詞の意味理解」に直結させる新しいアプローチが示されています。第 1 文型は「いる／動く」、第 2 文型は「S=C」、第 3 文型は「S が O に影響を与える」、第 4 文型は「与える／奪う」、第 5 文型は「O に C させる／O が C だとわかる」といったように、文型ごとに動詞の意味が規定されることを強調しています。例えば「Time flies」や「The leaves turn red in fall」といった例文を通じて、辞書に頼らず文型から意味を推測する力を養成する構成になっています。

主なポイント

- 第 1 文型(SV)＝「いる／動く」
- 第 2 文型(SVC)＝「S=C」
- 第 3 文型(SVO)＝「S が O に影響を与える」
- 第 4 文型(SVOO)＝「与える／奪う」
- 第 5 文型(SVOC)＝「O に C させる／O が C だとわかる」
- 文型から意味を推測する習慣を育成

S → 主語
V → 動詞
O → 目的語
C → 補語

Lesson 3:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、語彙学習と構文理解を組み合わせて、学習者が文脈から意味を推測する力を育成することです。「プラスチックの歴史」では科学史と環境問題を題材に語彙を学び、英語学習を社会的背景と結びつけます。「構文の基礎」では、長い主語(S)や複雑な構文を体系的に整理し、読解力を底上げします。例文を用いた構造解析を繰り返し演習し、学習者に「予想と修正」の読み方を習慣化させることが重要です。サポートとしては、語彙リストや構文パターンのまとめ資料を提供し、学習者がつまずきやすい箇所を事前に解説するガイドラインを準備します。

語彙(IELTS 英単語「プラスチックの歴史」)

教材概要

「プラスチックの歴史」は、現代社会において最も便利な発明の一つであるプラスチックの起源と発展を紹介しています。紀元前 1500 年のアステカ人による天然ゴムの使用から始まり、中世の職人による動物の角の利用、1862 年のアレクサンダー・パークスによる「パークシン」、そして 1907 年の「ベークライト」に至るまでの流れを描いています。さらに、プラスチックの環境負荷への懸念と、生分解性プラスチックの登場にも触れています。語彙としては「arguably(おそらく)」「malleable(打ち延ばしのできる)」「variety of(様々な)」「synthetic(合成の)」などが取り上げられ、文脈の中で理解できるように構成されています。

主なポイント

- 紀元前 1500 年のアステカ人による天然ゴムの使用
- 中世の職人による動物の角の利用
- 1862 年の「パークシン」とその失敗
- 1907 年の「ベークライト」によるプラスチック時代の幕開け
- 環境負荷への懸念と生分解性プラスチックの登場
- 語彙学習:arguably, malleable, synthetic, impact, launch など

英文読解特講 Section2 構文の基礎

教材概要

「構文の基礎(テーマ 6〜10)」は、英文読解における構文把握の基礎を解説しています。従来の「S と V を確認する」だけの授業から一歩進み、長い S の見抜き方や関係詞・分詞・前置詞・形容詞による修飾、さらに接続詞 and の処理方法を体系的に学びます。具体的には「Participants who were shown the

complex shapes felt…」のような長い S の構造解析や、「Many of the scientific instruments sent into space…」のような過去分詞修飾の見抜き方、「Volunteers proficient at communicating…」の形容詞修飾、そして and が複数の要素を結ぶ場合の処理方法を扱っています。

主なポイント

- 長い S の 5 パターン（関係詞、分詞、前置詞+名詞、to 不定詞、形容詞）
- 関係詞を見たら 2 つめの V を予想する読み方
- 分詞修飾の過去形と過去分詞の見分け方
- 前置詞や形容詞による長い S の見抜き方
- 接続詞 and の直後に注目し、対等な品詞を探す方法
- 複数の and を処理する構造解析の手順

Lesson 4:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、歴史的題材を通じて語彙を学び、構文理解を通じて文脈から意味を推測する力を育成することです。「構文の基礎」では、従属接続詞や名詞節の判別を体系的に整理し、複雑な構文を正確に読み解く力を養います。例文を用いた構造解析を繰り返し演習し、学習者に「形から攻める」習慣を身につけさせることが重要です。サポートとしては、語彙リストや構文パターンのまとめ資料を提供し、学習者がつまずきやすい従属接続詞や長い S の判別について事前に解説するガイドラインを準備します。

語彙（IELTS 英単語「豪華客船タイタニック」）

教材概要

「豪華客船タイタニック」は、1912 年に沈没した世界で最も有名な難破船タイタニック号の歴史を紹介しています。出航時の新しい安全装備や救命ボート不足、船長が氷山警告を無視した経緯、そして衝突による 1,500 人の犠牲について描かれています。1985 年にフランス・アメリカの探索団が残骸を発見し、船体が半分に割れて劣化していることが確認されました。発見後は映画制作者と協力したトレジャーハンターによって多くの歴史的遺物が見つかっています。語彙としては「recover（回収する）」「depart（出発する）」「lack of（不足）」「in hindsight（後に分かったのは）」「remains（遺物）」などが取り上げられています。

主なポイント

- 1912 年の沈没と 1,500 人の犠牲
- 救命ボート不足と氷山警告の無視
- 1985 年の残骸発見と船体の劣化
- 映画制作者と協力した遺物の発見
- 語彙学習：recover, depart, lack of, in hindsight, remains など

英文読解特講 Section2 構文の基礎（テーマ 11～15）

教材概要

「構文の基礎（テーマ 11～15）」は、従属接続詞や名詞節を作る接続詞の判別を中心に、英文読解力を高める教材です。従属接続詞 once の副詞節の扱い、because if の複合構造、whether/if/that による名詞節の判別、that 節が S になるパターンなどを解説しています。具体的には「Once you understand the rule, you will have no further difficulty.」や「Whether Shakespeare wrote this poem or not will remain a mystery.」などの例文を用いて、形から意味を判別する方法を学びます。

主なポイント

- 従属接続詞 once の副詞節構造（Once sv, SV.）
- because if の複合構造の予想と解釈
- whether/if/that が名詞節を作る場合の判別方法
- that 節が S になる長い S の見抜き方
- 名詞節と副詞節の違いを「形から」判別する習慣

Lesson 5:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、ユニークな歴史的事例を通じて語彙を学び、強調構文や倒置の理解を深めることです。「アイダホのビーバー」では、ビーバー移送のユニークな方法を紹介し、学習者の興味を引きつけながら語彙を定着させます。「強調構文と倒置」では、強調構文の基本形や頻出パターンを体系的に整理し、学習者が「形から即断する」習慣を身につけることを目指します。授業運営においては、例文を用いた構造解析を繰り返し演習し、学習者に「強調構文を見抜く目」を養わせることが重要です。サポートとしては、語彙リストや強調構文のまとめ資料を提供し、学習者が混乱しやすいパターンを事前に解説するガイドラインを準備します。

語彙（IELTS 英単語「アイダホのビーバー」）

教材概要

「アイダホのビーバー」は、北米の河川に生息するビーバーが人間の生活圏に侵入し、住居や土地に被害を与える問題を背景に、1948 年に行われたユニークな移送計画を紹介しています。猟区管理人たちは、第二次世界大戦で余ったパラシュートを利用し、飛行機からビーバーを投下するという方法を考案しました。最初の試験では Geronimo と名付けられたオスのビーバーが成功し、その後メスのビーバーも加わり新しい生活を始めました。語彙としては「overpopulated（人口過剰の）」「encroach on（侵害する）」「instinct（本能）」「relocate（移す）」「unique（独自の）」などが取り上げられています。

主なポイント

- ビーバーの過剰繁殖と人間生活への影響
- 1948 年の移送計画と Chamberlain Basin の環境条件
- パラシュートを用いた独自の移送方法
- Geronimo の成功例と新生活の開始
- 語彙学習：overpopulated, encroach on, instinct, relocate, unique など

英文読解特講 Section3 強調構文と倒置（テーマ 16～19）

教材概要

「新しい強調構文と倒置の考え方（テーマ 16～19）」は、強調構文と倒置の仕組みを理解させる教材です。従来の「It is と that を隠す」方法ではなく、筆者の意図や心理を踏まえた解説を行います。強調構文の基本形「It is not A but B that ~」や頻出パターン、即断法を学び、さらに副詞や副詞句を強調する構文、until 構文、疑問詞を含む強調構文などを扱います。例文として「It is not what you have, but what you

are that matters.」「It was not until I climbed that mountain that I knew the pleasure of mountain-climbing.」などが提示され、強調構文を一瞬で見抜く力を養います。

主なポイント

- 強調構文の基本形と頻出パターン（It is not A but B that ~）
- 即断法：It is not ~ that … や It is only ~ that … を見たら強調構文
- It was not until ~ that … の成り立ちと訳し方
- 副詞や副詞句を強調する構文の判別方法
- 疑問詞を含む強調構文の理解

Lesson 6:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、脳科学的な題材を通じて語彙を学び、強調構文や倒置の理解を深めることです。「どうしてダンスが好き？」では、音楽と動きの調和や予測不能な要素が快楽を生む仕組みを紹介し、学習者の興味を引きつけながら語彙を定着させます。「強調構文と倒置」では、文型ごとの倒置パターンや否定語による強制倒置を体系的に整理し、学習者が「形から即断する」習慣を身につけることを目指します。例文を用いた構造解析を繰り返し演習し、学習者に「倒置を見抜く目」を養わせることが重要です。サポートとしては、語彙リストや倒置構文のまとめ資料を提供し、学習者が混乱しやすいパターンを事前に解説するガイドラインを準備します。

語彙（IELTS 英単語「どうしてダンスが好き？」）

教材概要

「どうしてダンスが好き？」は、人間がダンスを好む理由を脳科学的に説明する教材です。音楽が脳の報酬系を刺激し、ドーパミンを生成して快楽をもたらすこと、他者の動きを予測して模倣することが大脳皮質を刺激すること、さらに予測できない動きに対しても強い興奮を覚えることが解説されています。これらの要素が組み合わさることで、ダンスが人々に強い魅力を持つ理由が明らかになります。語彙としては「stimulate（刺激する）」「uncertainty（不確かさ）」「theory（説）」「cortex（大脳皮質）」「dopamine（ドーパミン）」などが取り上げられています。

主なポイント

- 音楽が脳の報酬系を刺激し、ドーパミンを生成する
- 他者の動きを予測・模倣することで快楽中枢が活性化する
- 予測できない動きに対しても強い興奮を覚える
- ダンスは音楽と動きの調和を楽しむ行為
- 語彙学習：stimulate, uncertainty, theory, cortex, dopamine など

英文読解特講 Section3 強調構文と倒置（テーマ 20～25）

教材概要

「新しい強調構文と倒置の考え方（テーマ 20～25）」は、倒置構文の全パターンと強調構文の応用を体系的に解説する教材です。任意倒置では文型ごとにパターンが決まっており、第 1 文型の MVS、第 2 文型の CVS、第 3 文型の OSV、第 4 文型の O_2SVO_1、第 5 文型の SVCO などを扱います。強制倒置では「文頭の否定語→倒置」のパターンを分析し、rarely や only などの否定語が文頭に来た場合の語順変化を解説します。例文として「In the heart of New York City lies a narrow street…」「So beautiful was the sunset that…」「Rarely have I met such a wonderful boy」などが提示され、倒置を見抜く力を養います。

主なポイント

- 倒置には「任意倒置」と「強制倒置」の 2 種類がある
- 任意倒置は文型ごとに決まったパターン（MVS, CVS, OSV, O_2SVO_1, SVCO）
- 強制倒置は文頭の否定語により疑問文の語順になる
- 「not until ~」「only then」など副詞が割り込むパターンが頻出
- 倒置の訳し方は「元の語順に戻す」か「倒置語順で訳す」の 2 通り

Lesson 7:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、AI による芸術の事例を通じて語彙を学び、芸術の価値や人間の役割について考えさせること、そして第 1 文型の特殊な構造を理解させることです。「AI による芸術」では、芸術の価値や希少性の議論を取り上げます。「特殊な第 1 文型」では、倒置や同格の that、There is 構文の役割を体系的に整理し、学習者が文構造を正しく見抜ける力を養います。例文を用いた構造解析を繰り返し演習し、学習者に「形から即断する」習慣を身につけさせることが重要です。サポートとしては、語彙リストや構文パターンのまとめ資料を提供し、学習者が混乱しやすいパターンを事前に解説するガイドラインを準備します。

語彙（IELTS 英単語「AI による芸術」）

教材概要

「AI による芸術」は、人工知能が芸術作品や音楽を創造する可能性を取り上げた教材です。Rutgers 大学の科学者たちは AI を用いて絵画や音楽を一から生成し、一般人の 75%が人間の芸術家によるものと信じるほどの説得力を持つ作品を生み出しました。AI による音楽も、場当たり的な音符の集まりではなく、実際に旋律を持つものとして提示されています。この進歩は二つの問題を提起します。第一に、コンピュータが作った芸術の真の価値は何か。希少性が価値を生むのであれば、複製可能な AI 作品はどう評価されるのか。第二に、芸術家が不要になるのではないかという懸念です。芸術は自動化による失業から人間を守る最後の領域と考えられてきましたが、その安全性も揺らぎつつあります。語彙としては「perspective（見方）」「interpret（解釈する）」「credible（もっともらしい）」「scarcity（希少性）」「redundant（不要になる）」などが取り上げられています。

主なポイント

- AI が絵画や音楽を一から生成できるようになった
- 一般人の 75%が AI 作品を人間の作品と誤認した
- AI 音楽は旋律を持ち、革新的な表現が可能
- 芸術の価値は希少性に基づくが、AI 作品は複製可能
- 芸術家が不要になる可能性への懸念
- 語彙学習：perspective, interpret, credible, scarcity, redundant など

英文読解特講 Section4 特殊な第1文型

教材概要

「特殊な第 1 文型」は、大学入試で頻出する第 1 文型の変形パターンを解説する教材です。特に「the fact remains that ~」や「There is 構文」の正しい理解を扱います。第 1 文型の変形では、同格の that や関係副詞が S の説明として後ろに移動するパターンが多く見られます。例えば「The time will come when you will travel to the moon」のように、S の説明が後ろに置かれることで強調が生まれます。また、There is 構文は新情報を提示する目印であり、MVS という倒置の形を取ります。さらに「There being ~」の形は分詞構文や動名詞として使われ、文脈に応じて副詞的または名詞的に機能します。

主なポイント

- the fact remains that ~ は第 1 文型の変形パターン
- S の説明は同格の that や関係副詞で後ろに移動する
- There is 構文は新情報提示の目印であり MVS の倒置形
- There used to be ~ は「昔は〜があった」という意味
- There being ~ は分詞構文（副詞的）または動名詞（名詞的）として機能
- 語法の整理：think 型動詞（think/dream/complain）と組み合わせて理解

Lesson 8:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、学校広告の事例を通じて語彙を学び、教育理念を理解させること、そして語彙を「因果表現」「イコール表現」「重要性」といった文脈的な意味で捉える力を育てることです。「才能あふれる子供たちへの学校広告」では、自立心や創造性を育む教育方針を紹介し、学習者に「教育理念を英語で説明できる力」を養わせます。「語彙から真の読解へ」では、因果表現やイコール表現を矢印や定義として理解させ、学習者が英文を論理的に読み解く力を身につけることを目指します。例文を用いた構造解析を繰り返し演習し、学習者に「語彙を文脈で即断する習慣」を身につけさせることが重要です。サポートとしては、因果表現・イコール表現・重要語彙のまとめ資料を提供し、学習者が混乱しやすい箇所を事前に解説するガイドラインを準備します。

語彙（IELTS 英単語「才能あふれる子供たちへの学校広告」）

教材概要

「才能あふれる子供たちへの学校広告」は、全寮制の学校が才能ある子供たちの成長を促すために掲げる教育方針を紹介しています。学校は「過保護にしない」「自立心を育てる」ことを重視し、子供たちに自分のベッドを整えたり食事を作ったりする習慣を身につけさせます。これにより自己能力への信頼が高まり、仲間に頼ることで強い絆を持つ友人関係を築きます。また、試行錯誤を通じてノウハウを獲得し、予測できない結果から創造性を磨きます。さらに、感情をスポーツなどの建設的な活動に向けるよう指導します。学校は人気が高く、キャンセル待ちが百単位に達しているため、早めの申込を推奨しています。社会的に困難な家庭には補助金も提供されます。語彙としては「gifted（才能ある）」「blueprint（計画）」「self-reliance（自立）」「trial and error（試行錯誤）」「inventiveness（創造性）」などが取り上げられています。

主なポイント

- 子供を過保護にせず、自立心を育成する方針
- 自分でベッドを整え食事を作る習慣を通じて自信を育む
- 仲間に頼り、強い絆で結ばれた友人関係を形成
- 試行錯誤を通じてノウハウを獲得し、創造性を磨く
- 感情をスポーツなど建設的な活動に向ける指導
- 人気校であり、申込は早めに必要。社会的困難な家庭には補助金あり
- 語彙学習：gifted, blueprint, self-reliance, trial and error, inventiveness など

英文読解特講 Section5 語彙から真の読解へ

教材概要

「語彙から真の読解へ」は、単語の意味を単なる訳語ではなく「因果関係」や「イコール表現」として理解することで、英文読解力を高める教材です。因果表現では cause, lead to, result in, contribute to などを「原因→結果」の矢印で捉え、受動態でも因果関係を即座に把握できるようにします。イコール表現では involve, refer to, mean などを「～を意味する」と理解し、定義文や説明文を読み解く力を養います。また、「重要な」という意味を持つ形容詞（significant, crucial, essential など）や動詞（matter, count）をまとめて学び、筆者の主張を見抜く力を強化します。

主なポイント

- 因果表現を「原因→結果」の矢印で理解する
- contribute to ~ を「貢献する」だけでなく「結果につながる」と捉える
- contribute to ~ を「イコール表現」として理解し、定義文を読み解く
- 「重要な」を意味する形容詞（crucial, essential, significant など）を整理
- 動詞 matter, count を「重要だ」として理解する
- 語彙を文脈に即して「真の読解」に活用する方法を習得

Lesson 9:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、未来技術の事例を通じて語彙を学び、文法を「形から」判別する力を育てることです。「ハイパーループ」では、技術革新と社会的課題を紹介し、学習者に「技術と社会の関係」を考えさせます。「まぎらわしい文法の判別」では、不定詞・動名詞・分詞構文・as の用法を体系的に整理し、学習者が「文法を即断する」習慣を身につけることを目指します。例文を用いた構造解析を繰り返し演習し、学習者に「形から攻める」思考を定着させることが重要です。サポートとしては、語彙リストや文法判別のまとめ資料を提供し、学習者が混乱しやすいパターンを事前に解説するガイドラインを準備します。

語彙（IELTS 英単語「ハイパーループ」）

教材概要

「ハイパーループ」は、サンフランシスコからロサンゼルスまで 30 分以内で移動できる未来型鉄道計画を紹介する教材です。ネットビジネスで一夜にして成功した有名な起業家が資金を投じ、磁石を利用してポッドをチューブ内で高速移動させる画期的な技術を開発しました。記録破りの速さで目的地に到達できる一方で、課題も存在します。最大の問題はコスト削減と安全性の確保です。料金が法外に高いことに加え、現状では緊急時に十分な減速ができず、カリフォルニア州の安全基準を満たしていません。さらに、地元政府を説得して認可を得るまでには長い時間がかかると予想されます。語彙としては「entrepreneur（起業家）」「ground-breaking（画期的な）」「stumbling block（障害）」「exorbitant（法外な）」「decelerate（減速する）」などが取り上げられています。

主なポイント

- サンフランシスコ～ロサンゼルス間を 30 分以内で結ぶ未来型鉄道計画
- 起業家による資金提供と磁石を用いた高速移動技術
- 記録破りの速さで目的地に到達可能
- 課題：コスト削減、安全基準の遵守、緊急時の減速問題
- 地元政府の認可が必要で、長期的な遅延が予想される
- 語彙学習：entrepreneur, ground-breaking, stumbling block, exorbitant, decelerate など

英文読解特講 Section6 まぎらわしい文法の判別

教材概要

「まぎらわしい文法の判別」は、不定詞や-ing 形、as の用法など、受験生が混乱しやすい文法を「形から」判別する方法を解説する教材です。文頭の To 不定詞は S になる場合は名詞的用法、余分なカタマリなら副詞的用法と判断します。文頭の-ing は S になるなら動名詞、ならない場合は分詞構文です。さらに、接続詞 as は「同時」という根底の意味から派生し、比例・様態・理由・譲歩などを文脈と動詞の種類（比較級、変化動詞、移動動詞、反復表現など）で判別します。例文として「To keep early hours is good for the health.」「Learning to write means growing into a more complex person.」「As time passed, things seemed to get worse.」「Spiders weave complex webs … just as humans use complex language.」などが提示され、文法を形から即断する力を養います。

主なポイント

- 文頭の To 不定詞：S になる→名詞的用法、ならない→副詞的用法
- 文頭の-ing：S になる→動名詞、ならない→分詞構文
- as の判別：すべて「同時」から派生、比例・様態・理由・譲歩などを形で見抜く
- 様態の as は反復・代動詞・省略が目印、just/much/so が付く場合は様態を強調
- 文法を「訳」ではなく「形」から判別する習慣を身につける

Lesson 10:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、教育史上の人物の事例を通じて語彙を学び、文法を「構造理解」から即断する力を育てることです。「マリア・モンテッソーリの生涯」では、女性教育者の挑戦と教育理念を紹介し、学習者に「教育の意義を英語で説明できる力」を養わせます。「文法から真の読解へ」では、比較・受動態・仮定法を体系的に整理し、学習者が「公式暗記ではなく構造から即断する」習慣を身につけることを目指します。例文を用いた構造解析を繰り返し演習し、学習者に「形から攻める」思考を定着させることが重要です。サポートとしては、文法判別のまとめ資料を提供し、学習者が混乱しやすいパターンを事前に解説するガイドラインを準備します。

語彙（IELTS 英単語「マリア・モンテッソーリの生涯」）

教材概要

「マリア・モンテッソーリの生涯」は、近代教育に大きな影響を与えた女性教育者の人生を紹介する教材です。モンテッソーリ（1870–1952）は、子供たちが適切な教育を受ける権利のために生涯を捧げました。名家に生まれ、父の承認を得て医師を志しましたが、当時女性が医学部に進むことは慣習への挑戦であり、唯一の女性学生として大きな反発を受けました。それでも彼女は驚異的な記憶力と粘り強さで優秀な成績を収めました。フィレンツェで貧しい子供たちと関わる中で「子供は生まれつき学びたいという欲求を持つ」という理論を打ち立て、強制ではなく自主性を重視する教育法を確立しました。これが「モンテッソーリ教育」であり、「学ぶことへの愛・自立・責任」を強調するものでした。この方法は世界中で採用され、模倣されるようになりました。第二次世界大戦中には自由と平和を擁護したためムッソリーニのファシストと衝突し、インドに亡命して戦後まで滞在しました。その後の教育界への影響は広範囲に及び、現在も高い評価を受けています。

主なポイント

- 女性医師として慣習に挑戦し、反発を受けながらも優秀な成績で卒業
- 「子供は生まれつき学びたい」という理論を提唱
- 「モンテッソーリ教育」＝学ぶことへの愛・自立・責任を強調
- 世界中で採用・模倣される教育法となった
- 戦後も教育界に広範な影響を与え、正当な評価を受け続けている

英文読解特講 Section7 文法から真の読解へ（テーマ 37～40）

教材概要

「文法から真の読解へ（テーマ 37〜40）」は、比較・受動態・仮定法などを「公式暗記」ではなく「構造理解」から読解に活かす方法を解説する教材です。no more ~ than … の構文は「矢印 2 つ」で「全然〜でない／むしろ反対」と「…と同じくらい」の両方を理解することが重要です。受動態は「〜される」と訳すのではなく、能動態に戻して主語や by 句の強調を見抜くことがポイントです。仮定法は if 節に頼らず、助動詞の過去形（would/could など）を目印にし、if 省略による倒置や副詞句・名詞句による代用表現を理解します。

主なポイント

- no more ~ than … は「矢印 2 つ」で即断（全然〜でない／…と同じくらい）
- 受動態は「〜される」ではなく能動態に戻して by 句を強調
- be followed by ~ は「矢印」で順位や順序を表す
- 仮定法は助動詞の過去形を目印にし、if 省略や倒置を見抜く
- if 節の代用表現（with/without、不定詞、副詞句、otherwise、A+名詞など）を理解

Lesson 11:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、嘘という人間行動を題材に語彙を学び、認知発達や社会的機能を理解させること、そして文法を「形から」判別して読解力を高めることです。「どうして人はウソをつくの？」では、進化心理学的な視点から嘘の役割を紹介し、学習者に「嘘の社会的機能」を英語で説明できる力を養わせます。「文法から真の読解へ」では、分詞構文や関係代名詞を体系的に整理し、学習者が「返り読みせずに構造から即断する」習慣を身につけることを目指します。例文を用いた構造解析を繰り返し演習し、学習者に「形から攻める」思考を定着させることが重要です。サポートとしては、嘘に関する語彙リストや文法判別のまとめ資料を提供し、学習者が混乱しやすいパターンを事前に解説するガイドラインを準備します。

語彙（IELTS 英単語「どうして人はウソをつくの？」）

教材概要

「どうして人はウソをつくの？」は、人間が嘘をつく行為を進化・認知科学的に説明する教材です。嘘は一見問題行為に見えますが、実は人間の脳が洗練されている証拠であり、言語能力を獲得した直後から人類は嘘をつき始めたと考えられています。暴力を使わずに人を操る能力は進化上の利点であり、巧妙な嘘をつける特質は世代を超えて受け継がれてきました。人が嘘をつく理由は多様です。集団内で立場を高めるために自分のイメージを誇張する場合もあれば、相手をなだめ傷つけないために「white lie（罪のない嘘）」を用いることもあります。さらに、子供が嘘をつけるようになることは成長の節目であり、認知力の発達を示す重要な指標です。トロント大学の研究では、2 歳児の 30%しか嘘をつけず、アイコンタクトを避けるなど明らかな兆候を示しましたが、8 歳になると嘘を隠すために別の嘘を重ねることができるようになります。この急激な変化は認知力の成熟を示し、子供が順調に成長している証拠とされています。

主なポイント

- 嘘は脳の高度な発達を示す証拠であり、進化上の利点を持つ
- 人は立場を高めるため、または相手をなだめるために嘘をつく
- 「white lie」は社会的緊張を和らげる役割を果たす
- 子供の嘘は認知力の発達を示す重要なマイルストーン
- 2 歳児は嘘が下手だが、8 歳になると洗練された嘘をつけるようになる
- 語彙学習：troubling, sophisticated, deceitful, manipulate, trait, milestone, cognition, maturity など

英文読解特講 Section7 文法から真の読解へ（テーマ 41～44）

教材概要

「文法から真の読解へ（テーマ 41～44）」は、分詞構文・関係詞などを「形から」理解し、長文読解に活かす方法を解説する教材です。分詞構文は「副詞のカタマリ」として扱い、位置によって「～して」「～で」「そして～」など適当に意味をつなぐのが本質です。関係代名詞は「形容詞節を作る」「後ろは不完全な文になる」という原則を押さえ、返り読みせず「代入法」で処理することで複雑な文もスムーズに読めます。さらに、関係代名詞の省略や不定詞の副詞的用法を見抜く力を養います。

主なポイント

- 分詞構文は「余分な-ing」で副詞的に処理し、位置によって訳し方を決める
- SV, leading to … のように「前の内容」が分詞構文の主語になるパターンを理解する
- 関係代名詞は「不完全な文」を探すことが基本
- 関係代名詞省略時は「名詞 SV」の形に注意
- 「代入法」で返り読みせずに関係詞を処理する
- 不定詞の副詞的用法を見抜き「～するために」と訳す

Lesson 12:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、動物の生態を題材に語彙を学び、環境問題や社会性について考えさせること、そして英文を自然な日本語に訳すための技術を習得させることです。「マウンテンゴリラ」では、絶滅危機や社会構造を通じて「生物の多様性と保護の重要性」を理解させます。「和訳の技術」では、名詞構文・比較・無生物主語などを具体的なテクニックで処理し、学習者が「直訳ではなく自然な和訳」を作れるようにします。例文を用いた構造解析を繰り返し演習し、学習者に「動詞っぽく訳す」「比較対象を補う」などの習慣を定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「マウンテンゴリラ」）

教材概要

「マウンテンゴリラ」は、絶滅の危機に瀕しているゴリラの生態と社会構造を紹介する教材です。マウンテンゴリラは人類に最も近い霊長類の一つであり、現存数は千頭未満とされています。科学者たちは自然生息地で彼らを観察し、保護活動を急いでいます。群れは「アルファ雄」を頂点とした厳格な社会構造を持ち、餌場への移動や家族の防衛をリーダーが指揮します。アルファ雄のみが子供を持つ権利を持ち、若い雄は成人期に銀色の毛が背中に現れると、群れに残ってリーダーに挑戦するか、新しい群れを作るかの選択を迫られます。ゴリラの日常は「休息・放浪・採集」の三部構成で、水分は葉から摂取します。肉食はほとんどせず、例外的にグンタイアリを珍味として食べます。棒を使ってアリを捕まえる行動は、人間同様「道具を使う生物」である証拠です。教材では「peril（危機）」「scramble（急いで～する）」「rigid（厳格な）」「dominance（支配）」「foraging（採集）」などの語彙を学びながら、環境問題や動物の社会性について考えるきっかけを与えます。

主なポイント

- 絶滅の危機にある霊長類で、現存数は千頭未満
- 群れはアルファ雄を頂点とした厳格な社会構造
- 若い雄は成人期に銀色の毛が現れ、群れに残るか独立するかを選択
- 日常は休息・放浪・採集の三部構成、水分は葉から摂取
- グンタイアリを珍味として棒を使って捕獲＝道具使用の証拠
- 語彙学習：peril, scramble, rigid, dominance, foraging, hydration, delicacy など

英文読解特講 Section8 和訳の技術

教材概要

「和訳の技術」は、英文を自然な日本語に訳すための具体的なテクニックを解説する教材です。名詞構文を「動詞っぽく」訳すことで日本語を柔らかくし、depend on ~ を「～次第だ」と訳すことで意味を正しく捉えます。また、more than ~ を「～以上」ではなく「～ではない／～だけではない」と訳す方法、比較対象の省略を補って自然な日本語にする方法、無生物主語の第 3 文型を受動態で訳すことで筆者の意図を明確にする方法などを学びます。さらに、in -ing の自然な訳し方や疑問詞変換を活用して、硬い直訳から脱却し、筆者の主張を正しく理解する力を養います。

主なポイント

- 名詞構文は「動詞っぽく」訳すことで自然な日本語にする
- depend on ~ は「～次第だ」「～によって決まる」と訳す
- more than ~ は not / not only の意味で捉える
- 比較対象は省略されることが多く、文脈から補う
- 無生物主語の第 3 文型は受動態で訳すと自然になる
- in -ing は「率先して～する」など副詞的に処理すると自然
- 疑問詞変換で「程度→どれくらい」「場所→どこに」と柔らかく訳す

Lesson 13:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、食文化と農業技術の進化を題材に語彙を学び、文明史との関連を理解させること、そしてIELTSリーディングの構造と攻略法を体系的に習得させることです。「オリーブの栽培」では、食材加工の工夫と歴史的背景を紹介し、学習者に「食文化と技術革新の関係」を考えさせます。「IELTSリーディングテスト」では、設問形式やトレーニング法を具体的に解説し、学習者が「効率的にリーディング力を高める」習慣を身につけることを目指します。学習者に「キーワードを探す」「速読と精読を組み合わせる」習慣を定着させることが重要です。サポートとしては、語彙リストやリーディング攻略のまとめ資料を提供し、学習者が混乱しやすいパターンを事前に解説するガイドラインを準備します。

語彙（IELTS 英単語「オリーブの栽培」）

教材概要

「オリーブの栽培」は、人類の文明史と深く関わるオリーブの歴史と加工法を紹介する教材です。新鮮なオリーブは非常に苦く、野生動物から種を守る防御機構として機能しています。しかし人間はこの食べられない果実を工夫して食用に改良してきました。文明の黎明期から栽培され、最初はトルコとシリアの国境沿いの緑豊かな地域で数千年前に始まりました。農民は油分の多さに価値を見出し、利用を試みました。初期には塩水に浸して苦味を取り除きましたが、これは長く骨の折れる作業でした。ローマ人は燃やした木材から作ったアルカリ液（苛性ソーダ）を水に加え、処理時間を大幅に短縮しました。処理後はオリーブを圧搾して油を抽出し、密閉容器に保存して腐敗を防ぎました。現代では世界のオリーブ生産の大半がスペインの耕作に適した地域から供給されています。温暖な気候と空気中の湿度がオリーブの成長を支えています。教材では「defense mechanism（防御機構）」「inedible（食べられない）」「verdant（緑豊かな）」「soak（浸す）」「cure（保存処理）」「temperate（温暖な）」などの語彙を学びながら、食文化と農業技術の進化を理解することができます。

主なポイント

- 新鮮なオリーブは苦味によって種を守る防御機構を持つ
- 文明の黎明期から栽培され、最初はトルコ・シリア国境の緑豊かな地域で始まった
- 初期は塩水に浸して苦味を除去するが、時間がかかる方法だった
- ローマ人がアルカリ液を加え、処理時間を短縮した
- 処理後は油を抽出、または密閉容器で保存
- 現代の生産の大半はスペインの温暖な耕作地から供給される
- 語彙学習：defense mechanism, inedible, verdant, soak, cure, temperate, thrive, moisture など

IELTS リーディング Chapter1 基本知識

教材概要

「IELTS リーディングテストの基本知識」は、IELTS アカデミックリーディングの構成と攻略法を解説する教材です。テストは 3 つの長文（パッセージ）で構成され、合計 40 問が出題されます。時間は 60 分で、各パッセージの目安は 20 分です。設問形式は「選択式」「正誤式」「記述式」に分かれ、さらに細かく 11 種類のタスクタイプがあります。
リーディング力を高めるために必要な「5 つの力」は、①語彙力、②文法力、③構文力、④速読力、⑤精読力です。トレーニング方法として「音読」「スラッシュリーディング」「スキャニング」「精読」「スキミング」を組み合わせ、速読と理解を両立させます。教材では、パッセージの主旨を最初の 2 分で把握し、設問のキーワードを探しながら必要な情報を丁寧に読む方法を具体的に示しています。

主なポイント

- 3 つの長文（パッセージ）で構成、合計 40 問、制限時間 60 分
- 設問形式：選択式（多項選択・見出しマッチングなど）、正誤式（TRUE/FALSE/NOT GIVEN）、記述式（サマリー完成・文完成など）
- 語彙力・文法力・構文力・速読力・精読力が必要
- トレーニング法：音読、スラッシュリーディング、スキャニング、精読、スキミング
- 時間配分の目安：「18 分・21 分・21 分」＝パッセージ 1 を短め、パッセージ 2・3 を長めに設定
- バンドスコアは正答数で換算（例：35 問正解＝8.0）
- 本番では「パッセージを全部読もうとしない」「設問→パッセージ→解答」の流れを徹底

Lesson 14:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、ロボット工学の挑戦を題材に語彙を学び、科学技術の社会的応用を理解させること、そして IELTS リーディングの多項選択問題を体系的に練習させることです。「ロボカップ」では、サッカーという複雑な動的環境を通じて「ロボット技術の限界と可能性」を考えさせます。「多項選択問題演習」では、設問形式ごとの攻略法を具体的に解説し、学習者が「設問→パッセージ→解答」の流れを習慣化できるようにします。学習者に「キーワードを探す」「言い換えに注意する」習慣を定着させることが重要です。サポートとしては、語彙リストやリーディング攻略のまとめ資料を提供し、準備します。

語彙（IELTS 英単語「ロボカップ」）

教材概要

「ロボカップ」は、京都大学の教授らによって 1997 年に創設された国際的なロボット工学大会を紹介する教材です。ロボカップはサッカー競技を通じて最新のロボット技術を披露する場であり、2017 年までに 50 か国以上から 500 チームが参加する規模に拡大しました。大会の究極の目標は「2050 年までに人間の FIFA ワールドカップ優勝チームを打ち負かすサッカーロボットチームを作ること」です。
なぜサッカーなのかという問いに対して、教材は「チェスのような静的ゲームと違い、サッカーは動的でリアルタイムの反応が必要」と説明します。選手はボール・ゴール・他の選手との位置関係を瞬時に判断しなければならず、現状のロボットは多様な変数に対応できず、試合では「ぎこちない幼児」のように見えます。実現可能なロボットサッカーチームはまだ遠い未来ですが、成功すれば科学的な突破口となり、老人介護・捜索救助・肉体労働など幅広い応用が期待されています。

主なポイント

- 1997 年に京都大学教授らが創設
- サッカー競技を通じて最新ロボット技術を披露
- 2017 年までに 50 か国以上・500 チームが参加
- 目標：2050 年までに人間のワールドカップ優勝チームを打ち負かすロボットチーム
- サッカーは動的でリアルタイムの反応が必要＝チェスより難易度が高い
- 現状のロボットは多変数に対応できず「幼児のよう」な動き
- 成功すれば科学的突破口となり、介護・救助・労働など応用範囲が広い
- 語彙学習：state-of-the-art, formidable, dynamic, adept at, variable, breakthrough, application など

IELTS リーディング Chapter2 多項選択問題

教材概要

「IELTS リーディング演習：多項選択問題」は、IELTS アカデミックリーディングで頻出するタスクタイプの一つ「多項選択問題」を体系的に練習する教材です。設問に対して複数の選択肢から正しいものを選ぶ形式で、4 択 1 問や 5 択 2 問が主流です。教材では、設問の先読み、キーワードの設定、パッセージから根拠を探す方法、選択肢の吟味と解答までのプロセスを具体的に解説しています。

主なポイント

- 設問形式：4 択 1 問、5 択 2 問が中心
- 解答プロセス：①設問からキーワードを設定 →②パッセージで根拠を探す →③選択肢を吟味して解答
- 言い換え表現に注意（例：stones → rock, excessive smoke → cloudy fumes）
- 解答の根拠は設問の順に登場することが多いが、必ずしもそうではない
- 他の選択肢が不正解となる根拠を考える時間はないため、正解に合致する選択肢を選ぶ感覚が重要
- 演習問題では「水の運搬による影響」「古代の調理法」などを題材に、設問とパッセージの対応を練習

Lesson 15:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、科学史における発明家の挑戦を題材に語彙を学び、技術革新の社会的影響を理解させること、そしてIELTSリーディングの見出しマッチング問題を体系的に練習させることです。「ニコラ・テスラと電流戦争」では、科学者の対立と交流電流の勝利を通じて「技術革新と社会的評価の変化」を考えさせます。「見出しマッチング問題演習」では、段落ごとの主旨を見抜く力を養い、学習者が「段落全体を読んで主旨を把握する」習慣を身につけることを目指します。例文や演習問題を用いた構造解析を繰り返し行い、学習者に「主旨を抽出する」「言い換えに注意する」習慣を定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「ニコラ・テスラと電流戦争」）

教材概要

「ニコラ・テスラと「電流戦争」」は、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて活躍した発明家ニコラ・テスラと、彼が対立したトーマス・エジソンの物語を紹介する教材です。テスラはエジソンの直流電流（DC）システムを改良しようとしましたが、交流電流（AC）を推進する彼の考えにエジソンは冷淡で、両者の関係は急速に悪化しました。交流電流は長距離送電が可能で、直流の「くすんだ光」とは異なり明るい光を生み出すことができました。

両者はやがて「電流戦争」と呼ばれる激しい対立を繰り広げ、互いに奇抜な実演で相手を出し抜こうとしました。エジソンは交流の危険性を示すために象を感電死させるという非道な実験まで行いましたが、最終的には交流の利点が勝利しました。テスラはその後、ナイアガラの滝の水力発電計画を立案し、X線、遠隔操作、人工衛星などの発明で人々を驚かせました。彼は無線による無料電力供給を目指しましたが、資金調達に失敗し、晩年は一文無しで亡くなりました。彼は「マッドサイエンティスト」の典型とされる一方、かつて曖昧視されていた業績は今日再評価されています。

主なポイント

- テスラはエジソンの直流電流システムを改良しようとしたが、交流電流をめぐり対立
- 交流電流は長距離送電が可能で、直流より明るい光を生み出す
- 両者は「電流戦争」を展開し、エジソンは象を感電死させる実験まで行った
- 最終的に交流電流が勝利し、テスラは水力発電やX線、遠隔操作などを発明
- 無線による無料電力供給を目指すも失敗し、晩年は貧困の中で死去
- 「狂気の科学者」の典型とされるが、今日では功績が再評価されている
- 語彙学習：direct current, alternating current, revamp, sour, stunt, electrocute, hydropower, obscure, accomplishment など

IELTS リーディング Chapter2 見出しマッチング問題

教材概要

「IELTS リーディング演習：見出しマッチング問題」は、IELTS アカデミックリーディングで難度が高いタスクタイプの一つ「見出しマッチング問題」を体系的に練習する教材です。各段落やセクションの主旨を表す見出しリストから適切なものを選ぶ形式で、抽象的な表現や不正解の見出しが含まれるため、正しい主旨を見抜く力が求められます。

主なポイント

- 各段落の主旨を把握し、見出しリストから適切なものを選ぶ
- 主旨＝筆者が最も伝えたい内容（Topic sentence や段落全体から判断）
- 見出しリストには正解にならないものも含まれるため注意
- 解答プロセス：①見出しリストを確認 → ②段落全体を読んで主旨を把握 → ③見出しリストから適切なものを選択
- 言い換え表現に注意し、段落の内容と見出しを対応させる
- 演習問題では「シャンプーの進化」「髪の構造」「シャンプーの利点」「医学的欠点」「表面的な魅力」「廃棄」「生産コスト」などを題材に練習

Lesson 16:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、倫理的ジレンマを題材に語彙を学び、現実世界の技術課題と結びつけて考える力を養うこと、そして IELTS リーディングの情報マッチング問題を体系的に練習させることです。「ある思考実験」では、功利主義と生存本能の対立を通じて「倫理的判断の複雑さ」を考えさせます。「情報マッチング問題演習」では、段落ごとの情報を正しく抽出する力を養い、学習者が「キーワードを拾う」「言い換えを見抜く」習慣を身につけることを目指します。学習者に「段落全体を読んで情報を探す」習慣を定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「ある思考実験」）

教材概要

「ある思考実験」は、倫理学の代表的な課題「トロッコ問題」を題材にした教材です。暴走する路面電車が 5 人に突進しており、レバーを引けば進路を変えて 1 人を犠牲にすることができます。学習者は「何もせず 5 人を死なせる」か「レバーを引いて 1 人の死の責任を負う」かという二択に直面します。この問題は功利主義（Utilitarianism）の観点から「犠牲者を最小化するためにレバーを引くべき」という明確な倫理義務を示す一方、多くの人がためらう選択でもあります。
教材はこの思考実験を現実世界に結びつけ、自動運転車（SDC）の倫理的課題を考察します。例えば、自動運転車が歩行者に衝突しそうになった場合、乗員を危険にさらしてでも歩行者を守るべきかという問題が生じます。人間の「生存本能」と功利主義的な「犠牲者最小化」の選択が対立する点を学習者に考えさせます。

主なポイント

- トロッコ問題：5 人 vs 1 人の命をめぐる倫理的選択
- 功利主義：犠牲者を最小化するための明確な義務
- 多くの人は「1 人を犠牲にする」選択をためらう心理
- 現実世界への応用：自動運転車の倫理的判断
- 生存本能と功利主義的選択の対立
- 語彙学習：runaway, divert, accountable, ethical, dilemma, application, autonomous, pedestrian, mitigate, in conflict with など

IELTS リーディング Chapter2 情報マッチング問題

教材概要

「IELTS リーディング演習：情報マッチング問題」は、IELTS アカデミックリーディングで難度が高いタスクタイプの一つ「情報マッチング問題」を体系的に練習する教材です。設問に示された「理由・説明・例・提案」などの情報がどの段落に含まれているかを判断し、適切な段落記号を選ぶ形式です。

主なポイント

- 設問形式：情報リストと段落を対応させる
- 解答プロセス：①情報リストからキーワードを拾う → ②段落を読み進めて該当箇所を探す → ③段落番号を選択
- 言い換え表現に注意（例：health hazards → lethal consequences, economic development → wealth）
- 段落全体を読まないと主旨が見えない場合が多い
- 設問順と段落順は一致しないため冷静に対応する必要がある
- 演習問題では「水供給網の要件」「汚染水の健康被害」「豊富な水資源を持つが利用できない国」「国際援助の問題」「経済発展の限界」「シンプルな水浄化方法」などを題材に練習

Lesson 17:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、人類の未来と進化を題材に語彙を学び、科学的想像力を養うこと、そして IELTS リーディングの特徴マッチング問題を体系的に練習させることです。「火星で暮らす」では、火星環境が人類に与える影響を通じて「科学的推測と進化の可能性」を考えさせます。「特徴マッチング問題演習」では、人物や発明と特徴を正しく対応させる力を養い、学習者が「言い換えを見抜く」「具体と抽象を結びつける」習慣を身につけることを目指します。学習者に「段落から特徴を抽出する」習慣を定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「火星で暮らす」）

教材概要

「火星で暮らす」は、人類の長期的な生存を確保するために火星の植民地化を求める科学者たちの議論を紹介する教材です。環境破局や予期せぬ天文事象によって地球が居住不可能になる可能性があり、絶滅を防ぐために「多惑星種（multi-planet species）」になるべきだと主張されています。火星での隔離生活は突然変異を引き起こし、それが世代を超えて伝わることで新しい人類の亜種が生まれる可能性もあります。
教材では「火星人」の外見的特徴について科学的推測を提示しています。重力が地球の 38%と軽いため、頭や手足の骨が厚くなり、がっしりした外見になると考えられます。また脊椎が伸びて背が高くなる可能性もあります。皮膚の色については放射線に対抗するために暗い色になると予測され、さらに太陽から遠いため光が少なく、視力を補うために目が大きくなる必要があるとされています。

主なポイント

- 科学者は人類の長期生存のため火星植民地化を提唱
- 環境破局や天文事象で地球が居住不可能になる可能性
- 火星での隔離生活は突然変異を引き起こし、新しい亜種が生まれる可能性
- 語彙学習：multi-planet, mutation, subspecies, Martian, robust, elongate, counterbalance, vision など

IELTS リーディング Chapter2 特徴マッチング問題

教材概要

「IELTS リーディング演習：特徴マッチング問題」は、IELTS アカデミックリーディングで出題されるタスクタイプの一つ「特徴マッチング問題」を体系的に練習する教材です。研究者や発明者などの人物名、動植物や製品名などの特定情報と、それに関連する「考え・意見・特徴」を対応させる形式です。

主なポイント

- 設問形式：人物や名称と特徴を対応させる
- 解答プロセス：①名前リストを確認 →②パッセージで該当箇所を探す →③記述リストと照合して解答
- 言い換え表現に注意（例：火を完全に囲い込む →heat source totally contained）
- 段落ごとに複数の人物や特徴が登場する場合もある
- 演習問題では「偶然の発明」「複数料理の同時調理」「火源の封じ込め」「調理時間の短縮」「家庭衛生の改善」「燃料供給後の普及」「掃除の容易化」などを題材に練習

Lesson 18:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、宇宙科学の脅威を題材に語彙を学び、科学的課題への対応策を考える力を養うこと、そして IELTS リーディングの文末マッチング問題を体系的に練習させることです。「小惑星の衝突」では、科学的事実と人類の危機管理を通じて「科学技術と倫理的判断の両立」を考えさせます。「文末マッチング問題演習」では、文の前半と後半を正しく結びつける力を養い、学習者が「キーワードを拾う」「言い換えを見抜く」習慣を身につけることを目指します。学習者に「文全体を完成させる」習慣を定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「小惑星の衝突」）

教材概要

「小惑星の衝突」は、6500 万年前に恐竜を絶滅させた小惑星の事例を導入に、人類が直面する可能性のある小惑星衝突の脅威とその対策を紹介する教材です。マンション一棟ほどの大きさの岩石が地球の軌道に接近し、重力に引き寄せられることは定期的に起こっています。もし巨大な小惑星が大気圏に突入すれば、計り知れない破壊をもたらすでしょう。近年になってようやく小惑星の軌道追跡が始まり、危険な小惑星にどう対処するかが問われています。NASA と日本の宇宙航空研究開発機構（JAXA）の共同プロジェクトでは、2 つの解決策が提示されています。1 つ目は、事前に十分な時間があればロケットを発射して小惑星を衝突コースから逸らす方法です。ただし、少なくとも 50 年前から準備が必要で、危機的状況では非現実的です。2 つ目は核兵器で爆破する方法ですが、破片が分裂して地球に衝突する可能性が残るという欠点があります。教材は「wipe out（絶滅させる）」「inevitable（避けられない）」「trajectory（軌道）」「divert（そらす）」「alternative（代替案）」「blow up（爆破する）」などの語彙を学びながら、科学的課題と倫理的判断を考察する内容になっています。

主なポイント

- 6500 万年前の恐竜絶滅は小惑星衝突によるもの
- 巨大な岩石が地球の軌道に接近し、重力に引き寄せられる危険性
- 大気圏突入による計り知れない破壊の可能性
- NASA と JAXA の共同プロジェクトによる 2 つの解決策
- ロケットで衝突コースから逸らす（事前準備が必要）
- 核兵器で爆破する（破片が残る危険性）
- 語彙学習：wipe out, inevitable, hurtle, trajectory, divert, alternative, blow up, drawback など

IELTS リーディング Chapter2 文末マッチング問題

教材概要

「IELTS リーディング演習：文末マッチング問題」は、IELTS アカデミックリーディングで出題されるタスクタイプの一つ「文末マッチング問題」を体系的に練習する教材です。文の前半が提示され、それに続く最も適切な後半を選んで文を完成させる形式です。

主なポイント

- 設問形式：文の前半と後半を結び合わせる
- 解答プロセス：①前半リストからキーワードを拾う → ②パッセージで該当箇所を探す → ③後半リストと照合して解答
- 言い換え表現に注意（例：surname in the conventional sense → family name not represented）
- 設問順と段落順は一致しない場合があるため冷静に対応する必要がある
- 演習問題では「レオナルドの評判」「名前の由来」「弟子時代」「逸話による名声」「作品の年代順」などを題材に練習

Lesson 19:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、テクノロジーと社会的課題を題材に語彙を学び、現代社会における新しい通貨の仕組みを理解させること、そして IELTS リーディングの情報特定問題を体系的に練習させることです。「暗号通貨」では、分散化の仕組みと利点・欠点を通じて「テクノロジーと社会的リスクの両立」を考えさせます。「情報特定問題演習」では、与えられた記述がパッセージと一致するかどうかを正しく判断する力を養い、学習者が「キーワードを拾う」「言い換えを見抜く」習慣を身につけることを目指します。例文や演習問題を用いた構造解析を繰り返し行い、学習者に「TRUE / FALSE / NOT GIVEN を正しく判断する」習慣を定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「暗号通貨」）

教材概要

「暗号通貨」は、2009 年に登場した新しい資金交換の仕組みを紹介する教材です。最初に考案したのは日本人プログラマーのサトシ・ナカモトとされますが、彼は名声を避けており、実在を疑う批評家もいます。起源は不確かですが、暗号通貨にはいくつかの利点があります。最大の特徴は「分散化」であり、取引は銀行のような一箇所ではなく世界中の多数のコンピュータに「ブロックチェーン」という電子台帳として記録されます。記録作業を行う人々は報酬としてコインを受け取り、分散化によってハッキングに強くなります。また仲介者を排除することで銀行手数料をなくすことができます。一方で欠点も存在します。価格が大幅に変動するため新規参入者は注意が必要です。匿名性が高いため犯罪に利用されることも多く、さらに市場規制が不十分で資金が消失する事例もあり、批評家から「ポンジスキーム」と批判されることもあります。教材では「cryptocurrency（暗号通貨）」「decentralization（分散化）」「ledger（台帳）」「fluctuate widely（大幅に変動する）」「anonymity（匿名性）」などの語彙を学びながら、テクノロジーと社会的課題の両面を考察します。

主なポイント

- 2009 年に登場、サトシ・ナカモトが考案した可能性
- 分散化によりブロックチェーンに取引を記録、ハッキングに強い
- 仲介者を排除し銀行手数料を削減
- 欠点：価格変動、犯罪利用、規制不足による資金消失
- 語彙学習：cryptocurrency, decentralization, ledger, upside, downside, anonymity, cautious など

IELTS リーディング Chapter2 情報特定問題

教材概要

「IELTS リーディング演習：情報特定問題」は、IELTS アカデミックリーディングで出題されるタスクタイプの一つ「情報特定問題」を体系的に練習する教材です。与えられた記述がパッセージの内容と「合致する（TRUE）」「矛盾する（FALSE）」「情報がない（NOT GIVEN）」のどれに該当するかを判断します。

主なポイント

- 設問形式：TRUE / FALSE / NOT GIVEN の三択
- 解答プロセス：①記述リストからキーワードを拾う →②パッセージで該当箇所を探す →③合致・矛盾・情報なしを判断
- 言い換え表現に注意（例：slang tends not to change → slang constantly evolves）
- 「FALSE」と「NOT GIVEN」の違いを理解することが重要
- 演習問題では「世代間の違い」「ソクラテスの言説」「社会的要因」「俗語」「移民」「テクノロジー」「現代の世代間関係」などを題材に練習

Lesson 20:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、投資詐欺の仕組みを題材に語彙を学び、現代社会における金融リスクを理解させること、そして IELTS リーディングの筆者の見解／主張特定問題を体系的に練習させることです。「ポンジスキーム」では、詐欺の構造と歴史的事例を通じて「金融リテラシーと批判的思考」を考えさせます。「筆者の見解／主張特定問題演習」では、筆者の立場を正しく読み取る力を養い、学習者が「YES／NO／NOT GIVEN を正しく判断する」習慣を身につけることを目指します。学習者に「筆者の意見を抽出する」習慣を定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「ポンジスキーム」）

教材概要

「ポンジスキーム」は、投資詐欺の代表的な仕組みを紹介する教材です。ポンジスキームとは、新規投資家の資金を使って既存投資家に配当を支払う詐欺であり、合法的な事業活動から利益を生み出すものではありません。新規投資家がいなくなると崩壊する仕組みです。
この詐欺の名前はチャールズ・ポンジ（1882–1949）に由来します。彼はボストンに移民し、地域の人々に「90 日で資金を倍増できる」と保証しました。人々は取り残されることを恐れて熱狂し、彼は週に 100 万ドルを荒稼ぎしました。最新のファッションに身を包み、大邸宅を購入しましたが、不正確な帳簿に地元紙が疑念を抱き、警察が捜査を開始して逮捕されました。ポンジスキームは 21 世紀にも続いており、バーナード・マドフは信頼できる投資家と見なされていましたが、実際には 650 億ドルをだまし取る史上最悪のポンジスキームを行いました。

主なポイント

- ポンジスキーム＝新規投資家の資金で既存投資家に配当を支払う詐欺
- チャールズ・ポンジ：90 日で資金倍増を保証し、週に 100 万ドルを荒稼ぎ
- 地元紙が帳簿の不正確さを指摘 → 警察が捜査 → 逮捕
- 21 世紀にも存続、バーナード・マドフ事件（650 億ドル詐取）
- 語彙学習：scam, dividend, legitimate, collapse, assure, rake in, suspicion, inquiry, endure, trustworthy, infamous など

IELTS リーディング 筆者の見解／主張特定問題

教材概要

「IELTS リーディング演習：筆者の見解／主張特定問題」は、IELTS アカデミックリーディングで出題されるタスクタイプの一つ「筆者の見解／主張特定問題」を体系的に練習する教材です。与えられた記述がパッセージで述べられている筆者の見解や主張と「合致する（YES）」「矛盾する（NO）」「判断できない（NOT GIVEN）」のどれに該当するかを判断します。

主なポイント

- 設問形式：YES / NO / NOT GIVEN の三択
- 解答プロセス：①記述リストからキーワードを拾う → ②パッセージで該当箇所を探す → ③筆者の見解と照合して解答
- 言い換え表現に注意（例：beneficial → useful, advantageous）
- 「NO」と「NOT GIVEN」の違いを理解することが重要
- 演習問題では「シャンプーの語源」「皮脂の利点」「パラベン除去要求」「泡の有益性」「水系への懸念」「成分の水分量」などを題材に練習

Lesson 21:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、言語習得理論を題材に語彙を学び、言語の本質について考える力を養うこと、そしてIELTS リーディングのサマリー・メモ・表・フローチャート完成問題を体系的に練習させることです。「普遍文法」では、学習説と生得説の対立を通じて「言語の起源と人間の能力」を考えさせます。「サマリー・メモ・表・フローチャート完成問題演習」では、空所に適切な語句を補う力を養い、学習者が「キーワードを拾う」「言い換えを見抜く」「文脈に合う語を選ぶ」習慣を身につけることを目指します。例文や演習問題を用いた構造解析を繰り返し行い、学習者に「文脈から語句を抽出する」習慣を定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「普遍文法」）

教材概要

「普遍文法」は、言語習得に関する二つの主要な理論を比較しながら学習する教材です。ひとつは「言語は学習によって獲得される」という立場で、B.F.スキナーらが提唱しました。彼らは繰り返しによって言語が習得されると考え、この方法は長年にわたり言語教育に大きな影響を与えました。しかし、聴覚障害の子どもが体系的に喃語を発することや、異なる言語が長期間共存する地域で新しい「クレオール語」が独自の語彙を持ちながら共通の文法を形成する事例は、この理論に疑問を投げかけます。もうひとつは「言語は生得的な能力である」という立場です。ノーム・チョムスキーは「普遍文法」の概念を提唱し、人間は生まれながらに言語能力を持ち、動詞と名詞を区別するなどの基本は直観的に理解できると考えました。スティーブン・ピンカーはこの考えを発展させ、言語は本能であり、文明から隔離された人々でも自然に文法を持つ言語を発達させるだろうと推測しました。

主なポイント

- 言語習得理論：学習説 vs 生得説
- スキナー：繰り返しによる学習を提唱
- 反証例：聴覚障害児の体系的な喃語、新しいクレオール語の誕生
- チョムスキー：普遍文法の提唱、生得的な言語能力の存在
- ピンカー：言語は本能であり、隔離された人々でも自然に発達する
- 語彙学習：language acquisition, repetition, creole, lexis, coexist, innate, intuitive, differentiate, speculate など

IELTS リーディング　サマリー・表・フローチャート完成問題

教材概要

「IELTS リーディング演習：サマリー・メモ・表・フローチャート完成問題」は、IELTS アカデミックリーディングで出題されるタスクタイプの一つで、パッセージの要約やメモ、表、フローチャートの空所を完成させる問題を体系的に練習する教材です。

主なポイント

- 設問形式：空所にパッセージから語句を選んで記入
- 指示に従い「2 語以内」「1 語のみ」など制限がある
- 解答プロセス：①タイトルや空所前後のキーワードを確認 → ②パッセージで該当箇所を探す → ③文脈と文法的に適合する語句を選択
- 言い換え表現に注意（例：disused → obsolete, wheels → casters）
- 空所の品詞（名詞・動詞・形容詞など）を文脈から予測する
- 演習問題では「スケートボードの歴史」「レオナルド・ダ・ヴィンチの作品」などを題材に練習

Lesson 22:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、食糧危機を題材に語彙を学び、農業と国際的なリスク管理を理解させること、そしてIELTS リーディングの文完成問題を体系的に練習させることです。「バナナ」では、病原菌による食糧危機の歴史と現状を通じて「農業の脆弱性と多様化の必要性」を考えさせます。「文完成問題演習」では、文脈に合う語句を正しく選ぶ力を養い、学習者が「キーワードを拾う」「言い換えを見抜く」「文法的に適合する語を選ぶ」習慣を身につけることを目指します。学習者に「文脈から語句を抽出する」習慣を定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「バナナ」）

教材概要

「バナナ」は、世界の主要食糧の一つであるバナナが絶滅の危機に瀕している現状を紹介する教材です。栽培バナナの 48%を占める「キャベンディッシュ種」が、TR4（Tropical Race 4）と呼ばれる菌により壊滅的な被害を受けています。この病原菌は従来の殺虫剤に免疫があり、現在はアジア・アフリカ・中東の農園に影響を及ぼしています。しかし、旅行者の靴に付着した泥などを介して世界中に蔓延する可能性があり、国際的な危機となり得ます。

この害病は過去にも大惨事を引き起こしました。1840 年代のアイルランドでは TR1 がジャガイモを襲い、100 万人が死亡、多くの人々が移民し人口が減少しました。また TR1 は「グロスミッチェル」というバナナを絶滅させ、代替として耐性を持つキャベンディッシュが普及しました。現在はそのキャベンディッシュが再び危機に直面しています。

主なポイント

- キャベンディッシュ種バナナが TR4 菌により絶滅の危機
- TR4 は従来の殺虫剤に免疫があり、アジア・アフリカ・中東で被害拡大
- 国際的な移動により世界中に蔓延する可能性
- 過去の事例：アイルランドのジャガイモ飢饉、グロスミッチェル種バナナの絶滅
- キャベンディッシュは TR1 への耐性を持つ代替品種だったが、現在は TR4 に脆弱
- 対応策：TR4 の検疫、食用バナナの多様化
- 語彙学習：staple, wipe out, fungus, pathogen, pesticide, plantation, blight, quarantine, immune, eradicate, diversify など

IELTS リーディング 文完成問題

教材概要

「IELTS リーディング演習：文完成問題」は、IELTS アカデミックリーディングで出題されるタスクタイプの一つ「文完成問題」を体系的に練習する教材です。パッセージに基づいて空所を含む文を完成させる形式です。

主なポイント

- 設問形式：空所にパッセージから語句を選んで記入
- 指示に従い「1 語のみ」「2 語以内」など制限がある
- 解答プロセス：①文全体を読み意味を理解 →②空所の品詞を予測 →③パッセージで該当箇所を探す →④文脈に合う語句を選択
- 言い換え表現に注意（例：disused → obsolete, nerve damage → lost body parts）
- 空所はパッセージの順番通りに出てくるとは限らないため柔軟に対応する必要がある
- 演習問題では「脳波と義肢」「水資源と浄化技術」などを題材に練習

Lesson 23:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、心理学的概念を題材に語彙を学び、集中と生産性の関係を理解させること、そして IELTS リーディングの制限内語数短答問題を体系的に練習させることです。「フロー」では、集中の条件と企業への影響を通じて「内的動機と成果の関係」を考えさせます。「制限内語数で答える問題演習」では、質問に対してパッセージから適切な語句を抽出する力を養い、学習者が「キーワードを拾う」「言い換えを見抜く」「語数制限に従う」習慣を身につけることを目指します。学習者に「短答形式で正確に答える」習慣を定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「フロー」）

教材概要

「フロー」は、人が仕事や活動に没頭し、時間を忘れるほど強い集中を感じる心理状態を紹介する教材です。芸術家が傑作に取り組むときや、ゲーマーがレベルをクリアするときに「in the zone」と呼ばれる状態に入り、睡眠や食事を忘れるほど時間が経つのを意識しなくなることがあります。この「フロー」は仕事の生産性に深い影響を与えるとされています。フローに到達するためには 3 つの要因があります。①タスクが挑戦的でありながら達成可能であること（圧倒されず習得の可能性があること）、②即座のフィードバックが得られること（上手くできているか、続けるべきかを判断できる）、③活動に没頭し周囲に気付かないほど夢中になることです。企業にとってフローは大きな意味を持ちます。従業員がフローに達すると、外的報酬ではなく仕事そのものに集中し、内的動機を持ち、活動後に満足感を得ます。さらにスキルに熟達し、会社にとてつもなく大きな利益をもたらします。

主なポイント

- フロー＝強い集中と没頭の心理状態
- 例：芸術家の創作、ゲーマーのプレイ
- 到達条件：挑戦的かつ達成可能なタスク／即座のフィードバック／周囲を忘れる没頭感
- 企業への影響：仕事への熱意、内的動機、満足感、スキル熟達、利益増大
- 語彙学習：flow, fervent, concentration, engrossed, mastery, instantaneous feedback, gratification, excel at, tremendous など

IELTS リーディング 制限内語数問題

教材概要

「IELTS リーディング演習：制限内の語数で答える問題」は、IELTS アカデミックリーディングで出題されるタスクタイプの一つ「短答問題」を体系的に練習する教材です。設問に対してパッセージから語句を選び、指定された語数以内で答える形式です。

主なポイント

- 設問形式：質問に対してパッセージから語句を選び、指定語数以内で答える
- 指示に従い「1 語のみ」「2 語以内」「3 語以内」など制限がある
- 解答プロセス：①質問文を読みキーワードを確認 → ②パッセージで該当箇所を探す → ③文脈に合う語句を選択
- 言い換え表現に注意（例：hydrophilic tail → detergent part that interacts with water）
- 質問は 5W1H（what, why, who, where, when, how）形式で出題されることが多い
- 演習問題では「洗剤の成分」「SLS の作用」「水中毒素の影響」「シャンプー容器の行き先」「音楽史の事例」などを題材に練習

Lesson 24:

講師へのポイント・サポート内容

この教材では、生徒に「頂点捕食者の役割」と「カスケード効果」という生態学的概念を理解させることが中心となります。主なポイントごとに関連語彙を提示し、例文を通じて文脈での使い方を学ばせることで、単なる暗記ではなく応用力を養うことができます。授業ではまず概要を要約させ、次に語彙を使った意見表現やディスカッションを行うと効果的です。模擬テストは本番形式で時間を区切り、解答根拠を説明させることでリーディング力と試験対応力を強化できます。最終的には「語彙習得 → 内容理解 → 意見表現」の流れを意識させ、IELTS に必要な総合的なスキルを伸ばすことが指導の狙いとなります。

語彙（IELTS 英単語「イエローストーンのオオカミ」）

教材概要

イエローストーン国立公園では、1930 年代に牧場主たちが家畜を守るためにオオカミを駆逐し、絶滅状態となりました。オオカミは頂点捕食者として食物連鎖のバランスを保つ重要な役割を担っていましたが、その不在によってヘラジカの個体数が急増し、植物が食べ尽くされる事態に陥りました。植物の減少は他の草食動物やビーバーなどにも悪影響を及ぼし、生態系全体が脆弱化しました。この問題を解決するため、生態学者たちは 32 頭のカナダオオカミを再導入する計画を立案しました。当初、地元の牧場主は家畜被害を恐れて強く反対しましたが、研究者たちはオオカミを常時監視する体制を約束し、反対意見を和らげました。オオカミが公園に戻ると、ヘラジカの数は減少し、さらにオオカミに追われて移動を繰り返すようになったため、草原に新しい獣道が形成されました。これにより他の動物も恩恵を受け、ビーバーが再び戻ってダムを築き、地下水位が回復し、魚の産卵環境も改善されました。この一連の変化は「カスケード効果」と呼ばれ、小さな介入が連鎖的に大きな影響を生み出す典型例となりました。オオカミの再導入は、頂点捕食者が生態系の安定性を維持する上で不可欠であることを示す象徴的な事例として、世界中の再野生化プロジェクトの参考になっています。

主なポイント

- フロー＝強い集中と没頭の心理状態
- 例：芸術家の創作、ゲーマーのプレイ
- 到達条件：挑戦的かつ達成可能なタスク／即座のフィードバック／周囲を忘れる没頭感
- 企業への影響：仕事への熱意、内的動機、満足感、スキル熟達、利益増大
- 語彙学習：flow, fervent, concentration, engrossed, mastery, instantaneous feedback, gratification, excel at, tremendous など

IELTS リーディング 模擬テスト

使用教材:
IELTS ブリティッシュ・カウンシル公認　本番形式問題3回分を使用）
- Lesson 1 のレベルチェックで使用しなかったパッセージ 2 つを使用（40 分）

模試目的:
本番形式に慣れてもらう

指導の流れ
イントロダクション
- IELTS リーディングの構成説明（2 セクション、約 27 問、40 分）
- 本日の模擬テストの目的を確認

模擬テスト実施
- 公認問題を使用
- 時間内に 27 問解答を目指す

自己採点
- 宿題として自己採点を行うことを案内する

フィードバック方法のポイント
- 「時間配分が偏っていませんか？」と問いかける
- スキミング（概要把握）とスキャニング（情報検索）の使い分けを強調

Lesson 25:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、物語の起源を題材に語彙を学び、文化の共通性と人類の歴史を理解させること、そしてIELTS リスニングの構成やトレーニング方法を体系的に学習させることです。「おとぎ話の起源」では、異文化間に共通する物語を通じて「人類の文化的連続性」を考えさせます。「IELTS リスニングテストとは」では、テストの構造と必要な力を理解させ、学習者が「設問の先読み」「言い換えの把握」「トレーニングの組み合わせ」を習慣化することを目指します。学習者に「リスニングの戦略を実践する力」を定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「おとぎ話の起源」）

教材概要

「おとぎ話の起源」は、世界各地に伝わる昔話やおとぎ話の起源を探る教材です。従来は 16～17 世紀に創作され、記録されたものが口承で現代まで伝わったと考えられていました。しかし、19 世紀にグリム兄弟が子供向けの話を集めた際、これらの物語はもっと古い可能性があると気づきました。文化的に大きく隔たった地域でも同じ筋書きや登場人物を持つ民間伝承が存在することから、近年の研究では一部の物語が数千年の歴史を持ち、共通の祖先を持つことが確認されています。具体例として、中国の「Fairy Serpent」は父親が恐ろしい蛇に捕らえられ、解放の代わりに末娘を結婚相手として差し出す物語です。娘と蛇は恋に落ち、蛇は王子に変身します。この話はフランスの「美女と野獣」と同じ筋書きを持ち、ヨーロッパ各地に異なる形で伝わり、4000 年以上の歴史があります。もう一つの例はイギリスの「ジャックと豆の木」で、これは「人食い鬼の宝物を盗んだ少年」として分類される物語に由来し、インド・ヨーロッパ語族が分岐した 5000 年前まで遡ることができます。

主なポイント

- 従来の認識：16～17 世紀に創作・記録され、口承で伝承
- グリム兄弟：19 世紀に編集し、物語がもっと古い可能性に気づく
- 最近の研究：一部の物語は数千年の歴史を持ち、共通の起源を確認
- 例①：中国「Fairy Serpent」＝フランス「美女と野獣」、4000 年以上前から存在
- 例②：イギリス「ジャックと豆の木」＝「人食い鬼の宝物を盗んだ少年」、5000 年前まで遡る
- 語彙学習：folklore, millennia, ancestry, recognisable, classify, trace back, split など

IELTS リスニング Chapter1 IELTS リスニングテストとは

教材概要

「IELTS リスニングテストとは」は、IELTS リスニングの構成や特徴、必要な力、効果的なトレーニング方法を解説する教材です。テストは 4 パート構成で、日常的・社会的内容から学術的・教育的内容まで幅広く扱われます。各パートは 10 問ずつ、合計 40 問で、所要時間は約 40 分です。音声は一度しか再生されないため、集中力と持久力が求められます。リスニングでは、設問の先読み時間が与えられ、キーワードを拾って答えを予測する力が重要です。質問は音声の流れに沿って出題されるため、設問を上から順に追えば解答に到達できます。音声にはイギリス英語を中心に、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドなど多様なアクセントが登場します。特にイギリス英語の表記や発音に慣れる必要があり、語彙力と発音認識力が基盤となります。さらに、リスニングでは言い換え表現が頻繁に登場します。設問に出てくる語がそのまま音声で聞こえるとは限らず、意味を理解して対応する力が問われます。各パート終了後には解答確認時間があり、メモを見直して補強することが可能です。最後に 10 分間の転記時間が与えられ、スペル・文法・語数制限を守って解答を仕上げます。

主なポイント

- 全 40 問、約 40 分（音声 30 分＋転記 10 分）
- Part 1〜4：日常会話から学術的講義まで幅広い内容
- 設問の先読み時間あり、質問は音声の順番通りに出題
- アクセントの多様性（英・豪・米・NZ）、イギリス英語中心
- 言い換え表現に注意、意味理解力が必須
- 解答確認時間と転記時間が設けられている

Lesson 26:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、動物行動を題材に語彙を学び、科学的検証の重要性を理解させること、そして IELTS リスニングの選択式タスクタイプを体系的に練習させることです。「日本ザルと温泉」では、自然行動とストレス軽減の関係を通じて「科学的思考と観察力」を養います。「タスクタイプ別演習 Type 1〜3」では、設問形式ごとの攻略法を学び、学習者が「先読み」「言い換え認識」「図表理解」を習慣化することを目指します。例題を用いて「設問先読み練習」「選択肢の言い換え確認」「図表の対応付け」を繰り返し行い、学習者に実践的な戦略を定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「日本ザルと温泉」）

教材概要

「日本ザルと温泉」は、長風呂をする唯一の非人間霊長類である「スノーモンキー」の行動を紹介する教材です。初めての事例は 1963 年、地獄谷で若い雌ザルが露天風呂に入っているのを目撃されたことでした。その後、他のサルもこの行動を真似し、衛生上の理由からホテルがサル専用の温泉を設けました。この現象は観光名所となりましたが、2018 年までその効能は科学的に検証されていませんでした。京都大学の研究者は、温泉が単なる防寒手段ではなく、繁殖期にボス雌ザルがストレスを軽減するためにも利用されていることを発見しました。温泉に入ることでストレスホルモンが大幅に低下し、攻撃性や争いが和らぎました。さらに、観光客が 1 日最大 500 人訪れて写真を撮っても、サルのストレスは増加せず、彼らは観光客を無視して寛ぐことに集中していました。

主なポイント

- 日本ザル＝温泉に入る唯一の非人間霊長類
- 初事例：1963 年、地獄谷で雌ザルが入浴 → 専用温泉設置
- 観光名所化、2018 年まで効能未検証
- 京都大学の研究：温泉は防寒だけでなく繁殖期のストレス軽減にも利用
- 温泉入浴でストレスホルモンが低下、攻撃性や争いが緩和
- 観光客の存在はストレス増加につながらず、サルはリラックスに集中
- 語彙学習：primate, mimic, incidence, hygienic, phenomenon, validate, alleviate stress, aggressive, conflict, significantly など

IELTS リスニング タスクタイプ別演習（Type1〜3）

教材概要

「IELTS リスニング演習：タスクタイプ別演習（Type 1〜3）」は、IELTS リスニングで出題される選択式タスクタイプを体系的に練習する教材です。多項選択問題、マッチング問題、ラベリング問題を扱い、設問の先読みから音声の聞き取り、解答確認、転記までの流れを実践的に学びます。

主なポイント

- Type 1 多項選択問題：複数の選択肢から正しいものを選ぶ（例：3 択 1 問、5 択 2 問）
- Type 2 マッチング問題：ボックス内の情報と質問を対応させる（言い換え表現に注意）
- Type 3 ラベリング問題：地図や図面の空所を音声情報に基づいて完成させる
- 解答プロセス：①設問先読み →②音声聞き取り →③解答確認 →④転記
- 注意点：言い換え表現に惑わされない／設問の順番通りに情報が登場する／聞き逃しても引きずらない

Lesson 27:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、日本文化遺産を題材に語彙を学び、歴史的建造物の価値を理解させること、そしてIELTS リスニングの記述式タスクタイプを体系的に練習させることです。「法隆寺」では、文化遺産の歴史と科学的検証を通じて「歴史的事実とその裏付け」を考えさせます。「タスクタイプ別演習 Type 4〜6」では、設問形式ごとの攻略法を学び、学習者が「語数制限遵守」「言い換え認識」「文法的適合」を習慣化することを目指します。例題を用いて「設問先読み練習」「空所補完の正確性確認」「転記の正確性チェック」を繰り返し行い、学習者に実践的な戦略を定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「法隆寺」）

教材概要

「法隆寺」は、日本の奈良にある世界最古級の木造建築を紹介する教材です。607 年に聖徳太子が病気回復後、亡き父と薬師如来を祀るために建立した寺院で、1400 年以上にわたり僧院としての役割を果たしてきました。1993 年には世界遺産に登録され、奈良の仏教文化を象徴する存在となっています。現在の法隆寺は西院と東院の二つの区画から成り立っています。西院には五重塔があり、世界最古の木造建造物として広く認められています。内部には入れず、外観の美しさで人々に感銘を与える目的で設計されました。東院には「夢殿」があり、装飾を施された建物に聖徳太子像が安置されています。この像は一年の特定の時期にのみ公開されます。しかし 1939 年の発掘調査により、これらの建物は 670 年の火災後に再建されたことが判明しました。さらに近年の年輪年代測定法による木材分析は、現在の建物が原初のものではないことを裏付けています。

主なポイント

- 607 年、聖徳太子が建立
- 父と薬師如来を祀る目的で創建
- 1400 年以上僧院として継続、1993 年世界遺産登録
- 西院：五重塔（世界最古の木造建築、外観美を目的）
- 東院：夢殿（聖徳太子像を安置、限定公開）
- 1939 年の発掘調査と年輪年代測定法により再建の証拠が確認
- 語彙学習：revere, commission, monastery, pagoda, ornate, excavation, dendrochronology, timber, conclusive evidence など

IELTS リスニング タスクタイプ別演習（Type4～6）

教材概要

「IELTS リスニング演習：タスクタイプ別演習（Type 4～6）」は、IELTS リスニングで出題される記述式タスクタイプを体系的に練習する教材です。メモ完成問題、表・フローチャート・要約完成問題、文完成・ショートアンサー問題を扱い、設問先読みから音声聞き取り、解答確認、転記までの流れを実践的に学びます。

主なポイント

- Type 4 メモ完成問題：会話やモノローグの内容をメモ形式で補完する
- Type 5 表・フローチャート・要約完成問題：表や要約の空所を埋める（言い換え表現に注意）
- Type 6 文完成・ショートアンサー問題：文の空所を埋める／質問に短答する形式
- 解答プロセス：①設問先読み →②音声聞き取り →③解答確認 →④転記
- 注意点：語数制限を守る／言い換え表現を見抜く／文法的に正しい形で答える

Lesson 28:

講師へのポイント・サポート内容

この教材では、行動経済学の「基準点効果」を理解させることと、IELTS リスニング模擬テストを本番形式で体験させることを組み合わせています。模擬テストをそのままリスニング演習として実施し、設問の解答根拠を確認させることで、試験対応力を高めます。

語彙（IELTS 英単語「行動経済学」）

教材概要

「行動経済学」は、近年の不況にもかかわらず、船旅会社は大幅な利益を上げています。その理由は「基準点（reference points）」を利用して顧客の消費行動を操作しているからです。人は価格を絶対値ではなく比較で理解するため、最初に高額な出費をすると、その後の追加購入が安く感じられます。これは古典派経済学の「人は合理的に金銭を判断する」という理論に矛盾し、心理学と経済学を融合した行動経済学が説明する現象です。船旅会社は予約時に飲み物パッケージなどを追加購入させ、乗船後は基準点が高く設定されるため、船内の買い物が安く感じられ、結果的に消費が増加します。この手法により、ある会社は 2014 年以降利益を倍増させました。

主なポイント

- 基準点の効果：人は価格を絶対値ではなく比較で理解する。
- 古典派経済学との矛盾：合理的判断という従来理論に反し、感情や比較が消費行動を左右する。
- 行動経済学の台頭：心理学と経済学を融合した新しい理論が注目されている。
- 船旅会社の戦略：予約時に追加購入を促し、基準点を高く設定して船内消費を増やす。
- 利益の増加：この戦略により、ある会社は 2014 年以降利益を倍増させた。

IELTS リスニング　模擬テスト

使用教材:
実践 IELTS　技能別問題集　リスニング
● Chapter 3 模擬テストの Test1 を使用

模試目的:
本番形式に慣れてもらう

指導の流れ

イントロダクション
- IELTS リスニングの構成説明（4 セクション、約 40 問、30 分＋転記 10 分）
- 本日の模擬テストの目的を確認

模擬テスト実施
- 公認問題を使用し、本番同様の形式で受験
- 各セクションの音声を一度のみ再生

解答転記
- 答えをアンサーシートに記入
- 本番同様の練習

自己採点
- 宿題として自己採点を行うことを案内する

フィードバック方法のポイント
- 個別に「なぜ聞き取れなかったか」を確認
- 聞き取り戦略（予測、キーワード把握）を強調

Lesson 29: リスニングとリーディングの簡易模試（講師用）

使用教材：IELTS ブリティッシュ・カウンシル公認　本番形式問題3回分
上記教材の過去問を使用（レベルチェックで使った内容と違う範囲を選択）

レッスン目的

IELTS ブリティッシュ・カウンシル公認の本番形式問題集を用いた模擬試験を実施します。試験時間は合計 60 分で、まずリスニング試験を 40 分間行い、その後リーディング試験を 20 分間行います。リスニングは本番同様に 4 セクションを通して音声を一度だけ再生し、途中で区切りを設けずに通しで実施してください。終了後は答案を回収せず、そのままリーディング試験へ移行します。リーディングでは 1 パッセージのみを使用し、制限時間 20 分を厳守してください。試験終了後に答案を回収し、採点とフィードバックの準備を行います。指導の際には、生徒に「一度しか聞けないリスニングの緊張感」と「限られた時間で要点を掴むリーディングの練習」を意識させることが重要です。採点後は各生徒に三文程度の具体的なアドバイスを渡すことで、学習効果を高めることができます。

指導の流れ

開始前

- 生徒に試験概要と注意事項を説明
- 答案用紙を配布

リスニング試験（40 分）

- 音声を一度のみ再生
- セクションごとに区切りは設けず、通しで実施
- 終了後すぐに答案を回収せず、リーディングへ移行

リーディング試験（20 分）

- 1 パッセージのみを使用
- 時間管理を厳守し、終了時に答案を回収

終了後

- 答案を回収し、採点・フィードバックを準備
- 生徒には「時間配分」「設問形式への慣れ」を重点的に振り返らせる

試験案内

試験の目的・案内

本日は、IELTS ブリティッシュ・カウンシル公認の本番形式問題集を使用した模擬試験を実施します。試験は合計 60 分で構成され、まず 40 分間のリスニング試験を行い、その後 20 分間のリーディング試験を行います。リスニング試験では本番同様に 4 つのセクションを通して音声を一度だけ再生しますので、集中して聞き取り、答案用紙に記入してください。続いて行うリーディング試験では、1 つのパッセージを用いて設問に回答します。制限時間は 20 分ですので、時間配分に注意しながら取り組みましょう。試験中は辞書や参考書の使用は禁止されており、終了後に答案を回収します。今回の模擬試験は、本番形式に慣れること、時間管理の練習をすること、そして自分の弱点を確認することを目的としています。落ち着いて取り組み、今後の学習に役立ててください。

試験の流れ：

リスニング試験：40 分

・ 本番同様、4 セクション構成

・ 各セクション終了後に次の問題へ自動的に進みます

リーディング試験：20 分

・ 1 パッセージのみを使用

・ 本番形式に準じた設問に回答

注意事項

・ 試験中は辞書・参考書の使用は禁止です。
・ リスニングでは録音音声を一度のみ再生します。集中して聞き取りましょう。
・ リーディングは制限時間 20 分で必ず終了します。時間配分に注意してください。
・ 答案は試験終了後に回収します。

Lesson 30:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、歴史的事例を題材に語彙を学び、気候変動への教訓を理解させること、そして IELTS ライティングの構造と採点基準を体系的に学習させることです。「エジプト王国の滅亡」では、古代文明の滅亡要因を通じて「環境変動と社会の持続可能性」を考えさせます。「IELTS Writing Introduction」では、ライティングの基本構成と採点基準を理解させ、学習者が「客観的に描写する」「論理的に展開する」「パラフレーズを活用する」習慣を身につけることです。例題を用いて「Task 1 のグラフ描写練習」「Task 2 の意見展開練習」「パラフレーズ演習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。サポートとしては、語彙リストやライティング攻略のまとめ資料を提供し、準備します。

語彙（IELTS 英単語「エジプト王国の滅亡」）

教材概要

「エジプト王国の滅亡」は、後期青銅器時代末期にエジプト帝国が干ばつの影響で崩壊した経緯を紹介する教材です。2008 年以来、エジプト学者の間では干ばつが滅亡の主要因であることが常識となっています。しかし、ナイル川の堆積物に埋まっていた化石化した花粉の調査から、ファラオたちが降水不足による問題を回避しようとした努力が明らかになりました。彼らは肥沃な地域で作物の収穫高を増やし、余剰の穀物を周辺地域に供給しました。特に、征服したばかりのヒッタイト王国に救援活動を行い、国境での混乱を防ごうとしました。また、乾燥に強いウシ科の頑丈な種と交配し、干ばつに耐性のある家畜を育てました。こうした先見性にもかかわらず、帝国は 50 年後に滅亡しました。教材はこの歴史的事例を通じて、現代社会も気候変動（海面上昇など）に直面していることを示し、その影響を軽減する必要性を強調しています。

主なポイント

- 後期青銅器時代末期、干ばつが主要因で滅亡
- 花粉分析からファラオの対策が判明
- 穀物収穫高を増やし、余剰を周辺地域に供給
- ヒッタイト王国への救援活動＝国境の混乱回避策
- 乾燥に強い牛種との交配で家畜を改良
- 先見性があったが帝国は 50 年後に崩壊
- 現代社会への教訓：気候変動の影響を軽減する必要性
- 語彙学習：perish, deduce, ward off, precipitation, yield, surplus, relief effort, chaos, bovine, resilient, mitigate な

ど

IELTS ライティング Introduction

教材概要

「IELTS Writing Introduction」は、IELTS ライティングテストの概要と高得点を取るための基本戦略を解説する教材です。IELTS はライティング、リーディング、リスニング、スピーキングの 4 技能を測定する試験で、ライティングは Task 1（グラフや表の描写、150 語以上）と Task 2（テーマに対する意見、250 語以上）の 2 問構成です。Task 1 では、グラフや表、地図、プロセス図を客観的に描写する力が求められます。導入（Introduction）で指示文をパラフレーズし、全体の特徴を簡潔にまとめた後、本論（Body 1・Body 2）で大きな違いと小さな違いを整理し、結論（Conclusion）で全体を再度まとめます。Task 2 では、与えられたテーマに対して論理的に意見を展開し、導入で背景と主題文を提示し、本論で主張と根拠を展開し、結論で要点をまとめ未来の展望を述べます。ライティングの採点基準は「課題達成度」「一貫性とまとまり」「語彙力」「文法知識と正確さ」の 4 つです。課題達成度では指示文に正しく答えること、一貫性では論理的な構成と接続表現の使用、語彙力では適切な語彙とパラフレーズ、文法では複文や受動態などの正確な使用が評価されます。加えて、ライティングでは「客観性」「構成」「主張」「シンプルさ」「適切な言語使用」の鉄則を守る必要があります。これらを意識することで、学習者は IELTS ライティングで安定して高得点を獲得できる力を養うことができます。

主なポイント

- IELTS は 4 技能を測定する試験、バンドスコアは 1.0〜9.0 で評価
- Task 1：グラフや表を客観的に描写（導入・本論・結論の構成）
- Task 2：テーマに対する意見を論理的に展開（導入・本論・結論）
- 採点基準：課題達成度、一貫性とまとまり、語彙力、文法知識と正確さ
- 鉄則：客観性、構成、主張、シンプルさ、適切な言語使用
- パラフレーズ技術の重要性（類義語、名詞化、翻訳などを活用）

Lesson 31:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、未来技術を題材に語彙を学び、科学的想像力を養うこと、そして IELTS ライティング Task 1 の折れ線グラフ問題を通じて「客観的な描写力」と「構成力」を身につけさせることです。「ナノボット」では、誤情報と科学的可能性を比較しながら「技術の影響と倫理的課題」を考えさせます。「Task 1 折れ線グラフ」では、導入・本論・結論の構成を徹底させ、学習者が「パラフレーズ」「数値の比較」「客観的表現」を習慣化することを目指します。例題を用いて「グラフの変化を客観的に描写する練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「ナノボット」）

教材概要

「ナノボット」は、極小の機械であるナノボットの可能性と誤解について解説する教材です。ナノボットは私たちの生活を一変させる潜在力を持ち、一部の批評家は人間に取って代わると主張しています。しかし、キルスイッチのような安全装置によって危険性は軽減されると考えられています。この技術には多様な応用が期待されています。2018 年には、ナノボットが単一のがん性細胞に薬を正確に届けることに成功しました。これにより、過剰投薬の副作用を避けつつ、患者ごとに合わせた治療法の開発が可能になります。将来的には、耐久性がありながら安価なロケット資材を大量生産し、宇宙旅行を誰もが手の届く価格にすることができると予測されています。さらに、角砂糖ほどの大きさの太陽電池で都市全体に電力を供給し、化石燃料とその汚染を不要にする可能性もあります。また、空気中を飛行するナノボットが大気汚染物質を除去し、農業用ロボットが少量の水と肥料で効率的に作物を育てることで飢餓を過去のものにする未来像も描かれています。最終的には、血液中のナノボットが細胞を若返らせ、損傷を修復することで人間が永遠に生きられる可能性すら示されています。

主なポイント

- 誤情報が多いが、安全装置で危険性を軽減可能
- 2018 年：がん性細胞への薬剤投与に成功
- 過剰投薬の副作用を避けた個別医療の可能性
- 宇宙旅行を安価にする資材の大量生産
- 小型太陽電池で都市全体に電力供給、化石燃料不要化
- 大気汚染物質の除去、効率的農業による飢餓解消
- 血液中で細胞を修復・若返らせる応用可能性
- 語彙学習：misinformation, minuscule, upend, safeguard, mitigate, precision, tailor-made, durable, affordable, rejuvenate など

IELTS ライティング Task1 折れ線グラフ

教材概要

「IELTS Writing Task 1 折れ線グラフの問題」は、グラフ描写型のライティング問題を扱う教材です。折れ線グラフを題材に、導入・本論・結論の構成を学び、客観的に情報を整理して描写する練習を行います。Task 1 では、個人的な感想や評価を避け、グラフや図表から読み取れる情報のみを描写することが求められます。語数は 150 語以上が必須で、理想的には 160〜200 語程度が望ましいとされています。導入では指示文をパラフレーズし、全体の傾向を簡潔にまとめます。本論 1 では大きな変化を、本論 2 では細かい変化を整理し、結論で全体を再度まとめます。折れ線グラフの問題では、時系列の変化を正確に描写する力が重要です。例えば「fall gradually」「reach a peak」「fluctuate repeatedly」などの表現を使い分けることで、数値の動きを客観的に示すことができます。さらに、同じ数値を繰り返し書くのではなく、顕著な変化を抽出して比較することが高得点につながります。結論では、季節ごとの変化が見られる製品とそうでない製品を区別し、全体的な傾向を客観的にまとめることが求められます。

主なポイント

- Task 1 心得：感想や評価を避け、グラフから読み取れる情報のみを描写
- 語数：150 語以上（理想は 160〜200 語）
- 導入：指示文のパラフレーズ＋全体の描写
- 本論 1：大きな変化をまとめる（例：ビスケットの売上減少、ロリポップの上昇）
- 本論 2：細かい変化をまとめる（例：ジェリービーンズは安定、チョコレートは低収益で変動）
- 結論：全体を再度まとめ、季節変化の有無を客観的に示す
- 使用表現例：fall gradually, reach a peak, fluctuate repeatedly, remain stable, a noticeable trend など

Lesson 32:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、歴史的事例を通じて「情報格差」の概念を理解させ、現代社会におけるデジタルリテラシーの重要性を考えさせること、そして IELTS ライティング Task 1　円グラフ問題を通じて「比較表現」と「客観的描写力」を習得させることです。「情報格差」では、鉄道とインターネットの比喩を用いて「アクセスの有無が社会に与える影響」を考えさせます。「Task 1 円グラフ」では、性別による違いを客観的に比較し、学習者が「パラフレーズ」「割合表現」「比較のディスコースマーカー」を習慣化することを目指します。例題を用いて「円グラフの比較描写練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「情報格差」）

教材概要

「情報格差」は、鉄道の歴史的事例を通じて現代のインターネット格差を考察する教材です。1873 年、ユニオン・パシフィック鉄道がニューヨークからカリフォルニアまでを結び、大陸横断の旅は数か月から数日に短縮されました。このとき「オンライン」（鉄道路線上）と「オフライン」（鉄道路線外）という区別が生まれ、都市や人々の繁栄に大きな影響を与えました。鉄道に接続された地域は仕事や都市へのアクセスが可能となり繁栄しましたが、接続されなかった町は取り残され、衰退していきました。この比喩は現代のインターネットにも適用できます。今日では「オンライン」である人々と「オフライン」である人々の間に「デジタル・ディバイド（情報格差）」が存在します。インターネットの基盤は安定しているものの、デジタルリテラシーの不平等によって格差は拡大しています。例えば裕福な国でも、一部の貧困層はソーシャルメディアや就職アプリを効果的に使えず、結果として所得格差が悪化します。これを逆転させるため、国連は主要な NGO と協力し、若者にインターネット活用の訓練を行っています。

主なポイント

- 1873 年：鉄道接続により「オンライン」と「オフライン」の区別が誕生
- 接続地域は繁栄、非接続地域は衰退
- 現代の比喩：インターネット利用者と非利用者の間の「デジタル格差」
- デジタルリテラシーの不平等が格差拡大の要因
- 貧困層は就職や情報活用に不利 → 所得格差悪化
- 国連と NGO が若者にインターネット活用訓練を実施
- 語彙学習：transcontinental, carriage, repercussion, metaphor, metropolitan area, digital literacy, income inequality, bridge the gap など

IELTS ライティング Task1 円グラフ

教材概要

「IELTS Writing Task 1 円グラフの問題」は、円グラフを題材に情報を客観的に描写する練習を行う教材です。男女別のサンドイッチ注文割合を示す円グラフを分析し、導入・本論・結論の構成を学びます。Task 1 では、指示文をパラフレーズし、全体の傾向を簡潔にまとめることが重要です。本論 1 では大きな違いを、本論 2 では細かい違いを描写し、結論で全体を再度整理します。例えば、男性では Double Bacon Sandwich が最も人気である一方、女性では Veggie Sandwich が圧倒的に人気というように、性別による顕著な違いを比較します。Chicken and Egg Sandwich や Grilled Cheese Sandwich は男性にやや人気が高く、Tuna Sandwich は男女ともに同じ割合で注文されるなど、細かい違いも客観的に示します。さらに、円グラフ問題では「differ greatly」「equally popular」「by far the most popular」などの表現を使い分けることで、比較の精度を高めることができます。割合の表現（percentage, proportion, ratio）を適切に使い分けることも高得点につながります。

主なポイント

- Task 1 心得：感想や評価を避け、グラフから読み取れる情報のみを描写
- 語数：150 語以上（理想は 160〜200 語）
- 導入：指示文のパラフレーズ＋全体の描写
- 本論 1：大きな違いをまとめる（例：男性＝Double Bacon、女性＝Veggie）
- 本論 2：細かい違いをまとめる（例：Chicken & Egg、Grilled Cheese は男性にやや人気、Tuna は男女同等）
- 結論：全体を再度まとめ、顕著な違いとそうでない部分を区別
- 使用表現例：differ greatly, in contrast, equally popular, nearly half, by far the most popular など

Lesson 33:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、文化的背景を題材に語彙を学び、社会的要因と成功の関係を理解させること、そしてIELTS ライティング Task 1 棒グラフ問題を通じて「数値比較」と「客観的描写力」を習得させることです。「スウェーデンと音楽」では、教育・言語・文化的特性が音楽成功にどう寄与するかを考えさせます。「Task 1 棒グラフ」では、数値の大小を整理し、学習者が「パラフレーズ」「割合表現」「比較のディスコースマーカー」を習慣化することを目指します。例題を用いて「棒グラフの数値比較描写練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「スウェーデンと音楽」）

教材概要

「スウェーデンと音楽」は、国際的な音楽業界でスウェーデンが突出した存在である理由を解説する教材です。何十年にもわたり多くのスウェーデン人アーティストが世界的に成功しており、その背景には教育制度、言語能力、人口集中、文化的特性など複数の要因があります。まず教育制度では、人文科学を重視し、音楽が必修科目として組み込まれています。さらに、若者の約 3 分の 1 が助成金を受けた放課後音楽プログラムに参加しており、自然に音楽活動へと進む環境が整っています。次に、スウェーデン人の約 89%が英語を流暢に話せるため、英語で歌詞を作成する際に自信を持てる点が国際的成功につながっています。また、人口が都市部に集中しているため、音楽家同士が近接して活動できる環境があり、ビジネスクラスターの効果として創造性や生産性が高まります。さらに、スウェーデン人は「早期導入者」として知られ、海外からの新しい流行や技術を迅速に受け入れ、改良する文化的特性を持っています。これらの要因が組み合わさり、スウェーデンは音楽界における「パワーハウス」となっています。

主なポイント

- 教育制度：音楽が必修科目、放課後プログラムの助成制度
- 英語力：国民の約 89%が流暢に英語を話す
- 人口集中：都市部で音楽家同士が近接 → クラスター効果
- 文化的特性：新しい流行や技術を迅速に受け入れ、改良する姿勢
- 語彙学習：inordinate, compulsory, component, pool of talent, empirical evidence, early adopters, improve upon

  など

IELTS ライティング Task1 棒グラフ

教材概要

「IELTS Writing Task 1 棒グラフの問題」は、棒グラフを題材に情報を客観的に描写する練習を行う教材です。小学校 1 年生のクラスにおけるペット所有状況を示す棒グラフを分析し、導入・本論・結論の構成を学びます。Task 1 では、指示文をパラフレーズし、全体の傾向を簡潔にまとめることが重要です。本論 1 では数値の大きいもの（犬・猫）を、本論 2 では数値の小さいもの（魚・鳥・モルモット・ペットなし）を整理し、結論で全体を再度まとめます。例えば、犬が最も人気で 13 人が飼っている、猫が次に人気で 10 人が飼っているなど、具体的な数値を挙げながら比較します。魚や鳥は中程度の人気、モルモットは最も少なく、ペットを飼っていない生徒は 1 人のみという点も客観的に描写します。さらに、棒グラフ問題では「account for」「come in fourth」「approximately two thirds」などの表現を使い分けることで、数値の動きを正確に示すことができます。人気の差を客観的に比較し、全体的な傾向をまとめることが高得点につながります。

主なポイント

- Task 1 心得：感想や評価を避け、グラフから読み取れる情報のみを描写
- 語数：150 語以上（理想は 160〜200 語）
- 導入：指示文のパラフレーズ＋全体の描写
- 本論 1：数値の大きいものをまとめる（犬・猫）
- 本論 2：数値の小さいものをまとめる（魚・鳥・モルモット・ペットなし）
- 結論：全体を再度まとめ、人気の差を客観的に示す
- 使用表現例：account for, by far the most popular, come in fourth, differ greatly, in summary など

Lesson 34:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、日本の耐震建築を題材に語彙を学び、技術革新と規制の関係を理解させること、そしてIELTS ライティング Task 1 表問題を通じて「数値比較」と「客観的描写力」を習得させることです。「日本建築の耐震性」では、建築技術と文化的背景が耐震性にどう寄与するかを考えさせます。「Task 1 表の問題」では、教科ごとの学習時間を比較し、学習者が「パラフレーズ」「数値表現」「比較のディスコースマーカー」を習慣化することを目指します。例題を用いて「表の数値比較描写練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「日本建築の耐震性」）

教材概要

「日本建築の耐震性」は、日本の高層建築が世界でも最前線に立ち、強い地震活動に耐えうる設計を持つことを解説する教材です。耐震建築と見なされるためには、建物が地震の際に前後にむち打たないほど硬く、しかし揺れに合わせて十分に柔軟である必要があります。例えば東京都心の森ビルには、オイルに浸された炭素棒が組み込まれており、横揺れを吸収して建物への衝撃を弱めます。さらに、世界有数の高さを誇る東京スカイツリーは、木の根をモデルにした深い地下基盤によって安定性を確保しています。加えて、日本の伝統的な塔（五重塔など）を参考に設計され、中心柱（心柱）が錘の役割を果たし、建物全体が前後に動かないように工夫されています。これらの革新は、過去の地震被害を踏まえて政府が建築規制を改正し、厳格化してきた成果です。例えば 1981 年の地震後には、鉄筋コンクリート造りの梁を全ての高層建築に義務化する法律が制定されました。

主なポイント

- 日本は耐震建築の最前線にある
- 高層ビルは「硬さ」と「柔軟さ」の両立が必要
- 森ビル：炭素棒をオイルに浸し横揺れを吸収
- 東京スカイツリー：木の根をモデルにした基盤＋心柱による安定性
- 日本の塔（五重塔）は地震で倒壊したことがない → 設計の参考に
- 政府の建築規制：地震ごとに改正・厳格化、1981 年以降は鉄筋コンクリート梁が義務化
- 語彙学習：forefront, withstand, seismic activity, whip, sway, carbon rod, submerge, jolt, pagoda, central column, edifice, regulation, revise, stringent, mandatory など

IELTS ライティング Task1 表の問題

教材概要

「IELTS Writing Task 1 表の問題」は、表を題材に情報を客観的に描写する練習を行う教材です。中国・韓国・日本・台湾の 15 歳の生徒が、数学・理科・英語・歴史を週に何時間学んでいるかを比較する表を分析します。Task 1 では、指示文をパラフレーズし、全体の傾向を簡潔にまとめることが重要です。本論 1 では比較的差が大きい教科（英語・数学）を、本論 2 では差が小さい教科（理科・歴史）を整理し、結論で全体を再度まとめます。例えば、韓国は英語に最も多くの時間を割き（週 12 時間）、日本は最も少なく（週 7 時間）学んでいる一方で、数学は日本が最多（週 8 時間）であるなど、具体的な数値を挙げながら比較します。理科は韓国と台湾が週 6 時間、中国が 3 時間と差が小さく、歴史は各国で週 2〜4 時間とほぼ均等に重視されています。さらに、表問題では「take the lead」「on the other hand」「slight difference」「as an overall trend」などの表現を使い分けることで、比較の精度を高めることができます。全体的な傾向を客観的にまとめることが高得点につながります。

主なポイント

- Task 1 心得：感想や評価を避け、表から読み取れる情報のみを描写
- 語数：150 語以上（理想は 160〜200 語）
- 導入：指示文のパラフレーズ＋全体の描写
- 本論 1：差が大きい教科（英語・数学）を比較
- 本論 2：差が小さい教科（理科・歴史）を比較
- 結論：全体を再度まとめ、顕著な違いと均等な部分を区別
- 使用表現例：take the lead, on the other hand, slight difference, as shown in the table, in summary など

Lesson 35:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、友人関係と脳活動の研究を題材に語彙を学び、人間関係の進化的背景を理解させること、そして IELTS ライティング Task 1 地図問題を通じて「変化の描写」と「客観的表現力」を習得させることです。「親しい友人と脳の働き」では、科学的研究と進化論的背景を結びつけて「社会的絆の重要性」を考えさせます。「Task 1 地図の問題」では、過去と現在の比較を通じて学習者が「パラフレーズ」「位置表現」「変化のディスコースマーカー」を習慣化することを目指します。例題を用いて「地図の変化描写練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「新しい友人と脳の働き」）

教材概要

「親しい友人と脳の働き」は、友人同士の脳活動の共通性に関する最新研究を紹介する教材です。カリフォルニア大学の調査では、被験者に珍しい音楽ビデオや退屈な結婚披露宴など様々な短い動画を見せ、脳波の反応を比較しました。その結果、単なる顔見知りの人々は異なる神経パターンを示したのに対し、親しい友人同士は興奮から退屈まで同じ盛衰を示しました。これは、共通経験が同じ反応を呼び起こすという説を裏付けています。さらに、この同調した脳活動は健康面でも有益であり、認知症の症状が少なく寿命が延びることと関連していることが偶然発見されました。研究者は、こうした「気が合うこと」が人類の進化過程で発達したと考えています。狩猟採集社会では、男性が大きな獲物を狩る際に迅速に意見を一致させる必要があり、同じ反応を持つことが進化上の利点でした。同様に、女性同士も同じ考え方を共有することで強い社会的絆を築き、母親が亡くなった場合には他の女性が子孫を育てる仕組みが形成されました。

主なポイント

- 親しい友人同士は脳波の反応が一致する
- 共通経験が同じ神経反応を呼び起こす
- 同調した脳活動は寿命延長や認知症予防に関連
- 狩猟採集社会で同じ反応を持つことが進化上の利点
- 女性同士の絆が子孫の養育を保証した
- 語彙学習：chemistry, brain wave, stimuli, neural, synchronised, dementia, like-mindedness, hunter-gatherer society, offspring など

IELTS ライティング Task1 地図の問題

教材概要

「IELTS Writing Task 1 地図の問題」は、地図を題材に情報を客観的に描写する練習を行う教材です。1995 年と現在の町の地図を比較し、導入・本論・結論の構成を学びます。
Task 1 では、指示文をパラフレーズし、全体の変化を簡潔にまとめることが重要です。本論 1 では北部の変化（漁港の消失、市場のホテル化、新しいショッピング街の建設）、本論 2 では南部の変化（公園がゴルフコースに転換、住宅やアパートの増加、農地が公園と学校に変化）を整理します。結論では、町が小さな郊外の海辺の町から繁栄する都市へと再開発されたことを客観的にまとめます。さらに、地図問題では「replace」「transform」「used to be」「no longer exist」などの表現を使い分けることで、変化を正確に示すことができます。方位表現（north, south, east, west）や「in the centre」「coastal area」などの位置表現も重要です。

主なポイント

- Task 1 心得：感想や評価を避け、地図から読み取れる情報のみを描写
- 語数：150 語以上（理想は 160〜200 語）
- 導入：指示文のパラフレーズ＋全体の描写
- 本論 1：北部の変化（漁港→消失、市場→ホテル、ショッピング街建設）
- 本論 2：南部の変化（公園→ゴルフコース、住宅増加、農地→公園と学校）
- 結論：町全体が再開発され、居住者や訪問者を受け入れる都市へ発展
- 使用表現例：replace, transform, used to be, no longer exist, coastal area, residential housing, newly created road など

Lesson 36:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、現代社会のビジネス事例を題材に語彙を学び、プライバシーやアイデンティティの問題を考えさせること、そして IELTS ライティング Task1 ダイアグラム問題を通じて「プロセスの描写」と「客観的表現力」を習得させることです。「先祖調査ビジネス」では、便利さと危険性を比較しながら「技術と倫理の関係」を考えさせます。「Task 1 ダイアグラムの問題」では、開始から終了までの流れを整理し、学習者が「パラフレーズ」「順序表現」「受動態」を習慣化することを目指します。例題を用い「ダイアグラムの流れ描写練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「先祖調査ビジネス」）

教材概要

「先祖調査ビジネス」は、近年急成長している家系図調査産業を題材にした教材です。ここ数十年で先祖を辿るビジネスは数十億ドル規模の産業に成長しました。人々が自分の家系を調べる動機には、グローバル化した社会でアイデンティティを形成する必要性があります。国際化が進む中で、自分が誰であるかを理解するために家族の歴史を追跡する人が増えています。このビジネスは便利で、主にインターネット上で完結します。例えば、あるウェブサイトは 160 億以上の記録を保持しており、個人情報を送るだけで家系図を発行してくれます。別の会社では唾液サンプルを提出するだけで DNA を数千年遡り、先祖を明らかにすることが可能です。さらに DNA 情報を用いて、家族に遺伝する病気にかかりやすいかどうかを予測することもできます。一方で、プライバシー擁護者は巨大なデータベースに懸念を示しています。将来的には、生物学的情報が「マウスをクリックするだけ」で入手可能になる危険性が指摘されています。

主なポイント

- 急成長する家系図調査産業は数十億ドル規模
- アイデンティティ形成の手段として家系図が注目されている
- インターネットで簡便に利用可能、膨大な記録を保持するサイトも存在
- 唾液サンプルで DNA を遡り、先祖や遺伝的疾病リスクを特定可能
- プライバシー問題：巨大データベースへの懸念、情報流出の危険性
- 語彙学習：burgeoning, genealogy, ancestor, saliva, biological information, susceptible, raise concerns, accessible, at the click of a mouse など

IELTS ライティング Task1 ダイアグラムの問題

教材概要

「IELTS Writing Task 1 ダイアグラムの問題」は、プロセス図やフローチャートを題材に情報を客観的に描写する練習を行う教材です。ダイアグラム問題では、物質や製品の製造過程、自然現象の流れ、作業手順などを説明する力が求められます。Task 1 では、指示文をパラフレーズし、全体の流れを簡潔にまとめることが重要です。本論 1 では主要なステップを、本論 2 では補助的なステップを整理し、結論で全体を再度まとめます。例えば「水の循環」や「コーヒー豆の加工過程」などのダイアグラムでは、開始点から終了点までを時系列で説明し、因果関係を明確にします。さらに、ダイアグラム問題では「first」「next」「then」「finally」などの順序表現を使い分けることで、流れを正確に示すことができます。受動態や現在完了形を用いて客観的に描写することも高得点につながります。

主なポイント

- Task 1 心得：感想や評価を避け、ダイアグラムから読み取れる情報のみを描写
- 語数：150 語以上（理想は 160〜200 語）
- 導入：指示文のパラフレーズ＋全体の流れの描写
- 本論 1：主要なステップを時系列で説明
- 本論 2：補助的なステップや詳細を補足
- 結論：全体を再度まとめ、プロセスの意義を客観的に示す
- 使用表現例：first, next, then, finally, be processed, be transformed, undergo changes, result in, lead to など

Lesson 37:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、医学研究を題材に語彙を学び、知性と認知症リスクの関係を理解させること、そしてIELTS ライティング Task 1　2 つのグラフの組み合わせた問題を通じて「相関関係の描写」と「客観的表現力」を習得させることです。「アルツハイマー病と修道女」では、生活習慣や知性が病気の発症にどう影響するかを考えさせます。「Task 1 2 つのグラフの組み合わせた問題」では、残業時間と精神疾患の関係を比較し、学習者が「パラフレーズ」「数値表現」「相関のディスコースマーカー」を習慣化することを目指します。例題を用いて「複合グラフの相関描写練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「アルツハイマー病と修道女」）

教材概要

「アルツハイマー病と修道女」は、認知症研究の一環として修道女を対象に行われた調査を紹介する教材です。アルツハイマー病は寿命の延長に伴い発症の可能性が高まる病気であり、高齢者に物忘れや社会性の低下、家族の記憶喪失など深刻な影響を与えます。従来は高齢期に発症すると考えられていましたが、この研究は病気の始まりがもっと早期にあることを明らかにしました。研究者が修道女を選んだ理由は、彼女たちが同質的な生活様式や背景を持ち、アルコールなど思考に影響を与える要因を排除できるためです。これにより、通常の認知症研究で考慮すべき外的要因を除外できました。さらに修道女は 22 歳から日記をつけており、若年期の認知能力と後年の認知症症状との関係を分析する上で重要な資料となりました。調査の結果、22 歳時点で複雑な文章を書いていた修道女ほど、後年に認知症を発症する可能性が低いことが判明しました。これは予想外の結論でした。

主なポイント

- アルツハイマー病は寿命延長に伴い発症可能性が増加
- 高齢者に深刻な影響：物忘れ、社会性低下、家族の記憶喪失
- 修道女を対象にした理由：同質的な生活様式、外的要因の排除
- 22 歳からの日記が研究資料として重要
- 若年期の複雑な文章＝高い知性 → 後年の認知症リスク低下
- 語彙学習：likelihood, dementia, onset, nun, cognitive ability, shed light on, rule out, extraneous variable, high intellect, conclusion など

IELTS ライティング Task1 2つのグラフ組み合わせた問題

教材概要

「IELTS Writing Task 1 — 2 つのグラフを組み合わせた問題」は、棒グラフと円グラフを組み合わせて情報を客観的に描写する練習を行う教材です。棒グラフは職業別の月間平均残業時間を、円グラフは精神疾患を持つ人々の職業割合を示しています。
Task 1 では、指示文をパラフレーズし、全体の相関関係を簡潔にまとめることが重要です。本論 1 では棒グラフを分析し、医師が最も残業時間が多く(約 43 時間)、次にエンジニア(約 35 時間)、教師とジャーナリスト(約 25 時間)、写真家は最も少ないことを示します。本論 2 では円グラフを分析し、残業時間が多い職業ほど精神疾患の割合が高いことを示します。医師が 33%、エンジニアが 28%、教師とジャーナリストが合計約 30%、写真家が最も低い割合です。結論では、残業時間と精神疾患リスクの相関関係を客観的にまとめます。

主なポイント

- Task 1 心得：感想や評価を避け、グラフから読み取れる情報のみを描写
- 語数：150 語以上（理想は 160〜200 語）
- 導入：指示文のパラフレーズ＋全体の相関関係の描写
- 本論 1：棒グラフの分析（職業別残業時間）
- 本論 2：円グラフの分析（精神疾患割合）
- 結論：残業時間が多いほど精神疾患リスクが高いことをまとめる
- 使用表現例：correlation, likelihood, account for, rise in proportion to, follow closely behind, suffer from mental issues など

Lesson 38:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、進化の事例を題材に語彙を学び、環境と進化の関係を理解させること、そして IELTS ライティング Task 1 案内図とグラフを組み合わせた問題を通じて「変化の描写」と「客観的表現力」を習得させることです。「動物の進化」では、同じ環境下で動物が同じ進化を遂げる可能性を考えさせます。
「Task 1 案内図＋グラフ案内図とグラフを組み合わせた問題」では、改装による変化と満足度の関係を比較し、学習者が「パラフレーズ」「位置表現」「変化のディスコースマーカー」を習慣化することを目指します。例題を用いて「案内図とグラフの変化描写練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「動物の進化」）

教材概要

「動物の進化」は、ハネカクシ（rove beetle）の進化を題材にした教材です。ハネカクシは通常、アリのコロニーに突入して幼虫や小さなアリを捕食し、反撃される前に飛び出すという方法で生きています。しかし、12 種類のハネカクシはアリに似るように進化し、コロニーの中で一年中暮らすようになりました。腹部が大きくなり、脚が長くなり、アリの匂いまで模倣することで仲間として認識されるようになったのです。この進化のメリットは明らかです。地下の温暖な気候は理想的で、食糧供給も豊富であり、捕食者から安全に繁殖できます。驚くべきことに、12 種類すべてのハネカクシが同じ方法で、しかも独立して進化を遂げました。科学者たちは、同じ環境下では動物が同じ進化の道筋をたどると考えています。

主なポイント

- ハネカクシはアリを捕食するが、12 種類はアリに似るよう進化
- 腹部の拡大、脚の伸長、匂いの模倣による「アリ化」
- コロニー内での生活は温暖な気候・豊富な食糧・安全な繁殖環境を提供
- 12 種類すべてが同じ進化を独立して遂げたことが科学者を驚かせた
- 同じ環境下では動物が同じ進化の過程をたどる可能性
- 語彙学習：evolutionary trait, prey on, larvae, dash out, evolve, abdomen, copycat, secrete, masquerade, self-evident, ample, identical, independently, circumstance など

IELTS ライティング Task1 案内図とグラフ組み合わせ

教材概要

「IELTS Writing Task 1　案内図とグラフを組み合わせた問題」は、博物館の改装前後の案内図と、満足度アンケートの円グラフを組み合わせて分析する練習を行う教材です。Task 1 では、指示文をパラフレーズし、全体の変化を簡潔にまとめることが重要です。本論 1 では案内図の変化を分析し、改装前は入口近くに大きな宇宙ギャラリーがあったが、改装後はカフェに変わり、歴史ギャラリーはキッズクラフトコーナーに置き換えられたことを示します。野生動物展示は拡大され、プラネタリウムはそのまま残りました。本論 2 では円グラフを分析し、改装前は男性の満足度が高かったが、改装後は女性と子どもの満足度が大幅に上昇したことを示します。結論では、改装によるレイアウトの変化が顧客満足度の変化につながったことをまとめます。

主なポイント

- Task 1 心得：感想や評価を避け、案内図とグラフから読み取れる情報のみを描写
- 語数：150 語以上（理想は 160〜200 語）
- 導入：指示文のパラフレーズ＋全体の変化の描写
- 本論 1：案内図の変化（宇宙ギャラリー→カフェ、歴史ギャラリー→キッズコーナー、野生動物展示拡大）
- 本論 2：円グラフの変化（男性満足度減少、女性・子ども満足度増加）
- 結論：レイアウトの変更が顧客満足度の変化をもたらした
- 使用表現例：undergo refurbishment, remain the same, be replaced by, adjacent to, satisfaction level, appealing for, carry out renovations　など

Lesson 39:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、言語の社会的影響を題材に語彙を学び、発音の変化が人間関係や社会階級にどう関わるかを理解させること、そして IELTS ライティング Task 2　動物がテーマの問題　を通じて「賛否両論の整理」と「論理的な意見表明力」を習得させることです。「イギリス女王の発音」では、会話による発音の変化を考察し、社会的背景を理解させます。「Task 2　動物テーマの問題」では、賛成派と反対派の意見をバランスよく整理し、学習者が「パラフレーズ」「ディスコースマーカー」「論理的展開」を習慣化することを目指します。授業運営では、例題を用いて「言語変化の要約練習」「動物実験の賛否エッセー練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「イギリス女王の発音」）

教材概要

「イギリス女王の発音」は、エリザベス女王の発音の変化を題材にした教材です。女王は非常に明瞭な話し方で知られていましたが、1957 年の就任演説から近年のクリスマススピーチまでを比較すると、上流階級特有の「カットグラス」発音から、標準的な中産階級の発音へと微妙ながら顕著な変化が見られます。初期には寄宿学校教育によって培われた容認発音（RP）を用いていましたが、時が経つにつれ、視聴者の「エスチュアリー英語」に近づいていきました。
この変化は意識的な模倣ではなく、会話の中で人々が互いに影響し合う自然な現象によるものです。人は会話を重ねるごとに発音がわずかに混ざり合い、理解を深めたり、良好な人間関係を築いたり、対立の中で妥協点を見出す助けとなります。女王もまた、貴族階級以外の人々と接触する機会が増えるにつれ、その発音を取り入れるようになったと考えられます。ただし、依然として非常に正式な話し方を保ち、日常口語で話すことはありませんでした。

主なポイント

- 1957 年：容認発音（RP）による上流階級的な発音
- 時間の経過とともに中産階級的な発音へ微妙に変化
- 会話の影響で発音が混ざり合う現象（rapport, comprehension, disputes）
- 女王は依然として正式な発音を維持し、日常口語は用いなかった
- 語彙学習：diction, shift, Received Pronunciation, Estuary English, subject, dispute, vernacular, merge, build rapport, comprehension　など

IELTS ライティング　Task2　動物がテーマの問題

教材概要

「IELTS Writing Task 2　動物がテーマの問題」は、動物実験の是非について議論するエッセー問題を扱う教材です。指示文では「動物実験は新薬や製品の安全性確認に広く使われているが、倫理的に間違っているため禁止すべきとする意見」と「人類に有益であるため支持する意見」の両方を論じ、自分の意見を述べることが求められます。

Task 2 では、導入で一般的事実と主題文を提示し、本論 1 で賛成派の意見（人間への害が少ない、大量実験が可能、低コスト）、本論 2 で反対派の意見（動物に害を与える、倫理的問題、代替手段の存在）を整理します。結論では、自分の立場を明確に述べ、全体をまとめます。さらに、議論の両側面をバランスよく提示することで、論理性と一貫性を高め、採点基準に沿った高得点につながります。
この課題を指導する際には、学習者が「賛成派」「反対派」の両方の立場を公平に描写できるようにサポートすることが重要です。特に、ディスコースマーカー（Although, On the other hand, In contrast など）を適切に使うことで、論理展開が明確になり、文章全体の流れが自然になります。講師は、学習者が自分の意見を述べる際に感情的な表現に偏らず、客観的な根拠を伴った主張を組み立てられるよう指導することが求められます。

主なポイント

- Task 2 心得：導入と結論以外で主観的主張を避ける、250 語以上（理想 270〜300 語）
- 導入：一般文＋主題文（賛否両論提示＋自分の意見）
- 本論 1：賛成派の意見（人間への害が少ない、大量実験可能、低コスト）
- 本論 2：反対派の意見（動物に害を与える、倫理的問題、代替手段あり）
- 結論：動物実験は禁止すべき、自分の意見を明確に提示
- 使用表現例：I personally think that…, stand by the opinion that…, take legal responsibility, moral burden, advanced technology, computer simulations, in conclusion など

Lesson 40:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、科学技術の進歩を題材に語彙を学び、バラの香りの復活が遺伝子研究によって可能になったことを理解させること、そして IELTS ライティング Task 2 ロボットがテーマの問題を通じて「賛否両論の整理」と「論理的な意見表明力」を習得させることです。「バラの香り」では、科学技術が自然の特性を再現する可能性を考えさせます。「Task 2 ロボットがテーマの問題」では、賛成派と反対派の意見をバランスよく整理し、学習者が「パラフレーズ」「ディスコースマーカー」「条件表現」を習慣化することを目指します。例題を用いて「ロボットの賛否エッセー練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「バラの香り」）

教材概要

「バラの香り」は、バラの香りが失われた背景と最新のゲノム解析による復活の可能性を題材にした教材です。徹底的な選抜育種によって鮮やかな色を優先した結果、多くの品種が独特の香りを失いました。しかし、近年のゲノム解析技術の進歩により、香りを生み出す遺伝子を特定し、再び香りを持つバラを作り出すことが可能になっています。以前は園芸家が試行錯誤で交配を行っていましたが、時間がかかり成功の保証もありませんでした。ゲノム解析はかつて法外に高価で、麦などの主要作物に限られていましたが、現在では費用が大幅に下がり、科学者は個々の遺伝子を選び、交配期間を短縮できるようになりました。遺伝子学者は、バラの花びらから香りを放つ酵素を突き止め、これを利用して鮮やかな色と香りを兼ね備えた交配種を作り出せるようになったのです。

主なポイント

- 選抜育種により香りが失われ、色が優先された
- ゲノム解析の進歩で香りを生み出す遺伝子を特定
- 以前は試行錯誤の交配で時間がかかり成功も不確実
- 現在は費用が下がり、個々の遺伝子を選び交配期間を短縮可能
- 酵素が香りの原因であり、受粉や繁殖に不可欠
- 科学者は色と香りを兼ね備えた交配種を作り出せる
- 語彙学習：breeding, distinctive, horticulturist, crossbreed, time-consuming, staple crop, geneticist, ascertain, enzyme, petal, pollination, reproduction, hybrid など

IELTS ライティング Task2 ロボットがテーマの問題

教材概要

「IELTS Writing Task 2 ロボットがテーマの問題」は、ロボットの社会的影響について賛否両論を論じるエッセー問題を扱う教材です。指示文では「ロボットは人類の発展に重要」とする意見と「ロボットは危険で社会に悪影響を与える」とする意見の両方を論じ、自分の意見を述べることが求められます。
Task 2 では、導入で一般的事実と主題文を提示し、本論 1 で賛成派の意見（効率性の向上、単純作業や力仕事の代替）、本論 2 で反対派の意見（技術的な不具合、システム障害、ハッキングの危険性）を整理します。結論では、自分の立場を明確に述べ、全体をまとめます。さらに、ロボットの利点と危険性を両方提示することで、論理性と一貫性を高め、採点基準に沿った高得点につながります。

主なポイント

- Task 2 心得：導入と結論以外で主観的主張を避ける、250 語以上（理想 270～300 語）
- 導入：一般文＋主題文（賛否両論提示＋自分の意見）
- 本論 1：賛成派の意見（効率性向上、単純作業・力仕事の代替）
- 本論 2：反対派の意見（技術的な不具合、システム障害、ハッキングの危険性）
- 結論：ロボットは必要だが、危険性を認識し予防策を取るべき
- 使用表現例：pose a major threat, boost the economy, massive breakdown, steal confidential information, take precautions, evolve and benefit humanity など

Lesson 41:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、古代社会におけるビールの役割を題材に語彙を学び、農業社会の成立における文化的要因を理解させること、そして IELTS ライティング Task 2 テクノロジーがテーマの問題を通じて「長所と短所の整理」と「論理的な意見表明力」を習得させることです。「ビール製造の歴史」では、アルコールが社会的役割を果たした点を考察させます。「Task 2 テクノロジーがテーマの問題」では、賛成派と反対派の意見をバランスよく整理し、学習者が「パラフレーズ」「ディスコースマーカー」「論理的展開」を習慣化することを目指します。例題を用い「オンライン交際の賛否エッセー練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「ビール製造の歴史」）

教材概要

「ビール製造の歴史」は、農業社会の成立においてパンではなくビールが最初のきっかけだった可能性を探る教材です。一般的には穀物はパンを作るために栽培化されたと考えられていますが、9000 年前の遺物がイラクや中国で発掘され、ビールの醸造に使われた痕跡が見つかっています。これはパンの登場よりも数百年早いものであり、ビールが農業社会の始まりに関わった可能性を示しています。
当時、ビールは抗菌作用を持ち、病原体や不純物を取り除くためパンよりも安全でした。さらにアルコールは社会的役割も果たしました。祖先はリーダーに服従することで生存を助けられましたが、自分たちで問題を解決するためには社会的束縛から抜け出す必要がありました。その抑制を弱める手段の一つがアルコールであり、人々は自由に本音を語ることができたのです。

主なポイント

- 農業社会の始まりはパンではなくビールだった可能性
- 9000 年前の遺物にビール醸造の痕跡（イラク・中国）
- パンよりも早く登場し、安全性も高かった
- ビールの抗菌作用が病原体や不純物を除去
- アルコールが社会的束縛を弱め、人々が本音を語る手段となった
- 語彙学習：roam, domesticate, brew, pathogen, relic, excavate, advent, paradoxical, property, impurity, pivotal, subservience, suppress, inhibition, speak one's mind など

IELTS ライティング Task2 テクノロジーがテーマの問題

教材概要

「IELTS Writing Task 2 テクノロジーがテーマの問題」は、オンライン交際の利点と欠点を論じるエッセー問題を扱う教材です。指示文では「技術の進歩によりオンライン交際が人気になった」という事実を踏まえ、良い面と悪い面を考慮して自分の意見を述べることが求められます。
Task 2 では、導入で一般的事実と主題文を提示し、本論 1 で賛成派の意見（どこでも交際可能、経済的負担が少ない）、本論 2 で反対派の意見（関係が簡単に切れる、相手の真実性を見極めにくい、犯罪に巻き込まれる可能性）を整理します。結論では、自分の立場を明確に述べ、全体をまとめます。さらに、オンライン交際の便利さを認めつつも、対面での交流が長期的な関係構築に不可欠であることを強調します。

主なポイント

- Task 2 心得：導入と結論以外で主観的主張を避ける、250 語以上（理想 270～300 語）
- 導入：一般文＋主題文（賛否両論提示＋自分の意見）
- 本論 1：賛成派の意見（どこでも交際可能、経済的負担が少ない）
- 本論 2：反対派の意見（関係が簡単に切れる、相手の真実性を見極めにくい、犯罪リスク）
- 結論：オンライン交際は便利だが、対面での交流が長期的関係構築に不可欠
- 使用表現例：gain popularity, advantages and disadvantages, cut off relationships, discern identity, stick to the traditional style, face-to-face interaction, build long and strong relationships など

Lesson 42:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、歴史的事件を題材に語彙を学び、宗教対立や社会的記念行事の背景を理解させること、そして IELTS ライティング Task 2 健康がテーマの問題を通じて「複数の理由を整理し論理的に意見を述べる力」を習得させることです。「ガイ・フォークス」では、宗教的背景と陰謀事件の流れを理解させ、文化的行事としての継承を考察させます。「Task 2 健康がテーマの問題」では、賛成派と反対派の意見をバランスよく整理し、学習者が「パラフレーズ」「ディスコースマーカー」「論理的展開」を習慣化することを目指します。例題を用い「医療費負担に関するエッセー練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「ガイ・フォークス」）

教材概要

「ガイ・フォークス」は、1605 年に起きた「火薬陰謀事件」と、それを記念するイギリスの伝統行事「ボンファイヤー・ナイト」を題材にした教材です。毎年 11 月 5 日、イギリス各地の町では花火大会やかがり火が行われ、ガイ・フォークスの人形を燃やしてこの出来事を祝います。
事件の背景には、カトリックとプロテスタントの宗教的対立がありました。カトリックの一団は、プロテスタントの王ジェームズ 1 世を暗殺し、カトリックの女王を擁立しようと企てました。彼らは議会開会式の日に爆弾を爆発させる計画を立て、議会の地下に 20 樽の火薬を隠しました。ガイ・フォークスは火薬の見張り役でしたが、匿名の警告の手紙によって陰謀は発覚し、11 月 5 日早朝に逮捕されました。最初は反抗的だったフォークスも最終的に自白し、処刑されました。この事件は現在も人々に記憶され、祭りとして受け継がれています。

主なポイント

- 11 月 5 日に行われる「ボンファイヤー・ナイト」：花火、かがり火、人形焼却
- 背景：カトリックとプロテスタントの宗教的対立
- 陰謀：ジェームズ 1 世暗殺とカトリック女王擁立を企てる
- 計画：議会地下に 20 樽の火薬を隠す
- 発覚：匿名の手紙で警告、早朝に逮捕
- 結末：ガイ・フォークスは自白し処刑、事件は人形焼却で記念される
- 語彙学習：bonfire, effigy, rebel, House of Lords, conflict, assassinate, Parliament, session, barrel, conceal, arrest, defiant, confess, commemorate な

IELTS ライティング Task2 健康がテーマの問題

教材概要

「IELTS Writing Task 2 健康がテーマの問題」は、医療費を政府が負担すべきかどうかについて議論するエッセー問題を扱う教材です。指示文では「個人が自分の健康に責任を持つべきであり、政府は医療費を負担すべきではない」という意見に対して、賛否を論じることが求められます。Task 2 では、導入で一般的事実と主題文を提示し、本論 1 で「貧困層が医療を受けられなくなる」という理由、本論 2 で「生まれつき病気や欠陥を持つ人が不公平になる」という理由、本論 3 で「生活環境による健康リスクがある」という理由を整理します。結論では、政府は医療費を完全に負担すべきではないが、妥当な割合を負担するべきだとまとめます。さらに、医療費が安すぎると人々が健康管理に無責任になる可能性があるため、費用は適度に設定されるべきだと強調します。

主なポイント

- Task 2 心得：導入と結論以外で主観的主張を避ける、250 語以上（理想 270～300 語）
- 導入：一般文＋主題文（賛否両論提示＋自分の意見）
- 本論 1：貧困層は医療費が高いと治療を受けられない
- 本論 2：生まれつき病気や欠陥を持つ人が不公平になる
- 本論 3：生活環境による健康リスク（都市の大気汚染、衛生環境の悪さ）
- 結論：政府は医療費を部分的に負担すべき、費用は安すぎず高すぎない水準に設定する
- 使用表現例：be held responsible for, provide financial support, innate health problems, vulnerable to sickness, remote area, infectious disease, protect the well-being, at an affordable price, medical expenses など

Lesson 43:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、現代社会における巨大空港の拡張とその影響を題材に語彙を学び、都市開発と地域社会の摩擦を理解させること、そして IELTS ライティング Task 2 環境がテーマの問題を通じて「長所と短所の比較」と「論理的な意見表明力」を習得させることです。「巨大空港」では、空港拡張の利点と地域社会への影響を考察させます。「Task 2 環境がテーマの問題」では、化石燃料と代替エネルギーの両方をバランスよく整理し、学習者が「パラフレーズ」「ディスコースマーカー（会話や文章において論理的な流れを示す接続表現のこと）」「論理的展開」を習慣化することを目指します。例題を用いて「社会問題の要約練習」「環境問題の賛否エッセー練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（IELTS 英単語「巨大空港」）

教材概要

「巨大空港」は、21 世紀における空港の急速な拡張と、それが社会や地域に与える影響を題材にした教材です。飛行機は長距離移動の効率的な手段であり、多くの路線はハブ空港を経由して地方便へと乗り継ぎます。しかし、乗り継ぎ客の急増により深刻な混雑が発生しています。これに対応するため、空港は縮小版都市のように変貌しつつあります。

例えば、カタールの首都に新設された巨大空港は都市の 3 分の 2 の規模を誇り、ドバイの巨大空港は年間 1 億 6,000 万人を往来させる予定です。さらに、空港内にはカジノや一流レストラン、ショッピングモールなど贅沢な施設が整備されています。しかし、都市のスプロール現象が空港に及ぶと、地元住民との摩擦が生じます。騒音による睡眠妨害、水資源の空港への転用、送電網の過負荷、さらには空港施設が地元商業と直接競合するなどの問題が発生します。

主なポイント

- ハブ空港を経由する乗客の急増による混雑
- 空港が縮小版都市のように拡張（カタール、ドバイの事例）
- 空港施設の豪華化（カジノ、レストラン、商業施設）
- 都市スプロールによる摩擦：騒音、資源転用、送電網過負荷
- 空港施設と地元商業の競合
- 語彙学習：hub, congestion, transform, shuttle, top-notch, divert, power grid, urban sprawl, friction, overload, competition など

IELTS ライティング Task2 環境がテーマの問題

教材概要

「IELTS Writing Task 2 環境がテーマの問題」は、化石燃料と代替エネルギーの利点・欠点を比較し、どちらをより広く使うべきかを論じるエッセー問題を扱う教材です。指示文では「多くの国が化石燃料を使用しているが、代替エネルギーを主とする国もある」と提示され、両方の側面を考慮して自分の意見を述べることが求められます。

Task 2 では、導入で一般的事実と主題文を提示し、本論 1 で化石燃料の利点（低コスト、既存施設利用可能）と欠点（環境汚染、温暖化促進、枯渇性）を整理します。本論 2 では代替エネルギーの利点（環境に優しい、資源が枯渇しない）と欠点（高コスト、新施設や技術者が必要）を整理します。結論では、代替エネルギーの使用を奨励すべきだと述べ、持続可能で環境に優しい社会を次世代に残す必要性を強調します。

主なポイント

- Task 2 心得：導入と結論以外で主観的主張を避ける、250 語以上（理想 270～300 語）
- 導入：一般文＋主題文（賛否両論提示＋自分の意見）
- 本論 1：化石燃料の利点（低コスト、既存施設利用）と欠点（環境汚染、温暖化、枯渇）
- 本論 2：代替エネルギーの利点（環境に優しい、資源が枯渇しない）と欠点（高コスト、新施設必要）
- 結論：代替エネルギーの使用を奨励すべき、持続可能な社会を次世代に残す
- 使用表現例：pros and cons, sustain industries, release toxic gases, run out, inexhaustible, renewable energy, environmentally friendly, for following generations など

Lesson 44:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、歴史的建設プロジェクトを題材に語彙を学び、技術的困難や国際協力の重要性を理解させること、そして IELTS スピーキングの Introduction を通じて「意見を述べる力」「理由を説明する力」「具体例を挙げる力」を習得させることです。「英仏海峡トンネル」では、建設の歴史的背景と技術的課題を理解させ、学習者が自分の言葉で説明できるようにします。IELTS スピーキングの「Introduction」では、試験構成や評価基準を踏まえ、学習者が論理的に話を展開できるように練習を進めます。例題を用いて「スピーキング試験の模擬練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。サポートとしては、語彙リストやスピーキング用の表現集を提供し、学習者が論理的に話を展開できるようにガイドラインを準備します。

語彙（IELTS 英単語「英仏海峡トンネル」）

教材概要

「英仏海峡トンネル」は、イギリスとフランスを結ぶ海底トンネルの建設史を題材にした教材です。最初の試みは 1802 年、フランス人鉱山技師が馬車を通す構想を描いたことに始まりますが、失敗に終わりました。その後も提案は続きましたが政府により断念されました。1985 年になって銀行と建設会社の連合が商業的事業として計画を引き継ぎ、1993 年完成を目標に環境影響を評価しながら準備を進めました。実際の掘削開始は 1988 年であり、長い忍耐を要しました。英国側は石灰質の土壌で掘削が比較的容易でしたが、フランス側は異なる土壌で障害物を避ける困難な作業となりました。巨大な掘削機の回転刃で岩を切り進めましたが、問題が次々に発生し、費用の増大が計画を遅らせました。1990 年 12 月 1 日、イギリス人グラハム・ファッグとフランス人フィリップ・コゼットがトンネル内で出会い、掘削が完了しました。

主なポイント

- 1802 年：馬車を想定した最初の計画は失敗
- 1985 年：銀行と建設会社の連合が商業事業として計画を再開
- 1988 年：掘削開始、1993 年完成を目標に進行
- 英国側は石灰質で掘削容易、フランス側は障害物が多く困難
- 費用増大と問題発生で遅延
- 1990 年 12 月：英仏両国の掘削者がトンネル内で合流し完成
- 語彙学習：envisage, submit a proposal, abandon, alliance, commercial venture, measure, deadline, commence, boring machine, blade, obstacle, setback, escalating cost, counterpart, bring to completion など

IELTS スピーキング Introduction

教材概要

IELTS スピーキングは、受験者が自分の意見を論理的に展開し、理由や具体例を挙げながら話す力を測る試験です。スピーキング力は単なる英語力だけでなく、論理的な構成力、語彙の選択、発音の明瞭さ、そして自然なコミュニケーション姿勢が総合的に評価されます。試験は 3 つのパート Part1（自己紹介）、Part2（テーマに関するスピーチ）、Part3（深掘り質問）に分かれており、日常的な質問から抽象的な議論まで幅広く対応する必要があります。ポイントは流暢さ・語彙力・文法の正確さ・一貫性という 4 つの評価基準を意識しながら答えることです。

主なポイント

- 試験構成
  - Part 1：身近な話題（家族、趣味、仕事、旅行など）
  - Part 2：トピックカードに基づく 1〜2 分間のスピーチ
  - Part 3：Part 2 に関連した抽象的・発展的な質問への回答
- 評価基準
  - 流暢さと一貫性（Fluency & Coherence）
  - 語彙力（Lexical Resource）
  - 文法の正確さと多様性（Grammatical Range & Accuracy）
  - 発音（Pronunciation）
- 効果的な答え方
  - 意見を明確に述べる（I believe…, In my opinion…）
  - 理由を説明する（because…, due to…, the reason is…）
  - 具体例を挙げる（For example…, One good illustration is…）
  - ディスコースマーカーを活用（On the one hand…, In contrast…, As a result…）

Lesson 45:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、イギリス人の外国語習得を題材に語彙を学び、外国語習得の社会的背景理解させると同時に、基礎的な文法練習を通じてスピーキング力を強化することです。「イギリス人の外国語習得」では、教育制度や学習意欲の問題を考察させ、外国語学習の重要性を意識させます。「IELTS スピーキング Warming Up (1~10)」では、基本文型と時制を繰り返し練習させ、学習者が即座に正しい文を作れるように指導します。例文を音読・暗唱させ、ペアワークで質問と回答を練習させることが効果的です。

語彙(IELTS 英単語「イギリス人の外国語習得」)

教材概要

「イギリス人の外国語習得」は、グローバル化が進む現代社会において外国語学習の重要性が高まっているにもかかわらず、イギリス人が外国語習得に苦手意識を持つ背景を題材にした教材です。多言語を話せる従業員は国際ビジネスにおいて需要が高く、文化的規範を理解し不適切な行動を避けることができるため、競争の激しい労働市場で優位に立つことができます。しかし、イギリス人は世界的に「外国語が不得意な国民」として知られており、ヨーロッパ諸国の 52%が外国語を使えるのに対し、イギリス人はわずか 38%しか外国語を使えません。その理由は教育制度にあります。中等教育では大学進学のためにAレベルの成績が最優先されますが、言語科目は他教科より難しいと認識されているため敬遠されがちです。さらに、若者は外国語学習の有用性を十分に理解せず、授業中に興味を失うことも多いです。これに対応して地方自治体は、子供たちをより早い段階から外国語に触れさせ、学習意欲を高める取り組みを進めています。目的は、学生が外国語習得を妨げられず、積極的にこの重要なスキルを身につけることです。

主なポイント

- グローバル化に伴い外国語習得の重要性が増大
- 多言語話者は国際ビジネスで需要が高く、文化的規範を理解できる
- イギリス人は外国語習得が不得意で、ヨーロッパ平均より低い習得率
- 原因は教育制度：大学進学優先、言語科目が難しいと認識される
- 若者が外国語の有用性を理解せず、授業で興味を失う傾向
- 地方自治体は早期教育で外国語学習を促進し、意欲を高める取り組みを実施
- 語彙学習：pace, quicken, be in demand, open up, inappropriate, acquire fluency, give an edge, dismal, immediate priority, appreciate, usefulness, switch off, in response to, objective, engage, deter など

IELTS スピーキング Warming Up（1～10）

教材概要

「Warming Up」は、英語の基本的な文型（SV, SVC, SVO, SVOO, SVOC）や時制（現在形、過去形、完了形、未来形）、助動詞（can, may, be able to）を用いた基礎的な文作りを練習する教材です。短い例文を通して、学習者が文法構造を理解し、スピーキングやライティングで即座に使えるようになることを目的としています。

主なポイント

- SV（主語＋動詞）：I am waiting. / I live with my parents.
- SVC（主語＋動詞＋補語）：I am hungry. / Music is important.
- SVO（主語＋動詞＋目的語）：I play the piano. / My parents speak French.
- SVOO（主語＋動詞＋間接目的語＋直接目的語）：I gave him a present. / My mother bought me a bicycle.
- SVOC（主語＋動詞＋目的語＋補語）：I named my dog Momo. / Animals make children happy.
- 時制練習：現在形（I get up early）、過去形（I was lucky）、完了形（I have been to France）、未来形（I will call you later）
- 助動詞練習：I can drive. / You may leave now. / She may not come tonight.

Lesson 46:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、環境問題を題材に語彙を学び、持続可能性の重要性を理解させること、そして基礎文法練習を通じてスピーキング力を強化することです。「グレートバリアリーフ」では、観光と環境保護のバランスを考察させ、学習者が自分の意見を英語で展開できるようにします。「IELTS スピーキング Warming Up（11～20）」では、助動詞や仮定法などを繰り返し練習させ、学習者が即座に正しい文を作れるように指導します。例文を音読・暗唱させ、ペアワークで質問と回答を練習させることが効果的です。

語彙（IELTS 英単語「グレートバリアリーフ」）

教材概要

「グレートバリアリーフ」は、世界最大級の珊瑚礁であるグレートバリアリーフが観光によって受けている深刻な影響と、その保護の取り組みを題材にした教材です。豊富な珊瑚や熱帯魚などの海洋生物が集まるため、スキューバダイビングの人気スポットとなっていますが、その人気が代償を伴っています。未熟なダイバーが珊瑚を折ってしまったり、ツアー船から流出する油が海面を覆い、日光を遮って珊瑚を窒息させたりしています。2017 年までに北部では半分の珊瑚が失われ、長年の放置で状況は悪化しました。

この自然の驚異は存続の危機にあり、適切な対策が必要です。オーストラリア政府は 7 億ドルの資金を投入することを約束し、ダイバーの人数を制限して排他的な観光地にする提案も出ています。目標は持続可能な方法を見つけ、珊瑚礁が回復することです。この素晴らしい自然現象の存続は、私たちの行動にかかっています。

主なポイント

- グレートバリアリーフは豊富な珊瑚と熱帯魚で世界的に有名
- 観光の人気が環境破壊を招いている（未熟なダイバー、船の油）
- 2017 年までに北部で半分の珊瑚が失われた
- 長年の放置で状況が悪化
- 政府は 7 億ドルを投入し、ダイバー人数制限などの対策を検討
- 持続可能な方法で珊瑚礁を回復させる必要がある
- 語彙学習：array, marine, wealth of, saturate, smother, neglect, under threat, take measures, pledge, sustainable, spring back, tenuous など

IELTS スピーキング Warming Up（11～20）

教材概要

「Warming Up（11～20）」は、助動詞、動名詞、比較、関係詞、仮定法など、英語の文法を体系的に練習する教材です。短い例文を通して、学習者が文法構造を理解し、スピーキングやライティングで即座に使えるようになることを目的としています。

主なポイント

- Should / Must / Have to：I should learn Spanish. / You must not smoke.
- Infinitives（不定詞）：I want to be a pilot. / I went there to see my parents.
- Gerunds（動名詞）：I like reading books. / I am proud of being a teacher.
- Countable / Uncountable Nouns：I eat a slice of bread. / I bought a piece of furniture.
- Adjectives / Adverbs：Writing is really difficult. / The tuition rose dramatically.
- Prepositions / Conjunctions：I work in a factory. / I work hard but I am poor.
- Passive（受動態）：I was born in 1989. / This chair is made of wood.
- Comparison（比較）：I am as tall as my father. / India is the best country I've ever been to.
- Relative Clause（関係詞）：This is the town where I was born. / Do you know what I mean?
- Subjunctive Mood（仮定法）：I wish I could speak German. / Without your help, I would not have finished

Lesson 47:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、睡眠の大切さを題材に語彙を学び、睡眠の重要性を理解させると同時に、IELTS スピーキング 1. Study（学習）[リハーサル面接動画対応]の流れに沿った練習を通じて「意見を述べる力」「理由を説明する力」「具体例を挙げる力」を養うことです。「睡眠の大切さ」では、健康と社会的リスクの観点から睡眠不足の影響を考察させます。「IELTS スピーキング 1. Study（学習）[リハーサル面接動画対応]」では、Part 1～3 の流れを徹底的に練習し、学習者が試験本番で自信を持って答えられるように指導します。例題を音読・暗唱させ、ペアワークで質疑応答を行い、Part 2 ではスピーチ練習を繰り返し、Part 3 ではディスカッション形式で抽象的な議論を展開させます。

語彙（IELTS 英単語「睡眠の大切さ」）

教材概要

「睡眠の大切さ」は、現代社会における睡眠不足の深刻な影響とその改善方法を題材にした教材です。先進国の成人のうち、必要とされる 8 時間の睡眠を取れている人はわずか 3 分の 1 しかいません。コーヒーを飲んで数時間の睡眠で何とかなると考える人もいますが、この戦略は失敗に終わります。カフェインは夜の休息を妨げ、問題をさらに悪化させるからです。研究によれば、睡眠不足は脳の認知機能を低下させ、癌のリスクを高め、仕事のパフォーマンスを損ないます。特に長距離トラック運転手や外科医などが不十分な睡眠で働くことは社会全体を危険にさらします。
睡眠不足の原因には、スマートフォンやパソコンの画面の普及、寝室の電灯の光量などがあります。しかし、私たちはもっと眠ることが必須です。体内時計に注意し、テレビ視聴を犠牲にしてでも早く寝ることが重要です。

主なポイント

- 先進国成人の 3 分の 1 しか必要な睡眠時間を確保できていない
- コーヒーで補う戦略は失敗に終わる（カフェインが睡眠を妨害）
- 睡眠不足は脳機能低下、癌リスク増加、仕事のパフォーマンス低下を招く
- 長距離運転手や外科医などの職業では社会的リスクが大きい
- 原因：スマホや PC 画面、電灯の光など
- 改善策：体内時計に合わせて早寝を心がける

IELTS スピーキング 1. Study（学習）[リハーサル面接動画対応]

教材概要

「IELTS スピーキング 1. Study（学習）[リハーサル面接動画対応]」は、IELTS スピーキングテストの流れに沿って練習できる教材です。Part 1 では身近な質問に答え、Part 2 では指定されたテーマについて 1～2 分間スピーチを行い、Part 3 では抽象的な議論を展開します。

主なポイント

Part 1（一般的な質問）

例題

- Do you work or are you a student?
- Why did you choose your major?
- Do you prefer to study alone or with friends?
- Do you like to work in the morning or in the evening?
- What do you plan to do after graduating from university?

指導ポイント

- 質問に対して「主題＋支持文」で答える練習をさせる
- major in / specialise in / read など「専攻する」表現を習得
- get distracted, get stressed など「get+過去分詞」の口語表現を活用

Part 2（スピーチ）

例題

- Describe a memorable event at school.

指導ポイント

- 1 分間でメモを取り、2 分間スピーチを行う練習
- recall, memorise, learn by heart, slip my mind など「記憶」に関する表現を導入
- tons of ~, move on などのフレーズを使って内容を膨らませる

Part 3（抽象的な議論）

例題

- How has technology changed the way we study?
- What subjects are important for students to study?
- What are the advantages and disadvantages of online learning?
- Is lifelong learning becoming popular?

指導ポイント

- study material, human interaction, ever-changing environments, skills-based subjects などの語彙を活用
- pros and cons, self-discipline, dropout rate など「利点と欠点」を述べる表現を強化
- struggle, suffer from, have difficulty ~ing など「苦労する」表現を練習
- way の多義的な使い方（the way, all the way, by the way, in every way, on one's way to, the other way around）を習得

Lesson 48:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、シェイクスピアを題材に語彙を学び、文学研究における「証拠に基づく議論」と、仕事に関する「具体的経験＋抽象的議論」を英語で展開できる力を養うことです。「シェイクスピア」では、懐疑派の主張と科学的検証の重要性を考察させ、批判的思考を育成します。「IELTS スピーキング 2.Work（仕事）」では、Part 1～3 の流れを徹底的に練習し、学習者が試験本番で自信を持って答えられるように指導します。例題を音読・暗唱させ、ペアワークで質疑応答を行い、Part 2 ではスピーチ練習を繰り返し、Part 3 ではディスカッション形式で抽象的な議論を展開させます。

語彙（IELTS 英単語「シェイクスピア」）

教材概要

「シェイクスピア」は、世界的に称賛されるウィリアム・シェイクスピアの戯曲や詩の作者性をめぐる議論を題材にした教材です。シェイクスピアは手袋職人の息子でありながら複雑な文体や宮廷の知識を持ち得たのか疑問視され、懐疑派は彼が実在せず、フランシス・ベーコン卿などの貴族の仮名にすぎないと主張しました。しかし、この理論には欠陥があり、彼が包括的な初等教育を受けていたことや、多くの戯曲に署名がある事実を考慮していません。研究者たちはより決定的な方法として「計量文献学（stylometry）」を用いました。これは文章の長さや語句の頻度などの言語学的変数を分析し、作者性と信憑性を特定する学問です。シェイクスピアの作品を綿密に調査し、コンピュータモデルに重ね合わせた結果、彼自身が戯曲を書いたことが明らかになりました。

主なポイント

- シェイクスピアの戯曲・詩は世界中で称賛されている
- 懐疑派は「下層階級出身者が複雑な文体や宮廷知識を持つのは不可能」と主張
- シェイクスピアは仮名であり、実際は貴族が書いたとする説（ベーコン説など）
- 否定派の理論には欠陥：初等教育や署名の事実を考慮していない
- 決定的な方法として計量文献学（stylometry）が用いられた
- 分析結果：シェイクスピア自身が作品を書いたことが明確に示された

IELTS スピーキング 2.Work（仕事）

教材概要

「IELTS スピーキング　2.Work（仕事）」は、IELTS スピーキングで頻出するテーマの一つであり、受験者が自分の職業や働き方について論理的に説明する力を養う教材です。Part 1 では仕事に関する基本的な質問に答え、Part 2 では指定されたテーマについて 1〜2 分間のスピーチを行い、Part 3 では抽象的な議論を展開します。仕事に関する語彙や表現を強化し、試験本番で自信を持って答えられるようにすることを目的としています。

主なポイント

Part 1（一般的な質問）

- Do you work or are you a student?
- Why did you choose your job?
- What don't you like about your job?
- What is unique about your company?

指導ポイント

- 短い回答＋理由付けを練習。仕事に関する基本語彙（work, job, occupation, profession, vocation, task）を使い分ける。

Part 2（スピーチ）

例題

- Describe a job that you think will be important in the future.

指導ポイント

- 1 分間でメモを取り、2 分間スピーチを行う練習
- accuracy, endurance, creativity, critical thinking, bachelor's degree などの語彙を活用。
- 「知識」に関する表現（have general knowledge, gain knowledge and insight, have intimate knowledge of A, pass knowledge to the next generation）を導入。

Part 3（抽象的な議論）

例題

- What kind of companies are popular in your country?
- What do people prioritise when they choose their work?
- Why do you think people in some jobs make a lot of money?

- Why do some people choose to work in a local company?

指導ポイント

- 抽象的な議論を展開。graduating students, brand recognition, my personal priority, require lengthy training, devote time and energy などのフレーズを活用。
- 「理由・原因」を述べる表現（due to, because of, owing to, thanks to）や「例を挙げる」表現（let's say, for instance, to name a few, such as A）を練習。

Lesson 49:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、リチャード三世を題材に語彙を学び、歴史的評価の再検討を通じて批判的思考を養うこと、家族に関する具体的経験や抽象的議論を展開できる力を養うことです。「リチャード三世」では史実と文学的描写の違いを考察させ、証拠に基づく議論の重要性を理解させます。「IELTS スピーキング 3. Family（家族）」では Part 1～3 の流れを徹底的に練習し、学習者が試験本番で自信を持って答えられるように指導します。例題を音読・暗唱させ、ペアワークで質疑応答を行い、Part 2 ではスピーチ練習を繰り返し、Part 3 ではディスカッション形式で抽象的な議論を展開させます。

語彙（IELTS 英単語「リチャード三世」）

教材概要

「リチャード三世」は、イギリス王リチャード三世（1452–1485）の人物像とその評価を題材にした教材です。一般的には甥を監禁・殺害して権力を握った非情な支配者として知られ、シェイクスピアの戯曲「リチャード三世」では「せむしの悪人」として描かれています。しかし後世の学者たちは、忠誠心や戦時下での誠実な統治などの事実が省かれていると指摘し、彼を「時代の申し子」として再評価する動きもあります。探偵的な調査の結果、駐車場の下から遺骨が発見され、死体解剖で本人と確認されましたが、彼が本当に悪人だったかどうかは依然として明らかではありません。さらに、リチャード三世の評価は「歴史の語り方」に大きく左右されてきました。シェイクスピアの戯曲は政治的プロパガンダの要素を含み、当時の王朝交代を正当化するために彼を悪役として描いた可能性があります。近年の研究では、彼の政策や統治の一部が合理的であったこと、また彼の失脚が必ずしも個人の悪行だけでなく時代の混乱に起因していたことが強調されるようになっています。こうした視点は、歴史人物の評価が固定的ではなく、文献や証拠の解釈によって変化し得ることを学習者に示す良い題材となります。

主なポイント

- 一般的評価：甥を監禁・殺害して権力を握った非情な支配者
- シェイクスピアの戯曲では「せむしの悪人」として描かれる
- 死後、遺体は川に投げ込まれたと噂された
- 学者たちは忠誠心や誠実な統治などの事実が省かれていると指摘
- 「時代の申し子」として再評価される動きもある
- 探偵的調査の結果、駐車場の下から遺骨を発見
- 死体解剖で本人と確認されたが、悪人か否かは未解決

IELTS スピーキング 3. Family（家族）

教材概要

「IELTS スピーキング 3. Family（家族）」は、IELTS スピーキングで頻出するテーマの一つであり、受験者が家族との関係や役割について論理的に説明する力を養う教材です。Part 1 では家族に関する基本的な質問に答え、Part 2 では特定の家族についてスピーチを行い、Part 3 では抽象的な議論を展開します。家族に関する語彙や表現を強化し、試験本番で自信を持って答えられるようにすることを目的としています。

主なポイント

Part 1（一般的な質問）

- How much time do you spend with your family?
- What do you like to do with your family?
- Do you get along with your family?
- Who is your closest family member?

指導ポイント

- 短い回答＋理由付けを練習。
- 家族と過ごす時間、好きな活動、関係性、最も親しい家族について答える

Part 2（スピーチ）

例題

- Describe your favourite member of your family.

指導ポイント

- 1 分間でメモを取り、2 分間スピーチを行う練習
- 関係性（祖父、兄弟など）を明確にする
- 特定の家族について「関係性＋頻度＋活動＋理由」を組み合わせて説明する
- 感情的な表現（尊敬、感謝、楽しさ）を加えることで説得力を高める

Part 3（抽象的な議論）

例題

- What role do grandparents play in your country?

- What are the advantages and disadvantages of being in a large family?
- Which is more important, family or friends?
- How do you think the family unit will change in the future?

指導ポイント

- 祖父母の役割、大家族の利点と欠点、家族と友人の比較、家族の将来像について議論する
- 抽象的な議論に具体例を加えて深みを出す練習を行う

Lesson 50:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、「組織市民行動」を題材に語彙を学び、職場での自発的な行動がどのように組織の効率や雰囲気を改善するかを理解させ、学習者に「証拠に基づく議論」の重要性を考えさせます。批判的思考を育成するために、OCB の利点と課題を両面から提示することが効果的です。「IELTS スピーキング 4. Hometown（故郷）」では、Part 1～3 の流れを徹底的に練習させ、日常的な経験から抽象的な議論までを自然に展開できるように指導します。音読・暗唱、ペアワーク、スピーチ練習、ディスカッションを組み合わせ、語彙リストやスピーキング用の表現集を提供して論理的に話を展開できるようにサポートします。

語彙（IELTS 英単語「組織市民行動」）

教材概要

「組織市民行動（Organisational Citizenship Behaviour, OCB）」は、職場で従業員が自発的に行う小さな助け合いを指します。例えば、同僚が困難を乗り越える手助けをしたり、新しい事業につながるヒントを伝えたりする行為です。これらは上司から明確な報酬制度で認められるものではありませんが、社内の結束を強め、従業員に充足感をもたらす効果があります。OCB は単なる流行語ではなく、企業にとって目に見える利益を生み出します。失敗や困難に不満を言わず対応することで前向きな雰囲気を作り出し、外部からの組織の印象を改善します。結果として、個人の任意の行動が会社の効率を高め、成功への推進力となります。さらに、従業員は「巨大な機械の歯車の一つ」ではなく「支援し合える家族の一員」であると感じられるため、個人的な満足感や帰属意識も高まります。

主なポイント

- OCB は上司からの明確な報酬制度に基づかない自発的な行動
- 同僚を助け、新しい事業につながる情報を共有するなどの行為が含まれる
- 社内の結束を強め、従業員に充足感をもたらす
- 不満を言わず困難に対応することで前向きな雰囲気を作り出す
- 外部からの組織の印象を改善し、企業の効率や成功を促進する
- 従業員は「歯車」ではなく「支援し合える家族の一員」と感じられる

IELTS スピーキング 4. Hometown（故郷）

教材概要

「IELTS スピーキング 4. Hometown（故郷）」は、IELTS スピーキングで頻出するテーマの一つであり、受験者が自分の故郷について具体的に説明し、抽象的な議論を展開する力を養う教材です。Part 1 では故郷の住みやすさや好きな点、産業や観光について問われ、Part 2 では故郷の人気スポットを描写するスピーチを行います。Part 3 では社会的問題や都市への移住理由、故郷改善の方法などを議論します。学習者は「具体例＋理由」で短く答える力と、「抽象的な議論＋具体例」で深みを出す力を養うことができます。

主なポイント

Part 1（一般的な質問）

- Is your hometown a good place to live?
- What do you like most about your hometown?
- What kind of jobs do people do in your hometown?
- Is your hometown a popular place for tourists to visit?
- Has your hometown changed in any way in your lifetime?

指導ポイント

- → 短い回答＋理由付けを練習。故郷に関する基本語彙（hometown, rural area, community, neighbourhood, industry, landscape）を使い分ける。

Part 2（スピーチ）

例題

- Describe a popular place in your hometown.

指導ポイント

- → 1 分間でメモを取り、2 分間スピーチ。tourist attractions, traditional temples, rural landscape, maximise the potential of ~, futuristic appearance などの語彙を活用。
- 「観点」に関する表現（from my point of view, from an educational perspective, from the point of view of A, in terms of A）を導入。

Part 3（抽象的な議論）

例題

- What social problems are there in your hometown?
- Why do so many people move to live in cities?
- How can you improve your hometown?

指導ポイント

- → 抽象的な議論を展開。invade one's privacy, transportation system, higher-paying jobs, financial resources, revitalise the local community などのフレーズを活用。
- 「理由・原因」を述べる表現（due to, because of, owing to, thanks to）や「例を挙げる」表現（for instance, let's say, to name a few, such as A）を練習。

Lesson 51:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、「ウィキペディア」を題材に語彙を学び、知識共有とボランティア精神がどのように人々を動機づけるかを理解させ、学習者に「社会的価値と個人の充足感の関係」を考察させます。「IELTS スピーキング 5. Accommodation（住まい）」では、Part 1～3 の流れを徹底的に練習し、日常的な住まいの説明から理想の家のスピーチ、抽象的な議論までを自然に展開できるように指導します。音読・暗唱、ペアワーク、スピーチ練習、ディスカッションを組み合わせ、語彙リストやスピーキング用の表現集を提供して論理的に話を展開できるようにサポートします。

語彙（IELTS 英単語「ウィキペディア」）

教材概要

「ウィキペディア」は、21 世紀の知識共有とボランティア精神を題材にした教材です。ダニエル・ピンクの動機づけ理論に基づく逸話を紹介し、20 世紀末のテクノロジー企業による百科事典と、ボランティアによる無料オンライン百科事典の対比を描いています。当時の経済学者は企業側の百科事典が優位に立つと予想しましたが、利用者はウィキペディアに群がり、2009 年には企業側が敗北を認めて撤退しました。ウィキペディアは「自由経済の草分け」として、情報にお金を払うよりもボランティアとして参加する人々の姿勢を示しています。無報酬の編集者が誤りを排除し、適切な情報源を探すことで「大義に貢献した」という充足感を得る点が強調されています。この教材は、知識の共有、ボランティア精神、そして「大義のために働く」ことがどのように人々を元気づけ、社会に影響を与えるかを考察する良い題材となります。

主なポイント

- ダニエル・ピンクの動機づけ理論に基づく逸話を紹介
- 企業による百科事典 vs ボランティアによる無料百科事典の対比
- 経済学者の予想に反し、利用者はウィキペディアに群がった
- 2009 年に企業側が敗北を認めて撤退
- ウィキペディアは「自由経済の草分け」として位置づけられる
- 無報酬の編集者が誤りを排除し、適切な情報源を探す
- 編集者は「大義に貢献した」という充足感を得る

IELTS スピーキング 5. Accommodation（住まい）

教材概要

「IELTS スピーキング 5. Accommodation（住まい）」は、IELTS スピーキングで頻出するテーマの一つであり、受験者が自分の住居について具体的に説明し、理想の住まいや住居に関する社会的議論を展開する力を養う教材です。Part 1 では現在の住居や生活環境について問われ、Part 2 では理想の家を描写するスピーチを行います。Part 3 では住居の重要性や人気の住宅タイプ、持ち家の利点などを議論します。学習者は「具体例＋理由」で短く答える力と、「抽象的な議論＋具体例」で深みを出す力を養うことができます。

主なポイント

Part 1（一般的な質問）

- Do you live in a house or a flat?
- How long have you been living there?
- What do you like about your flat?
- What can you see from the window of your flat?

指導ポイント

- → 短い回答＋理由付けを練習。故郷に関する基本語彙（house, flat, apartment, condominium, bungalow, shared flat）を使い分ける。

Part 2（スピーチ）

例題

- Describe an ideal dream house you would like to live in.

指導ポイント

- → 1 分間でメモを取り、2 分間スピーチ。 numerous, panoramic view, self-sustainable, solar panels, emissions などの語彙を活用。
- 「つなぎ言葉（filler）」の表現（you know, kind of, I mean）を導入。

Part 3（抽象的な議論）

例題

- Is it important for people to live in a large house?
- What kind of homes are popular in your country?
- What do you think are the advantages of living in your own house rather than a rented flat?

指導ポイント

- → 抽象的な議論を展開。burden, advocate, enable, traditional-style tatami room, create opportunities, become more responsible などのフレーズを活用。
- 「掃除」に関する表現（clean, tidy, vacuum, sweep, mop, wipe）や「利点」を述べる表現（you don't need to worry…, houses with outside space…, buying a house is still a common goal）を練習。

Lesson 52: IELTS リーディング総合演習（生徒用）

試験案内
本日の授業では、IELTS 公式リーディング模擬テストを実施します。使用する教材はブリティッシュ・カウンシル公認の本番形式問題で、実際の試験と同じ構成・難易度です。授業時間は 60 分で、以下の流れで進めます。

- まず、リーディング試験の形式と注意点を確認します。
- 続いて、模擬テストを本番同様に実施します。時間配分を意識し、全問解答を目指してください。
- 採点を行い、正答と誤答を確認します。
- 最後に振り返りを行い、読解戦略を整理します。

この模擬テストを通じて、試験環境に慣れること、時間管理を改善すること、そして自分の弱点を把握することが目的です。特に「設問タイプごとの解答方法」を意識して挑戦してください。

試験の目的
本番形式に慣れ、解答スピードと集中力を養う

試験の流れ：
イントロダクション

- IELTS リーディングの構成説明（3 セクション、約 40 問、60 分）
- 本日の模擬テストの目的を確認

模擬テスト実施（60 分）

- 公認問題を使用し、本番同様の形式で受験
- 時間内に全問解答を目指す

自己採点

- 宿題として自己採点を行う

学習ポイント

- 時間配分が最大の課題 → 各セクションに均等に時間を割り振る
- 設問タイプ（True/False/Not Given、Matching、Sentence Completion）に慣れる
- キーワードを素早く見つける練習

Lesson 53: IELTS リスニング総合演習（生徒用）

試験案内
本日の授業では、IELTS 公式リスニング模擬テストを実施します。使用する教材はブリティッシュ・カウンシル公認の本番形式問題で、実際の試験と同じ構成・難易度です。授業時間は 60 分で、以下の流れで進めます。

- まず、リスニング試験の形式と注意点を確認します。
- 続いて、模擬テストを本番同様に実施します。音声は一度のみ流れますので、集中して取り組んでください。
- 解答時間を設け、アンサーシートに記入します。
- 最後に答え合わせと振り返りを行い、よくある間違いを確認します。

この模擬テストを通じて、試験環境に慣れること、集中力を高めること、そして自分の弱点を把握することが目的です。スペルや数字の聞き取りにも注意しながら挑戦してください。

試験の目的
本番形式に慣れ、解答スピードと集中力を養う

試験の流れ:
イントロダクション（5 分）

- IELTS リスニングの構成説明（4 セクション、約 40 問、30 分＋転記 10 分）
- 本日の模擬テストの目的を確認

模擬テスト実施（30 分）

- 公認問題を使用し、本番同様の形式で受験
- 各セクションの音声を一度のみ再生

解答転記（10 分）

- 答えをアンサーシートに記入
- 本番同様の練習

振り返り（15 分）

- 正答確認と自己採点
- よくある間違いの共有
- 学習ポイントまとめ

学習ポイント

- 音声は一度しか流れない → 集中力を高める
- スペル・文法の正確さが採点に影響
- ノートテイキングの工夫（略語・記号）

Lesson 53:

IELTS リスニング総合演習（講師用）

使用教材:
IELTS ブリティッシュ・カウンシル公認　本番形式問題3回分
上記教材の過去問一つを使用

本日の授業は、IELTS リスニング模擬テストを用いた 60 分の演習です。教材はブリティッシュ・カウンシル公認の本番形式問題を使用し、試験環境を忠実に再現します。授業の進行は以下の通りです。

- 導入では、試験形式の説明と目的を共有します。
- 模擬テストは音声を一度のみ再生し、途中停止は行いません。試験環境の維持に注意してください。
- 解答転記の時間を設け、アンサーシート記入の指導を行います。
- 振り返りでは、正答確認と誤答分析を行い、特にスペル間違いや数字・固有名詞の聞き取りに焦点を当てます。
- フィードバックでは「なぜ聞き取れなかったか」を生徒に考えさせ、予測やキーワード把握といった戦略を強調してください。模擬テストを単なる練習に終わらせず、次回への改善点を明確にすることが重要です。

フィードバックでは「なぜ聞き取れなかったか」を生徒に考えさせ、予測やキーワード把握といった戦略を強調してください。模擬テストを単なる練習に終わらせず、次回への改善点を明確にすることが重要です。

レッスン目的
本番形式に慣れ、解答スピードと集中力を養う

指導の流れ
イントロダクション（5 分）
IELTS リスニングの構成説明（4 セクション、約 40 問、30 分＋転記 10 分）
・本日の模擬テストの目的を確認

模擬テスト実施（30 分）
・公認問題を使用し、本番同様の形式で受験
・各セクションの音声を一度のみ再生

解答転記（10 分）
・答えをアンサーシートに記入
・本番同様の練習

振り返り（15 分）

・正答確認と自己採点
・よくある間違いの共有
・学習ポイントまとめ

フィードバック方法のポイント

- 個別に「なぜ聞き取れなかったか」を確認
- 聞き取り戦略（予測、キーワード把握）を強調

Lesson 53: IELTS リスニング総合演習（生徒用）

試験案内
本日の授業では、IELTS 公式リスニング模擬テストを実施します。使用する教材はブリティッシュ・カウンシル公認の本番形式問題で、実際の試験と同じ構成・難易度です。授業時間は 60 分で、以下の流れで進めます。

- まず、リスニング試験の形式と注意点を確認します。
- 続いて、模擬テストを本番同様に実施します。音声は一度のみ流れますので、集中して取り組んでください。
- 解答時間を設け、アンサーシートに記入します。
- 最後に答え合わせと振り返りを行い、よくある間違いを確認します。

この模擬テストを通じて、試験環境に慣れること、集中力を高めること、そして自分の弱点を把握することが目的です。スペルや数字の聞き取りにも注意しながら挑戦してください。

試験の目的
本番形式に慣れ、解答スピードと集中力を養う

試験の流れ:
イントロダクション（5 分）

- IELTS リスニングの構成説明（4 セクション、約 40 問、30 分＋転記 10 分）
- 本日の模擬テストの目的を確認

模擬テスト実施（30 分）

- 公認問題を使用し、本番同様の形式で受験
- 各セクションの音声を一度のみ再生

解答転記（10 分）

- 答えをアンサーシートに記入
- 本番同様の練習

振り返り（15 分）

- 正答確認と自己採点
- よくある間違いの共有
- 学習ポイントまとめ

学習ポイント

- 音声は一度しか流れない → 集中力を高める
- スペル・文法の正確さが採点に影響
- ノートテイキングの工夫（略語・記号）

Lesson 54:

IELTS ライティング総合演習（講師用）

使用教材:
IELTS ブリティッシュ・カウンシル公認　本番形式問題3回分
上記教材の過去問一つを使用

本日の授業は、IELTS ライティング模擬テストを用いた 60 分の演習です。教材はブリティッシュ・カウンシル公認の本番形式問題を使用し、試験環境を忠実に再現します。授業の進行は以下の通りです。

- 導入では、試験形式の説明と目的を共有します。
- 模擬テストは時間厳守で実施し、途中解説は行いません。Task 1 と Task 2 をそれぞれ 20 分ずつで取り組ませます。

フィードバックの際「語数不足」「論理展開の弱さ」「文法・語彙の誤り」に焦点を当て、生徒に改善点を考えさせてください。模擬テストを単なる練習に終わらせず、次回への改善点を明確にすることが重要です。

レッスン目的
本番形式に慣れ、解答スピードと集中力を養う

指導の流れ
イントロダクション
- IELTS ライティングの構成説明（Task 1：約 150 語、Task 2：約 250 語）
- 本日の模擬テストの目的を確認

模擬テスト実施（60 分）
- Task 1（20 分）：図表・データの要約
- Task 2（20 分）：意見論述エッセイ
- 時間配分を意識して取り組む

自己採点
- 宿題として自己採点を行うことを案内する

フィードバック方法のポイント
- 「段落構成は明確でしたか？」と問いかける

Task Achievement（課題達成度）と Coherence（論理性）を重点的に指摘

Lesson 54: IELTS ライティング総合演習（生徒用）

試験案内
本日の授業では、IELTS 公式ライティング模擬テストを実施します。使用する教材はブリティッシュ・カウンシル公認の本番形式問題で、実際の試験と同じ構成・難易度です。授業時間は 60 分で、以下の流れで進めます。

- まず、ライティング試験の形式と注意点を確認します。
- 続いて、Task 1（図表要約）と Task 2（意見論述）を本番同様に実施します。時間配分を意識し、規定語数を守ってください。
- 採点基準を確認しながら自己採点を行い、改善点を整理します。

この模擬テストを通じて、試験環境に慣れること、時間管理を改善すること、そして論理的な文章構成力を高めることが目的です。特に「段落構成」と「語数管理」を意識して挑戦してください。

試験の目的
本番形式に慣れ、解答スピードと集中力を養う

試験の流れ：
イントロダクション

- IELTS ライティングの構成説明（Task 1：約 150 語、Task 2：約 250 語）
- 本日の模擬テストの目的を確認

模擬テスト実施（60 分）

- Task 1（20 分）：図表・データの要約
- Task 2（20 分）：意見論述エッセイ
- 時間配分を意識して取り組む

自己採点

- 宿題として自己採点を行う

学習ポイント

- Task 1 は「要約力」、Task 2 は「論理展開力」が鍵
- 語数不足は減点対象 → 必ず規定語数を満たす
- 接続詞や段落構成を意識して、読みやすい文章を作る

Lesson 55:

IELTS スピーキング総合演習（講師用）

使用教材:
IELTS ブリティッシュ・カウンシル公認　本番形式問題3回分
上記教材の過去問一つを使用

本日の授業は、IELTS スピーキング模擬テストを用いた 60 分の演習です。教材はブリティッシュ・カウンシル公認の本番形式問題を使用し、試験環境を忠実に再現します。授業の進行は以下の通りです。

- 導入では、試験形式の説明と目的を共有します。
- 模擬テストは Part 1・Part 2・Part 3 を順に実施し、途中解説は行いません。試験環境の維持に注意してください。もし長く話せない場合、早く切り上げても問題ないです。（試験方法として A）生徒数が多い場合、全員一気に質問する、B）生徒数が少ない場合、一人ずつ設問し、持ち時間を調整する　のどちらかを選択し、実施してください。）
- フィードバックでは、採点基準を確認しながら改善点を提示します。特に流暢さ、語彙の幅、文法の正確さ、発音に焦点を当ててください。

フィードバックでは「答えの長さ」「論理展開」「語彙の幅」に焦点を当て、生徒に改善点を考えさせてください。模擬テストを単なる練習に終わらせず、次回への改善点を明確にすることが重要です。

レッスン目的
本番形式に慣れ、解答スピードと集中力を養う

指導の流れ
イントロダクション
- IELTS スピーキングの構成説明（Part 1: 日常質問、Part 2: 1 分準備＋2 分スピーチ、Part 3: ディスカッション）
- 本日の模擬テストの目的を確認

模擬テスト実施（35 分）
- Part 1（10 分）：日常的な質問に答える練習
- Part 2（10 分）：カードに基づくスピーチ練習
- Part 3（15 分）：抽象的テーマでのディスカッション

フィードバック（20 分）
- 採点基準（Fluency & Coherence, Lexical Resource, Grammatical Range & Accuracy, Pronunciation）を確認
- 自己評価と講師からの改善アドバイ

フィードバック方法のポイント

- 「答えは短すぎませんでしたか？」と問いかける
- Fluency（流暢さ）と Coherence（論理性）を重点的に指摘

Lesson 55: IELTS スピーキング総合演習（生徒用）

試験案内
本日の授業では、IELTS 公式スピーキング模擬テストを実施します。使用する教材はブリティッシュ・カウンシル公認の本番形式問題で、実際の試験と同じ構成・難易度です。授業時間は 60 分で、以下の流れで進めます。

- まず、スピーキング試験の形式と注意点を確認します。
- 続いて、Part 1（日常質問）、Part 2（スピーチ）、Part 3（ディスカッション）を本番同様に実施します。
- 採点基準を確認しなが、講師から改善点をフィードバックしてもらいます。

この模擬テストを通じて、試験環境に慣れること、即答力を高めること、そして論理的に話を展開する力を養うことが目的です。特に「自然な受け答え」と「論理的な構成」を意識して挑戦してください。

試験の目的
本番形式に慣れ、解答スピードと集中力を養う

試験の流れ：
イントロダクション

- IELTS スピーキングの構成説明（Part 1: 日常質問、Part 2: 1 分準備＋2 分スピーチ、Part 3: ディスカッション）
- 本日の模擬テストの目的を確認

模擬テスト実施（35 分）

- Part 1（10 分）：日常的な質問に答える練習
- Part 2（10 分）：カードに基づくスピーチ練習
- Part 3（15 分）：抽象的テーマでのディスカッション

フィードバック（20 分）

- 採点基準（Fluency & Coherence, Lexical Resource, Grammatical Range & Accuracy, Pronunciation）を確認
- 自己評価と講師からの改善アドバイ

学習ポイント

- Part 1 は「自然な受け答え」、Part 2 は「構成力」、Part 3 は「論理的展開」が鍵
- 長く話すことよりも「明確に答える」ことを意識
- 接続詞や例示を使って会話を広げる

留学促進事業委員会

【実施委員会等の開催実績】 本年度は委員会を１回開催した。

第１回　留学促進事業委員会	
日時・会場	【第１回】日時:令和　7　年　12 月 9 日(火)　14 時～15 時　　形式:オンライン会議
会議内容	【報告事項】 1.　令和 7 年度保育士・介護福祉士グローバル人材育成オーストラリア留学促進事業報告について 2. 次年度事業計画について 【その他】 次年度以降に向けた意見交換会

【出席者】

氏 名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	徳嶺　久絵	学校法人大庭学園　沖縄福祉保育専門学校	委員長	沖縄県
2	新良　典子	学校法人大庭学園　沖縄福祉保育専門学校	事務局	沖縄県
3	大城　克也	学校法人大庭学園　沖縄福祉保育専門学校	事務局	沖縄県
4	仲 間　優 子	学校法人大庭学園　沖縄福祉保育専門学校	事務局	沖縄県
5	大城　徳人	学校法人大庭学園　沖縄福祉保育専門学校	事務局	沖縄県
6	永田　幸	グローバルスカイ株式会社	委員	豪州
7	栗原　孝文	グローバルスカイ株式会社	委員	東京都
8	福澤　真樹	グローバルスカイ株式会社	委員	東京都
9	溝口　淳	グローバルスカイ株式会社	委員	東京都
10	石井 公二	株式会社京進	委員	京都府
11	岡部 寛	株式会社かいはつマネジメント・コンサルティング	委員	東京都
12	関　泰彦	コニカミノルタ株式会社	委員	東京都
13	市川　智子	IDP Education Japan 合同会社	委員	東京都
14	砂川　航太	株式会社ホウオン	オブザーバー	沖縄県

会議内容	議題内容 1.開会 出席者による自己紹介の後、本委員会の議題について以下の 3 項目が説明された。 ⑴ 前回委員会の振り返り ⑵ 令和 7 年度事業報告 ⑶ 次年度の計画および意見交換 2. 前回の委員会の振り返り(徳嶺) **⑴前回委員会の振り返り** 国際化推進事業委員会 報告会として、以下の内容が報告された。 ・新規留学先開拓について オーストラリア以外に、マレーシア、ニュージーランド等も候補地として検討した。 教育環境や教育水準を総合的に判断した結果、オーストラリアが最適であるとの結論に至った。 ・奨学金制度の活用について 日本学生支援機構等の外部資金獲得を検討した。 8 日以上の現地滞在が必要であり、滞在費が高額となるため、奨学金利用のメリットが限定的であることが課題として挙げられた。 沖縄県等の地域奨学金制度の活用可能性について、引き続き調査中である。 **⑵令和 7 年度事業報告** ・オーストラリア短期留学視察調査 名古屋文化学園の短期留学プログラムに同行(約 10 日間、うち現地滞在 8 日間) 学生引率体制、保育・教育機関、生活環境の視察を実施した。 保育教諭も同行し、保育士の視点から現地環境を確認した。 ・英語基礎(初心者対象)レッスン 5 月から 8 月にかけて、50 分授業を全 10 回実施。学生 7 名が参加(英検 3 級～4 級程度)。 英語への苦手意識を和らげることを目的とした授業設計とし、参加者からは「楽しく学べた」「継続したい」との声が寄せられた。今後も継続して、IELTS 学習に向けた基盤づくりを進める。 ・学校ガイダンス・オープンキャンパス 学校ガイダンス 7 回(参加者 77 名)、オープンキャンパス 6 回(参加者 71 名)を実施。

保育留学・介護留学の認知度向上を目的としたが、多くの学生が専門留学(保育留学/介護留学)の存在を初めて知る状況であった。

・本校学生へ留学(長期)説明会

9 月 24 日、提携校である Imagine Education のネーン素子氏が来日し、本校学生向け留学説明会を実施した。

・オーストラリア視察報告

オーストラリアが保育留学に適している理由として、以下が挙げられた。

・保育資格制度が国際的に活用しやすい
・多文化社会で国際感覚が身につく
・働きながら学べる環境が整っている
・子ども中心の保育理念を学べる
・英語力と保育スキルを同時に向上できる
・治安が良く、日本人にも生活しやすい
・留学生受け入れ実績が豊富で、教育環境・サポート体制が充実している

・渡航ルートの課題と改善

今回は仁川経由で費用を抑制したが、移動時間の長期化および入国審査の手間が課題となった。
次年度は台湾経由での渡航を予定(9 月 12 日～21 日)

・国際交流の取り組み

保育教諭の派遣により、国際的視野の拡大を図った。
本学園付属園である坂田こども園と現地園をオンラインで接続し、交流会を実施した。
文化交流の一環としてエイサーの披露も行った。

3. 次年度計画(徳嶺)

・介護分野の取り組み

現地教育機関・施設、市場動向の調査を継続。
雇用状況、求められるスキル、資格制度の互換性を明確化する。

・短期留学プログラムの改善

航空券の早期手配や奨学金・助成金活用による費用軽減策の検討。
より参加しやすいプログラムへの改善を図る。

・英語力向上支援

グローバルスカイと連携し、IELTS 対応教材・シラバスを開発。

学内留学生との交流ならびに日本人学生の英語力向上を目的としたランチ英語交流会を定期開催する。
英語基礎(初心者対象)レッスン継続実施。

・経済的支援の拡充

独自奨学金制度の検討。
地域・行政との連携による支援枠組みの導入可能性を調査。

・広報の強化

高校教員への事前説明および連携強化。
SNS を活用した情報発信。
オープンキャンパスにおける PR ブースの改善。

4. 名古屋文化学園 短期留学プログラム視察同行報告(徳嶺)

・留学プログラム概要の紹介

保育施設での実習、Imagine Education での英語研修授業、異文化理解活動を実施。
オンライン交流会では、大庭学園 坂田こども園、オーストラリア・マーメイド園の園児が交流し、本校の学生も参加した。
坂田こども園の保育教諭が保育実習に参加した。

・保育教員の視点からの評価(大城(克))

事前オリエンテーションの実施。
毎日の動向確認ミーティングの開催。
教職員用に大部屋を確保し、学生対応や体調不良など不測の事態に備えた。
学校準備物等についても適切に対応された。

5. 委員からの主な意見・質問

・長期留学プログラムについて

(石井様)複数年度プロジェクトにおいて、長期留学の実現は必須条件か。

(新良)長期留学に向けて進めているが、現在の学生の英語力では長期留学は困難であり、英検 2 級レベルの学生入学促進が必要。留学・資格取得を目指せる学生を入学段階から集める方向へ重点をおきつつ、今後は在学生に限らず卒業生も対象とする柔軟な運用を検討している。

・介護分野の実習可能性

(石井様)オーストラリアの介護施設訪問や実習を含む短期留学プログラムの構築は可能か。

(永田様)在宅介護が主流であり、日本との制度や文化の違いがある。日本との大きな違いとして、オーストラリアの介護は在宅介護中心であり、施設形態は比較的シンプルで、実習先による体験差は少ない。

オーストラリアでは、介護分野でも実習が必須であり、日本人留学生の受け入れ実績がある。短期実習についても、条件次第で可能性があるとの回答を得ている。

(新良)現在の学生構成(留学生比率)や国の介護人材施策との整合性を踏まえ、日本人学生で介護を学びたい層が出てきた際に対応できる形を整えたい。

・英語学習レベルについて

(徳嶺)IELTS 取得に向けた英語力の目安、英検レベルとの関係について確認したい。

(市川様)IELTS5.5 取得には、高校卒業時点で英検 2 級程度が最低限必要。
英検 3 級レベルから短期間で IELTS5.5 に到達するのは現実的に難しい。
入学後、半年～1 年程度でアカデミック英語を集中的に学び、IELTS5.5 取得を目指す設計が望ましい。
英語を活かしたキャリアを志向する学生を、入学段階から集めることが重要。
卒業時に IELTS5.5 を取得するために必要な学習時間を考慮すると、最低でも入学時点で英検 2 級レベルの英語力が求められる。現在、英検 3～4 級レベルの学生の場合、数年の準備期間が必要となり、在学中に IELTS5.5 を取得することは困難である。

・グローバル人材育成の意義について

(岡部様)英語を学ぶことのメリットや、グローバル介護士・保育士になった先の成長や価値を、
より明確に打ち出すことが重要ではないか。

(新良)沖縄という多文化環境、留学生受け入れ実績を強みとして、グローバルな視点で保育・
介護を担える人材像を発信していきたい。

異文化理解力や専門英語を活かせる人材になることの意義を強調し、学生募集・広報につなげていく。

6. 事務局所感・まとめ

現在の在学生の英語レベルを踏まえると、すぐに長期留学へつなげるのは困難。まずは短期留学を通じた異文化理解と英語体験を重視する。
英検 2 級取得者が在籍する高校へのアプローチを強化し、「グローバル保育・介護」という新たな進路選択を提示していく。
委員からの多様な意見・提案を踏まえ、次年度のプログラム設計、学生募集方針、介護分野の調査に反映する。今後は委員会開催頻度を高め、継続的な意見交換の場を設ける。

7.対応事項

・グローバルスカイ:介護分野における現地調査の継続

	・大庭学園:高校への広報活動強化および教員への事前説明 ・大庭学園:オーストラリア留学 PR ブースの改善 ・大庭学園:英検 2 級レベル学生の入学促進策の検討 ・大庭学園:留学生英語交流会の定期開催準備、英語基礎レッスン(初心者)実施

Ⅳ 令和８年度以降展開について

令和８年度は、これまでの調査実績とプログラム開発を基盤とし、より実践的な留学モデルの確立を目指す 。

主要施策

① 実践的な短期留学プログラムの実施

対象範囲の拡大 ： 本学の学生に加え、保育・福祉分野の専門職を目指す学生を広く対象とする 。

期間 ： オーストラリアにて 1 週間から 10 日間のプログラムを実施する 。

保育分野 ： 現地の保育施設での実習機会を提供し、海外の教育現場を直接体験させる 。

介護分野 ： 介護施設および教育施設の見学を行い、日豪におけるケアの違いを学ぶ機会とする 。

② 英語力向上施策の拡充

デジタル学習 ：IELTS 対応のオンライン・オンデマンド教材を開発し、自律的な学習環境を整備する 。

基礎教育 ： 初心者向けの基礎英会話レッスンを継続し、留学前プログラムへの基盤を作る 。

実践機会 ： 本学留学生との英語交流会を定期開催し、学内でのアウトプット機会を増やすと共に、異文化理解に繋げる。

③介護分野ニーズ調査の継続

現地企業連携 ： 現地企業と連携し、教育機関・施設・労働市場・雇用状況について多角的な調査を

継続する 。

実地調査 ： 介護・福祉関連施設の現地見学および関係者へのインタビュー調査を実施し、プログラ

ムの精度を高める 。

④ 学生負担軽減策

経済的支援 ： 学生の負担軽減を図るため、給付型奨学金および助成金の活用に関する新たな制度の設置を検討する。

多角的調査 ： 地域課題解決と人材育成を組み合わせた行政支援枠組みや民間連携導入可能性の調査を行う。

⑤ 教育連携校のさらなる拡大

国内連携 ： 国内の大学・専門学校と協力し、共同で国際プログラムの構築を目指す 。

令和 7 年度 文部科学省 専修学校の国際化推進事業

【保育士・介護福祉士グローバル人材育成
オーストラリア留学促進事業 成果報告書】

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、学校法人大庭学園が実施した令和 7 年度「専修学校の国際化推進事業」の成果をとりまとめたものです。

発行日:令和 8 年 2 月

発行者:学校法人大庭学園

〒900-0033 沖縄県那覇市久米 1-5-17

TEL 098 (988) 0238 FAX 098 (988) 0239